
学生生活実態調査において 学生から寄せられた 「北大に対する今後の期待・要望」への 回 答

目次のタイトルをクリックすると
各総長室等・各部局等のページに移動できます。

は じ め に

平成17年11月に実施した「学生生活実態調査」は、平成18年10月に冊子として取りまとめ刊行しましたが、この調査において学生の皆さんから自由記述の「北大に対する今後の期待・要望」（以下「意見」という。）が寄せられました。

これらの意見について、内容ごとに、広報室、基金室、総長室（企画・経営室、教育改革室、研究戦略室、国際交流室、施設・環境計画室）、評価室、事務局（総務部、財務部）、附属図書館、各学部・研究科（学院、公共政策学教育部）、北海道大学病院、言語文化部、触媒化学研究センター、スラブ研究センター、情報基盤センター、留学生センター、北方生物圏フィールド科学センター、創成科学共同研究機構、保健管理センターが回答を作成したものです。

意見の内容によっては、一つの意見を複数の総長室等・部局等が分担しており、この場合、総長室等・部局等は、該当する内容についてのみ回答しています。また、総長室の「教育改革室」では、教育・学生生活全般のほかに、全学教育、活動の主体が教育関連組織という観点から高等教育機能開発総合センター関係を併せて回答しています。

回答は、意見に対して改善を行ったもの、今後の改善予定、大学内の制度や仕組みなどの説明について記述していますが、回答の方法は、総長室等・部局等によって「学部・大学院別」又は「学部・大学院を合わせた」形や、「意見ごと」又は「意見を集約して項目立てした」形になっています。これは、各総長室等・部局等が回答を作成する内容や量が異なることから、あらかじめ統一した回答方法を設定することが難しかったことによるものです。

なお、それぞれの「意見ごと」に回答を作成した総長室等・部局等については、上段に「意見（明朝体）」、下段に「回答（ゴシック体）」という形で記述しています。

回答は、以下の項目に分類のうえ記述しています。

- 1 教育・授業に関すること
- 2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること
- 3 経済問題（授業料、奨学金等）に関すること
- 4 図書館に関すること
- 5 教職員の対応（応対等）に関すること
- 6 車両（自動車、自転車、交通規制等）に関すること
- 7 就職に関すること
- 8 課外活動（課外活動施設等を含む）に関すること
- 9 学生生活実態調査に関すること
- 10 その他

本冊子は、なるべくわかりやすいように配慮して作成しています。学生の皆さんが、今後学修するうえで、そして学生生活を送るうえで役に立つことをたくさん記述していますので、膨大な量ですが、是非、最後まで熟読してほしいと思います。

平成19年 3 月

北 海 道 大 学 学 務 部

目 次

広報室	1 ~ 3
基金室	4
総長室	
企画・経営室	5 ~ 8
教育改革室（全学教育，高等教育機能開発総合センター関係を含む）	9 ~ 25
研究戦略室	26 ~ 27
国際交流室	28 ~ 29
施設・環境計画室	30 ~ 35
評価室	36
事務局	
総務部	37
財務部	38
附属図書館	39 ~ 41
各学部・研究科等	
文学部・文学研究科	42 ~ 43
教育学部・教育学研究科	44 ~ 48
法学部・法学研究科	49 ~ 62
経済学部・経済学研究科	63 ~ 66
理学部・理学院	67 ~ 82
医学部・医学研究科	83 ~ 98
歯学部・歯学研究科	99 ~ 100
薬学部・薬学研究科（※）	101 ~ 107
工学部・工学研究科	108 ~ 135
農学部・農学院	136 ~ 148
獣医学部・獣医学研究科	149 ~ 151
水産学部・水産科学院	152 ~ 170
国際広報メディア研究科	171
情報科学研究科	172 ~ 184
環境科学院	185 ~ 186
公共政策学教育部	187 ~ 188
北海道大学病院	189
言語文化部	190
触媒化学研究センター・創成科学共同研究機構	191
スラブ研究センター	192 ~ 193
情報基盤センター	194 ~ 196
留学生センター	197
北方生物圏フィールド科学センター	198
保健管理センター	199

※ 平成17年11月に実施した「学生生活実態調査」において寄せられた「北大に対する今後の期待・要望」への回答のため，生命科学院ではなく薬学研究科から回答しています。

広 報 室

10 その他

(意見)

- ・ 学校のインターネット情報の更新が遅いと思う。できるだけこまめにしてほしいと思う。逆に、インターネットでイチョウ並木の紅葉状況のこまめな更新はよかった。(文2女)

[回答]

本学のホームページは、平成18年3月に全面改訂しました。これに伴いトップページに設けた「新着情報」については、学内の最新のトピックスを速やかに掲載しています。イチョウ並木の黄葉状況については学外の方からの問い合わせも多く、毎年、10月中旬から写真を掲載しており好評を得ています。

(意見)

- ・ 観光客から学内入場料を取るべき。(文3男)

[回答]

大学の施設はあくまで教育研究の施設です。しかし本来業務である教育研究に支障をきたさない範囲で大学を開放し、一般の皆さま方にも大学を身近に感じていただき、北海道大学を理解していただくことは重要です。そのような趣旨で一般の方々の訪問を受け入れているので「入場料」を徴収することはできません。

(意見)

- ・ 北大のホームページは酷すぎる。今や、一番 update な情報を発信できる手段がホームページであるのに、その更新頻度たるもの散々。作成者は何を考えているのか？他大学(特に帝大系)のホームページを参考にしてもらいたい。デザインは先進的であり、有益な情報を随時掲載している。関連して、法学部のページの更新頻度、情報量には呆れるばかり。学生の間からも不満がかなりでている。このままでは、「遅れている大学」のイメージがついてしまうのではないか。(法2男)

[回答]

本学のホームページは、平成18年3月に全面改訂しました。これに伴い情報の更新も速やかに行うよう努力しています。また、全学のホームページに係わる部会を新たに設けて、ホームページについての様々な課題について検討を進めています。

(意見)

- ・ 北大ブランド商品やグッズを徹底的に見直し、北海道を代表する一つのブランドとして確立するべき。そして通販や物産展など様々な手段を講じて積極的に発信していくべき(法3男)

[回答]

北大のブランドイメージをアップし、その良いイメージを広く発信するために、北大オリジナルグッズを販売しています。平成17年度にはミルククッキー「札幌農学校」、平成18年度には幻のハム・ソーセージ「永遠の幸」、雪の結晶をデザインしたボトルの梅酒「雪の天使たち」、ポプラ並木をイメージしたボトルの大吟醸「ポプラ並木」などを発売しました。最近ではキャンパスバッグ、研究林のミズナラを材料とした各種木製品や文房具類を販売しています。

これらのオリジナルグッズは、「交流プラザのエルムの森ショップ」で販売していますが、ホームページ上でも購入できます。

(意見)

- ・ 北海道大学は中途半端だ。ノーベル賞取れる研究者がいるわけではないし。教授ももっと待遇を改善し、人を呼べる人をとるべき。マスコミをもっと上手につかうべき。いま東北大学の教授の肩書きがついたゲームソフトがでているのを知っていますか？あれで小学生、中学生に一気に東北大学の名前が広がった。子供にとっては憧れの存在になりました。10年後を見据えた人を育ててください。なにかに突出しないとこの先人が呼べなくなるでしょう。世界、日本での競争力をつけていかれることを期待します。事務の方に置かれても、北大生え抜きでなく、公募などによって広く優秀な方を募集するとか。(医6男)

[回答]

「マスコミをもっと上手に使うべき」についてですが、北大は本学に係わるニュースを常に北海道教育記者クラブを通じてマスコミ各社に情報提供しています。また、平成17年から北海道新聞社と朝日新聞社の2社とは、それぞれ

基本合意を結んでいます。北海道新聞社とは主に道内に係わる事項を、朝日新聞社とは全国に係わる事項をそれぞれ各新聞社の報道と本学の研究が互いに協力して様々な企画を実施するなど、北海道あるいは全国へ向けての情報発信に努めています。

なお、平成18年度は東京と札幌で「北海道大学サステナビリティ・サイエンス・フォーラム」を朝日新聞社と共同開催し、これに伴い朝日新聞全国版に本学の広告、全面見開き2ページでの実施報告記事が掲載されました。

〔意見〕

- ・ ポプラ並木再建に違和感を覚えました。老木はいつか倒れ、時に嵐は物を壊すのが、自然というもののはずです。また、ポプラ並木の寿命が残り少ないから平成ポプラ並木を作ったと聞いています。最早立ち入ることもできないポプラ並木の延命措置は、観光資源の温存や一部の人の感情のために、自然に逆らっただけの事に見えます。また、是非の議論もなく始めから、再建しなければならぬという前提で事が進められ、巨費が投じられたことに、独善性を感じます。(薬2女)

〔回答〕

ポプラ並木が台風により倒壊したときには、倒木除去をはじめ事後処理の方針について十分な議論を学内でを行い、その結果を踏まえてポプラ並木の再生事業等に着手しました。並木の再生事業には学内外のポプラ並木再生を願う皆さんからの約2,500万円の寄附金も使われております。

ポプラ並木は、倒れる前には倒木・落木の危険があったため並木に立ち入ることはできませんでしたが、並木をより楽しんでいただくために再生事業の際に並木道にウッドチップを敷くなどの整備をし散策出来るようにしました。

〔意見〕

- ・ インターネット上で公開されているとはいえ、大学の経営方針や経営状況があまり伝わってこない。もっと積極的に公開すべきである。(農2男)

〔回答〕

本学のホームページの情報をより多くの皆さんに見ていただくために、本学のホームページは平成18年3月に全面改訂しました。大学の経営方針は、トップページから入る「大学案内」に総長メッセージや北大の基本理念、計画、目標などを記載しています。経営状況については、トップページから入る「広報・公開」の「情報公開」に財務に関する情報を掲載しています。

〔意見〕

- ・ 北大キャンパスはすごく好きです。でも観光地としての機能が高まってきているような気がしてちょっと残念です。(経3女)

〔回答〕

大学施設は大学の教育研究のためのものです。法人化したとはいえ大学の運営は、ほとんどが国の予算によるものですので、大学を広く一般の皆さんにも理解いただくことが必要です。また、北大キャンパスが緑あふれるすばらしいキャンパスであることを身近に感じていただくことも大切です。

北大の広報センターとして交流プラザ「エルムの森」設置していますが、ここでは大学の研究情報、受験情報、学内の催し物の案内などをお知らせしています。また、総合学習・修学旅行などで訪れた小中学生たちには、ここで北大の歴史や概要の説明をしています。総合博物館では貴重な学術資料や北大の歴史など北大における教育研究の状況、研究成果を紹介しています。このように観光のためだけではなく北大の教育や研究を知っていただくためにキャンパスを積極的に開放しています。国立大学法人として一般に大学を開放することも大学の責務の一つであることをご理解ください。

〔意見〕

- ・ せっかく独立行政法人になったのだから授業料以外で利益を生むシステムを考えてもいいのじゃないだろうか。(理MC2男)

〔回答〕

大学の本来業務は教育研究であるので、その施設や研究成果で高い利益を得ることは難しいところがありますが、現在、広報活動の一環として北大オリジナルグッズであるクッキー、ハム・ソーセージ、梅酒・日本酒、北大コミュニケーションマークを付した商品などを販売し、僅かながら利益をあげ教育研究に利用されています。

〔意見〕

- ・ 各学部のHPをもっと充実させてほしいです。休講情報や重要なお知らせもHPでリアルタイムで確認できるようにしてほしいと思います。あと、携帯でのアクセスも可能にしてほしいです。(文MC1女)

【回答】

各学部のホームページの充実については広報室としても同様により充実すべきと考えています。

なお、全学に係わる部分のホームページは平成 18 年 3 月に全面改訂し、携帯電話でアクセスできる機能を付加しました。「イベント案内」、「学部・大学院案内」、「アクセス情報」、「お問い合わせ先」、「関連リンク」などにアクセスできます。「関連リンク」からは、全学教育科目についての休講情報も見ることができます。

（意見）

- ・ 銀杏並木やワインなどで、どんどん学外に北大ブランドをアピールして行って下さい。学生は研究でがんばります。(教 DC 1 女)

【回答】

イチヨウ並木の黄葉状況については、学外の方からの問い合わせも多く毎年 10 月中旬から黄葉状況の写真を掲載してお知らせしています。また、平成 18 年 11 月の最初の日曜日を 1 日だけ車両を通行止めにして、訪れた皆さんに安全にイチヨウ並木を楽しんでいただいたことが多くのマスコミに取り上げられました。

北大オリジナルグッズとしては、ミルククッキー「札幌農学校」、平成 18 年度には幻のハム・ソーセージ「永遠の幸」、雪の結晶をデザインしたボトルの梅酒「雪の天使たち」、ポプラ並木をイメージしたボトルの大吟醸「ポプラ並木」などを販売し、北大ブランドを広く発信しています。

（意見）

- ・ 独立行政法人になり、どういう方向性で大学をアピールしようとしているのかが見えてこない。学外の人にアピールしやすい体育会のスポーツをもっと支援するなど、もっと簡単にできることはあるはずだと思う。(農 MC 2 男)

【回答】

ホームページに各行事における総長のメッセージを掲載しています。メッセージのなかで北海道大学が今後、どのような方向に進むかを述べています。また、学生の課外活動における活躍についてもホームページの新着情報などで紹介しています。最近では北大ボート部が全国大学選手権で優勝した記事を掲載しました。そのほか、都道府県規模の競技会、コンクール等で優勝するなど最も高い評価を受けた団体又は個人に授与する「北大ペンハロー賞」については、「北大時報(学内向け広報誌)」、「えるむ(学生向け広報誌)」で受賞者を随時紹介しています。なお、両広報誌とも冊子として発刊すると同時にホームページにも同内容を掲載し広く情報発信しています。

基 金 室

10 その他

(意見)

- ・ 北大の卒業生から寄付を募ると良いと思います。(工MC1男)

[回答]

同窓生の方々にもご寄附をお願いしております。

企 画 ・ 経 営 室

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

（意見）

- ・ 研究機器（高価なもの）は、講座単位ではなく数講座で分担購入できる仕組みがあると良い。それを管理するための技官がいるとなお良い。技官は、講座付の助手代わりの仕事をさせるのではなく、もっと全学的に必要なことに従事させるべきだと思う。うまく人員を配置できれば、結果的に公務員数削減にもつながると思う。（農DC 2男）

【回答】

高額な研究機器の購入に当たっては、全学的な有効利用を条件に予算を配分しております。また、国への予算要求の際にも、ご意見のような全学的視点が必須の条件となっております。教室系技術職員については、大学全体で一元的管理を行うこと及びそのための組織を立ち上げることが了承され、現在その準備として、教育研究支援本部（仮称）設置準備WGを設置して検討を進めているところです。

3 経済問題（授業料、奨学金等）に関すること

（意見）

- ・ 授業料について（授業料に関する意見は、「高い、安くしてほしい」など、同様の内容が数多く寄せられましたので、ここでは意見の掲載を省略しています。）

【回答】

国立大学法人の授業料は、各大学がそれぞれの財務状況等を鑑みて独自に決めるものではなく、国からの標準額が示され、その範囲内で設定することが義務付けられていますが、授業料については多くの意見・要望をいただきましたので、少し詳しくご説明します。

まず、本学の財政状況について簡単にご説明します。

本学の平成18年度収入予算は約740億円で、国から交付される運営費交付金429億円（58%）と授業料や病院収入等の自己収入311億円（42%）で構成されています。皆さんの納めている授業料収入は約85億円と、収入予算全体の約11%を占める、本学の基幹的な収入となっています。

一方、支出予算は人件費が約448億円（60%）、教育研究経費が103億円（14%）、診療経費が159億円（21%）、一般管理費が29億円（4%）となっています。

次に運営費交付金と授業料標準額の関係についてご説明します。

本学予算の58%を占める運営費交付金は、その算定ルールとして人件費の一部を除き毎年度1%ずつ減額されることが決められています。本学の場合、この額は毎年度約3億5千万円にのぼり、既に17年度、18年度で約7億円の交付金が減額されています。

このように毎年度減額となる運営費交付金ですが、この額は大学が収容定員全員の授業料を文部科学省が設定した標準額で納付して頂くことを前提に積算されています。つまり、大学が標準額以下の授業料を設定した場合や、入学者の未充足や休学者の増、授業料未納などで授業料を確保できない場合の減収は大学の責任で負担しなければならないルールとなっています。

平成17年度に授業料標準額の改定（1万5千円の値上げ）がありました。

この影響額は本学の場合、約2億3千万円になります。仮に本学が標準額に値上げしなくても、交付金は授業料を値上げしたと想定して2億3千万円減額となります。交付金算定ルールによる3億5千万円の減もありますので、合わせて約5億8千万円の減収となってしまいます。

すなわち、現状では文部科学省標準額の改定があった場合、その改定に従わなければ本学の教育研究に支障をきたす構造になっていることをご理解いただきたいと思います。

では、本学が授業料の軽減や補填のためにどのような取り組みをしているかをご説明します。

運営費交付金の逡減が皆さんの学生生活に影響を及ぼさないよう、教員・事務職員の削減、経常的経費全般の節減、外部資金の獲得による研究費の確保などについて全学的に取り組んでいます。

また、直接学生に還元する方策として、授業料の免除制度、奨学金制度、TA（ティーチング・アシスタント）、RA（リサーチ・アシスタント）制度等の取り組みをしています。授業料の免除額は年間約5億円に達しているほか、TA、RA制度にも年間約2億6千万円の予算を措置しています。

今後の授業料の値上げについても、国立大学協会（全国の国立大学法人が加盟している組織）を通じて、政府に反

対の表明を行っています。

以上、長くなりましたが、授業料は国が設定した標準額を基準としていること、大学独自では授業料の値上げを検討していないこと、運営費交付金の減額が教育環境に影響を及ぼさないよう大学として取り組んでいることをご理解願います。

（意見）

- ・ せっかく独立行政法人になったのだから授業料以外で利益を生むシステムを考えてもいいんじゃないだろうか。（理 MC 2 男）

【回答】

法人化になって大学の裁量の範囲が広がりましたが、利潤を目的とする会社の設立などについては、出資の制限等でまだできません。しかし、本学では法人化後の制約の中でも、独自の収入を得るため、いろいろと考えています。その一例がフロンティア基金の設置や北大オリジナルグッズの開発・販売であり、その他、北大の研究用器機等の資産を有効利用するため、企業等に有料で利用させることや知的財産本部を立ち上げ特許収入の確保等も始めています。また、北大グッズ開発・販売では、北大生協と連携し、北大グッズの販売・開発を業とする株式会社エルムプロジェクトの設立も生んでいます。今後、北海道大学の教育研究の成果や緑豊かな環境、130年に及ぶ歴史資産等を活用した収入を得るよう努力していきます。

（意見）

- ・ TA の時給が学部生のアルバイト（家庭教師・塾講師）より少ないことに納得いかない。専門性も高い上、基本的に1日中研究室に貼り付けになり、外でアルバイトをすることも困難な生活なので、時給を上げて欲しい。（獣 DC 2 男）
- ・ TA の時給を上げて欲しい。現状では割に合わないと思う。奨学金に返還の義務があるのが厳しい。（環境 DC 2 男）
- ・ TA の自給が高すぎると思う。（工 MC 2 男）

【回答】

ティーチング・アシスタントの給与については、助手の給与の時間当たり単価をベースとしており、現在の額は妥当な額となっております。また、ティーチング・アシスタントは教育補助を用務としていることから、家庭教師や塾講師とは相違があると考えております。

（意見）

- ・ 北大独自の研究費支給のような制度を増やしてもらえると楽になる。フレキシブルに使えるお金なら尚嬉しい。（理 MC 2 男）

【回答】

日本学術振興会の特別研究員のような制度を学内独自でも設けてほしいとの要望と思われませんが、現在のところ、そのような検討はしていません。なお、どの程度をもって「フレキシブルに使えるお金」と言っているのかわかりませんが、国立大学法人である以上、法令遵守、利害関係者への説明責任の観点からも、大学が学生に自由に使える研究費を措置することはありません。

10 その他

（意見）

- ・ 北海道大学は中途半端だ。ノーベル賞取れる研究者がいるわけではないし。教授ももっと待遇を改善し、人を呼べる人をとるべき。マスコミをもっと上手につかうべき。いま東北大学の教授の肩書きがついたゲームソフトが出ているのを知っていますか？あれで小学生、中学生に一気に東北大学の名前が広がった。子供にとっては憧れの存在になりました。10年後を見据えた人を育ててください。なにかに突出しないとこの先人が呼べなくなるでしょう。世界、日本での競争力をつけていかれることを期待します。事務の方に置かれても、北大生え抜きでなく、公募などによって広く優秀な方を募集するとか。（医 6 男）

【回答】

事務職員については、現在は職員統一採用試験からの公平な採用となっており、本学の職員を志望する者のうちから試験や面接等により優秀な者を採用しております。したがって、本学の卒業生を特に優先してはおりません。

（意見）

- ・ 本州の大学に比べてなにもかもが後手にまわっている気がする。ただでさえ企業の少ない北海道という不利な土地なので先を見据えたあらゆる大学のモデルとなるような経営をしていただきたい。（工 4 男）

【回答】

本学は、全国のモデルとなるような経営努力を怠ってはいません。その一例が地域や全国の企業との連携を目指す北キャンパスでの研究ゾーンの設置です。ここでは、社会が必要とする多様で複合的な研究を進め、既存の研究分野を超える新しい学問領域を創成し、そこから生まれる独創的な研究成果を広く世界に発信し、社会へ還元しています。また、創成科学共同研究機構を中核組織とした「北大リサーチ&ビジネスパーク構想」は、北キャンパス周辺の研究機関集積エリアを基盤とし、ここに一大研究・産業拠点を形成して地域経済活性化を図ることを目指した、北海道の自治体、経済界、大学が一体となって推進する構想です。この構想を一層強力に推進していくことを目的に、国立大学法人と行政、市町村、経済界が地域連携協定を締結しました。このような協定を結ぶのは全国で初めての試みです。また、政府の観光立国宣言を受けて、観光分野で日本の将来を担う高度専門職業人の養成や観光関連の研究者・教育者を育てるため、他の国立大学に先んじて大学院レベルの「観光創造専攻」を立ち上げ、全国から観光に関する研究者を集め、平成19年度からスタートさせます。これは日本のみならず世界からも注目されています。

（意見）

- ・ インターネット上で公開されているとはいえ、大学の経営方針や経営状況があまり伝わってこない。もっと積極的に公開すべきである。（農2男）

【回答】

大学の経営方針や経営状況の公開方法については、これまでもHPなどで公開してきましたが、より広い理解を得るために、公開の内容や方法をさらに工夫したいと考えています。

（意見）

- ・ ユネスコ・21世紀高等教育に関する世界宣言：展望と行動（1998年10月9日）第10条（主要な当事者としての高等教育教員および学生）(b) 国および教育機関レベルの意思決定担当者は、学生およびそのニーズを自らの関心の中心に位置付け、かつ、学生を、高等教育の刷新における主要な共同者および責任ある関係者ととらえるべきである。これには、高等段階の教育に影響を及ぼす諸問題、評価、教育方法およびカリキュラムの改善ならびに現行の制度的枠組み、政策立案および教育機関の運営に学生が参加することも含まれる。学生は自ら組織化しかつ代表者を立てる権利を有しているので、これらの諸問題への学生の参加が保障されなければならない。このユネスコの宣言に基づき、学生・院生、教員、職員の協働、参画、対話を基本とした「学校づくり」を実現することを強く要望する。このため、大きくは、①大学憲章などを定め、大学の教育・研究や経営に関する原則を定めること、②大学経営における情報公開と説明責任の原則を明確にし、学生や院生の参加や市民との協働によって「開かれた大学づくり」を実践していくことが重要である。（少なくとも、大学構成員が大学の状況を報道発表を通してはじめて知るといような状況を作るべきではない。）さらに、（1）学生を大学の重要な構成員と認識し、（2）大学の構成員たる学生が大学運営に積極的に参与することを奨励し、そのための条件の整備を行うべきである。（3）各学部及び各研究科について、学生・院生の自治母体が最低一つは整備されるよう、条件を整えるべきである。（4）学生の自治的組織に加えて、大学も学生に対する諮問機関を設置するなど、学生の意見を表出させ、吸収する努力を行うべきである。（5）同時に、院生協議会などの学生組織は、従来の学生の利益集団（利益の代弁）を中心とした運営を改め、教育と文化を中心としたつながり（ネットワーク型コミュニティ）を創出するとともに実効力のある学校改善を行うため、教員、職員とパートナーシップを構築しながら、具体的な提案を行い、行動するべきである。（教MC1男）

【回答】

大学の主な構成員は教員、職員、学生であり、それぞれの職責を全うすべく努力をしているところです。本学の学生は、我が国のみならず世界を見据え次代を担うためその力を本学での教育、研究で蓄えるのが本分と考えていますが、同時に本学の管理運営に欠くことのできないパートナーでもあると認識しています。

（意見）

- ・ 旧国立大学だけあって、基本体質は独法化されても変わらない・・・大学とは、しかも北大のような地方の中心的存在である大学は、何のために存在しているのかももう一度良く考えるべきであろう。大学は学生の教育が第一、第二に社会への貢献をするべきであり、教授を満足させるために存在するべきではない。もっと開かれたシステムにすべきである。例えば、総長や学部長はきっちり決めるべきである。総長などは外部から教育および経営がまともにできる人になるべきである。教授陣の権力で決まるべきではない。総長が出た学部新しい建物が建つなど、あまりにくだらない。同様に学部長も様々な意見を聞いて決めるべきである。薬学はほぼ年功序列。事務室等も完全にお役所システムである。すべてにおいて、きちんとした評価をするべきである。母校が将来学生のことをきちんと考えられる良い大学になってくれることを望んでいます。（薬DC3男）

【回答】

部局長については、当該部局の教授会において、部局長として相応しい人物が適切に選考されていると考えており、現行のシステムを変更するつもりはありません。

（意見）

- ・ 学生だけでなく、大学側も頭が悪すぎる。専門外の教員が担当せずに、大学運営の専門組織を作るべき。（農MC2男）

【回答】

大学の運営は、教員、事務職員が共同で当たるべきものであり、教員と事務職員以外の「専門組織」なるものがありうるとは考えていません。

（意見）

- ・ 大学教官の公募状況で、助手の枠が減っているように見えるが、北海道大学としては助手のいない研究室運営をどのように考えているのだろうか？現在所属している研究室も教授・助教授しかおらず、院生がいなければ研究指導もままならない状況であるとは思えないのだが。（水DC2男）

【回答】

過去の定員削減により、助手の数が減少しているのは事実です。現在も大学は人件費の削減を求められており、助手の増員は困難な状況にありますが、「ポイント制教員人件費管理システム」の活用による助手枠の拡大は可能となっています。

（意見）

- ・ 大学生協は日曜日や祝日も営業すべきだ。もっと、組合員のために、割引するべきだ。北大の教員や職員の採用は北大出身者を優先して欲しい。教員の任期制は無い方が良いと思う。研究実績にばかり目が行ってしまい、授業等がおろそかになる。事務職員が頻繁に変わるのはなぜ？無駄で無意味な人事異動はどうかと思う。（環境DC3男）

【回答】

本学の教員については、広く優秀な人材を求めるため公募を原則としており、本学出身者を優先させることはできません。また、事務職員については、現在は職員統一採用試験からの公平な採用を原則としており、本学の卒業生のみ優遇することは適当ではありません。

教員は、研究と教育の両方を職務としており、任期制を導入したからといって、教育が疎かになるとは思われません。また、部局等においても、そういう認識であると考えております。

事務職員の異動については、何をもって無駄といっているのか理解できません。いろいろな部署・分野の仕事を経験することにより、人材の育成に繋がり、将来的には大学のためになると考えております

（意見）

- ・ より競争力のある研究室・研究者に、研究上の優遇措置を与えるべきと思います。（文DC3男）

【回答】

本学は、競争力のある研究者が積極的に外部資金を獲得することを奨励しており、その一助として、部局毎の外部資金の受入実績の応じた傾斜配分を実施しております。

（意見）

- ・ 若手研究者に対する優遇や枠の拡大。助手の雇用をもっと増やして、研究をしていない教員の解雇。理系に対する様々な優遇。（水DC1男）

【回答】

外部資金等を給与原資とする者に対する年俸制の導入や、「ポイント制教員人件費管理システム」の活用による助手枠の拡大は可能となっています。解雇については、あくまで就業規則に基づくことになっており、そこから外れる解雇はできません。本学は総合大学であり、文系・理系の各研究科はそれぞれの目的をもって活動しており、理系のみを優遇するような偏った対応はできません。

教 育 改 革 室（全学教育，高等教育機能開発総合センターを含む）

1 教育・授業に関すること

（1）全学教育の目的と改革の歩みについて

全学教育に関して回答する前に、全学教育の目的やこれまでの改革の歩みについて、皆さんに十分理解してほしいとの思いから、まず最初に述べることにします。

北海道大学の全学教育は、本学の「基本理念と長期目標」の一つで、札幌農学校以来の伝統でもある「全人教育」の理念に基づき、すべての北大生にとって必要な素養を身につけられるよう設計しています。北大に学ぶことの意義を考え、深い人間理解、健全な判断力、しっかりした倫理観等、全人的な素養を身に付けるため、教養教育を十分に活用してほしいと考えています。

全学教育は、北大生として当然身につけておかなければならない教養についての科目群と、専門教育にすすむに当たって必要な基礎科目に大きく分けられます。教養科目は、1) コミュニケーション能力の育成、2) 人間や社会の多様性の理解、3) 独創的で批判的な能力の育成、4) 社会的な責任と倫理を身につけることを目的としています。一方、基礎科目では、専門を見据えてその基礎的能力、ものの考え方を養成することを目指しています。高校教育で科目選択制が採用され、大学教育で必要であるにも拘わらず未履修の科目も増えています。初年次はそのような場合にも対応できるよう幅広い科目を開講しています。

教養教育は、平成7年度に教養部・一般教育課程を廃止したあとも、「全学教育」と称して、教養教育・基礎教育を重視する方針を堅持し、全学の学部・研究科・センター・研究所等の協力により充実に努めてきました。平成13年度からコアカリキュラムを導入し、平成15年度から授業科目ごとの成績評価基準のガイドラインを設定し、各授業ごとの評価基準をシラバスに載せ、評価結果（成績分布）を公表しており、平成18年度には基礎教育・外国語教育等の改革と「単位の実質化」の取組みによって、より多彩で内容の濃い学習ができるようになってきています。また、同年度からの新カリキュラムでは、外国語科目、基礎科目等の必修科目は1年次に履修し、主題別科目、総合科目、外国語演習等の選択科目は1年次から4年次までいつでも履修できる制度を実施しています。

全学教育についてもっと知りたいときは、本学ホームページ「大学案内」→「学部・大学院・研究所・センター等」→「[学内共同教育研究施設等]高等教育機能開発総合センター」→「WEBサイト」→「全学教育部」をご覧ください。（<http://infomain.academic.hokudai.ac.jp/center/inform/education.html>）

また、「北海道大学の基本理念と長期目標」は、本学ホームページ「大学案内」→「大学紹介」→「北海道大学の基本理念と長期目標」をご覧ください。（<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/info-j/kihonrinen.html>）

（2）全学教育の教育内容・方法について

①全学教育の必要性

現代では学問が細分化して高度化する一方で、異なる分野の学問の融合や協力が必要となっています。全ての学問に共通する基盤としての「教養」が以前にまして必要となっているとも言えます。現代では、学部の専門教育のみでは「専門家」にすらなれないし、まして専門を生かす「知識人」や「社会的リーダー」になれません。また、近年「専門家」の育成は学士課程から大学院課程に移行しつつあります。ただ、「専門的知識」を身につけるのであれば、別に大学で学ぶ必要はありません。「専門」をめぐる問題は簡単ではありません。もちろん、早期から専門にとりかかれる学生もいるでしょうし、そのためには「飛び級」制度もありますし、意欲をもつ学生が進んで勉学できる改革をこれからも進める検討をしていきます。

教養科目の目的・意義は、単に非専門領域の個々の事柄を習得することではありません。これらの事柄は確かに試験に出題されるかもしれませんが、試験が終わればすぐに忘れてしまうでしょう。そうではなく、大事なことはこうした個々の事柄の背後にある基本的な考え方やものの見方を学ぶということです。表面的な個々の事柄を生み出しているより深いレベルのメカニズムに関する知識や理解に目を向けるということです。これは一生記憶に残りますし、その後の自分の専門を研究する上でも就職してからでも役立つはずで、そして、こうしたものの考え方や見方がその人のいわゆる「教養」と呼ばれる部分を形成するのです。「教養」というのは単に「幅広い知識」という意味ではないのです。全学教育で行っている教養科目の授業は、今は実用的とは感じられないかもしれませんが、このような大きな視点で捉えて、その後の人生に役立てるつもりで向き合ってください。逆に、今は一見実用的で役立つように見える個々の知識や技術は、現在のような急速に発展していく世の中では、すぐに役に立たなくなるでしょう。それこそ大学の授業は無駄だったということになります。そのときに役立つのは自分の血となり肉となった深い知識や理解のほうなのです。そしてまた、こうした知識や理解に向けて世の中のさまざまなことにつ

いてじっくり考える時間を持てるのは、人生のうちで大学時代のほんの数年間でしかありません。この意味では、今、人生でもっとも貴重な時間を過ごしているのです。決して無駄に過ごしてはいけません。

②全学教育での「おもしろくない授業」

大学の授業は、分らないこと、新しいことだからこそ講義が組まれているのであって、概してそのような授業は必要な割にもおもしろくありません。あるノーベル賞受賞者の授業は、小さな声でノートを読み上げるだけのものでしたが、学生は熱心に聴いていたという話があります。前の席に座って、疑問に思った事を1回は質問してやろうという気持ちで授業を受けてみてください。きっと授業がおもしろくなるにちがいありません。

また、授業がおもしろくないという不満がどうして出てくるかを考えてみると、一つには学生の側にも問題があるのではないかと思います。全学教育全体を見渡してみると、特に主題別科目や一般教育演習などの選択科目では、さまざまな領域の授業が提供されています。それにもかかわらずそのほとんどが「つまらない」というのは、授業を受ける側の興味・関心の幅があまりにも狭いからではないでしょうか。自分の専門や興味のあることだけを考えていませんか。日頃から世の中のさまざまなことに対して疑問を持ったり、自分で考えたりすることがなければ、ほとんどのことは「つまらない」ものになってしまう。この意味で、あることを面白いと思うかどうかは本人次第だと言えます。おもしろさは人から与えられるものではなく、自分で見出すものなのです。何の問題意識もなく、ただ漫然と面白い授業を期待するという受身的な姿勢では、いつまでたってもおもしろいと思える授業には出会えませんし、今の自分をより大きな、豊かな人間にすることもできません。

もちろん教える側にも原因はあると思います。同じことを話すのでも、聞き手を引き付けて面白く話せる人とそうでない人がいます。この点については、教員の側も、学生による授業評価などを参考にして、できるだけわかりやすい授業を心がけるとともに、FD研修（教員が授業法を学ぶ研修）に参加するなど授業法の改善に努めています。

③全学教育科目「一般教育演習」

一般教育演習は、フレッシュマンセミナーとして初年次の導入教育の中心科目と位置付けています。1年次のうちに必ず履修できるような制度にしたいと考えています。後期は比較的余裕がありますので、必ずしも希望のセミナーでなくとも積極的に取り組んでいただければ、学習の幅が広がる機会になります。評判の良い科目ですので、今後とも充実させていきたいと考えております。

④全学教育での少人数教育

全学教育科目は各学部の協力により行っています。全ての講義を少人数化することはできませんが、一般教育演習、論文指導科目、外国語演習等、20～30人の少人数教育を増やしています。平成18年度から履修上限設定を設け、クラス規模の適正化も行い、全学教育全体で1クラスの平均履修者数は40人程度で「マスプロ授業」は例外的になっています。北大の全学教育は「最良の専門家による最良の非専門教育」をモットーとしています。自分は研究者だからといって教育を軽視したり嫌ったりする教員もいるようですが、FD研修（教員が授業法を学ぶ研修）等で意識改革に努めています。新任の教員には、センター、研究所等の所属であっても一定の教育負担があることを周知しています。

（3）全学教育の授業内容の統一、成績評価について

①全学教育の授業内容の統一、成績評価、レベル別授業

授業内容の統一、成績評価法、レベル別授業（初級、中級、上級のクラス編成）は平成18年度から導入しています。成績評価法はガイドラインで同一科目は統一し、シラバスにも公表していますので、お確かめください。また、成績評価結果はホームページで公表されており、極端に評価が片寄る場合は、事情を問い合わせ改善の余地がある場合は、担当教員に検討していただいております。また、理系基礎科目では、同一科目の講義内容は共通シラバス化されており、成績評価のガイドラインで一定になっています。

成績評価結果（成績分布）は、本学ホームページ「入学・学生生活」→「成績評価」→「北海道大学成績分布WEB公開システム」をご覧ください。（<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/seiseki/GradeDistSerch.aspx>）

②全学教育科目の評価のバラツキ

成績評価のバラツキは、専門科目を含めて成績評価基準（ガイドライン）の設定、シラバスでの科目ごとの評価基準の明示、成績分布の公表、「評価の極端な片寄り」についての事情の問合せ等の方策により、改善に努めています。成績評価に問題があった場合の学生からの申し立て制度等についても、検討が必要と考えています。なお、成績評価に問題があると思われる場合は、学務部教務課全学教育第一係（高等教育機能開発総合センター⑦・⑧番窓口）に相談してください。将来的にはシステムの整備を考えます。

(4) 全学教育「外国語科目・演習」について

①外国語科目「英語」の充実

平成18年度から英語のカリキュラムを大幅に改定しました。1年次1学期の英語Ⅰはスピーキングとライティングを中心とした発信型の授業、英語ⅡはCALL オンライン学習で、TOEFL や TOEIC にも対応できる問題が解説付きで豊富にそろえてあります。1年次2学期の英語Ⅲは技能別としてスピーキング、ライティング、リスニング、リーディングの4つの技能とCALL授業、総合基礎の計6種類の授業から選択できるようになっており、英語Ⅳはリーディングの授業です。以上がすべての学部学生にとって必修となっています。このように、英語運用能力の基礎だけではなく多様性にも配慮した内容になっています。さらに授業を増やしてほしいと思う人は外国語演習を履修することを勧めます。外国語演習は1年次から4年次までいつでも好きなだけ取ることができますし、特に英語演習はさまざまな内容の授業が年間百数十コマ開講されますので、自分の求めるものが見つかると思います。この点で、英語やその他の外国語の力をもっと伸ばしたいと思う人にとって理想的なカリキュラムになっています。

次に、英語の授業は易しすぎるという意見が寄せられましたが、平成18年度入学生から、1年次2学期の英語Ⅲと英語Ⅳを初級と中級にクラスを分けました。また、英語演習は従来どおり初級、中級、上級に分かれて開講されていますので、自分のレベルに合わせて受講することができます。したがって、易しすぎるという不満は少なくなるでしょう。会話については、英語Ⅲでスピーキングのクラスを選択できますし、英語演習でも会話を扱う授業を開講しています。

また、平成18年度から英語単位優秀認定制度が導入され、TOEFL や TOEIC で優れた成績を得た学生には英語あるいは英語演習2～4単位が認定されますので、代わりに英語演習の上級クラスや各学部の英語関連授業等を受講することができます。

最後に、英語の授業がお粗末という意見が寄せられましたが、英語では各科目について授業概要を担当教員に周知し、基本的なところでは授業内容の統一化を図っています。しかし、実際の授業運営は各担当教員に任されていますので、教員の間で教え方に大きな開きが生じる可能性はあります。「お粗末」と感じたのは、教員が学生たちの自主性に任せすぎたということでしょうか。具体的に指摘していただければ、それを参考に改善に努めたいと考えています。

②英語以外の外国語科目の充実

外国語科目の見直しを行い、平成18年度から、外国語特別演習のなかで「はじめてのフィンランド語（入門）」や「ブラジルポルトガル語の基礎を学ぶ（入門）」等を新たに開講し、皆さんのニーズに応えるよう努めています。また、平成19年度からは、外国語科目として「スペイン語」、「韓国語」が新たに開講されます。

③外国語科目における「修辞技法」の必要性

修辞技法（＝レトリック）は、言語運用能力の一部です。なぜ人間は比喩表現を使うのだろうか、同じことを伝えるのに比喩表現を使った場合と使わない場合ではどんな違いがあるか、といったことを考えることは、ことばを理解したり使ったりする上で非常に重要なことです。実際、平成18年度からの英語Ⅰではレトリックが授業内容の一部として取り入れられています。教養科目としての「英語」は、各専門分野の「狭い」英語とは異なり、英語の世界というのはこんなに広いものなのかということを皆さんに体験してもらうというのが本来の姿だと考えています。詩、小説、コマーシャルの英語、子供がしゃべる英語、大統領の演説など、とにかく何でも体験してみて、今までの受験英語の外にこんなに広い英語の世界があったのかと実感するだけでも貴重であり、面白いことではないでしょうか。（ただし、リーディングの授業では、現実には時間の制約や授業内容の統一ということもあって「現代の散文」に限っていますが。）狭い偏った英語だけに接してはいけません。そのような「ひ弱な」英語力ではいつか困るときが来ます。いろいろな英語に出会って何でも貪欲に吸収していくうちに、しっかりとした英語力が身につくのです。好き嫌いをせず何でも食べているうちに自然と丈夫で健康な体ができるのと同じです。

④外国語科目の成績評価

教員によって多少難易度に差があると考えられますが、成績評価に関してはクラスによって極端な偏りが出ないよう各教員に注意を促しています。TOEFL-ITP で好成績だったのに不可をつけられたというのは、平成17年度までの入学生の場合であれば、英語Ⅳの授業では授業の成績50%、TOEFL-ITP の成績50%で評価していますので、授業の成績が悪かったか、出席数が足りなかったのでしょうか。平成18年度入学生の場合であれば、オンライン学習課題をすべて完了していなかったのでしょうか。いずれにしても、学期末の学修簿が渡される時期に「成績に関する問合わせ期間」を設けてありますので、もし成績に疑問があれば授業担当教員に問合わせてください。

⑤外国語演習の履修手続き

平成18年度後期から、全学教育における外国語演習の申込み及び抽選は、学務部教務課全学教育第一係（高等教

育機能開発総合センター⑧・⑨番窓口)が担当しています。ただし、全学教育科目ではなく、大学院生に向けて開講している外国語特別講義については、開講形態が異なることから従来どおり言語文化部事務部で取り扱っていますのでご理解ください。

⑥TOEFL-ITP

英語ⅡでTOEFLの過去問であるTOEFL-ITPを採用しているのは、本試験のTOEFLがTOEICと違い海外留学の際に使えることと、TOEFL-ITPの受験料がTOEICよりも安いことが主な理由です。現在のところTOEICを使うことは考えていません。また、TOEFL-ITPの受験料の補助については検討を開始しています。

(5) 全学教育の担当教員について

①全学教育担当教員の「やる気のなさ」

研究は世界的ですが、話がめっぽう下手な先生、授業内容は興味深いのに、授業はつまらない先生。確かにいますが、皆、何かを皆さんに伝えたくて努力しています。一時間の講義に1日、2日かけて準備しています。講義の後、今日の学生の反応は今一つだった、と嘆く先生もいます。ある意味で、専門外の学生に、その科目を教えることほど大変なことはありません。専門的な事柄ほど分っていると思って講義することがあると思いますが、その時は積極的に質問してください。

②全学教育担当教員との交流

教員から声をかけられるのを待つのではなく、皆さんから教員にどしどし語りかけてください。教員はそういう学生を待っています。欧米では、学生から教員に話しかけるとどんな初歩的な疑問にも答えてくれますが、学生から行かないかぎり教員は何も面倒をみてくれないことが多いと言えます。これは、教育のあり方の根本に関わることです。環境が与えられるのを待つのではなく、自分からそうした環境を求めてください。そうすれば教員は応えてくれます。

(6) その他全学教育への要望等について

①早期からの専門教育科目の履修

高校教育の選択履修制や多様化により、初年次の学力はかなりバラツキがあり、導入教育が大切なことは皆さんも認識していると思います。早い時期での専門教育も学習の動機付けに重要ですが、教養教育の充実、高年次での教養教育の履修も必要性が叫ばれています。また、履修上限設定の導入により、登録にあたって良く考えて科目を履修することが必要になってきています。

②全学教育科目の時間割

全学教育では、多数の多彩な授業を整理して、科目ごとに「開講時間帯」設けて時間割を作っています。「開講時間帯」ごとの開講科目数に極端なバラツキがないよう、毎年調整をしています。担当教員の日程の都合もあり、取りたい科目が同じ時間にあって取れないという事態は避けられませんので理解してください。

平成18年度からの新カリキュラムでは、選択科目は4年次までいつでも履修できるようにしましたので、次年度に受講することも考えられます。また、同年度からは履修登録単位数の上限設定を導入していますので、1日の履修科目は2〜3科目かと思います。「空き時間」は図書館等での自習に活用してください。大学の授業は、1時間の授業に対して2〜3時間の自習が必要なように設計されています。

③全学教育科目の授業での出欠確認

授業の出席調査は、学生間にも賛否両論がありますが、基本的には教員と学生の信頼関係です。現実的には、出席をとらなくても済むような努力が双方に必要だと考えています。教員によっては、出席をとることで学生の名前を覚えると考える人もおられますし、1年次前期では、学生相互で名前が分って良いという意見もあります。

また、出席を重視するべきかどうかは、授業の内容にもよります。「出席すれば評価してもらえる」というのは教育上の原理としては問題があります。大切なのは授業内容をどれだけ教員が学生に適切に伝え、学生が修得するかであって、その一手段として出席が求められるとも言えます。

④全学教育での休講

休講はなるべく少なくするよう各教員が努力していますが、やむを得ない場合に備えて補習期間を設けています。学会参加や調査は教員のもう一つの責務でもある研究に必要ですし、そうした研究活動がなければ良い授業にはなりません。また、学会や出張予定と授業予定とは必ずしも同時期に調整できるものはなく、その点は理解してください。

⑤全学教育科目の休講情報システム

全学教育科目の休講情報は、平成17年度からWeb表示になりましたが、これまで「見づらい」との意見が数件あ

りました。本システムは、旧来、紙媒体を休講掲示板に貼り出していたものですが、掲示スペースが限られ、見づらな面があったことを受けて Web 公開としたものです。公開にあたっては、ディスプレイを高等教育機能開発総合センター 1 階正面ロビーに 2 台設置し、一方を「本日の休講情報」、他方を「明日以降の休講情報」として表示するとともに、パソコンや携帯電話からのアクセスを可能としました。

問題点としては、ディスプレイの一画面に表示される科目数が 6 科目なので、それ以上の休講情報がある場合は、画面を転換させる必要があります。平成 17 年 11 月の学生生活実態調査時は、一画面の表示時間を 10 秒としていましたが、「早すぎて見逃してしまう」との意見をいただいたため、平成 18 年度から、表示時間を 20 秒に変更しました。遅すぎても早すぎても問題を生じますが、現在は特に意見が寄せられていませんので、問題点を少しは解消できたと考えています。なお、学内外のパソコン等から休講情報システムへの利用状況を調べたところ、1 日平均で 100 人程度、約 4% 弱（学生規模 2,600 人換算）の利用率となっています。

高等教育機能開発総合センターのディスプレイ表示が見づらい場合は、情報教育施設あるいは自宅のパソコン等から休講情報をゆっくり閲覧してください。

全学教育科目の休講・補講情報は、本学ホームページ「在学生の皆様」→「休講情報」をご覧ください。

(<http://inform.academic.hokudai.ac.jp/webinfo/p/>)

⑥ TA（ティーチング・アシスタント）が感じる全学教育科目履修学生の勉学意欲の欠如

高校までの学習レベルや社会的成熟度は大きく変化しており、特に平成 18 年度からは高校の学習指導要領の改訂で大きな影響を受けています。大学ではそうした変化を「学力の多様化」などの視点から捉えて、カリキュラムや授業内容を工夫しています。なかなか難しい課題ですが、そうした努力が実るように TA から教員にどしどし提案を行ってください。

（7）大学院共通授業科目について

①大学院共通授業科目における集中講義の実施

大学院共通授業科目の講義対象者は、各研究科等横断的に幅広く修士課程及び博士課程に在学している大学院生を対象としているため、正規の授業時間帯に設定している科目が多くなっています。なお、集中講義については、夏期の期間に何科目か実施しています。

②大学院共通授業科目の授業内容の充実

大学院共通授業科目のカリキュラムは、教務委員会で検討のうえで実施していますが、今後も随時検討を重ねながらより良い講義内容を目指します。

大学院共通授業科目の詳細は、本学ホームページ「在学生の皆様」→「大学院共通授業科目履修案内」をご覧ください。
(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/gclass/mokuji.htm>)

（8）教育・授業全般について

①単位の実質化

単位の実質化は、本学の取り組むべき課題として認識しており、現在、厳格な成績評価及び単位の実質化を図る方策を実施することで改善に向け努力しています。具体的には、単位制の原則（1 単位の授業は教室外の学修を含めて 45 時間の学修を必要とする）を学部の規程に盛り込み、教職員に認識してもらうようにする、教職員の研修会（FD 研修）で、個々の教員が厳格な成績評価・単位の実質化を実行するために研究する、などの方策を行っております。

なお、アメリカの大学でも、ハーバード、MIT 等の難関校は入学も難しく、授業料も高く、学生はよく勉強し、留年せずに卒業していく。州立大学等では、「資格確認」型の試験で比較的簡単に入学できるが、成績評価が厳しく、最初の 1 年で 30% 以上が退学していくとか聞きます。このようなシステムが日本の文化に馴染むかは疑問ですが、札幌農学校はアメリカ型の高等教育機関として出発していることから、その伝統も意識して、「単位の実質化」に取り組んでいます。

②授業の進め方

授業法の改善等は、FD 研修（教員が授業法を学ぶ研修）や他教員の授業見学などで工夫しているところです。特に、高校までの学習指導要領の改編、学習履歴や学力の多様化などで、折角開発した手法が役に立たない場合もあり、毎年、学生の反応をみながら、内容、話し方を変えています。皆さんの意見は真摯に受け止めて努力しております。多くの場合、各回の講義配分を考え授業をすすめていますので、欠席すると講義についていけないという老婆心がおこります。この解決には双方の信頼関係が大事だと思います。良く学び、良く遊べという標語がありますが、文武両道を極めてくれることを期待します。

③授業でのスライド・パワーポイント・OHPの活用、ホームページの作成

スライドやパワーポイントを利用するのは、皆さんが理解しやすくなるように工夫しているからですが、皆さんにとってみればノートがとりづらかったり、授業進行が早すぎるという問題もあるようです。今後、資料配布を含めて改善するように検討を行います。

ただし、ホームページを作成するとすると、それをサポートするだけの時間や労働が確保できません。また、授業の進行の早いうちにアンケートをとるのも限られた時間と労働の中では今はまだできません。一番良い改善方法は、皆さんが授業について教員に問題を直接提起することです。授業は教員だけがつくるのではなく、皆さんも参加してつくられるものです。教員が気付かないでいること、自己満足していることも多くあるでしょう。受身で授業を聞くのではなく、授業の改善などを含めて授業に参加する必要があるのではないのでしょうか。

④授業料に見合った授業

授業料が高いかどうかは本当は難しい問題で、どのような尺度で考えるのかによります。現在の授業料にふさわしくない授業がなされているかという一般的なにはそうではないはずです。少人数教育が基幹となっていますし、教員もいろいろ努力して授業を構成しています。キャップ制（履修登録の上限設定）の導入も授業で学習する内容を学生が本当に身につけるための時間を考えてなされています。何となく高校の延長で、受身の授業態度でいると物足りなく思えるかも知れませんが、授業で指示された文献を読むことや予習・復習をきちんとやれば今でも大変な量の学習をしているはずです。

⑤本学は偏差値が低いという意見

本学の偏差値が低いという意見が寄せられましたが、具体的にどの大学と比較して偏差値が低いということでしょうか。仮に低いとすれば、卒業までに自己のレベルを他の大学卒業生よりも優れたレベルへ引き上げるというポジティブな発想を持つことが必要ではないのでしょうか。少なくとも本学の教職員は、今後もこれまでと同様前記の方針のもとに授業を展開しておりますので、皆さんもぜひ意識改革をしていただきたいと思います。

平成18年度からは、学生の学力の低下（多様化）に対応したカリキュラムを展開していますし、今後も改善を加えより良いものとしていきたいと考えており、また、履修登録の上限設定、GPAによる厳格な成績評価や「秀」評価の導入等による「単位の実質化」を進めていますので、皆さんの勉強意欲は高まるものと大いに期待しています。

⑥世界レベルの競争力と全国で活躍できる人材の輩出

創成科学共同研究機構などの産学連携に係る組織等と連携し、RA（大学院生のリサーチ・アシスタント）などを活用し若手研究者の育成に努めています。

⑦今後の人材育成の方針（研究者か企業人か）

本学は、総合大学であるがゆえに、高度な専門的知識を備えた研究者及び職業人の養成のどちらも、両立させる可能性を秘めていると考えられます。学生はどちらを選択するのか、自らの学修経路を選択し学業にあたっていたきたいと思います。

⑧教科書

授業で用いる教科書の選定は、大体の科目で授業担当教員に委ねているのが現状ですが、過度の負担にならないように注意喚起したいと考えています。また、全学教育の理系基礎科目や語学については、統一した教科書を作成するようにしています。

⑨GPA

成績分布を公表し、分布に極端な片寄りがないか点検して改善に努めていますが、卒業基準にGPAを利用することはまだ検討していません。「秀」評価・GPA制度の導入は学生の学習意欲を高めることを目的にしており、GPAを過度に気にする必要はありませんが、成績をまったく気にしないという訳にはいかないでしょう。

⑩近隣の他大学での授業の履修

本学は全国でも有数の総合大学で、様々な分野の学部・研究科等を設置しています。希望する授業が自身の所属学部等で開講していない場合は、他学部（研究科等）履修という方法があります。まずは他の学部・研究科等で開講している授業を本学ホームページで検索してみてください（検索は学部のみで、大学院はそれぞれの教務係に問合せ）。また、他大学との単位互換制度は、一部の学部・研究科等で実施していますので、所属学部等の教務係に問合わせてください。

学部の授業科目の検索は、本学ホームページ「入学・学生生活」→「学生生活」→「《学内リンク先情報》学部「義内容（シラバス）」へのリンク」をご覧ください。（<http://infomain.academic.hokudai.ac.jp/syllabus/index.html>）

⑪休学中に取得した単位の取扱い

休学中に取得した単位の認定制度は、平成16年度から施行されたため、平成15年度以前に取得した単位は当該制度が適用されません。しかし、平成15年度以前の入学者でも、所定の手続きを経て平成16年4月1日以降に取得した単位については適用されます。なお、この制度を利用する場合は、必ず事前確認を行い授業計画をしっかりと立ててください。

⑫授業アンケート

現在、授業アンケートの結果を授業の改善に結びつける方策を検討しています。これまで、毎年学生の評価の高かった教員の名前と学生のコメントを公表していますが、平成19年度から教員同士の授業参観や授業研究の具体化を図る予定です。

授業アンケートの結果に対する各教員の対応については、本学ホームページ「点検・評価」→「学生による授業アンケート結果に対する対応」をご覧ください。

(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/tenken/hokoku/2007/s3/01.html>)

⑬教育教員と研究教員の分離の提案

北大では、「研究専念」、「教育専念」といった教員は置かず、全学教育、大学院教育にはすべての教員が参加するようにしています。教員は研究者として獲得した成果を独占することなく、学生に自ら伝えることが任務であると考えています。

⑭試験での不正行為（カンニング行為）

試験での不正行為は、学生の本分に反する行為で断じて許されるものではありません。本学では、教育的指導の観点から不正行為を行った学生に対して、懲戒（退学、停学又は譴責）処分を行っています。

日頃から、試験での不正行為の防止については、関係教職員に徹底していますが、いちばんの重要なことは皆さん自身が「絶対にしてはいけない行為」と認識することです。

(9) シラバス、便覧などの各種資料内容の充実について

①シラバスの充実

シラバスの内容を充実することは大変重要なことと認識しており、シラバス作成依頼文書や科目責任者等を通じて、常に教員へお願いしていますが、今後も、強く依頼したいと考えています。

②学生生活の案内、便覧等の充実

学部新入生に配付の「学生生活の案内」は、平成18年4月から大幅な改正を行いました。その内容は、毎日持ち歩きいつも見られるようにA4版からA5版に縮小し、一色刷りですが色の濃淡をつけて、内容も必要なものを追加する、使用頻度の少ないものはホームページのアドレス掲載のみにするなどの工夫をこらしました。毎回、作成の際にはより見やすいように改良を重ねますので、アイディアがありましたら学務部学生支援課学生相談係（高等教育機能開発総合センター②番窓口）あて、お知らせください。

また、「学生生活の案内」以外の「便覧」等についても、具体的な改善案がありましたら「学生の声・投書箱」などに提案してください。

(10) 学年歴について

①休業期間

本学では、2学期制を採用しており、各学期の授業は15週以上実施することと定めています。また、定期試験の実施も考慮すると、これらを確保するためには、休業期間を現状以上に設定することはできませんので理解ください。

なお、いずれの学期も「授業期間」は同じだけ必要ですが、2学期の場合、2月～3月は年度末特有の学事日程（入試、学位記授与式など）がありますので、授業期間の終期を1学期よりも早めに設定しなければならず、そのため冬季休業期間は短くならざるを得ません。

②学位記授与式の時期

現在の学位記授与式の日程は、各学部・大学院での卒業・修了者認定などを決定する諸会議の開催日程の都合上、また、多量の学位記を作成する作業に必要な時間の確保などから、ぎりぎりの設定ですので理解ください。

(11) 履修届のオンライン化について

「履修届の提出手続きをオンライン化」は、平成18年度第2学期から、平成18年度入学の学生を対象として、Webを利用した履修登録システムの導入を開始しました。Web化については、近年、実施大学が増えていますが、イ

ンターネットを介した登録ということで、大きなトラブルを生じたケースも見られますので、本学では、慎重を期するためにも平成 18 年度入学者から学年進行で段階的に導入することにしたものです。また、平成 18 年度入学者は、履修上限制度の導入や GPA 制度の本格利用と重なり、新たな対応を含めて Web 登録期間を迎えましたが、大きな問題を生じることなく無事に 2 学期の履修登録業務を終えることができました。現在のところ、本システムは、履修登録とシラバス情報の閲覧ができる程度ですが、今後は本システムをベースに、修学支援等の学生サービスを充実させるために、更なる機能の拡張を図っていく予定です。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

（1）高等教育機能開発総合センターの施設等について

①高等教育機能開発総合センター S 講義棟の暖房・改修

S 講義棟は、蒸気で暖房しており、一日中蒸気を通すと室内温度が上昇し過ぎるため、省エネルギーの観点から蒸気の通気時間をその日の気温によって調整し通気しています。設備の老朽化で細かな温度設定を行うことが不可能なため、皆さんでスチームのバルブ開閉による温度調整をお願いします。

なお、現在、S 講義棟の改修を要求しており、改修に併せてトイレの改修も行う予定です。

②高等教育機能開発総合センター周辺のロードヒーティング、サークル会館までの道路

札幌は年間積雪量が大変多い地域です。大学構内では、積雪が 10 cm を越えたときに除雪を行っています。昼間の融雪と夜間の冷え込みにより、路面が滑りやすくなることが多くあります。高等教育機能開発総合センターでは、正面玄関前的一部分をロードヒーティングにしていますが、周辺や構内の歩道をロードヒーティングにすることは、設置費用や維持管理費用の面から難しい状況です。

また、同センターからサークル会館までの道路は、カーブ地点、傾斜がついた所などに砂や融雪剤を散布していますが、道路全体をカバーすることは環境問題もあり不可能です。特に 1 月～2 月はスケートリンク状の凍結路面となりやすいため、絶対に自転車には乗らず、普段の何倍も気を遣った「すり足歩行」を心掛けてください。

③高等教育機能開発総合センター棟の冷房設備

近年の夏は札幌でも大変暑い日が続く、エアコンの設置を要望する気持ちは理解できます。北海道ではそれほど暑さが厳しくなく猛暑の期間が短いこともあって、一般的にエアコンの普及が進んでおらず本学でも同様の状況です。高等教育機能開発総合センターでは情報処理演習室等にエアコンを設置していますが、現在のところ、予算の都合もあって新たな設置は難しい状況です。

④高等教育機能開発総合センター駐輪場

高等教育機能開発総合センター周辺の駐輪場では、皆さんが停めた自転車を整理する整備員を配置して駐輪スペースの有効活用に努めています。新たな駐輪場の設置は予定していませんが、同センターの「正面駐輪場の北側」は比較的空いていますのでそこを利用してください。

⑤高等教育機能開発総合センターの自習室

高等教育機能開発総合センターには、「N207 室」と「N260 室」の 2 箇所自習室を設け、8 時 30 分から 21 時まで利用できます。自習室は警務員室や学務部事務室から離れた場所にあるため、土・日・祝日・授業のない休業期間は、管理上の観点から閉室にしています。したがって、休日等に構内で勉強したいときは、図書館や図書館北分館を利用してください。

⑥高等教育機能開発総合センターの机・椅子

教室の椅子や机は、予算等の関係から不具合のものを一度に変えることは困難ですが、これからも、毎年可能な限り交換し、快適に授業を受けられるよう改善に努めていきます。

⑦高等教育機能開発総合センターの掲示方法・掲示板

高等教育機能開発総合センター（1 階）には、公用掲示板を 14 箇所設置しています。掲示の際は、以下のとおり掲示物が見やすいように工夫をしていますが、これらを徹底し、より見やすい掲示に努めていきます。

- 1) 本学からのお知らせは、色紙を使用し、サイズを A3 又は A4 版に統一しています。
- 2) 掲示物同士が重ならないよう、同じサイズの掲示物を揃えて見やすく掲示しています。
- 3) 他学部等や外部団体等の掲示物は、掲示板のスペースが限られているため、期日の近いものを優先し、その期日が終了次第、速やかに次のものを掲示するように心掛けています。

同センターの掲示等に関する詳細は、本学ホームページ「入学・学生生活」→「学生生活」→「高等教育機能開発総合センターにおける生活」→「公用掲示」を参照ください。

(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/gakusei/kouyou.htm>)

⑧高等教育機能開発総合センターの教室の利用

高等教育機能開発総合センターでは、課外活動支援のため、学部1・2年次の学生を対象に、授業終了後の18時から21時の間、5教室に限定して使用を認めています（土・日・祝日や授業のない休業期間は除く）。同センターでは、1講時（8:45）から5講時（18:00）まで全教室を授業で使用していますので、授業終了後は、翌日の授業に支障のないように、そして快適に授業が受けられるように全教室の清掃を毎日行っています。

このため、全教室の使用を認めると清掃開始がすべて21時以降になってしまうことから、清掃時間を確保するため5教室に限定しているのです。また、使用を認めている教室数が十分ではなく、主に同センターで授業を受けている学部1・2年次に限っています。

同センターの教室使用に関する詳細は、本学ホームページ「入学・学生生活」→「学生生活」→「高等教育機能開発総合センターにおける生活」→「教室の使用」を参照ください。

(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/gakusei/kyo.htm>)

⑨高等教育機能開発総合センター内の遺失物の取扱い

高等教育機能開発総合センター内とその周辺（言語文化部、北部食堂、情報教育館等）での遺失物（忘れ物、落とし物）は、同センター1階の「落とし物ロッカー」に陳列しています。ただし、財布・学生証の遺失物は、ロッカーに入れず学務部学生支援課学生相談係（高等教育機能開発総合センター②番窓口）で保管し、持ち主が特定できたものは電話で連絡し、特定できないものは7日以内に最寄りの交番に届けています。

落とし物ロッカーは次のように区分し、毎朝、整理整頓を行っています。鍵をかけていないロッカーは、見たときに散らかしてしまう人が多く、日中、何度も整頓しなければならない日もありますので、気持ちよく遺失物を探せるよう、皆さん一人一人が散らかさないよう心掛けてください。

○鍵のかかっているロッカー：教科書、辞書、めがね、腕時計などの貴重品を入れてあります。自分の物と思われる方は、学務部学生支援課学生相談係（高等教育機能開発総合センター②番窓口）に申し出てください。

○鍵のかかかっていないロッカー：ノート類などを入れてあります。自分のものと思われる物を見つけたときはそのままお持ちください。

同センターの遺失物に関する詳細は、本学ホームページ「入学・学生生活」→「学生生活」→「高等教育機能開発総合センターにおける生活」→「その他（遺失物・下駄履きの禁止等）」を参照ください。

(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/gakusei/sonota.htm>)

⑩高等教育機能開発総合センターの救急時の対応

高等教育機能開発総合センターの「休養室」には、2台（男子用1・女子用1）のベッド、車椅子、搬送用担架を配置しています。

「休養室」には、医師・保健師が在室していないため、学務部学生支援課学生相談係（高等教育機能開発総合センター②番窓口）が、状況に応じて、救急車の要請、保健管理センターへの連絡・搬送、近隣の病院の紹介などを行っています。保健管理センターとの密接な連携のもと適切に対応していますので、対応の変更は今のところ予定していません。

（2）福利厚生施設の整備・充実について

要望の多かったものは学生食堂関係で、食堂が狭い、食堂を増やしてほしい、値段を安くしてほしい、営業時間を延長してほしい等々でした。

学生食堂が狭隘で大変混んでいることは承知していますが、新たな食堂の新築・増設となれば、膨大な経費が必要で、国立大学の法人化後は国からの運営費交付金も年々削減されていくなか、直ちに改善することは難しいのが現状です。今後、福利厚生施設の整備・充実を検討する際には、特に学生食堂の改善に努めていきたいと考えています。

なお、学生食堂の値段を安くしてほしい、売店を含めた営業時間の延長、売店に関する要望など、北海道大学生協同組合（以下「生協」）に対する要望は、生協に提示のうえ大学と生協とで改善に向けて検討し、要望に応えるよう努めています。

（3）学内の研究施設、機器のデータベースを作るなど、他の研究施設の利用について

本学では、17の学内共同利用施設等があります（本学ホームページ「大学案内」→「学部・大学院・研究所・センター等」→「学内共同利用施設等」を参照ください）。

(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/top-sub/gakubu-link.htm>)

また、創成科学研究棟、理学部棟、医歯総合研究棟、農学部、アイソトープ総合センター、機器分析センター、

エネルギー変換マテリアル研究センターでの、装置利用、委託分析、液体ヘリウム等の提供は、本学ホームページ「Pickup Contents」→「北大の研究機器利用の窓口」をご覧ください。

(<http://www.cris.hokudai.ac.jp/facilities/>)

なお、本学は学部、大学院、研究所など多くの部局が設置されており、全ての施設・機器を全学共同で利用することは、管理・運営上困難です。

(4) 施設・設備の利用方法がわかりづらいことについて

本学の全施設・設備の利用方法を一つにまとめたものではありませんので、学部、大学院、研究所、センター等の施設・設備の利用方法は、それぞれの部局のホームページをご覧ください（本学ホームページ「大学案内」→「学部・大学院・研究所・センター等」を参照ください）。

(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/top-sub/gakubu-link.htm>)

(5) キャンパス内での喫煙マナーについて

建物内の喫煙管理は、各学部等で喫煙コーナーを設置したり、または全面禁煙にするなどの対応を行っています。しかし、キャンパス内は禁煙にしているため、他人に迷惑をかけるようなたばこの吸い方、ポイ捨てなどは絶対に行わず、喫煙者としての自覚を持ってマナーをしっかり守りましょう。また、ゴミは、ポイ捨てしても誰かが清掃するとは決して思わずゴミ箱へ捨てるよう心掛け、皆さん一人一人のマナーによって北大構内をきれいなキャンパスにしましょう。

3 経済問題（授業料、奨学金等）に関すること

(1) 授業料免除について

①授業料免除枠の拡大、制限の緩和等

授業料免除では、授業料免除枠の拡大、制限の緩和に関する要望が一番多く寄せられました。

1) 授業料免除枠の拡大について、授業料免除は授業料収入額から算出した免除実施可能額というものがあります。これは1年間の免除実施可能額を定めたものですが、他の国立大学でもほぼ同じようなシステムを採用しているところが多いようです。

本学では、前回の学生生活実態調査（2002年）での免除人数拡大の要望を踏まえて、平成17年度から、授業料免除の取扱いの一部を改正し、免除適格者が広く免除対象者となることを考慮のうえ、免除実施可能額の範囲内で半額免除者を増やし、免除人数の拡大を図りました。

この結果、平成16年度の授業料免除者は前・後期合わせて1,977名でしたが、平成17年度の授業料免除者は前・後期合わせて2,956名と免除枠の拡大を図っています。

2) 授業料免除基準の緩和について、従来から返還しなければならない奨学金は、家計基準のなかで収入としてみなしていましたが、平成17年度からは、返還しなければならない奨学金は収入から除くべき、と判断して基準の緩和を図りました。

②成績優秀者に対する授業料免除枠

成績優秀者の授業料免除について、本学では平成17年度から、授業料免除の取扱いの一部を改正し、特別に優秀な人材の受入れと育成という観点から、専門職大学院における成績優秀者に対する授業料免除枠を創設しました。しかしこの免除枠は、予算の関係もあって十分なものではなく、成績優秀者に対する授業料免除枠の拡大は、今後の課題であると考えています。

③授業料免除事務手続きの簡素化

事務手続きについて、簡素化・迅速化できるものは、今後、検討していきたいと考えています。ただし、提出書類は、高額な授業料の免除であり、より厳密に、かつ、公平に審査するために必要なものであり、省略することは考えていません。

また申請を年に1回にしてほしいとのことですが、家計状況の急変等に迅速に対応するためには、現行の前・後期ごとの申請が適当であると考えています。

④授業料免除制度の周知方法

授業料免除申請についての現在の周知方法は、掲示板(前期分は2月上旬頃、後期分は6月下旬頃に掲示)及び本学のホームページに掲載しています。免除される家計基準及び学力基準等の詳細は、各学部等の授業料免除担当窓口(教務係、学生生活係等)又は学務部学生支援課奨学係(高等教育機能開発総合センター④番窓口)で交付して

いる「授業料免除のしおり」に掲載しています。

授業料免除について、本学ホームページ「入学・学生生活」→「学生生活」→「経済生活」→「入学料・授業料免除」を参照ください。
(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/gakusei/nyu.htm>)

(2) 奨学金の選考方法と枠の拡大について

授業料免除と同様、奨学金の選考方法の変更と枠の拡大についても多くの要望がありました。奨学生の選考・推薦は、日本学生支援機構（旧日本育英会）、地方自治体及び民間奨学団体からの依頼に基づいて行っています。このため、授業料免除と同様に各団体において、独自にそれぞれ推薦人数、対象学生、家計・学力等基準などが定められており、本学で決定できる事項はほとんどないのが実情です。

なお、奨学生の大部分を占める日本学生支援機構の採用状況について、無利子奨学金「第1種」の採用人数は厳しい状況ですが、有利子奨学金「きぼう21プラン」は年々増員が図られ、平成17年度、18年度とも、最終的には希望者（適格者）のほとんどが採用になっています。

また返還義務のない奨学金枠の拡大についても、日本学生支援機構等の各団体が定める事項になりますので、現状では直ちに枠の増加を実施するには困難な点が多くあります。

奨学金について、本学ホームページ「入学・学生生活」→「学生生活」→「経済生活」→「奨学金」を参照ください。
(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/gakusei/shogaku.htm>)

(3) 北海道大学新渡戸賞について

北海道大学新渡戸賞は、学業成績が秀でており、かつ、人格に優れ、他の学生の模範になると認められる学部学生に対し、優秀学生育成を目的として、総長が奨励金を贈呈する制度です。

対象は学部2年次生で、1年次に学部ごとで定める単位以上を取得した者のうち、各学部の成績上位者に対して奨励金200,000円（100,000円×2回）を贈呈するものです（人数は約90名学部ごと定員30人に1人の計算）。本賞は、皆さん自身が申請する必要はありません。

北海道大学新渡戸賞について、本学ホームページ「入学・学生生活」→「学生生活」→「奨学金・奨励金」を参照ください。
(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/gakusei/shogaku-shorei.htm>)

(4) 学生寮について

①学生寮の新設・増設等

現下の厳しい財政状況の中で、学生寮の新設・増設することは極めて困難な状況です。しかしながら、充実した学生生活を送るための支援体制の強化を図るため、その一環として学生寮の効率的な活用の方策や入寮定員の見直し、そして学生寮の在り方等について十分検討し、学生寮の維持や整備をしていくことは重要であり、今後の課題であると考えています。

②学生寮内設備等

快適な居住環境実現のため、大型設備であるボイラー設備、暖房設備、給排水設備、防火設備等の維持管理をはじめ、居室、補食談話室その他共用スペースの物品についても限られた予算の範囲内で、補修・整備を行いその充実を図っているところです。

冬期間における暖房設備の稼働は、夜間のみならず昼間も寮生が在室していることから、効率的かつ経済的な稼働時間帯を設定し稼働しています。

③学生寮の入寮選考基準

入寮選考は「北海道大学学生寮入寮選考基準」に基づき、経済状況、家族状況、地理的状況を考慮して行っており、経済状況については、北海道大学授業料免除に関する選考基準に準じて家計点を算出しています。学生寮が経済的困窮学生救済のための厚生施設として位置付けられていることから、経済的困窮度の高い希望者から順次入寮許可者として選考しています。

④学生寮の寄宿料

「北海道大学学生寮規程」に基づき、寮生は、寄宿料（日本人学生4,300円、外国人留学生4,700円）と光熱水料等経費を納付・負担することになっています。寄宿料と光熱水料等負担経費を合わせ、1ヶ月8,000円前後の費用になりますが、民間アパート等の家賃額等と比べるとかなり低廉な額になっています。

学生寮について、本学ホームページ「入学・学生生活」→「学生生活」→「経済生活」→「学生寮」を参照ください。
(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/gakusei/ryo.htm>)

(5) TAの給与について

TAの時間単価は、法人化前が1,400円で法人化後は1,350円に設定しており、大幅に下がってはいないと考えています。また、TA制度は、経済的支援もさることながら、任務として研究者及び教育者としてのトレーニングであることも理解してください。

5 教職員の対応（応対等）に関すること

(1) 高等教育機能開発総合センター窓口における職員の不適切な対応について

窓口対応で不愉快な思いをさせたことは、率直にお詫びします。高等教育機能開発総合センターの窓口を担当する学務部（学生支援課①～⑤番窓口、教務課⑥～⑨番窓口、入試課）では、学生サービス基本マナーを掲げ、皆さんに対しては常に親切、かつ、適切に対応するよう心掛けていますが、業務繁忙の際には窓口に来ても気づかないこともありますので、その際には窓を開け声を掛けてください。また、言葉遣いや態度を含めてお互いに信頼関係を持つことが肝要ですので、今後も職員一人ひとりが意識改革を通じスキルアップを図っていきたいと考えています。

なお、不適切な職員の対応があったときは、具体的に何番窓口の誰と名指しでも構いませんので、「学生の声・投書箱」によりお知らせください（事務職員には大学からネームプレートが配付されており、勤務中は着用することになっています）。

(2) 職員のグラウンド等使用時の横柄な態度について

昼休みの時間帯を職員の優先利用としている施設等で、横柄な態度をされたと思います。利用の際の注意事項として職員に周知することとします。

6 車両（自動車・自転車・交通規制等）に関すること

(1) キャンパス内での自転車の運転マナーについて

自転車の運転マナーへの啓発活動は、平成17年度に札幌市主催で自転車の安全運転を競う「自転車（チャリンコ）セーフティーラリー」を開催し、学務部学生支援課学生相談係（高等教育機能開発総合センター②番窓口）で「夜光反射材（リストバンド）」を無料配付し、学生向け広報誌「えるむ」や本学ホームページ上でも運転マナーを心掛けるように注意喚起をしているところです。

しかしながら、構内外における自転車の無謀な運転や無灯火が目立っており、一般市民の方からも北大生の自転車の運転マナーに関する苦情（乗用車を運転中に轢きそうになった、歩行中に衝突されそうになった、など）が多く寄せられています。自転車の運転に免許証は必要ありませんが、マナーを守することは社会の一員として当然のことです。自転車を運転するときは、以下のことをしっかり遵守してください。

○夜間は点灯走行を

薄暮や夜間にも無灯火で走行する自転車が数多くみられます。薄暗くなると無灯火自転車は、車や歩行者からは姿が全く見えません。自分が事故に遭わないように、他人を事故に遭わせないように、自分の居場所を確実に知らせましょう。

○歩行者に配慮を

歩道は歩行者優先です。歩行者のそばを通るときは十分に速度を落とし、ベルを鳴らすなどして、安全に通過するよう気をつけてください。

○2人乗りは危険

自転車は基本的に1人乗りです。重量過多のためハンドルの制御が出来なくなり、故障や事故の原因になります。そして2人一緒に事故に遭うことになります。

○携帯電話・傘の使用はダメ

携帯電話や傘を使用しながら自転車に乗ると、注意が散漫になるうえハンドルが自由に使えず大変危険です。また、傘をささないまでも、前カゴに傘を入れて走行し、前輪に傘が引っ掛かったため転倒して大怪我をした例があります。

○冬期間の自転車はあきらめよう

北海道のきびしい冬には、路面が凍結し滑るため、自転車での走行は無理です。大学生協等で自転車預かりサービス（有料）等もありますので、冬の間は自転車に乗るのはあきらめましょう。

○自転車の放置は止めましょう

キャンパス内には、毎年たくさんの自転車が放置されるため、大学全体で年に1度、多くの労力を費やして回収を行っています。自転車は、札幌市が大型ゴミとして有料で回収（大型ゴミ収集センター：電話011-281-8153、料金500円）していますので、壊れたからといってキャンパス内などに放置することなく、責任をもって最後まで自転車の面倒をみましょう。

7 就職に関すること

（1）公務員志願者への支援について

キャリアセンター（クラーク会館1階）では、国家Ⅰ種公務員を志願する方に、模擬試験や総合試験・面接の対策を行っていますので、積極的に活用してください。

（2）就職に関する広報及び周知について

キャリアセンターで開催するイベントは、キャリアセンター及び図書館、各学部等で掲示するほか、キャリアセンターホームページでも広報を行い、皆さんに広く参加を呼びかけています。また、キャリアセンターのホームページ登録者へはメールによる新着情報や、各種ガイダンス・セミナーの開催情報を自動配信で行っていますので、必ず登録して利用するようにしてください。

（3）函館キャンパスの広報及び支援について

札幌キャンパスで行う主要なガイダンス・セミナー等は、DVDを函館キャンパスへ送付していつでも閲覧できるようにしています。また、函館キャンパスには、平成17年11月から就職支援としてキャリア支援室を開設しましたので利用してください。

なお、エントリーシート添削や就職相談を希望する方は、キャリアセンターと接続しているテレビ会議システムを利用することができますので、函館キャンパス事務部学生係へ申し出てください。

（4）就職支援について

キャリアセンターでは、就職支援に関するガイダンス・セミナーや相談会を各種開催し、学部、大学院生、留学生等全ての学生を対象に支援していますので、お気軽に相談に訪れるなど利用してください。

博士課程学生については、平成18年度から理学院（科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業S-cubic）と連携して企業開拓や情報収集を行っているところです。

キャリアセンターのホームページは「入学・学生生活」→「就職支援」

(<https://ccsup.academic.hokudai.ac.jp/Index.aspx>) です。

8 課外活動（課外活動施設等を含む）に関すること

（1）サークル会館の充実について

サークル会館等における狭隘化対策の一つとして、旧北西食堂を改装し、平成17年度から音楽系サークル用練習場になっていますが、まだまだ解消したとはいえないため、現在、第二サークル会館の建設を要求しています。

平成19年度からは、北大フロンティア基金を活用し、可能な範囲で課外活動施設の改修を図ることとしています。

（2）体育館の充実について

体育館等は、現在、改修の要求を行っていますが、大学全体の施設整備計画を踏まえる必要もあって大改修、新施設の早急な実現は難しい状況です。今後は学外の施設借り上げ等も検討課題の一つと考えています。

なお、平成17年度には、小体育館の床改修、第一体育館ステージ床改修、第二体育館の床ウレタン塗布、同天井部暖房設備の改修を行っています。

（3）プールの充実について

札幌の夏季は大変短く、現行の室外プールは7・8月のみの使用期間にしています。このため温水プールがあると理想的ですが、建設費や維持管理費の観点から現状では難しい状況です。

(4) トレーニングセンターの充実について

トレーニングセンターは、平成16年度にアリーナ部分の改修を行っていますが、利用頻度の高いマシン類は故障が多く、改修・更新は利用頻度や利用者の希望を考慮のうえ対応しているところです。

(5) テニスコートの利用方法について

テニスコート（体育館南横）は、授業時間以外の時間を各グループに貸出しています。毎月20日（20日が休日の場合は翌日）に、希望するグループから申請書をサークル会館あてに提出してもらい、抽選等により使用するグループを決定しています。

9 学生生活実態調査に関すること

平成17年11月に実施の学生生活実態調査に対して多かった意見は、調査項目が多い、学部・研究科等によって又は社会人学生にとっては質問が当てはまらないものが多い、収入・支出を聞かれるのはいかなるものかなど設問に対する意見等であり、また、調査方法に対する意見としては、セキュリティの問題、依頼から入力できるまで日数がありすぎる等であった。今回寄せられた意見等は、次回調査の際に検討・改善していきたいと考えています。

調査全般に寄せられた貴重な意見・要望については、関係部局等で検討しており、その内容をこの冊子でお知らせするとともに、少しずつですが問題の解決・改善に向けて努力していきます。

なお、調査の結果は、平成18年9月に「学生生活実態調査報告書（2006年）」として冊子を刊行しており、各学部・研究科等の事務部（教務係・学生生活係等の係窓口、図書室）及び附属図書館で閲覧できますし、ホームページでも公開していますので、まだ見ていない方は必ずご覧ください。

本学ホームページ「入学・学生生活」→「学生生活」→「学生生活実態調査報告書（2006年版）」を参照ください。
(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/gakusei/2006gakuseityousa/index.html>)

10 その他

(1) 入学試験について

①AO入試の導入・普通科卒業以外の学生の受入れ

AO入試は、学部が、本学のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）を踏まえ、学部で定めるアドミッション・ポリシーに基づき実施の有無を決定しています。現在、8学部（教育、経済、理、歯、薬、工の一部、農の一部、水産）で実施しており、特に教育学部では、高等学校又は中等教育学校で職業教育を主とする学科（農業、水産、工業、商業、家庭、看護、情報及び福祉に関する学科）を卒業した者及び卒業見込みの者を対象としています。

「北海道大学のアドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）」は、ホームページをご覧ください。

(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/nyu/admission-p.pdf>)

②学部編入学の拡充

編入学入試についても、上記同様に学部のアドミッション・ポリシーに基づき実施の有無を決定しています。現在、9学部（文、教育、法、経済、理、医、工、農、水産）で実施しており、多様な学生を積極的に受入れるため、2年次、3年次編入制度の一層の拡充を検討しています。

③優秀な学生の確保

本学では、全国から優秀な受験生を確保するため、毎年、北海道内はもとより全国各地で「北大セミナー」、「進学説明会」等を開催しており、今後もこれらの説明会等を充実し、北海道大学の素晴らしさをPRしていく予定です。

(2) アカデミック・ハラスメントについて

本学で発生したアカデミック・ハラスメントは、学生相談室が中心となり、関係研究科と連携協力して対応してきましたが、問題解決機能を有しているセクシャル・ハラスメント防止等対策室を、ハラスメント防止等対策室に改組し、セクシャル・ハラスメントに加えてアカデミック・ハラスメントについても、対応するように学内規程等の改正手続きを行いました。

体制が完全に整備されるのは平成19年度からになりますが、アカデミック・ハラスメントを含めたハラスメントの発生防止及び対策に責任を持って取り組み、快適な修学環境の提供を目指していきたいと考えています。

(3) 大学祭における酒類の禁止について

大学祭での飲酒禁止は、過去の大学祭期間中に多数の飲酒にかかわる事故が発生したことから、実際に大学祭で診療にあたった専門家も参加した委員会で数年間討議されてきました。飲酒を禁止するか否かについて、大学祭実行委員会と大学とで協議を行いました。飲酒事故防止に有効と考えられる他の対応策がなかったため、また、未成年の学生が主体となる大学祭（榆陵祭）もあるため、平成17年度から飲酒禁止になったものです。

なお、大学祭実行委員会では、大学祭終了後も学内に呼びかけ広く意見を求めていますので、よりよい大学祭のあり方について、積極的に議論してほしいと考えています。

(4) 学生が利用する施設の管理運営に学生が参画することについて

学生が利用する施設（クラーク会館、ラウンジ、図書館、コンピュータールーム等）について、学生も参画する施設運営委員会を設けて検討してはどうかという意見が寄せられましたが、本学は多数の組織で構成されているため、各施設は異なる部局等で管理運営しており、それぞれに検討する委員会を設置しています。確かに利用者の意見は尊重すべきものですが、委員会に参画するまでもなく「学生の声・投書箱」を活用する方法がありますので、具体的な改善策等がありましたら「学生の声・投書箱」に提案してください。

(5) 学生の自治母体（学生自治会、院生協議会等）について

学生自治会や院生協議会の活動について教育評価をしてはどうか、また、大学が学生の自治母体が整備されるよう条件を整えるべきではないかという意見が寄せられましたが、学生自治会や院生協議会等の活動は、学生の自主的な活動であって教育評価にはなじまないものと考えていますし、大学がお膳立てするものではなく、学生同士による協議によって組織を形成すべきと考えています。

(6) 元気な人を表彰することについて

本学では、課外活動・社会活動で活躍した学生に、「北大えるむ賞」、「北大ペンハロー賞」を授与し表彰しています。「北大えるむ賞」は毎年11月中旬から翌年1月下旬に募集を、「北大ペンハロー賞」は随時募集を行っていますので、「私は該当する活躍をした!」と思われる方は、学務部学生支援課学生相談係（高等教育機能開発総合センター②番窓口）あて、奮って応募してください。

同賞の詳細は、本学ホームページ「入学・学生生活」→「学生生活」→「学生の表彰」を参照ください。

(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/gakusei/hyousho.htm>)

(7) 「北大元気プロジェクト」の継続について

「北大元気プロジェクト」は、中村 睦男 総長の提案により、平成13年度から実施しており、これまで多く皆さんに“元気になってもらえた”と思っています。これからも、キャンパス生活をより快適に、そしてより充実したものにしてもらうため、北大元気プロジェクトは継続したいと考えています。

(8) 学生の起業を支援する組織について

本学では、創成科学共同研究機構に寄附研究部門「三菱UFJキャピタル起業家育成研究部門」を設置しており、同部門は、毎年数回、理系の大学院・学部学生を対象とする「起業家育成公開講座（MOT）」を開催し、起業に興味のある学生を応援しています。

起業に関する質問等は、上記研究部門・佐藤 孝一特任助教授が答えてくれますので、佐藤先生あてにお問合わせください。（メールアドレス k-sato@cast.hokudai.ac.jp 電話011-706-7312, 011-706-2959）

(9) 学生ボランティアの情報提供について

「学生ボランティア活動相談室」をご存知ですか。同室は、コーディネーターと学生スタッフが在室し、ボランティア活動の情報提供やボランティアを行う際の心構え・マナー等についてアドバイスを行っています。また、訪れた際にメールアドレスを登録していただくと定期的にボランティアの情報を送っています。是非一度訪れてみてください。

「学生ボランティア活動相談室」

場 所： 高等教育機能開発総合センター「N109室（1階北側）」

開室時間： 月・水・金曜日の 15:30～18:30

電話番号： 011-706-2119

アドレス： <http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/gakusei/boran.htm>

紹介記事： 学生向け広報誌「えるむ（第122号）平成19年1月発行」

(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/erumu/erumu-no122/gozonji.htm>)

また、毎年10月下旬に「学生ボランティア養成講座」を開催し、障がい疑似体験、本学学生によるボランティア体験発表などを行っています。開催はポスター掲示やミニチラシなどでお知らせしますので、是非参加してみてください。

上記のほかに、学生のボランティア活動に関する情報は、学務部学生支援課学生相談係（高等教育機能開発総合センター②番窓口、電話011-706-7454）にお問合わせください。

(10) 学生相談室の充実・法律問題に関する相談窓口について

「学生相談室」は、これまで非常勤講師が担当していましたが、平成18年4月から常勤職員（カウンセラー）1名を配置し、相談枠や相談時間の拡充を図るなど充実を進めています。同相談室は、面接の内容など個人にかかわる秘密は厳守し、本人の不利益になることは一切ありません。どんな小さなことも相談に応じますので、気軽に相談室を利用してください。

「学生相談室」

場 所： 高等教育機能開発総合センター「N110室（1階北側）」

開室時間： 月～金曜日の 10:00～17:00

電話番号： 011-706-7463（受付）

アドレス： <http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/gakusei/boran.htm>

紹介記事： 学生向け広報誌「えるむ（第120号）平成18年7月発行」

(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/erumu/erumu-no120/gozonji.htm>)

同相談室では、法律問題に関する相談にも応じていますが、専門的知識を要する相談内容のときは、本学法学部の公認学生団体が運営する「法律相談室」(<http://housou.sakura.ne.jp/>)での相談を勧める場合もあります。

(11) 「カルト」団体等の危ない団体からの勧誘について

本学では、皆さんに対して、以下の啓発活動や注意喚起を行っています。また、本学以外の者が構内で「ビラ」等を配布しているところを見かけたときは、配布を止めるように注意を行っています。

- ① 平成18年9月から、「カルト」団体の勧誘に注意するよう全学にポスターを掲示しています。
- ② 平成18年4月の学部新入生から、オリエンテーションの際「こんな勧誘にご用心！（日本脱カルト協会発行）」のパンフレットを配付しています。
- ③ ・学生向け広報誌「えるむ（第121号）平成18年10月発行」に、「カルト」団体・悪徳商法に“ご注意”！」の記事を掲載しています。

(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/erumu/erumu-no121/akutoku.htm>)

・学生向け広報誌「えるむ（第122号）平成19年1月発行」に、「正体を隠したサークルの勧誘にご注意（文学研究科・櫻井義秀教授からの寄稿）」の記事を掲載しています。

(<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/erumu/erumu-no122/tyuui.htm>)

○『見かけたとき』は

学務部学生支援課学生相談係（高等教育機能開発総合センター・

1階②番窓口、電話011-706-7454）あて、情報を提供してください。

○『勧誘を受けて困っているとき』は

「学生相談室」（高等教育機能開発総合センター・1階「N110室」、

電話011-706-7463）を訪れてください。

(12) 学生の保護者向けサービスの充実について

本学は、すべての都道府県出身者が在学している全国でも稀な大学で、学部・大学院を合わせて17,800人以上の学生がおりますので、広報誌の送付や保護者を対象とする地区懇談会の実施など、全ての保護者を対象とするサービスの提供は、教育研究経費や施設整備費は確保しつつ全学を挙げて経費削減を進めている折、大変難しい状況です。

なお、本学のホームページの充実を図るなど、保護者への情報提供はしっかりと行っていきたいと考えています。

(13) 北海道大学生協同組合への要望について

北海道大学生協同組合（以下「生協」）に対する要望としては、アルバイトの斡旋に関すること、書籍部に関すること、教科書販売に関すること、レジ袋の廃止等々が寄せられましたが、これらの意見・要望は、生協に伝え要望に応じていただくことにしています。

研究戦略室

3 経済問題（授業料、奨学金等）に関すること

（意見）

- ・ 研究を積極に行っている学生に、重点的に研究補助を与えるべきと思います。（文DC3男）

【回答】

研究戦略室では研究者（教員）への積極的研究推進のため研究費助成を実施していますが、学生には実施しておりません。ただし、クランク財団等各種学生向けの助成金の公募等の支援は行っており、これらの情報は部局等へ通知文書等を発信しておりますのでご確認ください。

（意見）

- ・ せっかく独立行政法人になったんだから授業料以外で利益を生むシステムを考えてもいいんじゃないだろうか。（理MC2男）

【回答】

大学としては特許等の知的財産を企業等に活用していただくことや、共同研究等の外部資金の獲得に力を注いでいます。さらに、来年度からは共同研究契約における産学連携推進経費を導入し、産学連携推進の核となる知的財産本部体制等の維持・整備を図る予定です。また、高度な研究機器を共有し、学内外の研究者が有料で利用できるように整備しました。

（意見）

- ・ 独立法人化され、ますます授業料等の金銭面では厳しくなるのだと思いますが、その分、研究からお金を得たりできれば理系学生だけに負担がかかることもないのではないのでしょうか？民間の企業と同じように節約や経営のスマート化をする必要があるのかもしれない。（情MC2男）

【回答】

大学として経費等の削減に努めているところですが、研究戦略室としても、大型の競争的資金獲得のための支援や共同研究・受託研究等の外部資金の獲得にも力を注いでいます。

10 その他

（意見）

最近は改善してきているが、事務の対応がいまいちである。お客として役所に行ったときと、民間企業に行ったときの窓口などの対応を考えてみて欲しい。独立行政法人化に（良いか悪いかは別にして）なってしまったからには民間のサービスやノウハウから学べる部分は多いと思う。それから、ずっと北海道に住んでいる自分としては愛着が深いこともあり、現在の北海道の経済状況などには危機感を抱いており、それは更に地元での就職が難しい事にも繋がっている。北大は北海道内でも一番の大学であり、学術的貢献をだけでなく地元企業との連携などで、特許の共同研究や地元への優秀な労働力の提供（これらは学生の就職先拡大にも繋がる）など、地元に即した連携が必要だと思う。もちろん、製造業などが少なく弱小企業の多い、道内の地元企業との連携は非常に難しいのは重々承知であるが、そういった面にも今まで以上に目を向けてもらいたいと思う。北海道という場所に立地する大学として北海道を元気にする一助となるように何が出来るか考えて行って欲しい。（工4男）

【回答】

- ・ 研究戦略の観点から地元企業はもとより、多くの企業と共同研究・受託研究等の連携を実施しています。特に、法人化前と比較して平成17年度実績で共同研究の件数（347件）は1.7倍、受託研究の件数（424件）は1.2倍に増加しています。また、本学は企業との間で研究協力のみならず、人材交流や人材育成も含めた包括的な相互協力を推進する「包括連携協定」等の締結を推進しています。さらに、北キャンパス周辺エリアを中心に産学官の連携によって研究開発から事業化までの一環したシステムの構築を目指した「北大リサーチ&ビジネスパーク構想」を進めております。

（意見）

- ・ 北海道大学は中途半端だ。ノーベル賞取れる研究者がいるわけではないし。教授ももっと待遇を改善し、人を呼べる人をとるべき。マスコミをもっと上手につかうべき。いま東北大学の教授の肩書きがついたゲームソフトが出ているのを知っていますか？あれで小学生、中学生に一気に東北大学の名前が広がった。子供にとっては憧れの存在になりました。10年後を見据えた人を育ててください。なにかに突出しないとこの先人が呼ばなくなるでしょう。世界、日本での競争力をつけていかなければならないことを期待します。事務の方に置かれましても、北大生え抜きでなく、公募などによって広く優秀な方を募集するとか。（医6男）

【回答】

研究戦略室としてはノーベル賞を受賞できるような研究がされるよう、研究支援を行っているところです。また、平成14年度から文部科学省が進めている世界的な研究教育拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある世界最高水準の大学づくりを推進するための「世界的研究教育拠点形成のための重点的支援—21世紀COEプログラム—」において、本学では12のプログラムが進められております。

（意見）

- ・やはり就職のことが気になります。特に博士課程の場合は深刻です。学振の応募において年齢制限があるのも納得いきません。会社から資金援助を受けている社会人は歓迎するけれど退路を断って大学へ入ってくる社会人は冷遇されているような。定年引上げやリストラにより終身雇用が崩れた現代においては社会人から大学院へ戻って勉強しなおし再び社会へ戻るという構図になるのは必至だと思います。日本の不況は「考えない人材」を輩出してきたことが大きな要因のように思います。大学院は自らを見つめなおし鍛えなおす場として重要な役割を持つようになってくると考えます。本来、研究教育機関は自由闊達な雰囲気であるべきで、その中で世の中の役に立つ人間を育てるというのが大きな目的だと思っています。社会人を受け入れるということは若年層にとっても社会へ出る前に社会の仕組みを教わるができる貴重な体験になり社会人にとっては若い人たちから柔軟な考え方やエネルギーをもらうチャンスになります。大学院がもっと自由に人間が出入りできるようになり、人材の交流を促す場になることを望みます。（長々すみません）（情DC1男）

【回答】

学術振興会の年齢制限については、学術振興会の規程によるものであるので、研究戦略室としてのコメントはできません。

（意見）

- ・長い間、東京に勤めていましたが、東京から見ると北大の存在があまり目立ちません。全国的に偏差値も低下傾向にあるので、当面は東北大をしのぐことを目標に教育・研究で成果をあげてほしいと思います。（国DC2女）

【回答】

研究戦略室としては研究に関して東北大学等、特定の大学が目標と言うことではなく、世界に通用する研究を目指すべく支援しているところです。

（意見）

- ・より競争力のある研究室・研究者に、研究上の優遇措置を与えるべきと思います。（文DC3男）

【回答】

研究戦略室としては研究の競争力を高めてもらうため、学内に重点配分経費による研究プロジェクトの公募を設け、研究者の研究意欲の向上、新規研究の推進に力を注いでいます。

（意見）

- ・世界レベルの競争力と日本全国で活躍できるような人材を輩出できるように、やる気のある学生に対して十分答えられるような大学、ひいては研究・教育機関を作ってほしいと思います。それでも、自分は「小さな政府」のように大学ができるのはサポートまでで、個人の意識が大きいのだと思いますが・・・。（環境MC1男）

【回答】

研究戦略室では常に世界的レベルの競争力を意識して研究者の支援を行っています。

国 際 交 流 室

1 教育・授業に関すること

(意見)

- ・ 理系を対象にした文系科目（法律，経済）を増やして欲しい。交換留学の枠拡大。（農 MC 1 男）

[回答]

北海道大学で現在、交換留学可能な海外の大学等は、大学間協定大学で 14 カ国・1 地域に 33 大学・2 大学連合、学部間協定大学で 10 カ国・1 地域に 24 大学等があります。しかしながら、現在、これらの協定を利用して交換留学している学生は、年間わずか 30～40 名程度と非常に少ない数になっています。ご指摘のありました「交換留学の枠拡大」という趣旨が、協定大学の数や留学できる学生の人数を増加させることを意味しているのか、または、現在、協定校のない国の大学と交換留学の協定を締結してほしいという意味なのかどちらかはわかりませんが、前者の場合でしたら、国際交流室として学生の皆さんへの広報が不足していることを認識し、今後はさらに協定大学の存在や交換留学の可能性についてアピールしていきたいと思います。なお、後者の場合ですが、毎年、大学間協定大学を継続して増やす努力をしており、過去 5 年間では、24 の大学及び 2 大学連合と大学間協定を締結し、11 校と協定更新（手続き中も含む）を行いました。それにもかかわらず、留学希望の国の大学が交換留学の対象となっていない場合には、留学生交流室（留学生センター内）または、指導教員等を通してどこの国のどの大学に留学を希望するかをお知らせいただければ、ご希望の多い国や大学については、新たな協定大学として国際交流室として検討することは可能と考えております。

留学生交流室の連絡先は、Tel 011-706-2182, e-mail: ryugaku@academic.hokudai.ac.jp です。お気軽にご連絡ください。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

(意見)

- ・ 寮を増やしてほしい。また留学生用のものもつくってもっと留学生を増やしたほうがいいと思う。（農 1 男）

[回答]

(1) 留学生用宿舎の現状

現在、本学に在籍する留学生数は 852 名であり、その約 19% に当たる 160 名分の宿舎を本学は所有していますが、現状では宿舎への入居を希望しながら入居できない留学生が多数おり、特に単身用宿舎が不足している状況です。

(2) 留学生単身宿舎の整備

国際交流室では、現在、留学生用宿舎の整備を重要課題のひとつとして鋭意検討をしております。

当面の対応としては、平成 19 年度中に、90 室程度が新たに入居可能になるように整備する方向で準備を進めています。今後も、少しでも多くの留学生が良質で低廉な宿舎に居住できるよう努力をしてまいります。

10 その他

(意見)

- ・ 留学生との交流や、もっと積極的な関与ができるようにしてほしいと思います。意識を持っている人がいるだけにもったいないと思います。（情 MC 2 男）

[回答]

留学生との交流については、日本人学生の皆さんからご希望の多い事項だと理解しております。現在、留学生センターにおいて国際交流科目という英語で学べる授業を提供しており、その授業を通して留学生と交流している学生達もいます。また、留学生交流室（留学生センター内）では、毎年 4 月と 10 月に新しく来日する留学生を新千歳空港まで出迎えに行っていただく「出迎えボランティア」を募集し、この活動が留学生と日本人学生とが友情を育むきっかけになっていると考えています。さらに、毎月（8 月を除く）第 3 週の金曜日には、「インターナショナル・トーク」を開催し、様々な留学生の出身国の政治・経済・文化や習慣等についての話を聞くことができます。なお、学生の国際交流サークル“SACLA”が毎週金曜日に留学生センターロビーにて、“International Lunch”という行事を実施して

います。これは、文字通り、留学生と日本人学生がお昼を一緒に食べながら交流するというもので、誰でも参加することができます。この他にも「こんな交流がしたい」などのご希望をお持ちでしたら、留学生交流室（留学生センター内）あてにご連絡ください。留学生交流室の連絡先は、Tel 011-706-2182, e-mail: ryugaku@academic.hokudai.ac.jp です。お気軽にご連絡ください。

（意見）

- ・ 大学院の講義で興味がなくても単位数が必要なためにとっているものがあるので、必要単位数を減らしてほしい。修士の学生が論文を投稿できる機会を多くなるように、ガイダンスやその他の取り組みを行なってはどうかと思う。交換留学以外の留学のサポートもよりあればいいと思う。（農MC1男）

【回答】

ご指摘の件ですが、大学としては、交換留学だけではなく皆さんにいろいろな形で海外経験を積んでいただくことを推奨しているつもりです。もし、サポートが交換留学限定のように感じられるのであれば、国際交流室としての広報不足だと思います。留学相談などのサポートは現在、留学生交流室（留学生センター内）のスタッフを中心に行われており、人数や知識に限りがあるので充分とは言えないかもしれませんが、北大生協や他の留学関係機関とも連携をとり、可能な限りサポートできるよう努力しております。また、いくつかの学部・研究科には、「留学相談コンタクト・パーソン」と呼ばれる国際交流担当の教員がおり、留学の心構えやアカデミックな面で役に立つアドバイスを得たり、相談することができます。もちろん、その学部・研究科に属さない学生も事前にコンタクトをとれば、相談することは可能です。

その他、交換留学以外の情報としては、経済学部の留学経験者が中心になって作成した“Trans Japan”という冊子があります。この冊子は、学生達の留学体験記で、留学の動機、留学中の生活の様子、留学先での学習の様子等が詳しく記載されており、留学に対する具体的なイメージを膨らませるのにとても役立ちます。この冊子は、留学生センターでも配布していますし、留学生センターのHPからも読むことが可能です。

また、経済的な支援としては、北海道大学クラーク記念財団派遣奨学金があります。これは、2種類あり、1つは交換留学への支援ですが、もう一つは「全学教育における語学成績の優秀な者で、海外留学を希望する者」への支援を目的としています。

以上に紹介しましたサポートについて、また、海外ボランティア、インターンシップ、語学留学など交換留学以外で海外に留学を希望される方も是非、留学生交流室にお問い合わせください。留学生交流室の連絡先は、Tel 011-706-2182, e-mail: ryugaku@academic.hokudai.ac.jp です。お気軽にご連絡ください。

施設・環境計画室

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

（１）アスベスト対策について

本学における吹付けアスベスト等の状況については、平成18年2月10日付け施設・環境計画室長名通知「北海道大学における吹付けアスベスト及び含有アスベスト吹付け材の使用状況について」で、その調査結果を大学HP（http://www.hokudai.ac.jp/sisetu/gakunai/asub_esuto/asubesuto.html）上で報告したところです。

本学では、これまでも「アスベスト改修・維持管理基準」を設け、気中石綿濃度測定を定期的実施し異常の有無についての把握に努め、また改修工事等の機会には除去処理等の対応を行ってきましたが、キャンパス内での安全・安心を確保するため、速やかに除去等の対応をすべきとの観点から、平成17年度からより一層重点的に除去工事を進めています。

平成18年度末までには調査上で判明している露出の吹付けアスベスト等（含有率1%以上）の全量について、地方施設も含め処理等の工事が完了する予定です。なお、含有率0.1%については再度調査中です。

建物の構造上必要とされる耐火被覆材（囲込みの状況にあり、飛散の恐れはない）及び天井等で既に囲込みの処理が行われている部位については、当該建物の解体あるいは改修する際に、関係法令に則りアスベスト等の粉塵飛散防止対策をしっかりと行いながら除去することとしています。それまでの間、当該建物の壁ボード内や天井ボード内にはアスベストが残っていますが、通常の状態では飛散の恐れはない旨の表示を実施します。

なお、今後新たな対応が必要となったときには、速やかに対応していきます。

（２）水道について

札幌市は豊富な地下水源に恵まれ、市内のホテルや事業所で地下水を利用しています。札幌キャンパスでも年間総使用水量115万tの内95万tは地下水から供給されています。

井戸水は概ね地下100mの井戸からくみ上げたもので水質は安定しており、給水に当たっては、飲用・雑用ともに適切に塩素殺菌を実施しています。

地下水はカルシウム・マグネシウムを比較的多く含むため、電気ポットやヤカンの内部に蒸発残留物が現れますが、水道法等の法律に基づき定期的実施している水質検査では水質基準に適合した水です。しかし、胃腸の弱い方、気になる方は飲用を控えていただくようお願いします。

札幌市水は年間約20万t使用しており、内訳は病院：11.7万t、その他の部局等は合計で8.3万tとなっています。なお、事務職員だけ札幌市水を使用していることはありません。仮に年間95万tの地下水を札幌市水として購入すると3.7億円／年の経費が掛かる計算になり、膨大な経費が地下水使用により節減されていることもご理解下さい。

地下水については、これからも安全な水質の確保に努めてまいりますので、色・臭い・サビ等の変化に気づいた方はお知らせ下さい。

（３）カラス対策について

カラスに限らずむやみに鳥獣を捕獲することは、鳥獣保護法（鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律）により禁じられており、駆除目的のカラス捕獲はできません。カラスを増やさない、呼び込まないようにする対策としては、適切なごみ処理が重要です。また、カラスとうまくつきあう行動をとることも重要と考えています。

カラスがうるさいのは子育ての時期で、危険な場合は「カラス注意」等の表示をしますので、少し遠回りとなることもありますが注意しながら通行して下さい。ジンギスカン等の生ごみを放置する行為やエサやりは、人からエサをもらえるとカラスに学習させることになり、非常に不適切な行為ですので止めましょう。また、見かけた方も注意しましょう。アパート・マンション等身のまわりのごみも適切に扱わないとカラスが増える原因になります。ごみを分別し適正なごみ出し（曜日・時間・場所・方法）に心がけてください。

北大構内は豊かな自然に恵まれているため、毎年多くの野鳥が見られます。大野池・モデルバーンの池及びサクシュコトニ川には多くのカモが群れ、また、学内いたるところにカラスを見かけます。鳥だけではなく、多種の野生動物も見られ、それだけ北大構内が豊かな自然に恵まれている証拠でもあります。この豊かな自然に魅力を感じて北大を受験した人がたくさんいます。これからもこの豊かな自然を保全するための活動を継続していきますので、皆様のご協力をお願いします。なお、カラス等鳥獣の死骸を発見した場合は、直接手で触れないようにして、日時場所等の情報を最寄りの事務係または警備員等にお知らせ下さい。

(4) ごみ取扱いの現状について

現在、循環型社会を目指して、ごみの減量やリサイクル等の環境負荷低減が社会的な責務となっていることから、本学でもその対策に積極的に取り組んでおり、環境に対する教育研究・社会貢献・環境負荷の低減対策をまとめた「北海道大学2005年度環境報告書」を作成し、平成18年9月27日に公表しました。ごみ削減対策として、6月に「ゴミ分別マニュアル」を作成、各部局等に5000部配布しました。このマニュアルを利用し、多種多様な廃棄物の分別方法や処分方法を各自が理解することは、廃棄する側と処分する側双方にとって、効率的なごみ縮減となります。

廃棄物処理法では、廃棄物を一般廃棄物と産業廃棄物に区分しています。北大で発生するごみは、一般廃棄物のうちの「事業系ごみ」であり、「家庭ごみ」ではありません。

このことから、事業者として廃棄物の発生抑制・再使用・再利用を行うなど、適正に処理しなければならないことになっています。

一般廃棄物は、そのまま焼却される「一般ごみ」と、固形燃料を作る材料として使用される「資源化ごみ」、リサイクルできる「ビン・缶・ペットボトル」に分けられ、事業系のごみの排出については有料（年間処理経費約5,000万円）となっており、料金はそれぞれのゴミの種類により決まっています。なお、産業廃棄物とは事業活動に伴って発生した廃棄物のうち、廃プラスチック類等法律で定められた20種類のものをいい、構内でも廃プラスチック類・金属・ガラス等の処分に多くの経費（年間処理経費約4,300万円）が掛かっています。

本学のごみの中には、紙類（コピー用紙、新聞紙、雑誌等）が40%近く混入しており、この紙を分別して、古紙として回収業者に処分をお願いすると無料になります。また、一般ごみに資源化ごみがかかり混在していることから、ごみの分別を徹底すれば、処分経費の削減になります。ごみの適正な分別は、排出量の削減と経費の削減になる重要な取り組みです。学生・職員一体となった環境配慮活動により地球環境に優しいエコキャンパスとなるよう、皆様のご理解とご協力をお願いします。

(5) 喫煙対策について

平成15年5月1日に国民保健の向上を図ることを目的とした健康増進法が施行されていることもあり、平成17年7月1日付け首席総括安全衛生管理者名通知で「受動喫煙の防止について（依頼）」を改めて各部局等の長に発しています。

現在、喫煙対策にあつては、分煙等の受動喫煙による健康への悪影響を排除する取り組みが積極的に行われていますが、学内全面禁煙等の要望については、しかるべき学内での議論を得なければならないことをご理解下さい。

いずれにしても喫煙者のマナーが重く問われている事変わりありません。歩行中や自転車に乗りながらの喫煙、吸い殻のポイ捨て等は厳にあってはなりません。気持ちの良いすがすがしいキャンパスとは……。皆さんと共に今一度考えてみる必要がありそうです。

(6) 教室等の温度設定について

教室等の室温設定について様々な意見がありました。勉学の間として暑過ぎず寒過ぎずの良好な教育・研究環境を求めるのは当然のことです。

しかし、最近では、世界規模で対策を求められている温室効果ガス削減をはじめとする地球温暖化問題への対応も必要になっていること、また、燃料価格の高騰が前年度比約20%の著しい上昇となっていることから、より一層エネル

ギー使用の削減に取り組まなければなりません。本学としては室温設定を冬季においては20℃、夏季においては28℃を目標にしているので、学生の皆さんもご理解とご協力をお願いします。

（７）建物間の格差是正等について

現在、北海道大学では教育研究施設を中心として、延床面積で約83.3万㎡保有しています。その内の約9割近い72万㎡が札幌キャンパスにあります。各施設は時代や用途に合わせ、姿・形を変えながら現在に至っており、築後25年以上の建物は約43万㎡程あります。このうち、耐震補強も含めて改修工事が済んでいるのは約15万㎡程度でしかありません。このことから、ご指摘のとおり部局間や新・旧建物間において建物設備を含めての格差があることは否めません。

本学としては、これまでも教育研究の環境向上には、施設の整備も最重要課題の一つであるとの認識から、教育研究施設の高度化を図ってきましたが、施設の狭隘化解消のためや卓越した研究拠点の施設の新営工事に重点が置かれてきました。結果として多くの教育研究施設を始め、福利厚生施設等既存施設の改善整備もなかなか進まずに老朽施設のストックが増えてしまっていることは事実です。

国立大学等の施設整備はほとんどが国費（補助金）による事業ですが、近年、公共事業費の削減と共に国立大学等の施設整備費も減少しています。ちなみに平成18年度の当初予算では平成15年度ベースの半額でしかありません。大変厳しい状況にありますが、平成18年度からの「第二次国立大学等施設緊急五カ年計画」では、施設の老朽解消を重点的に行う方針が示されておりますので、これまで以上に老朽施設の解消を図るとともに、格差是正に努めていきます。

今後の施設整備事業では、スペースの有効活用を図りながら学生研究室の拡充・自習室の確保・女性トイレの増設等の充実に努めると共に、大学の志として若手・女性・外国人の各研究者が活躍できる教育研究環境の形成に資することのできる施設整備を進めたいと考えています。

あらゆる部分での格差是正は一時には出来ません。今暫くの時間がかかるものと思いますが着実に進めていかなければならないと考えています。整備を進める中で、施設内外のバリアフリー化も図っていきます。なお、土地の賃貸を行い、その収入で施設整備の充実にとのご意見もありましたが、国立大学は国立大学法人法(第22条第1項)により業務が定められていることから、現在は、大学の業務の範囲を超えて経営に充てるための収益を目的とした土地や建物の貸付が認められていないことをご理解願います。

（８）キャンパスへのアクセス・構内道路の整備等について

桑園地域からのアクセス整備と北キャンパスへのアクセス整備については、現在、施設・環境計画室でキャンパス・マスタープラン検討部会を設け、「キャンパス・マスタープラン2006（仮称）」の検討が行われています。同部会には様々な問題を検討するサブWGが設けられ、その一つの構内交通計画サブWGがキャンパスへのアクセスの在り方はもちろんのこと、車輛・自転車そして歩行者の構内交通の在り方について、検討しているところです。利便性の良いアクセス整備と構内道路の安全・安心へ向けての整備は一日も早い実現が望まれますが、その事業費用は膨大な金額になり、その実現には相当の期間が必要になるものと思われますが、緊急性を要する事業から整備を着実に進めていきたいと考えています。なお、検討の過程でありながらも、東側斜め道路北20条での北キャンパスへのアクセス用としての土地を購入する等、より良いキャンパス環境の実現に取り組んでいるところです。

また、冬期間の構内外の移動等の快適さを求める提案として、ロードヒーティングの設置・アーケードの設置・地下道の設置あるいは地下鉄駅等からの連結路整備等の意見が寄せられています。現況の中では経費の確保等々において早期の実現はなかなか難しいものと思いますが、ロードヒーティング等は建物の玄関先でその有効性が生かされるものですので、今後の計画の中では採用できる範囲で取り入れて行きたいと思っています。

いろいろな施設計画の中で、隣り合う建物間ではありますが、渡り廊下などで利便性を確保することは今後も続けます。さらに、歩道については、除雪の徹底や滑り止め材の散布等で、少しでも冬期間のキャンパスライフが快適になるよう今後も努力していきます。

（９）キャンパスの屋外環境等について

屋外環境の在り方について、多くのご意見が寄せられていますので、キャンパスにおける屋外環境等についての現状や今後の展望等について報告いたします。

ー今ある自然環境を大切にしたいー

本学では従前から緑化等を検討する委員会があり、法人化後も施設・環境計画室に引き続く形でエコキャンパスWGが設置されています。また、キャンパス・マスタープラン検討部会に生態環境サブWGも置かれており、連携しながら諸問題解決のための検討・協議を行っています。

平成18年度には、構内の緑地管理のための目的区分別一覧と区分別の樹木管理方法が制定されましたし、おおらかな伝統の中にも秩序ある緑地の管理を目指してレクリエーションエリアが制定され、大学キャンパスとして実にユニークな憩い空間を作り出しています。多くの人に喜んでいただいているのではないのでしょうか。

構内には大学のシンボルとも言えるエルムや並木に代表されるポプラや銀杏の大き木が数多くあります。長い風雪に耐えてきたこれらの木々は、当たり前のように時間や自然に逆らうことが出来ずに腐朽したり倒木したりしますが、このような木々をも大切にしたいとの様々な意見が寄せられています。

平成16年9月の台風18号による樹木の風倒害は記憶に新しいところですが、中でもポプラ並木の倒木や断幹は心痛むものでした。被害直後より学内外の再生を願う多くの声を受けて、2本のみ立て直しを行い、残りはクローン苗木による若木を補植する「ポプラ並木の再生」事業を実施し平成17年6月に終了しました。再生には違和感を覚え、独善性を感じるという意見もありましたが、これこそが本学の掲げるフロンティア精神を発現した大学の意志であったことをご理解下さい。立て直した2本のポプラの幹のあちこちから新しい芽吹きもあり、若木も順調に生育しています。昨年から並木入り口から100mほど中へはいることが出来、花木園の散策路と有機的に繋がっています。一度訪ねてみては如何ですか。青空へ向かって凜と立つ、昔と変わらないポプラ並木を想像してみるのも楽しいのではないのでしょうか。

広大なキャンパスにはまだ暗い所もあり、外灯の設置を望む意見があります。必要なところは新規に設置することを視野に入れながらも、樹木の枝等の陰になっていないかななどの点検も行いながら、今後もキャンパスに求められる安全・安心と快適な緑地環境を守り育てることに、皆様一人一人のご意見を参考にしながら進めていきます。

ー伝統的・文化的建物の活用についてー

現在、札幌キャンパスにはモデルバーンに代表される重要文化財建物が多数あります。また、登録有形文化財に指定されている建物は、旧昆虫学教室（現交流プラザエルムの森）・旧農学部図書館・古河講堂等があります。これらが現在、公に指定されている文化財建物です。どの施設も文化財でありながら、一般公開されたり、大学のインフォメーション施設や教育研究施設として有効に活用されています。また、文化財施設ではありませんが農学部本館や理学部本館等、昭和の初期に建てられた建物は本学の歴史的建造物として、今後とも維持保全を行いながら有効に活用していくこととなっています。

農学部本館は現在改修工事中です。歴史的オリジナルをメリハリのある保存・再生・改修を実施する中で、将来にわたって教育研究への最適サポートと位置付けられる施設整備を実施しています。理学部本館はご承知のとおり、その一部を総合博物館として活用しています。今後もまだまだその規模を拡大していく予定となっています。博物館を持つ国立大学の中で入場者がダントツに多い総合博物館であることをご存じでしょうか？伝統的・文化的建物の有効活用の優等生なのです。

その他にも施設・環境計画室に置かれている「歴史的建造物を適切に保存するための検討会」が選出した歴史的建物は事務局庁舎（旧館）・南門守衛所・クラーク会館等があります。維持・保全のための経費確保等難問が山積していますが、大学のみならず札幌市民全体の貴重な資産であるとの認識で、今後も維持・保全を図っていくところです。

ーキャンパス景観の調和についてー

キャンパスの景観についてのご意見が寄せられています。自然と一体化した北大の景観を今後も維持してほしい。美しく広いキャンパスは北大の宝なので大事にしたい。多くは札幌キャンパスの魅力を讃え、この素晴らしさを後世に残していきたいという思いを伝えるものです。豊かに残る古からの自然環境は、本学の悠久の歴史を証明するもので

あり、未来人への誇るべき贈り物とならなければならないでしょう。

施設・環境計画室では現在、キャンパス・マスタープラン検討部会で「キャンパス・マスタープラン2006」（仮称）の検討を行っています。大学の掲げるアカデミックプランの実現にキャンパスはどうあるべきか！との検討事項には、固有のランドスケープの継承と保全、歴史的キャンパス構成の継承と展開、都市の中の都市としてのキャンパス、エコキャンパスの創出、交通動線計画、キャンパス空間の構成計画、デザインガイドラインの策定、等々と本件設問に関連する検討が数多くされています。それぞれの検討の基本には、誰もが大切だと思うキャンパスの骨格がきちんと継承される事が、前提になっていることに違いはありません。一方で、景観の重要な構成要素である建物のデザイン等が調和に欠けるとの意見も寄せられています。現状の中では、施設の新営や改修工事の際にはエリア毎での調和を図るよう努めているところです。

北13条以南のエリアは農学部・理学部を中心としたクラシカルでアースカラーが主体であり、薬学部や環境科学院の改修ではその意図が明確に表現されたものとなっています。工学部・病院を含む医系・高機能センター・北キャンパス等々それぞれのエリアが今後もそれぞれの顔を持った群としての調和を保ちつつも、機能を満たすための独自の顔を持った施設が、将来的には建設される事にもご理解下さい。自然景観との関わりでは、中央道路、北13条通りでは従前から道路中心線から25m後退した壁面後退線が決められ、施設の建設が可能な土地が在っても建設は厳に規制されている事をご承知下さい。

札幌キャンパスは約178万㎡の敷地に約21,500人の学生・教職員等がいます。これはもう立派な一つの都市と言っても良いでしょう。都市であるからには観光客にも自然な形でキャンパスの中にいてほしい。そんな視点でキャンパスを眺めてみるのも一興かと思えます。

6 車両（自動車、自転車、交通規制等）に関する事

（1）自動車通学・車両の入構について

本学構内の交通環境の在り方については、自動車の入構規制の強化あるいは緩和、新たな入構門の設置や動線の整備等様々な意見・要望があることは、従前から承知しています。本学の自動車の取扱いについては、札幌キャンパス構内における騒音、振動等の防止と歩行者等の安全を確保することにより、構内を教育研究の場にふさわしい環境とすること、また、自動車の駐車可能スペースに限りがあるため、昭和54年から構内交通規制を実施しています。

このような理由から、学生については、障害があり自動車を使用しなければ通学することが困難な者及び特別な事情があると認められた者のみが自動車による通学を認められており、また、研究が深夜に及ぶ場合や、フィールドワーク等で研究機器等の運搬に自動車が必要な場合等については、臨時での入構を認めることとしています。また、学生のオートバイ利用については、自動車と異なり騒音が大きいこと、安全面での影響を払拭できないことから、乗入れを原則認めていません。これは、職員及び学生等にとって、安全で安心して教育研究に専念できる環境の提供の観点から、きわめて適切な措置であると思えます。しかし、最近では増え続ける自転車による事故やトラブルも想定されることから、今後は自転車も含めた構内の安全対策を推進し、駐輪場の整備にも取り組む必要があると考えています。

なお、現在策定中のキャンパス・マスタープラン2006（仮称）においては、より一層学生の皆さんのキャンパスライフの利便性の向上が図られるよう、周辺地域とのアクセスに配慮した入構門の設置、構内動線の見直しによる駐車場の整備等について検討を行っているところです。

（2）構内循環バスについて

構内循環バスは平成16年10月1日より年末年始・休祭日を除く毎日運行されています。運行は9:30～18:30の間30分毎に事務局前から出発して、北キャンパス総合研究棟3号館（創成科学研究機構リエゾン部）で折り返して事務局に戻ってくる構内循環便です。

循環バスの運行について様々な意見をいただいたので、主な意見についてお答えします。

①運行目的について：

構内循環バスは、北キャンパスの活性化により教育研究活動施設が増えたこと、また、組織改編等による教育研究の伸展に伴い多くの教職員や大学院生等が広い構内を教育研究等のため移動する機会が増えたため、移動支援として運行しています。小型バス(29人乗り)のため限られた人数しか利用できませんが、ケガや体調の悪い場合等は、学生も利用することができます。また、夏休み等利用者が少ない場合は、まれに観光客の方が乗車する場合もあります。

しかし、制限なく約2万人の教職員・学生が通勤・通学、学内移動に利用可能なバスを運行することは不可能です。荷物を持った方・ハンディキャップのある方・体調の悪い方等が乗れないことにならないよう、ご理解とご協力をお願いします。

②時間延長・増便について：

現在運行しているバスは北海道ガスから借用しているもので、天然ガスを燃料としており、排ガスがクリーンで環境に優しい自動車です。しかし、天然ガスは毎日補給する必要があるため、ガスステーションの営業時間等の関係から現在の運行時間を確保するのがぎりぎりの状況です。また、15分間隔の運転にするためには、新たなバスの購入費(620万円)及び運転要員を確保するための経費・燃料費(500万円)が必要なため、実現は難しい状況にあります。今後検討したいと思います。

③サークル会館方面への運行について：

工学部からサークル会館へ至る道路は道幅も狭く、歩車道も分離されていないため、歩行者・自転車・乗用車が混在して通行しているのが現状です。北大の構内は全て埋蔵文化財包蔵地の指定となっていること及び自然環境を保全する観点から車道の大幅な拡幅工事でも難しく、安全を確保するのが困難なルートであること、また、往復に時間を要するため30分間隔の運行もできなくなることから、経路に追加するのは現状では困難です。

④バス停・時刻表について：

現在、バスの乗降位置は車道アスファルト上にペイントで停止線と「バス」という文字を表示しており、固定式の停留所標識は設置していません。乗降位置は除雪した道路脇の雪山の影響で、夏と冬では微妙に位置を変えて乗降者の安全を確保するよう運用しているためです。

今後、除雪の支障とならずわかりやすい表示方法を検討すると共に、時刻表についても可能な限り要所に表示します。

⑤安全運行について：

バスの運行に当たっては、構内の制限速度を遵守して安全運行に努めていますが、乗車する方も危険物を持ち込まない、立ち乗りをしない等の乗車ルールを守ってください。また、道路を走行する自転車の皆さんも、交通ルールを守って循環バスの安全・定時の運行に協力して下さい。特に積雪期は危険なので、自転車に乗るのはやめましょう。

⑥循環バスの情報について：

乗車のためのQ&A・時刻表・バス停留所位置図等については、大学のHP

(<http://www.hokudai.ac.jp/sisetu/gakunai/bus/bus-index.html>,

<http://www.hokudai.ac.jp/bureau/gakumu/gakusei/kisoku.html>) をご覧下さい。

限られた大学運営経費を有効に使い、学内の教育・研究業務の支援として、安全で便利な循環バスの運行に努めてまいりますので、これからも皆様のご理解とご協力をお願いします。また、駐車スペースの拡張及び整備等については、多大な資金が必要になることから、自動車利用者による経費等の負担について、その導入の可能性について検討を進めているところです。

評 価 室

1 教育・授業に関すること

(意見)

- ・ 授業評価をするのは良いことだと思うが、最初から評価をあきらめている先生や楽な先生の評価が高いことがある。まじめにアンケートを書いていない人が統計に反映されるなど問題があり、目的や評価の高い先生の講習会などを行うべきではないか。

(歯5男)

[回答]

- ①「最初から評価をあきらめている先生」というのは、授業アンケートを実施していない教員という意味でしょうか。現在の授業アンケートは、教員が自分の授業を改善するための方法として任意参加になっていますので、授業アンケートを実施しない教員が3割程度いることは事実です。しかし、これらの教員は授業改善の努力をしていない、ということには直接つながりません。授業改善の方法は様々あるからです。
- ②「楽な先生」というのが、成績評価が甘い、という意味であれば、現在のアンケートは、学生の匿名性を確保しており、成績評価分布との対応が取れませんので、分析できません。しかし、成績評価の厳密性を高めることは本学の重要な教育方針となっています。なお、昨年度、試行的に、記名式で成績と対応づけたアンケート調査を実施しましたが、記名式・無記名式とで評価結果に差異は見られませんでした。
- ③「まじめにアンケートを書いていない人が統計に反映されるなど問題があり」ということも、データ分析上、すべてのアンケート提出者を同等に扱っていますので、もし残念なことに、「まじめにアンケートを書いていない人」がいる場合、それを区別することはできません。ぜひ、まじめにアンケートに答えていただきたいと思います。
- ④「評価の高い先生の講習会などを行うべきではないか」という点については、今後のFD（ファカルティ・ディベロップメント：教員への講習会）などでの機会があると予想しています。なお、昨年から、評価の高い（文系・理系毎に、アンケート提出者数別に3つのクラスサイズに分け、それぞれにおいて総得点が10位までとなる）教員の授業の工夫などを公開しています。これは学生だけではなく、教員にとっても授業を改善するための参考になっています。
- ⑤ 最後に、授業アンケートについて、学生諸氏にも、その目的と意義をあらためて考えるよう、お願いします。授業アンケートは本来、授業内容を改善するためにおこなわれるものであり、アンケートを実施した教員には、自由意見も含めて、すべてフィードバックされています。アンケートに協力した学生諸氏にとっては、すでに終わった授業ですが、そのアンケート内容は担当教員にとって今後の授業改善のための貴重な資料になります。アンケートによって授業が改善されるならば、それは学生・教員双方にとって望ましいことであり、北大にとって望ましい好循環が生じます。もし、授業アンケートがおろそかになれば、望ましくない悪循環が生じてしまいます。記名式・無記名式を問わず、よりよい教育環境を実現するため授業アンケートへの協力をお願いします。

総 務 部

10 その他

〔意見〕

- ・ このところ、学祭などで学生に対する締め付け（たとえば、飲酒の禁止）は厳しくなっているが、セクハラなど、学生よりもずっと悪質な不祥事を起こしている教員に対する処分は、軽微であるように思えて仕方がない。教員の処分については、もう少し説明があってもよく、被害者である学生側にも監査権限を与えてもよいのではないかと思う。（法DC3男）

〔回答〕

セクハラなど、悪質な不祥事を起こしている教員に対する懲戒（処分）は、セクハラ防止等対策室等において詳細な調査を行った上で、教育研究評議会等において十分な審議を経て行っておりますので、不祥事の内容と釣り合わない軽微な懲戒（処分）は行っておりません。

一般的に懲戒（処分）は、企業が企業秩序に違反した労働者に対して課する一種の制裁罰と解されています。法人化以降は労働基準法が適用されている本学においても同様で、懲戒は大学が就業規則に基づいて行なうものです。このため、学生側に監査権限を与えられるものではありませんので、ご理解いただきたいと思います。

〔意見〕

- ・ セクシュアル・ハラスメントについては様々な対策がなされているのは知っているが、実際に身近でセクハラに値することがあっても自分たちの今後の研究や無事卒業することを考えて我慢してしまうというのが現状だ。現在所属する講座でも教授のそのような行為に嫌悪感を抱く学生は多かったのだが、みんなで話し合い考えた結果、相談員の先生に相談するのは思いとどまった。自分の身近でこのような問題がおきて、様々な対策機関があっても口で言うほど簡単には利用できないものだと思感した。このような事実があることを考慮に入れて今後の対策もしていただければありがたいと思う。（水MC2女）

〔回答〕

本学はセクシュアル・ハラスメントの発生防止及び対策に責任を持って取り組み、セクシュアル・ハラスメントのない快適な修学環境を提供し続けることを目指しています。今後の研究や卒業を心配して我慢してしまう気持ちはお察ししますが、大学として責任を持って修学上のケアも行いますので、被害を受けたときには、自分（達）で悩んだりせず、早めにセクシュアル・ハラスメント相談員にご相談ください。

財 務 部

3 経済問題（授業料、奨学金等）に関すること

（意見）

- ・ 歳入、歳出の明瞭化。素人に分かる程度に。（理DC 4男）

【回答】

本学の決算情報は、ホームページにおいて国立大学法人法で公表を義務づけられている財務諸表の中に「決算報告書」という現金の出入りをベースとした決算書を掲載しておりますので、参考として下さい。

（意見）

- ・ 支払いの銀行が北海道の銀行にしかない日本全国から学生が集まる大学としてありえません。支払いが不便です。もっと有名な銀行にしてください。都市銀行をせめて入れてください。（農MC 2男）

【回答】

法人化後の授業料の支払いについては、口座からの自動引き落としと振込用紙を利用した支払いの2種類がありますが、どちらも全国の郵便局・銀行・信用金庫・農協等ほとんどの金融機関で利用・支払いが可能です。

附 属 図 書 館

「学生生活実態調査」に学生諸君から寄せられた要望事項のうち、附属図書館に関するものを読ませていただきました。図書館サービスの改善や蔵書の充実などについて、多くの意見が寄せられており、図書館に対する学生諸君の関心の強さを改めて感じています。以下ではそれらの意見を9点に整理したうえ、附属図書館の本館と北分館に関することがらに限って述べることにします。

4 図書館に関すること

(1) 図書館の開館時間の延長、北方資料室を土曜、日曜、祝日も開室してほしいとの要望

開館時間については、これまで改善を重ねてきており、現在は8月と3月の休業期間中を除き本館、北分館ともに平日は午前9時から午後10時まで、土曜、日曜、祝日は午前9時30分から午後7時まで開館しています。要望の中には24時間開館を望む声がありましたが、施設設備の改修やセキュリティ機器の設置などで問題もあり、それらの予算措置など学内での合意が必要となり当分の間は難しいと考えております。

また、北方資料室の土曜、日曜の開室についての希望も寄せられておりました。北方資料室では、古文書、古地図、本学の沿革資料など特別な蔵書を利用に供していますので、開架閲覧室、書庫とは異なり、土曜、日曜、祝日には閉室しております。

本館・北分館の休館日は年末年始、大学入試センター試験日、例年8月の全学停電日の年間11日のみで、学生諸君の利用に備えていますので、土曜、日曜、祝日及び夜間にも大いに利用してください。

(2) 学部学生の書庫への入庫、書庫の利用時間の拡大についての要望

学部生の書庫の利用については、鉄骨・積層6層作りという書庫の構造上の問題や書庫に配架の図書・雑誌などの管理面から学部生の利用の制限をしておりますが、これまでも卒業論文作成中の学生については教員からの依頼があった場合は利用を許可しております。卒業論文作成以外で頻繁に書庫の利用が必要な場合はカウンターの係員にご相談いただきたいと思います。また、書庫の利用時間は、平日は午前9時から午後7時まで、土曜、日曜、祝日は午前9時30分から午後6時までですが、平日の午後8時まで1時間の延長を検討いたします。

(3) 貸出冊数の増加、貸出期限の延長を拡大、図書の返却をどの図書館でも可能にしてほしいとの要望

開架図書及び書庫の図書については各5冊、貸出期間15日間で貸し出ししておりますが、貸出冊数、貸出期限については、限りある図書をより多くの学生諸君に利用いただけるよう条件を設定し利用いただいているものです。なお、貸出期間の延長については他の方からの予約が無い場合に限り1回15日間の延長を認めておりますのでご利用ください。

また、平成18年4月から本館と北分館で借りた図書はどちらの図書館へも返却できるようになりましたのでどうぞご利用ください。

(4) 図書館蔵書の充実(本館と北分館の蔵書を同じに、最新版の本が少なく図書、専門雑誌、文庫が古い、海洋関係図書、ジェンダー関係図書の充実、国家試験対策図書を毎年入れてほしいなど)についての要望

図書館は学生の学習・研究に必要な図書、雑誌、視聴覚資料などを充実するために、シラバスに掲載された図書を本館・北分館に各1部ずつ揃え、また、各部局の先生方に専門的立場から学生用図書の選定を依頼し、蔵書の充実に努めています。図書館に必要な図書等がない時には、ぜひ図書リクエスト制度を使って申し込んでください。図書リクエストは、附属図書館ホームページの「オンライン申込(学内)」→「図書リクエスト」から申込みが行えます。平成17年度には537冊の図書がこの図書リクエスト制度により学生希望図書として購入されておりますので有効にご利用ください。

文庫・新書については最近新たに発行されるものが増えておりますが、本館と北分館ではその内から34種の文庫・新書を選び、発行される都度購入しております。なお、国家試験対策図書については個人で揃えるものと考え現在図書館では購入対象としておりません。

(5) 研究室所蔵の図書を利用しやすく、研究室にある図書の所在がはっきりしないことがあり苦労している、検索した図書が所蔵場所にないので管理体制を強化、電子ジャーナルで入手できない文献は所蔵している研究室出向かなければ入手できないため効率が悪いので図書館に集中してほしい、など研究室所蔵図書についての要望

北大全体では約360万冊の図書を所蔵しており、その内約85万冊が教員の研究室所蔵になっています。研究用に購入された図書の多くは教員の研究室に配置されています。部局を越えた利用に応えられるよう、図書館からも全学で利用できるよう研究者に働きかけています。

図書館では、昭和60年に電算化を開始し、以後に受入れた図書については目録データベースで検索することが可能となっています。また、これ以前の蔵書についても遡って目録データの作成を進めておりますが、現在まだ約60万冊の図書がデータベース化されていません。また、これらの目録データベースに登録されている図書について、全学での図書、雑誌の所在確認調査について計画を策定し、確認作業を開始しました。誤った所在については修正してゆきます。また、文献複写のため所蔵部局まで出向くのは非効率のため図書館へ集中してほしいとの要望については、出向かなくとも入手できるような学内文献複写システムを検討していますのでもしばらくご不便をおかけしますがよろしくお願いします。図書を図書館に集中配架することについては書庫が満杯のため難しいです。

(6) 文献複写のWebからの申込み及び研究室までの配送についての要望

図書館へ来なくても文献複写などを図書館のホームページから申し込むことは可能です。ただし、ID、パスワード、連絡先などを設定するために一度図書館へお越しいただいております。また、文献の受け取りについては、原則として図書館4階カウンターでの受け取りをお願いしておりますが、研究室自体が所属の学部内にない場合など、特別な事情がある方は図書館4階の相互利用係にご相談ください。

(7) 学生証を使わずに入館できると便利、図書館の使い方がわかりにくいなど図書館への入館、利用についての要望

図書館利用者の確認を機械的に行うために学生証をゲートに通していただいております。ご面倒をお掛けしていると思いますが趣旨をご理解いただきご協力よろしくお願いします。また、図書館の使い方でも分りにくいことがありましたら遠慮なく係員にご相談いただければ、ご説明させていただきます。

なお、図書館の利用についてのガイダンスも行っております。図書館のホームページ、掲示などでご案内しますので、是非ご参加ください。

(8) 図書館の施設・設備についての要望

冷・暖房設備の整備、座席の増設、個人ブースの設置、自習室の拡大、書庫は天井が低く階段しかないため障害者は困難を感じるなど図書館の施設・設備に関する要望が多く寄せられました。現図書館は昭和40年竣工の建物で当時の建築基準で建てられていますが、耐震調査によると耐震強度が低く耐震補強が必要な施設と診断されました。耐震補強工事を含めた図書館全体の改修工事が必要な状況ですが補強・改修工事がいつになるかは決まっておりません。図書館の改修を行える機会には、座席の増設等できるものを取り入れて行きたいと考えております。

(9) 電子ジャーナルからの文献入手において、古い年代の文献も入手できるようになってほしい、データベースのさらなる充実についての要望

電子ジャーナルのバックナンバーについて、これまでできるだけの充実を図っており、現在、Nature、エルゼビア社、

シュプリンガー社、オックスフォード大学出版局などのバックナンバーが利用可能です。また、EBSCO ASE, Proudest A RL, JSTORといったサービスからも古い年代の電子ジャーナルが利用することができます。

図書館のホームページから利用できるデータベースは雑誌記事索引やWeb of science 等の全分野、医学中央雑誌やPlumbed 等の生命科学分野、現行法規や判例大系等の法学・法律分野、Eolith や PsycINFO 等の人文社会科学分野、新聞、学位論文、辞書・事典類、出版・書誌情報など全部で58点のデータベースが利用できます。また、平成18年度には人文社会系等のデータベースを新たに追加し、利用できるデータベースは年々充実しております。学習、研究に大いにご活用ください。

文 学 部 ・ 文 学 研 究 科

【 学 部 】

1 教育・授業に関すること

文学部の教育・授業に関しては、数多くの要望が寄せられましたが、文学部では、16年度にカリキュラムを改定して、それを改善するとともに、今後も不十分な点に関しては、その補完を図っていきたいと考えています。

以下、個々の要望に即して、その具体的な対応を掲げることとします。

まず、1年次から専門教育を受けたいという要望に関しては、18年度より1年次学生を対象とした文系基礎科目「人文科学の基礎」「社会科学の基礎」を新設しています。同科目は、全学教育内で実施されますが、従来の教養科目とは一線を画すもので、専門教育への橋渡しを目指した授業です。この授業の検証も含めて、改善を検討していきたいと考えています。

また、教職免許や学芸員の資格に関する意見もありましたが、特に教職免許の修得方法は複雑かつ不明瞭で、18年度より「教職免許状の取り方」という冊子を作成して学生に配布しています。今後も改善に努めることとします。

一方、教員の教育方法を改善してほしいという要望も少なくありませんでした。それについては、教員の授業の質向上を目指して、従来から行われてきた全学のファカルティ・ディベロップメント (FD) 研修会への参加に加えて、18年度より文学部独自でファカルティ・ディベロップメント研修会を開催しています。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

文学部の施設・整備についても、パソコンの充実や暖房設備の改善など、いくつかの要望がありました。文学部では、15年4月の人文・社会科学総合教育研究棟の完成によって、教室不足など、深刻な問題のいくつかは解決できましたが、まだ不十分な点も残されています。それらに関しては、近年中に予定されている大型改修工事の実施状況をも勘案しながら、それを含めた施設整備計画の中で、検討を重ねるとともに、できるだけ要望を実現していきたいと考えています。また、施設・整備に関する要望をも含めた学生・大学院生の意見を広く聴取するために、18年度より投書箱（「学生の声」）を設置したことを付言しておきます。

10 その他

その他、教職員の対応などについても、要望を踏まえつつ、今後改善に努めることとします。

【 大学院 】

1 教育・授業に関すること

文学研究科の教育・授業に関しては、数多くの要望が寄せられましたが、文学研究科では、17年度にカリキュラムを一部改定するとともに、今後も不十分な点に関しては、その補完を図っていきたいと考えています。

以下、個々の要望に即して、その具体的な対応を掲げることとします。

まず、教員の教育・指導方法を改善してほしいという要望が多数寄せられました。それについては、教員の授業の質向上を目指して、従来から行われてきた全学のファカルティ・ディベロップメント (FD) 研修会への参加に加えて、18年度より文学部独自でファカルティ・ディベロップメント研修会を開催しています。その中で、たとえば、発表形式・実践形式授業の増加などに関しても、具体的に検討していきたいと考えています。

一方、教員個人の指導内容・方法については、教員には、さまざまな機会を設けて、たとえば、決してハラスメントなどないよう、注意を喚起していきます。それと同時に、論文指導の重要性・必要性などを説き、その徹底を図りたいと考えています。

また、教職免許（専修免許）に関して、そのカリキュラムや指導方法に関する意見もありましたが、特に教職免許の修得方法は複雑かつ不明瞭で、18年度より「教職免許状の取り方」という冊子を作成して学生に配布しています。今後も改善に努めることとします。

さらに、集中講義の充実については、予算削減の中、逆に削減せざるをえない状況にあります。しかしながら、その重要性は認識していますので、少しでも充実できるような道を摸索していきたいと考えています。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

文学研究科の施設・整備についても、研究室の拡充、個人用機の確保、ロッカーの整備、ホーム・ページの充実、暖房設備の改善など、実にさまざまな要望がありました。文学研究科では、15年4月の人文・社会科学総合教育研究棟の完成によって、教室不足など、深刻な問題のいくつかは解決できましたが、いまなお不十分な点が残されているのは確かです。それらに関しては、近年中に予定されている大型改修工事の実施状況をも勘案しながら、それを含めた施設整備計画の中で、検討を行うとともに、できるだけ要望を実現していきたいと考えています。また、ホーム・ページについては、18年4月に一新しましたが、一層、利便なものを目指して、改善を検討していきたいと考えています。

なお、施設・整備に関する要望をも含めた学生・大学院生の意見を広く聴取するために、18年度より投書箱（「学生の声」）を設置したことを付言しておきます。

3 経済問題（授業料、奨学金等）に関すること

学会参加のための旅費の補助を希望する意見がありましたが、国際的な学会・シンポジウムにおける大学院学生の発表などを支援すべく、その旅費を補助する制度として、17年度より「共生の人文学」というプロジェクトを新設しています。今後、その活用状況を検証するとともに、制度の充実を図っていきたいと考えています。

4 図書館に関すること

文学部図書室について、開館時間延長の要望がありましたが、スタッフ確保の問題などを考慮すれば、現時点での延長は困難な状況にあります。今後、図書室をどのように運営していくかに関しては、附属図書館への図書の移管や大型改修工事の進捗状況を見極めつつ、検討していきたいと考えています。

7 就職に関すること

大学院修了後の就職に関する指導を希望する意見がありましたが、数年来、学部学生のみならず、大学院生をも対象とした学生委員会・教務係主催の就職ガイダンスを年2回実施しています。今後も、その充実を図っていききたいと考えています。

10 その他

その他、教職員の対応などについても、要望を踏まえつつ、今後改善に努めることとします。

教 育 学 部 ・ 教 育 学 研 究 科

1 教育・授業に関すること

【学 部】

(1) 一般教育演習の履修に関すること

一般教育演習は、少人数の受講生を対象とした論文指導を目的として開講されています。したがって、あまりにも多くの受講者がいた場合、教員の目指す演習の質が維持できなくなる場合があります。大人数を受け入れて、質の低い演習となったとしたら、受講者にとっても教員にとっても不幸なことです。したがって、受講者数の制限はやむを得ないことがあるのです。

(2) 幅広い分野の授業の開講、全学教育と並行して専門分野の授業開講、取得可能な資格の説明との要望 に関して

全学教育科目において、教養科目と専門性が繋がるような試みを行っていますが、今後も内容を充実してゆけるように工夫を凝らしてゆきたいと思います。また本学部での取得可能な資格については便覧に掲載していますが、併せてオリエンテーションの時などを通して広報を充実していきたいと思います。

(3) 教員との相互交流に関すること

本来、大学とは、教員と学生の垣根を越えて、ともに学問に取り組む場です。そういう意味では「教員と学生の相互交流」は大学の機能を支える最も基本的な活動であるはずです。教員のなかには、オフィスアワーというもの設けている方もいます。学生の皆さんが自由に研究室を訪問してかまわない時間帯です。それを積極的に利用して、気軽に話をしに行ってみてはいかがでしょうか。

【教 職 課 程】

(1) 教科書に関すること

あまり使わない教科書を買わせることは避けて欲しい、一部だけならコピーで済ませてとの指摘の件について調べたところ、その講義を担当された先生が書かれた本を熱心さの余り普及した結果だったようでありますが、受講された方の今回のご意見にはもっともな面がありますので、関係の先生方には教科書の指定や使い方について留意されるよう伝えております。

(2) 教員採用試験を意識した授業などを行うべきとの意見に関して

北大の教職課程の諸科目は、教育学・心理学・倫理学などの成果を反映したものをめざして北大の教員が主に担当するものと、学校現場の先生にも講師として協力して頂いて行われる教職入門や各教科教育法などからなりますが、近年は、教員採用試験への対応についても学生諸君から要望されるようになっておりますので、北海道高等学校長協会および北大キャリアセンターのご協力を得て、2004年からは毎年4～7月、数回のコースの形で「教員志望者ガイダンス」を行っております。ここでは筆記試験に関する予備知識や面接試験への心構えなども含めたボランティア講義が行われ、有益であるとの好評を得ております。これを是非ご活用下さい。

(3) 学年指定をなくす・毎学期に開講などの要望に関して

教職課程の科目の受講開始学年の指定は一定の合理性に配慮した結果であります。大学の関連専門知識の蓄積との関連、教育学・心理学などのそれなりの難易度との関連が考慮されております。「教職入門」から各教科「教育法」に至る受講を通して関連知識と他者に伝えるスキルをたくわえた上で最終学年での「教育実習」に出るようにすることはカリキュラム上の原理のみならず大学外からの要請でもあります。また、もう一つのご要望——同一科目を毎学期に開講することは、他の一般の専門科目と同様で、担当可能教員の数に限りがあり、時間割編成にも制約がある等のため残念ながら実施困難な状況です。ぜひとも入学当初から計画的に履修されるよう、おすすめします。

（４）授業時間割に関すること

学部科目・大学院科目・就職関連の科目など、全体のバランスの中での時間割の見直しや、科目を多学年にわたって受講できるようにするなどの工夫をしていきたいと思えます。

【 大学院 】

（１）授業・単位取得に関すること

研究能力を向上させるためにも、一定の体系的な授業は必要です。国の大学院設置基準にも、最低必要単位数が規定されており、それにもとづいて、教育学研究科にふさわしいカリキュラムを設定しています。研究指導は指導教員による個人指導とともに、研究グループ、大講座等による集団指導を行っていますが、不十分なところがあれば、具体的なご意見・ご要望をお寄せ下さい。

（２）教育方針に関すること

教育学研究科は、教育にかかわる研究者と専門的職業人の養成をめざし、それにふさわしい授業や教育を展開しています。教育学の体系的な専門的知識を獲得できるようなカリキュラムを設定すると同時に、教職の一種免許状をもって院生にとって、専修免許状が取れるような授業科目を配置しています。けっして、安易な資格取得を想定した授業・教育を行っているわけではありません。

（３）授業形式に関すること

19年度から大学院の教育組織が教育学院に再編されるため、それを機に、カリキュラムが改訂されます。新たなカリキュラムでは、多くの人が学ぶべき共通科目（共通講義）が設定されます。それによって、講義形式の授業が増加することになるでしょう。なお、大学院の授業は少人数の場合が多く、どうしても演習形式が多くなりがちですが、授業について要望等がある場合、担当教員に相談してみてください。

（４）授業内容に関すること

すぐには成果が出ない時間のかかる基礎的な研究も、現実に対応すべき課題の解決に向けた応用的な研究も、どちらも重要な意義をもっています。授業の内容も同じことがいえます。どちらに重点をおいた研究や授業を行うかは、教員によって異なりますし、時代状況や社会のニーズによっても影響を受けます。授業の場合、受講生の要望も内容を左右する重要な要素となります。授業の内容について要望があれば、担当教員に具体的に申し出てみて下さい。

（５）最近の大学院学生に対する意見に対して

教育学研究科では大学院の入学試験の際、問題意識と研究計画を重視しています。問題意識がなく、研究計画が不十分な者は大学院に入るのは難しい仕組みになっています。しかし、大学院重点化後の定員の増加によって、多様な院生が増加し、研究計画の練り直しが必要になる場合や当初の問題意識や研究計画がゆらぐ場合もできます。個々の教員がそうした状況に対応しながら、院生指導を行っているのが現状です。今後、組織的な取り組みの必要性も検討しなければならぬでしょう。

（６）教員の教授法・教育内容に関すること

現在、教育学研究科においてもFD活動を展開すべく、様々な検討を進めているところであります。実習を取り入れる、担当教員の専門性を生かした講義、プレゼン能力の向上等の提案については、教育内容や教育方法に関する工夫を積み重ねていくなかで克服すべき課題と受け止めています。具体的な要望等ございましたらお知らせください。

（７）シラバスの充実に関すること

現在、次年度からのシラバスの電子化に備えて、シラバスの内容に関する検討を進めています。シラバスを具体的なものにしよう、各教員に注意を促しております。また、講義に関しては今年度から開講されている共通講義、次年度から開講される新たな科目などがありますので、ぜひ受講してください。

(8) 人間性についても学べる環境との意見に関して

具体的な問題点についてややわかりづらいのですが、授業に問題を感じたら担当教員や他の院生と話し合ってみてください。教員の側もFD活動を推進することによって問題を解消するよう努力してまいります。

(9) 学部・他研究科・他大学の単位取得に関すること

他の学部・研究科の授業科目を受講するためには、原則として、当該授業の担当者および指導教員の承認・確認、また教授会の議を経ることが必要であるものの、それ以外の制限は設けていません。教員側としても総合大学の利点を生かして幅広い視野を身に付けてほしいと考えているので、他研究科の授業科目や大学院共通科目の積極的な受講を期待しています。受講に当たって不明な点や不都合があれば教務係に相談いただきたい。

(10) 大学院教育の改善に関すること

大学院教務委員会及び教務係は連携を取りながら、より良い教育プログラムを提供できるよう様々な提案を行い、カリキュラム改定等を実施しています。大学院教育の改善に向けての具体的な提案があれば、院生協議会等を通じて積極的に提案いただきたい。

(11) 各種資格取得に関すること

① 学校心理士や社会福祉士の資格の取得について

大学院は、本来的な目標として研究者養成をもっています。しかし近年、高度専門職を必要とする社会的な要求の高まりが、大学院のもうひとつの新しい方向性を示しています。しかしながら、この要望にあるような種々の資格については、スタッフの問題を含めた条件面の制約等があり、今のところ考慮のなかには入っていません。

② 教育臨床講座における「養護学校教諭」以外の専修免許取得のためのカリキュラム改善について

教育臨床講座において、教職に関する科目での専修免許取得を容易にするために、カリキュラムの改善がなされておりますご確認ください。

③ 他大学との単位の互換について

ご存じのように現在、北海道教育大学との単位の互換については協定を結んでおります。ぜひとも活用なさってください。現在1年間で1～2名しか協定を活用していないため、それが拡大することは協定締結の意義を大きくすることにもなります。北海道教育大学のサテライト教室を利用した授業科目については、教室のキャパシティの問題等もあり、受入れ側である北海道教育大学の意向にもよりますが、可能であれば北大生の積極的な参加を期待します。こうした実績が単位互換協定の一層の拡充に役立つものであると考えています。また旧来から国立大学同士で、互換協定を結んできたという経緯がありますが、残念ながら利用者がほとんどありませんでした。しかし双方に単位互換の希望者がいる程度確保出来る（受講希望者が多数いる）なら検討する余地はありますので、希望がある方は大学院教務委員会にお知らせ下さい。しかしながら、私立大学との単位互換協定については、基本的に双方の利益を一致させることが難しいため、今のところ実現はきわめて困難です。

(12) 非常勤講師に関すること

学生側からの要望の授業をできる先生を呼ぶ、本学以外の研究者（実務者）を臨時で講義をしていただくことは、予算面からも厳しい状況にあることは確かですが、その中でも非常勤枠の確保や講師の人選を含め、教育の質を落さないための努力をしています。

(13) 社会人院生への対応に関すること

社会人学生の増加に対応して、午後6時以降の授業、土曜日開講は現に実施されています。今後も条件が許す限り、土曜日開講に取り組んでまいります。

(14) 進路に関すること

大学院を充実させ研究者養成にも力を入れているが、研究職の確保ということは公平な競争の原理に関わりますので、

明確な見通しを提示することは本学のような開かれた研究機関に必ずしもふさわしくありません。しかし、研究者として独り立ちする過程での支援は必要なことです。その観点から国レベルで各種各機関の期限付き研究職ポストや奨学金の呈示がありますので、研究者を目指してそれらに積極的に応募してゆくことが必要です。本人の研究の向上が決定的に重要ですが、また、教員や大学からの協力・支援体制も劣らず重要であることは十分認識しております。なお、本学および本研究科では、博士課程修了者（ポスドク）への対応として、来年度からの専門研究員制度の導入を検討中です。

（15）大学院教育システム全般に関すること

教育学研究科は19年度から研究組織としての教育学研究院と教育組織としての教育学院に改組されます。教育学院は学校システム開発論、発達教育臨床論、教育社会計画論、健康スポーツ教育論、国際多元文化教育論の5大講座から構成され、実践的で戦略的な研究者養成と高度な教育関連専門職の養成を同時に達成しうる教育組織として設置されます。修士課程には共通講義、講座毎の基礎論、専門科目、実践研究、特別講義、調査実験、博士後期課程には課題研究、総合研究等の授業科目が配置され、必要な単位の取得と学位論文の提出によって各課程の修了認定が行われます。

新しい組織と教育課程のあり方は、充実した大学院教育の実現という目標の達成にむけ、具体化し解決しなければならない課題も多いため、質問者からのご意見も含め、教職員、院生の声に耳を傾けながら、今後とも努力していきます。これからも、建設的なご意見をお願いします。

2 施設・設備に関すること

【学部・大学院共通】

（1）教育学研究科・教育学部パソコン室の利用法に関すること

パソコン室の利用時間については、管理上、現行どおりとせざるをえません。プリンターについては、新たに1台設置することを検討しています。なお、ゼミ室のパソコンについては、各ゼミの指導教員に相談してください。

（2）夜間の校舎施錠システムについて

夜間も学生カードで校舎に自由に入出入りできるようにする施錠システムの改変については、予算を伴うとともに、他の文系学部との協議を要する問題でもあり、将来的に検討していきたいと思います。

（3）土日、夜間の暖房について

現状では、全学で平日は17時以降、土日祝祭日は管理暖房（機器維持のための通す通気）以外は暖房の通気を行っていません。暖房を通気するには莫大な費用（燃料費・人件費）を必要とするため、少人数のために通気することは現状では無理ですので、各人が暖をとるよう考慮していただきたいと考えています。

（4）大学院生の研究環境について

研究室を増やすなど研究スペースの確保は重要な課題だと認識していますが、限られた面積の中での配分、また予算を伴う問題でもあり、将来的に検討していきたいと考えております。パソコンの貸与については、セキュリティ上の観点から、大学が貸し出すということは考えておりません。個別に指導教員に相談してください。

5 教職員の対応(応対)に関すること

事務部による指導や研修を通し、窓口対応において学生さんに不愉快な思いを与えないよう、また、職員個々が教務関係事務に精通するよう心がけていきます。今後ともご意見等がある場合にはご指摘くださるようお願いいたします。

10 その他

【学部・大学院共通】

（1）学生生活に関する相談に関すること

「教育学研究科・教育学部学生委員会委員」，「学生相談室」，「セクシャル・ハラスメント相談員」等を活用してください。それらの部門では，プライバシーにじゅうぶんに配慮し，必要に応じて関係部署と連絡をとったうえで対処しています。それらの委員名を分かりやすく掲示します。

法 学 部 ・ 法 学 研 究 科

【 学 部 】

1 教育・授業に関すること

（意見）

- ・ 法学部についてのことになりますが、教養の授業のように学部で授業でも web で休講掲示を出していただけると大変助かります。テスト日程なども HP に載せるなどすればもっと大学の HP の有効利用度も高まるのですが。(法3 女)
- ・ 掲示板を IT 化して、ケータイ、パソコンからも見られるようにして欲しい。(法3 男)
- ・ 学部や教養棟に直接掲示するだけでなく、外部のパソコンから ID を使って北大生のみがアクセスできるようにした HP を作成し、そちらでも各連絡を行っていただけると嬉しいです。(法2 男)

【回答】

休講掲示に関しては、全学教育や公共政策大学院等で web による周知方法が採用されていますが、これらはそれぞれの部局に割り当てられた予算で実現されています。法学部もこのような設備を設けるための努力を続けていますが、なかなかまとまった予算を獲得することができません。やや不便とは思いますが、いましばらくご辛抱をお願いします。

（意見）

- ・ 教えることを意識していないと思われる教授がたまにいる。特に一般教養の科目については、専門的になりすぎないよう配慮してほしい。(法2 女)
- ・ 教員の能力の差が大きいので、能力のない教員は解雇するべきだと思う。(法2 男)
- ・ 教員間の格差が酷い。何とかして欲しい。(法4 男)
- ・ 教授の質・講義に対する姿勢がまちまちに過ぎる。(法3 男)
- ・ 授業料に見合った授業とは思えない授業がちらほらとあります。(法2 男)

【回答】

法学部は多様なスタッフを抱えています。年齢や教育経験に差があることは否定できませんし、専攻分野ごとにも特色があります。法学部の教育のあり方についても、基本的な部分では共通のコンセンサスが成立していますが、さまざまな点で、スタッフ個々人の世界観や学問観の違いが授業に反映されることは避けられません。大学は、教育機関でありながら、同時に研究機関でもあります。ですから、授業にも研究成果の発表としての側面がまったくないわけではありません。むしろ、多様性を肯定するところが大学の特徴といえます。これらをすべて格差とか、教育能力の差とみることは、大学という高等教育機関の特性からみて適切ではありません。ですが、このことは、教育面の軽視を意味しません。法学部のスタッフは、例外なく教育面での努力を積み重ねています。ただ、全学教育と比べても、法学部の FD にかかる組織的取り組みは、十分とはいえないことも確かですので、今後は、これらの点にも力を入れていきたいと考えています。

（意見）

- ・ 社会に出ても使えるもしくは司法試験など各種試験に特化したもの以外の講義は不要であると思う。意味がない。(法3 男)
- ・ 講義のときはインプットのみでいい（双方向型はいらない）。(法2 男)

【回答】

法学部の教育は、専門職養成を目標とした法科大学院とは異なり、法学政治学の基礎的な素養や考え方をマスターしてもらうことが第一です。これらは、一見すると、社会で必要とされる特殊な技能や知識からやや離れたように思われるかもしれませんが、ですが、どのような職業を選択するにせよ、社会人として活動する以上、社会を管理運営するためのツールである法学や政治学の基礎的な素養は、必ず役に立つはずで、むしろ、そのような思いを多くの学生にもってもらえないのであれば、そのこと自体が法学部スタッフにとってより重たい課題になると考えています。なお、双方向型の教育方法は、法科大学院において重視されていますが、全学教育や学部専門教育においても学生の主体を重視しつつありますので、今後も多用されると思います。本当に理解できているかどうか、つまり習熟度を確認しながら進めることの重要性をスタッフの多くも認識しはじめていますので、機会があれば、前向きに対応することをお勧めします。きっと違った学習効果があることでしょう。

（意見）

- ・ 法科大学院の影響で学部生の学習環境が悪くなっている。具体的には、5 限にするはずのゼミが2, 3, 4 限に開かれる事がありその影響で他の講義が取れなかったり、重要な講義が集中講義になって十分な学習ができなかったりした。集中講義は、学生にとって

は集中力が持たず、そんな状況を見越して教官の方もともに授業しないのでまったく良いところがない。法科大学院がまだ手探りの段階で、いろいろひずみができているのはわかるが、今後改善していって欲しいと思う。(法4男)

- ・ 法科大学院ができて学部教育がおろそかになった感がある。もっと学部で力を入れるべき。(法4男)
- ・ 法学部のゼミ活動に期待しています。好きな教官が大学院の担当になったため、学部で一緒にいる機会がありません。できることなら、学部の授業（特にゼミ）を担当していただきたいというのが希望です。(法2男)

【回答】

法科大学院の開設は、わが国の法学部教育において非常に大きな画期でした。と同時に教員の教育負担が急激に大きくなることも意味していました。本学では、学部教育に負の影響を与えないように、法科大学院と学部教育の双方についてカリキュラム改革等を進めてきましたが、十分ではなかった点もあるようです。スタッフの多くは、現在でもなお学部教育が重要であるとの認識をもっていますし、決して軽視するようなことはありません。また、法科大学院の専任教員も、学部教育にまったくタッチできないわけではなく、少なくないスタッフが学部の専門科目を兼任しています。ただし、科目や教員数の関係で、学生の皆さんの希望どおりに行かないことが発生することは、ご理解いただきたいと思います。現在は、法科大学院の方に世間の注目が集まっていることもあり、必ずしも目立つ格好ではありませんが、本学では引き続き、学部の教育改善についてのWGを開催し、検討を継続中です。不十分な点はあろうかと思いますが、何とか改善する方向で努力していきます。

（意見）

- ・ 授業に対する意見・要望をもっと言えるようにしてほしい。アンケートは毎回あってもいい。生徒の意見が授業に反映されていない。(法3男)
- ・ 明らかに講義に熱心ではない教官について、例えば意見を届けられるような何とかできる制度がほしい。現在の講義評価システムも現職の教官からは大した効果はないと言う意見も聞きます。(法3男)

【回答】

法学部の授業評価に関しては、全学で実施されている共通のものを利用しています。法科大学院では、積極的なFDに対する取り組みから独自の事業評価が実施され、少しずつ方向性が明確になりつつあります。学部専門教育でも独自の取り組みが必要であるかどうかについては、まだ十分な検討実績がありませんので、今後の検討課題にしていきたいと考えています。なお、全学で実施されている授業評価の結果だけを見ると、法学部授業の評価結果は全体的に上位に位置していますし、参考にしているスタッフも少なくありません。

（意見）

- ・ 引き続き少人数・自由教育。(法4男)
- ・ 教員と学生の距離をもっと近づけるべき。(法3男)
- ・ 大人数ではなく、少人数制のゼミをもっと増やして、学生と教授の距離を狭めるべきである。(法4男)

【回答】

本学では、学生に対する教員比率が全国でもトップクラスであることから、伝統的に少人数のゼミ教育に力を入れてきました。その方針は、今後も揺らぎません。ですが、複数の専門職大学院を相次いで設置したこともあり、教員の教育負担が大幅に増えているのも事実です。そのため、ゼミの開講数に関しては、必ずしも学生ニーズに応えられないこともあるでしょう。ただ、本学のスタッフは、その多くが講義終了後の個別質問に応じたり、オフィスアワーを設定することで、何とか対応すべく努力しています。平成18年7月から平成19年3月までは、大型改修のため教員が避難先に移転しているため、研究室を訪ねることが難しいのが残念です。平成19年3月以降は、本学の建物は、教員研究室と大学院生研究室が混ざった配置にもどるので、スタッフと院生ないし学生間のアクセスが比較的容易になされるという特色が回復されます。是非、事前にアポイントメントをとるなどして、積極的に教員にコンタクトをとってみてはいかがでしょうか。

（意見）

- ・ やる気がない、北大を明らかに好きでない不当な扱いをする非常勤講師を招くのはやめて欲しい。(法3女)
- ・ 集中講義の際に他大学のその分野の一流の学者がもっと多く来てくれたら大学に入ってよかったと心底思えます。東京大学から文学部の講義で野矢茂樹氏が来たときはとても感激しました。私がこの大学で唯一知的に面白いと思えた講義でした。集中講義に限らず、若手がかつ優秀な教官をひっぱりつけてきて講義をしてください。北海道大学ならステイタスもそれなりだろうから可能かと思われます。法学部はまだしも、文学部に関していえば教官の顔ぶれは閉塞状態ではないでしょうか。シラバスを見ただけで息が詰まりそうです。(法4男)

【回答】

学生便覧や講義概要に記載されている実行課程表上の科目は、基本的に本学のスタッフが担当しますが、スタッフの長期在外研究などの場合は、やむを得ず非常勤の先生にお願いすることがあります。非常勤講師の選任にあたっては、

万全を期していますが、もし問題があると思われることがあったら、気兼ねなく、事務スタッフもしくは学部教務委員宛にご相談ください。なお、法科大学院設置にともなう学部カリキュラム改正（平成16年度以降入学生に適用）以降は、実質的な科目履修（予習・復習を含めた学習時間の確保）を目指して、提供科目数を大幅に削減しました。そのため、ご希望のような集中講義を「特殊講義」として随時、開講していくかどうかは、カリキュラム全体の基本的な考え方とどう調和させるかという問題も含めて、現在、学部で検討中です。いましばらくお待ちください。

（意見）

- ・ 面白いと思える授業が少ない。もっと魅力ある講義が聞きたい。事務の対応にバラつきがある気がする。気分を害されることが少ない。（法5男）
- ・ 教官の授業の質の向上。（法3男）
- ・ わかりやすい授業を。（法3男）
- ・ 法学部なのですが、もっとわかりやすい授業をしてほしいです。具体的に言うと、専門用語やわかりづらい言葉をかみくだいて日常用語に直して説明してほしいです。基本書は文章が難解で理解しづらいので授業で理解しようとしても、授業も難しくついていくのが大変です。そのわりに予備校を批判される先生方が多いです。予備校に頼らないようなわかり易い授業が受けてみたいです。（法2女）

【回答】

法学政治学の専門用語は、基本的には西洋言語からの翻訳であり、その多くは明治期に漢文の素養がある研究者によって開発されたという歴史的事情があります。現在、法務省も条文表記や文言の現代化に本腰を入っていますが、日常的な口語から相当に離れた言葉が使われていることは否定できません。スタッフの側もこのような事情を十分に理解したうえで、それぞれ努力していますが、常にうまく行くとは限らないでしょう。また、口語でかみくだくとはいっても厳格に定義された概念の説明については、やはり限界があります。「慣れ」の問題もあるでしょう。学部の授業でも、学生が問題を主体的に「考える」または「考えさせる」ということを意識しているスタッフが多く、この点は予備校の授業と大きく異なります。世の中の大半は、割り切れないものです。通説・判例とはいっても、現段階で最も説得力があり、かつ妥当と思われるにすぎず、常に時代や状況の変化にあわせて移り変わる可能性があります。安易に解答にたどり着けるような授業は、確かに「わかりやすい」かもしれませんが、それが学問的な真実に近いといえるかどうかは意見がわかれるでしょう。むしろ、スタッフの多くは、学生がどのようなことに興味・関心をもち、どんな授業に魅力を感じているかを知りたいはずですので、いろいろな機会を捉えて、意見や要望を表明してください。きっと何らかの対応がなされるはずですよ。

（意見）

- ・ 夏休みの中間に試験があるのはどう考えてもおかしいと思います。これによって夏休みの短期バイトや旅行といった、専門科目以外の幅広い活動の機会を妨げることとなり、視野の狭い考え方になってしまうと思います。また、テストの返却や模範解答をしない科目がほとんどです（9割近く）。テストを受けたあとに復習をしてこそ、知識が蓄積されると思います。（法3男）

【回答】

前期の定期試験期間については、現在の9月上旬から7月下旬ないし8月上旬に移すことが検討されたことがあります。確かに学業以外の活動の重要性は否定できません。ですが、夏休みをまとめた勉強の期間として過ごす学生がいることも事実です。学業を本分とするという点からいえば、まとめた復習の機会を残すという選択肢は、まだまだ捨てがたいといったところかと思います。また、テスト後の復習の方がよいとのご意見ですが、学部生の大半はまだ試験という契機がなければ学習への取り組み意欲が生まれないのではないかと考えています。テスト後もなお国家試験が予定されている法科大学院では、答案の返却や模範答案の公開ないし講評会の開催が実施されていますが、教育目標の異なる学部と同様のことの可能性、具体的な実施の仕方については、まだ検討すべき問題がありスタッフ間にコンセンサスが生まれていません。いましばらく猶予をいただければと思います。

（意見）

- ・ 冬期は積雪のため通学が大変になるので授業開始時間を遅くして欲しい（サマータイムならぬウインタータイム的な制度）。（法2男）

【回答】

現在、5講目の終了時刻が18時（演習の場合は18時45分）であり、これよりも終了時刻を遅くすることには、冬期限定とはいえ、あまり望ましいとはいえません。また、2年次については、全学教育科目と学部専門科目を同時期に併行履修しなければなりませんから、法学部だけ独自の時間設定をすると、2年次科目の時間割が不可能になります。冬期の通勤通学の大変さは、教員や事務局も同じですし、社会一般でも変わりません。早起きはつらいと思いますが、北海道の特殊事情として、前向きに受け入れて下さい。

（意見）

- ・ 法学部はほとんどの授業で出席をとらず、定期試験のみで成績をつけるので、授業にでていても試験で失敗してしまったら、単位を取れないのがつらいです。（法4女）

【回答】

大学の単位は、授業で提供した知見がきちんと身についているかどうかで判定されるものです。授業に多く出席していれば、理解の可能性が高まりますが、社会一般と同様に、結果として知見が身につけていることを示してもらわないと、評価する側も認定できないという事情は理解してほしいと思います。試験で失敗した学生を平常点でどのくらいまで救済するかという問題は、科目を担当しているスタッフの考え方に委ねられており、異なる科目についてこれを統一することは困難です。なお、講義形式の場合、出席者の規模にもよりますが、100名を超える講義では、出席・欠席のチェックにかかる事務的な負担が大きく、TAをうまく活用しないと、担当教員のみでは十分に対応できない可能性もあります。

（意見）

- ・ 学部専門科目を1年生の段階においてもう少し増やしてもいい。GPA値をこれから重視していくのなら、相対評価をもっと徹底したほうがいい。（法1女）

【回答】

法科大学院設置にともなう学部カリキュラム改正（平成16年度以降入学生に適用）では、学部専門科目を従来よりも多く配置しています。おそらくそれ以上に増やして欲しいという要望だと思いますが、1年次および2年次前期は、全学教育で展開される一般教養科目の履修に重点をおくという全学の方針もありますので、現状が最大限であるとお考えください。むしろ、平成18年度以降入学生に対しては、1年次にキャップ制が導入されているため、学部専門科目をこれ以上、前倒しで配置しても事実上は履修が不可能という事情もあります。なお、GPAの積極的活用に関しては、法学部ではまだ検討中であり、指標としての適格性や運用などについて慎重に見定めていく必要があると考えています。

（意見）

- ・ 課外活動（特に北大公認団体、七大戦等）への授業面における教員の方々の理解、配慮をもう少し促してほしい。（法4女）

【回答】

課外活動に関しては、欠席の取り扱いや追試験の適用などで全学に準じた対応をしていますが、学生が学業を本分とする以上、これらの取り扱いを当然の権利として主張することにはやや躊躇を感じます。取り扱いの平等や公平の確保には万全を期しますが、日程調整が可能であるならば、できるだけ欠席や追試験にならないように要請ないし指導することは、むしろ必要であると考えられます。

（意見）

- ・ カリキュラムにおいて、法学総論から個人の専門分野を選択するまでの過程が、意識しづらい。一年次に教養科目を履修する時点で、法学全体の内容をさらに詳しく授業するべきと考える。専門科目を履修するようになって、外国語の授業を必修科目にすることが、授業内容をより深くするきっかけになり、卒業後の人生を豊かにすると思われる。一年次の教養科目に、意義が見出せない。教養科目を設置すること自体に意味はあると思うが、その内容が稚拙に過ぎ、教養になりえない。（法MC2男）

【回答】

法学部教育においても科目連関を強く意識させることの必要性は、ご指摘のように、小さくありません。本学では、法科大学院設置にともなう学部カリキュラム改正（平成16年度以降入学生に適用）の際に、さまざまな法分野の関係を意識したオムニバス式の講義（「法学入門Ⅱ」など）を用意し、学科間関係性が意識できるようにしています。また、外国語の必修に関して、他学部では全学教育における第二外国語の必修単位数の削減が進められています。ですが、法学部ではなおも現状の必修単位数の維持に努力しているところです。法学部の専門外国語は、基礎と応用の2種類があり、中国語やラテン語も開講するなどして、メニューは豊富です。履修者数は、学部定員からすると少数ですので、必修化することが本当に学生のニーズに対応するかどうかは疑問の残るところですが、一定しているところからすると、学生のニーズには十分に応えているといえるでしょう。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

（意見）

- ・ 教室の暖房・冷房の管理をしっかりして欲しい（法3男他5件）。

【回答】

各教室の調整について極力努力しますが、暖房・冷房については部屋ごとに調整が可能な場合もありますので、その場合は調整をお願いします。

（意見）

- ・ 暖房の音が講義の妨げになる程うるさい（法4女他3件）。

【回答】

ノック音等は、機器の技術上、やむを得ません。ご海容下さい。

（意見）

- ・ 休講掲示をWebで見られるようにして欲しい。重要な掲示を分かり易くして欲しい（法2男）。

【回答】

Web 掲示については、現在検討中です。

（意見）

- ・ 学部専用のプリンターがなくなり有料化したのが非常に不便（法3男他3件）。

【回答】

改修工事のせいでご不便をおかけしておりますが、改修工事終了次第対応する予定です。もう暫くお待ち下さい。

（意見）

- ・ 学部に購買・食堂が欲しい（法3男他2件）。

【回答】

理系の一部ではそのような施設があり、確かに便利だと思います。しかし、文系、特に法学部の場合、面積が不足しており、残念ながら、そのような場所的余裕はありません。

（意見）

- ・ 自習室をもっと欲しい（法3女）。

【回答】

改修後も学生自習室を、従前の通り、1室確保しておりますが、法学部の建物の面積 からして、残念ながら、それ以上の場所的余裕はありません。W棟や図書館にも自習スペースがありますので、そちらもご利用ください。

（意見）

- ・ 喫煙所を増やして欲しい（法4男）。

【回答】

改修後も喫煙室を1室設ける予定ですが、それ以上の場所的余裕はありません。なお、 法学部では「分煙」の方針を採っておりますので、喫煙にあたってはマナーを守るようお願いいたします。

（意見）

- ・ 8番教室のイスが狭いので改修を（法2男）。

【回答】

現在、その予定はありません。

（意見）

- ・ 掲示板が見にくい。字が小さすぎる。（法2女）
- ・ 重要な掲示は分かりやすくして欲しい。（法2男）

【回答】

掲示方法について、ご意見に添えるよう工夫していきたいと思います。

《お願い》

貴重なご意見を多数いただき、ありがとうございました。法学研究科棟は耐震強化のため大型改修工事中であり、平成19年3月に竣工予定である。ただし、設備関係のご要望に応えるためには、予算的な裏づけが必要ですが、予算には限りがあることをご理解ください。

5 教職員の対応（応対等）に関すること

（意見）

- ・ 教室・グラウンド等の利用の申請をし、許可が下りたので、利用しようとした。そのときに二重に許可が下ろされたようで、致し方なく、事務へ抗議に行ったのですが、「現在担当者が不在のため対応できません」と言われました。設備等の事務・管理は純粋なサービス業務であり、民間企業と異なるものではないと思います。にもかかわらず、そのような対応で何の罪悪感も感じないようなのであれば、適格・適性がないとしかいえないと思います。改善を要求します。（法3男）
- ・ 事務の応対悪すぎ。（法3男）
- ・ 学部の窓口の事務員の態度が悪すぎる。彼らは誰の授業料で給料をもらっているのかなどをしっかりと自覚し態度を改めるべき。学生には偉そうで教員には下手に出ている。民間企業であればほとんどクビ。おばちゃんだけはよい。本当に何とかしてほしいと心から思っている。（法3男）
- ・ 学部事務の対応が窓口によって差がありすぎるので、改善してほしいです。具体的には、ある窓口の人の対応だけがすごく悪いです。事務の人が（後日知ったことですが）誤った申請書類の一覧表を渡してきて、その通りもっていったら、なぜか知らないけれども「しっかり必要書類一覧表を読み」と注意を受けました。そこで、受け取った申請書類一覧表の通りだと申請書類を見せたら、「足りない」といわれたので、「申請書類一覧表が誤っているみたいです」と指摘したところ「あ、そう。」とだけ言われました。あまりに理不尽な対応なので、このようなことはやめてほしいです。間違えたならば、はっきりと学生に対してでも謝るべきではないでしょうか。友人もこの人の対応について同じことを言っていました。（法4男）
- ・ 法学部の事務は対応がお粗末だ。（法4男）
- ・ 受付の人の態度を何とかしてほしい。特に教養棟。教養棟に限らず、態度がでかい、そのくせ質問してもたらいまわし（そして、そのうち無限ループ突入）、言い方も命令口調。他にも法学部の資料室？は論外。そりゃ、こっちはあんたより年下で、立場も下かもしれないが、単語しかいわない（名前を聞くのに、「名前！」、学生番号きくのに「学生番号！」。初めて聞いた単語以外の助詞が「名前と学生番号」の“と”“だなんて・・・）のは驚愕だった。ああ、ノックしたときに何か音声を発していたかもしれない。（法2男）
- ・ どこの学部でもそうだが、事務の対応が途轍もなく悪い。たらい回し、不明確な回答は当たり前、酷い職員は勤務中にゲームをしている。少なくとも、「お給料を頂いている」のだから、それなりの対応をしていただきたい。（法2男）
- ・ 事務員で、態度が悪い人がしばしばいる。サービス業としてありえない。（法4女）
- ・ 教務係の対応がそっけなく感じられたり、同じ教務係でも質問した人によって質問に対する回答が異なっていて困ったという話を知人間で聞くことがあるので改善していただけたらと思います。（法2男）
- ・ 事務職員の対応がよくない。（法3男）
- ・ 基本的に、窓口の事務の人の感じが悪い。（法4女）
- ・ 事務の対応の悪さにめまいがします。人をあしらうような対応だと評判でした。（法3男）
- ・ 以前、学費を1年度分一括で払いたい旨を事務にお願いしたところ、追って連絡すると言うお返事をいただきました。にもかかわらず、引き落とし日前日になっても連絡がないので事務に問い合わせたところ、「〇月〇日以前に来ていただかなければその手続きはできない」と言われました。しかし、僕がその要望をしたのは、事務が主張する日より以前でした。業務がずさんに過ぎると思います。改善を要求します。（法3男）
- ・ 事務の対応を改善してもらいたい。あれほどいい加減だと腹が立つ。あれはロボット以下の対応だと思う。（法3男）

【回答】

事務の対応について、たくさんのご意見をいただきました。意見の多さと内容を見て、驚くとともに残念に思います。窓口対応で学生の皆さんに不愉快な思いをお掛けし、申し訳ありませんでした。窓口対応について、対応の姿勢を反省し、このようなことがないよう一層の注意をします。今後は、窓口対応職員全員が言葉遣い並びに対応の態度を互いに注意し合い、学生の視点に立ったサービスが提供できるよう努力いたします。

また、書類の渡し間違い、ずさんな業務等、多々ご迷惑をお掛けしたことは、この場を借りましてお詫びいたします。今後このようなことがないよう係全員で努力していきたいと思います。

（意見）

- ・ 学務部の窓口の閉鎖時間が昼休みと重ならないようにしてほしい。（法2男）
- ・ 事務窓口についての要望。法学部の事務職員の窓口は朝の8時半から夕方まで開かれているようですがいつも昼の時間に窓口が閉じられています。これは職員の昼食のためだと思うのですが、窓口における対応の対象としては学生が主だと思います。しかし、その学生は昼休み以外は講義があるので昼休みに窓口が閉まっていると、学生は窓口をなかなか利用することができません。この状況を改善してほしいと思います。例えば職員の昼食の時間を職員ごとによって変えて、昼休みの時間の窓口を空けるなりするべきではないでしょうか。まともな民間企業で、もっとも利用される時間帯に店を閉めていて客が利用できないという企業は存在しないでしょう。北大職員が北大の法人化に反対したことは知っていますが、法人化された以上、自民党の言っていた民間の経営手法を、少なくともこの事務窓口の問題については即座に導入すべきだと思います。（法4男）

【回答】

従来から、昼休みは1箇所窓口を開け対応してきましたが、十分な対応であるとは考えていません。従って、今後とも職員の業務分担、勤務時間割り振り等更なる検討を行い、学生のニーズに沿った対応を行うつもりです。

7 就職に関すること

（意見）

- ・就職活動支援を学部レベルでも行ってほしい。（法4女）

【回答】

本学では就職活動の支援を充実するため、クラーク会館にキャリアセンターが設置され就職活動の支援業務を行っており、法学部としても学部レベルでの就職支援サービスのあり方について検討していきたいと思います。

10 その他

（意見）

- ・北大のホームページは酷すぎる。今や、一番 update な情報を発信できる手段がホームページであるのに、その更新頻度たるもの散々。作成者は何を考えているのか？他大学(特に帝大系)のホームページを参考にしてもらいたい。デザインは先進的であり、有益な情報を随時掲載している。関連して、法学部のページの更新頻度、情報量には呆れるばかり。学生の間からも不満がかなり出ている。このままでは、「遅れている大学」のイメージがついてしまうのではないか。（法2男）

【回答】

今後、教員・事務部で協議し、デザイン・内容の見直し等も含め検討し、的確・迅速な情報提供に努めたいと思います。

【 法 学 研 究 科（法科大学院を除く） 】

1 教育・授業に関すること

（意見）

- ・教育と研究が完全に二分化され、大学院生一般に開放されている授業内容は非常につまらない。そのため、博士課程進学後は、他の研究科で授業を受けることが多くなった。基本的なことをわかりやすく教える授業が不必要だとは全然思わないが、それらを開講することによってそれ以外の専門的な授業がほとんどなくなるというのは、本末顛倒だと思う。（法DC3男）

【回答】

現在、修士課程・博士後期課程を対象に相当な数の授業が展開されており、中には内容的にかなり高度で専門的なものも開かれています。ただ、研究分野によっては、自分の関心に合う専門的な授業がある学期に見当たらない、ということがあるのかもしれません。そのような場合には、指導教員などに相談して、年度当初のカリキュラムにない授業を追加開講してもらう、というのも一つの方法です。大学院は少人数なので、そういった小回りをきかせることができます。教員の方も、専門的な授業を開講するのはうれしいもので、ただどれくらいの「需要」があるかがわからないために、開講に至っていないということも多いのです。

（意見）

- ・現在、公共政策大学院や法科大学院との合併授業が多く、研究大学院がメインの授業というのが少ない。多少肩身の狭い思いをしなければならぬのが、つらいところがある。（法MC1女）
- ・少人数のクラスでは、教官も熱心に指導して下さり、基本的には満足できる。ただ、法科大学院との合併授業では人数も多く、教官へのアクセスも悪いとはいえない。（法MC2男）

【回答】

確かに現在、研究大学院で開講されている科目で、公共政策大学院や法科大学院と合併になっている科目が多くあります。しかしそこで研究大学院の学生が「肩身の狭い思い」をする必要はまったくありません。対等に授業に参加し発言していけばよいのです。もちろん、法科大学院や公共政策大学院の学生と研究大学院の学生とでは、問題意識や関心の持ち方が違うことはあります。しかしそうした違いに気づくことも、自分のものの見方を省察するきっかけになります。法科大学院や公共政策大学院との合併で授業を展開するという、研究大学院の「双方向的科目セッティング」は、そうした刺激をもねらっているのです。確かに、合併授業で人数が多くなると、教員と言葉を交わす頻度が減ると思われるかもしれませんが、自分から積極的にアクセスしてみてください。教員の方は、質問が多くても喜んで対応します。

（意見）

- ・ 教職課程の充実。教職に関する科目数を増やして欲しい。また、事務員や教職担当教員、学生委員に教職課程について疑問点を質問した際、「分からない」「教育学研究科の事務に尋ねるように」との回答をよくいただくが、教職員として最低限の知識を身につけていて欲しい。（法MC2 男）

【回答】

教職課程のうち、「教職に関する科目」は、教育職員免許法などにもとづいて教育学部で展開されており、法学研究科で科目数を増やすことは難しいです。一方「教科に関する科目」は、法学研究科の非常に多くの科目で振り替えが可能なので、数が少なくて困ることはないと思います。教職課程については、現在の学生便覧に収録されている教職関係規程等が少ないため、わかりにくくなっているところがあるかもしれません。この点は、収録規程を拡充できるかどうか、今後検討します。ただ、教職課程の細部は複雑になっていることも多く、間違いを避けるための安全策として「教育学研究科の事務に尋ねるように」という対応が増えるという事情があります。もちろん制度の細部まで知悉しているのが理想ですが、制度改正もしばしばあり、なかなかついていきにくいというのが実情です。他研究科の窓口を指示されるのは不便・不快かもしれませんが、思わぬ間違いが生じないように、用心しているということでもあるのです。

（意見）

- ・ 法学研究科の場合、教官が論文の指導をすることがほとんどない場合もある。（私は指導教官からはそれなりに指導を受けている。）一切指導もせずに論文がかけないのは自己責任だというのは、指導の意味を取り違っている。また、法学研究科では、紀要を発行しているが、その紀要に院生が論文を載せることは殆どない。理系のように学会発表をすることがないのは業界の構造の問題だからそれはそれで仕方がない。しかし、「最近の就職状況は、論文の質よりも量だから小さな論文をたくさん発表することが研究職への道だよ」と言いながら、一切公表の世話をしない。それゆえ、博士課程にいながら公表論文0や1という先輩方はゴロゴロいる。たとえ質が悪くても書いた論文を公表できないのは納得がいかない。公表することによって批判が来るので質が改善されるとは考えていないのだろうか。たまに他の大学の院生が質は良くないけど公表している論文を見かけると羨ましくなる。院生用の紀要も年に2回くらい発行して欲しい。その一方で、業績が一切無いにも関わらず偉そうに講義をしている教官を見ると不条理を感じる。（法MC2 男）

【回答】

論文指導の方法は教員によってさまざまです。修士課程では主・副2名の指導教員が付きますので、主指導教員の指導方法が自分に合わないと感じる場合には、副指導教員に相談し指導を受けることもできるかと思います。法学研究科で発行する『北大法学論集』には、修士論文のうちで特に質の高いものが掲載されており、そのほか大学院生が執筆した判例評釈なども公表されています。指導教員の推薦書を付して論文を投稿することもできます。大学院生の修士論文やリサーチペーパーを掲載している『北大法学研究科 ジュニア・リサーチ・ジャーナル』は、現在年1回の発行ですが、年2回にするかどうかは、編集スケジュールや原稿がどの程度集まるかといったことを考慮しつつ、今後検討したいと思います。あるいは『ジュニア・リサーチ・ジャーナル』とは別に、大学院生自身が編集するような紀要を作ることも考えられるかもしれません。そうした可能性も含めて、検討していきたいと思います。

（意見）

- ・ 人によるが、先生の雑用が多く自分の時間が犠牲になる場合がある。先生方が忙しいのはよくわかるので、手伝わざるを得ないが、時に非常に不満である。それをなくすためにも、先生方が秘書を雇えるよう制度を整えてほしい。（法MC2 女）

【回答】

まさに「人による」問題で、万事自分でこなす教員、科研費などを使って個別にアルバイトを雇う教員など、さまざまです。法学研究科として教員共通の秘書を雇用することは、予算面を考えると現状では困難であると言わざるを得ません。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

（意見）

- ・ 全学禁煙にしてほしい。喫煙部屋を設けても扉を開けっ放しで喫煙していたり、外で吸う者を多数見かける。（法MC2 男）

【回答】

法学部では「分煙」の方針を採っています。改修後も1室だけ喫煙室を設け、それ以外の建物では禁煙とします。

（意見）

- ・ 清掃及び施設管理（修理など）をもっとしてもらいたい。限定された場所しか清掃していない。特に研究室は学生の自治にまか

れているというが、一年に一度、入れ替わりの時期には清掃等して引き渡すよう大学としてしてほしい。清掃だけではなく、設備が壊れていることも多々ある。この大学は基本的にどこもかしこも汚く、壊れているイメージでこれでは安心して研究等にうちこめない。（法MC 2女）

【回答】

研究室の清掃については、院生のみならず、教員に対しても自分でするようにお願いしております。すべての措置には、予算的裏づけが必要です。そして、その予算には限りがあります。許される範囲内で最大限の工夫をしているのが現在の状況ですので、ご理解をお願いいたします。

（意見）

- ・ 夏場研究室に、網戸もクーラーもないため、夜勉強するのが困難である。（法MC 1女）

【回答】

改修後は冷房設備が付く予定です。

（意見）

- ・ 研究室が狭い。殊に、本棚が少なく必要な資料等を研究室になかなか置いておけない状況にある。本棚だけでも増設されればありがたい。（法MC 2男）

【回答】

法学部の建物の面積には限りがあることをご理解ください。また本棚についても予算上の制約があることをご理解ください。

（意見）

- ・ 22時から翌日6時までの間も、出入り可能にしてほしい。（法MC 2男）
- ・ 理系と異なり文系は10時には外から入れなくなるのが、おかしいと思う。理系であれ文系であれ、いつ勉強するかを制約を学校から受けるのはおかしいと思う。（法MC 1女）
- ・ 大学が10時に閉まるのが納得できない。文系も理系みたいに24時間にしてもよいのでは。（法MC 2男）

【回答】

現在、研究室の利用は24時間可能になっています。ただし、ご指摘のように夜10時以降は研究棟に外から入れなくなっていますが、これは庁舎の管理上の問題によるものです。また文系の場合、建物の構造上、一旦入るとどの学部にも行けることになるので、法学部単独で決定できる事項ではありません。さらにカードキー方式も考えられますが、これにも予算的裏づけが必要です。

（意見）

- ・ W棟のエレベーターが遅い。（法DC 2女）

【回答】

エレベーターの規格に合わせて、あのような速度に設定されています。ご理解下さい。

（意見）

- ・ 自習室（研究室）環境が不平等である。部屋によって学習環境の善し悪しはかなりある。例えば、部屋自体の広さや冷暖房設備、人数、本棚の数やロッカーの位置（本来外に置くべきロッカーが無理矢理中に入れられている部屋もある）など枚挙に暇がない。同じ授業料を払っているのだから、もっと少人数ごとに公平にきちんと振り分けてもらいたい。単に名簿準で機械的に振り分けられている現状は不公平である。特に大人数の部屋は人が行き交うのも困難なほどに詰め込まれていたり、座席の位置によっては本棚が利用しづらいなど非常に不便極まりない。（法DC 1男）

【回答】

法学部の建物の面積は限られておりますので、大人数の部屋になるのはやむを得ないことをご理解ください。

（意見）

- ・ 質問および提案。法務研究科（法科大学院）について、来年度新入生のための自習室の数が足りないために、現在ある自習室の空いている席に新入生を振り分けるとの話を聞いたのだが、どうなっているのだろうか。きちんと説明してほしい。このような方法よりも、現在の学生が移動する方法のほうが妥当だし、円満に移行できるのではないか。例えば、現3年課程1年生の1階部屋（1つしかない）の学生を5階の自習室（他の現1年生はすべて5階にいる）の空いている席に振り分けるといった方法である。もっとも、移動するのが大変であるとの意見もあるが、せいぜい本や机・ロッカーの中の程度の物だけであるから、たいした労力はかからないはずである。（法DC1男）

【回答】

改修後の部屋割りについては、現在検討中です。なお、法科大学院の正式名称は、「大学院法学研究科法律実務専攻」であり、「法務研究科」ではありません。

《お願い》

貴重なご意見を多数いただき、ありがとうございました。ただし、施設関係のご要望に応えるためには、予算的な裏づけが必要であり、他方、その予算には限りがあることをご理解ください。

【法科大学院】

1 教育・授業に関すること

（意見）

- ・ 教員の方で、法科大学院の趣旨を明らかに意識せず、自己満足な授業で終わっている方がいる。生徒の要望を聞いて改善すべき。（法専1男）

【回答】

授業アンケートをとり、その結果は本人に通知される仕組みになっています。教員においても、最善の努力と工夫をしているところであり、同一の授業においても、学生の評価が分かれることが少なくありません。授業は、教員と学生の双方の協同作業の側面も有しています。皆さんの方からも要望を素直に伝え、また、独りよがりな評価に陥っていないか謙虚に省みて、多くを吸収してください。どれだけ吸収できるかは、皆さんの理解力と努力にかかっていることも押さえておいていただきたいと思います。

（意見）

- ・ 教員が積極的にインターネット等の利用を推進し、資源の無駄を減らしたり、効率改善を図る必要があると思います。レポートは自筆ではNGといひながら、わざわざそれをプリントアウトして提出させるのは時間も紙も無駄のように思います。電子媒体で提出し、電子媒体上に添削して返却すれば、データとしてそのまま保存できるでしょう。全てがそのようにはできないにしても、工夫すべき余地は大いにあると思います。（法専2男）

【回答】

たしかに、この問題に限らず、工夫の余地があるところもあるのではないかと思います。発足当初から比べると、かなり改善された部分もあるのですが、まだはじまってから2年足らずの教育システムであり、不慣れなところもあると思います。

ところで、このご質問についてですが、ご指摘のような側面があることは確かですが、しかし、添削等を考えますとプリントアウトしたものを用いる方が便利な場合があります。従って、プリントアウトなしですませることを一律のルールにすることはできないと考えています。

（意見）

- ・ 法科大学院の課程については、6月入学5月卒業にしたりできないものか。そうすることで司法試験の時期までケアできるようになるのではないかと。（法専2男）

【回答】

北大が単独で採用できるものではありません。入学と卒業の時期については、一部では半年ずらす案などが議論されているようですが、法科大学院だけが、司法試験の関係だけを理由にこのような案を主張することは難しいと考えます。

〔意見〕

- ・ 法科大学院の学生の人数が多すぎる。もっと入学選抜で絞らないと新司法試験の合格率が下がり、ひいては大学の格付けにかかわる。それに加えて、合格率維持のために、明らかに合格不能と認められる者を卒業させないなどの措置を講じるべきである。また、学生の数に対して教員の数が少なすぎる。文科省の基準をみたせばいいというものではない。学生数が増加した今年は、昨年よりも学生の自主ゼミに対する教員の支援等の教育サービスが悪いと聞く。教員を倍増させるか、学生の数を半減させるかのどちらかだと思う。(法専2男)

〔回答〕

学生定員は決められており、その数の学生を教育することは本校の社会的な使命であることをご理解ください。また教員数が増えることは、みなさんにとってだけではなく、教員にとっても望ましいことですが、昨今の状況の下では非現実的と言わざるをえません。日本の高等教育にかけている予算が、GDP比でOECD諸国のなかでどのくらいの位置にあるかはみなさんもお存じだと思います。このような状況が望ましいとは決して思っておりませんが、とにかく教員数は簡単に増やせるようなものではなく、予算措置等を伴う大変難しいものなのです。ただし、そのようななかにおいて、本学の教員数が全国的にみて充実したものである点をご理解いただきたいと思います。

〔意見〕

- ・ 専門職大学院で、卒業後に試験を控えているのだから、それに向けた対策を充実してほしい。授業は試験対策という意味ではあまり役に立たないと感じている。(法専2男)
- ・ 実務専攻なので、資格試験対策を充実して欲しい。(法専2男)
- ・ ゼミ形式の授業をもっと増やして欲しいです。講義のフォローに教授間の差が激しく、統一的に充実したフォローをしてほしい(解説レジュメ等)です。キャップ制が不要であると考えます。教員と学生の質問の場をもっと欲しいです。授業とは別に、答案作成会みたいなものがあればと思います。(法専2男)
- ・ 課題等でやること(勉強)を管理しすぎ。自由な勉強時間を与えてくれて、方向性指導があれば十分。課題は実践に即したものにしてほしい。先生の都合による条件付けや、成績の差をつけるための課題等は無用(そのような課題ならば出さないでほしい)。(法専2男)

〔回答〕

法科大学院は受験対策に特化した教育をするところではなく、法律家になるために必要な能力を広く深く涵養するところであることをまずご認識ください。試験に受かることだけを考えるという思考は、試験にでそうなところだけをできるだけ要領よく勉強しようという浅薄な学習に陥り、たとえ法律家になっても望ましい専門家として活躍していくことは難しいでしょう。法科大学院が質の高い法律家を養成することを理念としており、いわゆる受験対策は各自でやるものと考えられているのです。

また本当に授業は試験には全く役に立たないのでしょうか。そこには、みなさんの学べき事柄が数多くちりばめられているはず。それを試験に役立つように活用できるかどうかは、実はみなさんの側の力量にもよるように思います。同じ授業を提供しているはずなのに、みなさん方の理解には深淺があり、そして、最終的には新司法試験に合格する方と合格しない方がおられます。「試験は自分で受けるもの、そして、自分で受かるもの」です。「あれが悪い、これが足りない」というネガティブな発想でなく、それをいかに活用し、自分の将来に役立てていくかという前向きな取り組みも必要なのではないでしょうか。もちろん、完璧なものではなく、まだまだ改善の余地はあることは自覚していますが、全国的に見て、本校の授業のレベルは相当な程度に達していると考えています。また自主的な勉強のサークルもありますので、そのような機会を自分自身のために「積極的」かつ「能動的」に活かしていった方がいいでしょうか。

なお、キャップ制は設置基準等で定められたものです。従って、本校が独自の判断で変更することは不可能です。

〔意見〕

- ・ 法科大学院3年課程の1年生であるが、カリキュラム、授業日程がきつい。(法専1男)
- ・ 法科大学院のカリキュラムをもっと柔軟にして欲しい。かなり詰め込みすぎて日程的に無理が生じている場合が多々あるし、大幅な法改正がなされようとしている時期にその法の授業科目が設置されているなど、非効率的である。(法専1男)

〔回答〕

3年間で法律家になるための教育をする仕組みになっているのですから、相当きつい内容になっているのは当然です。それは、どこの法科大学院でも同じです。そもそも3年の教育期間で実務法曹を目指そうというのですから、相当な覚悟と忍耐、そして、努力が必要です。その点を銘記し、しっかりと取り組んでいってください。

なお、法改正については、改正前の法律と改正後の法律には連続性がある場合もありますし、改正前の法律を知らずして、改正後の法律は十全に理解できない場合もあります。目先の効率性が真の理解につながるかどうかは疑わしい場合もあることは留意してください。

〔意見〕

- ・ 授業に関して、授業間で充実度にばらつきがある（講義内容、レジュメ、授業後のフォロー等）。期末にアンケートがありましたが、収集結果のレポートは見ましたが、それに対する学校側のコメント、具体的な改善策、実施状況が示されていないと思われるのですが、アンケートがどのように役立っているのか知りたいと思います。他法科大学院と比較したわけではないですが、提出課題・予習量が多いように感じられます。課題内容に不満があるのではなく、あまり量が多いと、自習時間がその分取れなくなるという状態に不満・不安感があります。（法専2男）

〔回答〕

授業アンケートの結果は各教員に配布され、各教員において対応を考えています。もちろん、足りないところはあるでしょうが、この2年間、各教員は様々な工夫をしてきております。また提出課題は他の法科大学院に比べても決して多いとは考えていません。たしかに、多くの勉強量が要求されますが、ぜひ頑張ってください。

〔意見〕

- ・ 熱心で助かっている。（法専1男）

〔回答〕

どの教員も熱心ではありますが、まだまだ改善の余地はあるのではないかと考えています。好意的な声には慢心することなく、しかし、大きな励みにして、質の高い授業を展開するよう努力していきたいと思います。

〔意見〕

- ・ 教授によっては、授業評価が全く生かされず、本人にも改善の努力が見られない場合がある。（法専1女）

〔回答〕

集計の都合上、結果が本人に配布されるまでには一定の時間を要しますので、そのように感じることもあるかも知れません。同一の授業の場合、ご意見を活かすうるのは、結局、次年度の授業ということになります。ただし、教員は、アンケートの結果を真摯に受け止めて、その後の教育に役立てるよう対応しているところです。

〔意見〕

- ・ 専門職大学院を持った割には、就職（試験、社会实践）を強く意識した取組み（学校）や授業（先生）が乏しい。学者としての自己の位置づけに拘っている先生が多い。エクスターンに可能な限り枠を広げてほしい（他に比類ないほど）。よその大学では～はやってないという比べ方はせず（制度、授業とも）、成果に結びつくことなら、キャンパのある限り（学校、先生）やってほしい（具体的な管理は不要）。（法専2男）

〔回答〕

限られたリソースのなかで、最大限のことをやっているものと考えております。後はみなさんがそれをどのように活かし、自分のものにするかです。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関する事

〔意見〕

- ・ 未利用の広大な土地は外部に貸与したりしてはどうか。その収入で学習設備を充実して欲しい。法科大学院図書室の共用図書を増やして欲しい。（法専2男）

〔回答〕

土地の貸与は法科大学院ないし法学研究科の一存でできるものではありません。図書については、予算内で対応していますが、許される範囲内でさらに充実させるように努めます。

〔意見〕

- ・ 法科大学院の教室が狭い。新しく建設した建物を法科大学院専用にするべきであった。あの建物は誰が利用しているのか。法廷セットを常設できる教室を確保すべきである。ログアウトする度に学内パソコンに保存したWORD書類や個人設定が消去されるのは不便。サーバーに各学生用のスペース（最低でも5MB程度）を設けて、そこに個人のファイル、データが保存されるようにしてほしい。他の国立大ではそのようにしているところもあり、簡単に実現できるはずである。冬期に運動できる施設がない。冬期でも、学生が安く利用できる温水プール等の施設がほしい。他の国立にはこのような施設もあると聞いている。パソコンの問題同様、実現可能なのはである。学内に建設するのが無理であれば、学生が安く使える特別契約を外部のスポーツクラブと結んでほしい。教材センターの開室時間を早め、昼休みも開室し、閉室時間を遅くしてほしい。1限の始業時間より遅く開き、昼休みはしっかりととり、5限の終了前に閉まるのでは授業にまじめに出席している法科大学院生にとって不便。なぜ学生よりも教材センターの事務員の方が、活動時間が短いのか理解に苦しむ。また、開室している時間なのに、教材センターにいるはずの事務員がいないことが多い。教材センターの外でなんの用事もなくふらふらしている事務員の彼を複数回目撃した。休み時間に教材をとりいっても受け取れないこともあり、改

善してほしい。マクドナルドのアルバイト店員の方が安い時給で、もっとまじめに、愛想よく働くはずである。教材センターの事務員は高校生のアルバイトでいいのではないか。教材センターで扱っている学生の個人情報、せいぜい授業の履修記録くらいなのであるから、情報流出などを過度に恐れる必要もなかろう。法学部の教務課は、なぜ職員一斉に昼休みをとる必要があるのか。交代で休みをとればいいではないか。少なくとも私立大学ではそうしている。北大でできない理由はない。いつまでも国立の「役所」気分では困る。サービスの悪い職員の待遇改善を訴えるポスターをいくら貼っても、学生としては苦笑するだけである。大学が全体的に「役所仕事」になってしまっており、学生の利便性を考えて、施設・設備が設置・運営されていない。使えない施設・設備は新しくすべきだし、使えない職員は入れ替えるべきである。(法専2男)

- ・ 部屋によって設備に差があるのはいかなものか。(法専1男)
- ・ 自動販売機の設置を拡充して欲しい。(法専1男)
- ・ 法科大学院生は、平日・休日も学校に来ているし、夜遅くまで自習室で勉強していることが普通なので、それから考えると、法令判例資料室・図書館(研究書庫を含む)の開室時間が短いと感じられます。そこで、法令判例資料室は土日休日も開室してほしいと考えます。研究書庫は、深夜まで開室してほしいと考えます。(法専2男)
- ・ 自習室を頂いているが、本棚が人数分ないので、欲しい。パソコンのネットワーク環境が悪い。ログイン名義で、本体に保存、各種設定できないのは、現在のネットワーク設備として悪いと思います。図書館の本の版が古いです。書庫の利用時間を拡大してほしい。(法専2男)
- ・ 法科大学院の自習室は、人口密度が高すぎる。(法専1女)
- ・ 法科大学院の部屋替えを、一年に一度して欲しい。そしてその際に、掃除の業者を入れて欲しい。部屋によって居住環境が違いすぎる。(法専1女)

【回答】

以上のご要望の多くに応えるには、予算措置が必要になります。限られた予算の範囲内で最大限のことをしているのが現状であり、リソースに限りがある以上、お応えできない要望も多々あります。

なお、教材センターは、皆さんの教材を配布するだけではなく、教員の研究支援のために文献の調査とコピーもしておりますので、この点は特に誤解のないようにお願いいたします。そのため、教材センターでの配布は一定の期間ないし時間帯でおこなうことになっております。

また、事務部の教務係・学事係の窓口について、昼休み時間帯も一カ所はオープンにして、学生の対応にあたっております。

(意見)

- ・ 自習室が24時間使えて、概ね満足しているが、24時間出入り自由として欲しい。
- ・ 全般的に古いが特に不満はない。(法専1男)

【回答】

現在、研究室の利用は24時間可能になっています。ただし、夜10時以降は研究棟に外から入れなくなっていますが、これは庁舎の管理上の問題によるものです。また文系の場合、建物の構造上、一旦入るとどの学部にも行けることになるので、法学部単独で決定できる事項ではありません。さらにカードキー方式も考えられますが、これにも予算の裏づけが必要です。

(意見)

- ・ 法科大学院修了後司法試験までの間に大学施設を利用できるようにしてほしいです。(法専2男)
- ・ 大学卒業後、司法試験受験までの間の自習環境を確保してほしい。(法専3男)
- ・ 試験までの絶対時間が限られているのに、24時間自由に使えない(入室すらできない)のは非効率的。(法専2男)

【回答】

極力努力しますが、スペースの問題であるため、大変難しい課題です。

(意見)

- ・ 談話室がほとんど喫煙者専用になっているので、喫煙しない人が使える談話室が欲しい。(法専2男)
- ・ 22時以降に嫌煙者が集団討論する場所がない(自習室も102室も個々に勉強している人を無視するか否か、個人のモラルで判断せざるを得ず、逆に個人的に勉強している際に、集団討論されると目的の勉強ができない)。(法専2男)

【回答】

改修後は、禁煙談話室を設ける予定です。

3 経済問題（授業料、奨学金等）に関すること

（意見）

- ・ 法科大学院は他の研究科よりも高いが、応分の教育・施設サービスを望む。（法専1男）

【回答】

法科大学院の授業料は、学部、他の専攻、他の研究科に比べて年間27万円高くなっています。そこで、法科大学院では、少人数教育、添削、全員がTKCのロー・ライブラリーを使用できるなど、特別の教育体制がとられています。

なお、皆さんはご存じないと思いますが、実はこの27万円の差額は本学の予算編成上法科大学院の予算として使えるような仕組みとはなっておりません。国立大学の予算は年々減らされており、そのため、教員の研究費や出張旅費もここ2年で大幅にカットされました。そのようななかにあつて、法学研究科ではみなさんに少しでも良好な学習環境を確保すべく、最大限の努力をしているところです。

《お願い》

貴重なご意見を多数いただき、ありがとうございました。ただし、施設関係のご要望に応えるためには、予算的な裏づけが必要であり、他方、その予算には限りがあるととも、大学全体によって決められていることをご理解ください。授業の改善については、継続的に取り組んでゆきます。ただ、良い授業には多大な準備の時間が必要です。様々な用務を処理しながら授業を準備するなかで、準備が十分でない場合もありうるでしょう。そのようなときは、その都度、質問を含め率直な意見を出してほしいと考えます。各教員が直ぐに対応できない場合もありますが、法科大学院として、各教員が学生の皆さんの意見を受け止めて授業を改善する体制を今後とも整えていきます。

5 教職員の対応（応対等）に関すること

（意見）

- ・ 事務の対応を良くして欲しい。（法専2男）
- ・ 事務職員の態度が悪い。販売員とまではいわないが、最低限の接遇すらできていない人がいる。（法MC2女）

【回答】

窓口対応で学生の皆さんに不愉快な思いをお掛けし、申し訳ありませんでした。窓口対応について、対応の姿勢を反省し、このようなことがないよう一層の注意をします。今後は、窓口対応職員全員が言葉遣い並びに対応の態度を互いに注意し合い、学生の視点に立ったサービスが提供できるよう努力いたします。

1 教育・授業に関すること

学生諸君からの期待・要望事項は、大きく分けて次の3点に整理できます。

- ①カリキュラム体系全体に関わる不満・要望
- ②教員の教育方法や熱意に対する不満
- ③授業に関する情報提供の充実に関する要望

これらのうちもっとも多かったのは①ですが、これをさらに整理すると次の4点に区分できます。

- ①－a) カリキュラム全体に関する不満・要望
- ①－b) 開講科目数を増やしてほしいという要望
- ①－c) 授業形態に関する不満・要望
- ①－d) 授業内容に関する不満・要望

①－a) について：

経済学部は、総合大学である北海道大学を構成する一学部です。したがって、総合大学としての多様性と学部としての専門性の両方を生かした教育を行うことが求められています。主に1年次に多様性を生かした全学教育中心の、2年次から専門の授業を受けるという形は、そのような大学の理念に基づいています。専門科目は、2年次には経済学・経営学の基礎的な分野、3・4年次には応用分野という括りになっていますので、体系的な学習の目安にしてください。

①－b) について：

このような要望のあることは承知しています。そこで経済学部では、可能な限り多くの科目を開講し、専門教育をさらに充実する方向に向かって改善を図っています。また、開講科目のない分野のあることや、経済社会を様々な視点から理解することの必要性を考慮し、他大学の研究者による授業のほか、官公庁・企業・その他の組織の方々による、実践に基づく内容の授業も充実する方向でカリキュラムの検討を行っています。

教室の不足を始めとしていくつかの障害はありますが、北海道大学における経済学・経営学の教育・研究の幅を広げ発展させるためにも、さらに改善の努力を続けたいと考えます。

①－c) について：

経済学部におけるゼミナール制度は、少人数教育として、学部開設以来の伝統あるものです。また、全学教育科目の一般教育演習や専門科目の中の講読科目も、少人数教育を柱にしています。学生諸君には、これらの受講を生かす形で、あるいは、授業に関する質問等の機会を捉えて、積極的に教員と接する機会を作ることを勧めます。

ゼミナールは、3～4年次の2年間連続して受講するのが原則ですが、変更できないわけではありません。ただし、演習は、専門的な内容を深く掘り下げるとともに、卒業論文の指導を受ける場でもあります。そのため、変更の際には、3年次の演習内容を十分に考慮する必要があります。

①－d) について：

同一科目を複数の教員が担当する授業は、内容・評価についての教員間での大まかな共通理解の下で展開されています。しかし、専門性が高まるほど、基本的な事項に関しても研究者（教員）一人ひとりの見解が異なるということがしばしば起こります。授業内容や評価の極端な相違は改善すべきですが、多くの場合、違いは学問の礎となる多様性の反映です。この点を理解した上で、各科目の学習に取り組んでください。なお、成績評価については、全学的な改善の取り組みが進行しています。

大学での研究・教育は多様性を基礎としているため、授業も、特定の資格取得や就職を目的にしていません。それらを超える高度の知識の教授が主目的です。この点を理解した上で、経済学部で学んだことを、進路の決定や卒業後に生かしてほしいと思います。

②について：

学生諸君のニーズに真に応えることは、教育機関である北大の重要な使命ですから、教員の教育方法や教育に対する熱意については、北大全体で改善に取り組んでいます（教員を対象にした「教育方法改善プログラム」に基づく研修が毎年開催されています）。学生諸君による授業評価アンケートなどの結果も、各教員にフィードバックされていますので、事態は改善されつつあると考えます。しかし、学生諸君の多様な要望に十分に応えられていないところがあるの否めません。アンケート等の機会を利用して、要望や批判を今後もどしどしお知らせください。北大経済学部における教育の充実をさらに図りたいと考えます。

③について：

経済学部では、行事予定や時間割を、掲示板のほかにホームページでも公開しています。紙資源の節約なども考慮して、ホームページでの情報提供をさらに充実させたいと考えています。掲示も、より見やすくなるように工夫したいと考えます。

シラバスについても、学生諸君の意見を教員にフィードバックして、よりよいものにしたいと考えていますので、アンケートの機会などを捉えて要望をお知らせください。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

今回の学生生活実態調査の調査時点は平成 17 年 11 月でした。この時期には、経済学部・経済学研究科の研究棟が改修中であり、その影響で人文・社会科学総合教育研究棟（以下、W 棟と略す）および共同講義棟に通常以上の利用や人の出入りがあったため、教育研究環境が通常より悪化していたと考えられます。

しかし、平成 18 年 4 月からは改修された研究棟を利用できるようになり、環境が大幅に改善されました。したがって、ご意見やご要望の中で、改修時期に特有の状況に関するものと判断できるものを除いて回答することにします。

前回実態調査以降、W 棟の新築、さらには経済学部研究棟の改修を行い、本項目に関する改善に取り組んできましたが、今回実態調査では、特に、冷暖房設備とトイレの清掃についての不満がいくつか寄せられました。

暖房については、毎年 10 月半ばから 10 月末まで、朝晩 1 日 2 回の時間帯に試験暖房通気を行い、11 月 1 日～4 月末の期間は、講義時間帯（8:30～21:00）に本格暖房通気を行っています。通気時期・時間帯の決定については、本部施設部からの調査に基づいて決定されます。暖房開始時期を早める件については全学に共通する事項であり、本部施設部とも協議の上改善に努めますが、気温の変化に柔軟に対応するには、研究棟以外の場所ではオンオフの管理を集中化している設備上の制約があることをご理解ください。冷房については、W 棟の W103 および W310 講義室を除いて冷房装置が設置されていません。予算の厳しい制約の中で、すべての講義室に設置することは難しいと思われます。

トイレの清掃については、研究棟では、概ね午前 9 時半～10 時半にかけて、毎日 1 回行い、W 棟についても同様です。清掃が十分でない部分があれば、清掃委託業者には丁寧な清掃の徹底と改善を図るように指示しますが、清掃回数を増やしたり、消耗品を潤沢に補充することは、予算上の制約や利用マナー（例えば、トイレトーパーペーパーをロールごと持ち去るなど）の問題もあり、難しい面があることをご理解ください。

教室の照明設備の不調については、気が付いた時点で、経済学部会計係に連絡してください。教育環境の改善については、利用する各人の意識を高め、協力することが重要です。ご協力をお願いします。

7 就職に関すること

現在、経済学部では、春と秋に「就職ガイダンス」を行っています。この 2 回のガイダンスでは、就職活動に入る前に知っておくべきことや考えておくべきことを伝えたいと考えています。就職活動ではどのようなスケジュールになり、どのようなことを行うことになるのか、そのための準備はどうすればよいのかなど、基本的ですが重要な情報を提供します。北大には、キャリアセンターがあり、各種のセミナーや企業紹介、個別相談など充実したサービスを提供しています。ガイダンスでは、このキャリアセンターとも連携してその利用方法や提供するサービスの情報をお知らせしています。

ガイダンスに対しては、面接での対応やエントリーシートの効果的な書き方など具体的な項目について教えてほしいという要望も多くみられます。面接でのマナーやエントリーシートにはどのようなことを書くのかを知っておくことは必要ですが、その面接で話す内容、エントリーシートに記入する内容が重要であり、それらは個々人により異なるものとなります。そのため、就職活動では、各人が自分の過去を振り返り、現在を知り、将来を考えることが求められます。このような事前の準備は早めに始めている方がよいでしょう。ガイダンスは、主に 3 年生を対象としています。2 年

生が参加しても問題ありません。ガイダンスで就職活動とはどのようなことなのかをまず知ってください。

キャリアセンターで提供する各種セミナーでは、適性、自己分析、面接対策、企業セミナーなどの多様な内容があります。こちらの方もどのような内容があるかをガイダンスでも紹介していますので、年間スケジュールを把握して、ぜひ活用してもらいたいと思います。

【 大学院 】

1 教育・授業に関すること

学生諸君からの期待・要望事項は、大きく分けて次の2点に整理できます。

- ①カリキュラムや授業内容に関する要望・不満
- ②教員の教育・指導方法や熱意に対する要望・不満

①について：

カリキュラムについては、大学院大学にふさわしく、かつ、研究者養成・高度職業人育成、社会人ブラッシュアップ教育等の多様な社会的要請に応えられる体系性と実施体制の整備・充実を図っています。真に魅力ある大学院教育を実現するためにも、引き続き学生諸君の要望をお知らせください。

②について：

教員の教育方法や教育に対する熱意については、北大全体で改善に取り組んでいます（教員を対象にした「教育方法改善プログラム」に基づく研修が毎年開催されています）。また、経済学研究科でも、専門職学位課程では、専門職養成に相応しい教育方法改善の試みが行なわれています。しかし、学生諸君の多様な要望や大学院教育に対する多様な社会的期待に十分に答えられていないところがあるのも否めません。よりよい教育・研究指導の実現のために、今後も様々な機会を捉えて、学生諸君の要望や批判をお知らせください。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

今回の学生生活実態調査の調査時点は平成 17 年 11 月でした。この時期には、経済学部・経済学研究科の研究棟が改修中であり、その影響で人文・社会科学総合教育研究棟および共同講義棟に通常以上の利用や人の出入りがあったため、教育研究環境が通常より悪化していたと考えられます。しかし、平成 18 年 4 月からは改修された研究棟を利用できるようになり、環境が大幅に改善されました。したがって、ご意見やご要望の中で、改修時期に特有の状況に関するものと判断できるものを除いて回答することになります。

平成 17 年度の研究棟改修にあたっては、大学院生の研究スペースの確保を優先的に図りましたが、会計専門職大学院の設置に伴う教員と大学院生の増加もあって、依然として不十分な状態にあることはご指摘の通りです。経済学部・経済学研究科の研究教育環境は、最も基本となる設置基準面積について、北大全部局の中でも最低水準にあり、必要面積より 20%以上不足しています。従来その改善を北大本部に要求していますが、一向に進展が見られません。今後も引き続き改善を要求していき

ます。今回の調査で最も要求の多かった 24 時間利用可能な研究スペースに対する要望については、予算と防犯面の制約から実現の方向には向かっていません。現在の午後 10 時に退出という制限を、もう少し緩やかに運用できないかを検討したいと考えています。学生諸君には、図書館、共同講義棟 2 階のロビー・スペースや研究棟 2 階の情報処理室などを有効に活用し、また居室で勉強するなどの工夫することをお願いします。

研究室の冷暖房については、研究棟改修に伴い各研究室に個別の冷暖房装置が設置され、すでに改善されています。情報機器に関連する要望についての回答は以下の通りです。

まず、研究棟の改修前に一部の院生室で 10Base/T となっていた理由は、平成 9 年度に院生室に HUB を設置以降、予算上の制約から、HUB は故障しない限り交換できなかったからです。改修後は、全て 100Base/T の HUB に切り替え済みで、10Base/T のハブは既に廃棄されています。また、1 年に 1 度、年度末に、院生の不用 IP アドレス/DHCP 登録の削除を行っています。個人情報保護の観点から、今年度から①IP アドレス表の掲示は廃止し、②院生名簿（例年 5 月頃に教務より入手）を照合し、③学籍がなくなった院生については IP アドレス/DHCP 登録の削除、という方式に切り替えています。院生個人が所有している PC の管理（ウィルス情報の入手・対策含む）は、所有者の自己責任の下で行うことが原則です。ウィルス警告の掲示は、一般的な注意喚起のためになされているに過ぎません。現在、院生の IP アドレス/DHCP 登録者数は約 120 名で、その多くは北大ドメイン以外の民間プロバイダ・アドレスを含み、しかも入学、

卒業、その他の理由で、変更が頻繁になされています。このため、院生全員のメールアドレスの管理は実質的に不可能で、全院生ユーザにメールでお知らせを出すことは考えていません。

10 その他

教員人事のあり方に失望しているという趣旨だと思います。大学院、特に、博士後期課程修了者の就職の問題と受け止めて、説明とお願いをしておきます。教員人事は、研究科の長期的な戦略にとって極めて重要で、故に厳粛なプロセスを経ることが要請されます。予定される教育研究分野に適合する最も相応しい人材を発見・発掘するために、時間を掛け様々な努力をします。関係分野をもつ国内外の大学や研究機関に公募することが基本です。そうした努力、また、大学院重点化の影響などもあり、近年では応募者は多数にのぼります。そのような中から、最終的に1名が選考されることになります。これはどの大学・研究科でも同様の状況である推測されます。それだけ厳しい競争の中から選考されるためには、第一に、高い水準の研究業績を数多く上げることが必要です。高等教育機関の教員や研究機関の研究員となるためには、このような競争に耐え得るように日頃から、切磋琢磨していただけることを願っています。

理 学 部 · 理 学 院

【学部】

1 教育・授業に関すること

(意見)

- ・ 授業のコマ数が少ないと、勉強していないようで不安になる。ほとんど授業が取れない日を作らないでほしい。(理3男)
- ・ 主に学部専門教育に関することだが、授業開催コマ数が少ない時は、授業を特定の曜日に集中させて欲しい。例えば、授業コマ数が1ケタしかないのに、月曜に1コマ、火曜に1コマ…といった具合に授業が分散して存在するため、全ての曜日に学校に来なければならない、ということがある。ある曜日に1つしか授業が無いと、そのためだけに学校に行くのが馬鹿らしくなり、意欲が減退する。特定の曜日に授業を固め、全く授業が無い曜日を作った方が効率的であるし、学生のやる気も上がると思う。(理4男)
- ・ 1年次の専門科目が少なすぎる。(理3男)
- ・ 専門授業でも、担当教員の研究分野の概論をしているようなものも多く、自分がこれから研究をしていく上で必要となるような基礎的な授業を進めてほしい。(理2男)
- ・ 大学1～3年までをもう少し縮めて、4年の研究を早めに着手したい(理学部)。友人は相当鬱になっていた。1～3年までがちゅうぶらりんすぎるためだ。ある程度現実というか、専門性のあることを実際自分の手で早めに体験したかった。(理3男)
- ・ もう少し専門的なところをやってもいいと思う。(理3男)
- ・ 一般教育科目やゼミのように、少人数の授業をもっと増やして欲しい。全学的に他学部でも履修が可能な科目を増やして欲しい。教職科目において目立つことだが、あまり使わない教科書を買わせるのは避けて欲しい。そういう教科書は大抵、担当教官が書かれたものであったりするが、あまり使わないのであったら一部をコピーして配るなどの方法を取って欲しい。(理3女)

[回答]

貴重なご意見ありがとうございます。カリキュラム改正の際の参考とさせていただきます。

なお、大学の授業単位は、大学設置基準で「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする」と定められています。これは、授業のみならず、授業時間以外の学修（自学自習）も前提とした内容をもって構成されます。このため、高等学校等に比べると、授業のコマが少なくなっています。それを踏まえた上で学修し、余裕があるようでしたら、他学部他学科専門科目、全学教育科目、国際交流科目等の履修や、インターンシップ、ボランティア等への参加も有意義ではないでしょうか。なお、大学の授業は選択科目が多いため、授業がある曜日講時に集中するか分散するかは、どの科目を選択するかによっても異なります。

(意見)

- ・ 将来、社会に出ることを想定した授業を教養でも学部でも開講してほしい。人生設計をしていく上で参考になりたい。大学の勉強だけでは社会に出ても通用しないことが多い。(理3男)

[回答]

具体的にご提案いただけると幸いです。

(意見)

- ・教授によって非常に乱雑な授業を受けることがある。系統立てられていない、説明が下手など、学生のほうがまだ上手に説明できるのでは,, , と思ってしまうような講義さえある。その期の最後の講義でアンケートを取るようになっていたのかもしれないが、まったく徹底されていないように感じる。各教授がしっかりシラバスにのっとって、系統立てて、学生がまだ知らないことをきちんと教えるのだという、当たり前の考えを持って教壇に立つことを徹底してほしい。そうしなければ今後も落第者の発生は免れられないと思う。(理3男)
- ・後期が始まって、まだ二回しかない講義がある。学会や出張が理由だとは言え、こういったことはあらかじめわかっていることではないのか？そういった仕事や研究の忙しさにかまけて、我々学生は蔑ろにされてはいないか？やつつけ仕事のような気がする。また、椅子にばかり座って受ける講義や専門の実験だけではなく、また全学科目だけではなく

学部にも、もっとほかの体験型の講義を置き、自由に選択できるようにしてはいかかが。たとえば、北キャンパスにはおそらく何にも使われていないだろう畑があるが、そこを耕し、作物を育てることは不可能なのだろうか？一年間通して農業の大切さ、大変さ、自然の厳しさ、実りの喜びなどを体験することはできないだろうか？その後には、できた作物を生協や食堂に卸し、観光客などに振舞うなどすれば、北海道・全国で叫ばれている”地産地消”を促す運動につながり、北海道の最高学府として先陣を切って取り組むべきではないだろうか。他大学や企業と連携して、より生活に密着した事業を行うことはできないだろうか。(理2男)

- ・ やる気が無い教員、一人よがりの教員の授業をなんとかして欲しい。アンケート等はあるが、改善しようという意思を見受けられない教員が若干いると思う。難しい問題であるとは思うのだけれどあと履修登録、進級・卒業要件はもっと融通がきくようにはならないものか。(理2男)
- ・ 教員によっては研究のほうが重要だと言っていた方がいて、授業が等閑である様に感じることもあった。学生はその分意欲もなくなるし、それが目に見えてわかる授業があった。一方熱意のある先生の授業には学生の授業態度も変わっている。(理2女)
- ・ 授業に対してあまりにもやる気の無い教員がいて、非常に良くない。(理2男)

[回答]

大学の授業では、教員からの一方的な熱意に期待するのではなく、自らが授業に参加するという学生自身の意識と行動が重要です。学生からの反応が鈍く、授業が教員から学生への一方向性のものになると、教員のやる気も薄れ、教員・学生の双方が共に熱意・意欲を失ってしまうでしょう。決して受け身とならず、能動的に授業に参加するよう心がけましょう。授業の雰囲気を決める講義のスタート時が特に重要です！また、授業に対して不満な点があれば、それを直接担当教員に指摘すべきです。もちろん、大学としてもFD研修・講習、新任者研修の実施や授業アンケート等を通じて授業改善に努力しています。なお、理学部専門科目は理学を学ぶ上で必要とする専門科目です。他の分野については、全学教育科目や他学部履修をご利用下さい。また、提案の一部は、授業というよりもボランティア活動や企業でのインターンシップのほうが有意義で実質的でしょう。

(意見)

- ・ 講義の他学部履修の制限を弱めて欲しい。(理3男)
- ・ ほかの学部などの授業をもっと受けやすいように情報を公開してほしい。(理2男)
- ・ 授業は予備校のような感じがすると思った。きちんと学科によって特化された授業であるということは知らなかった。(たとえば、数学科はほぼ数学の授業だけ)それが大学の授業というものなのだろう。(理2男)

[回答]

他学部履修は、卒業要件単位に算入することができる単位数は制限がありますが、他学部履修すること自体には制限はありません。なお、その科目の他学部履修を認めるかどうかは、講義室や授業・実験等の受入可能状況などにより異なります。科目の情報については、全学部のシラバスがHP上で公開されていますので、そちらを参照下さい。

(意見)

- ・ 専門科目のシラバスがまったく授業内容を示していないし、そもそも配られていない。(理3女)

[回答]

大学教育という特質上、シラバスが当該科目についての理念等的な説明となる場合があります。できるだけ履修科目を選択する際に参考となる内容とするよう、周知いたします。なお、シラバスはHP上で公開しているため、冊子状のシラバスは配付していません。

(意見)

- ・ すべての授業において出席をとらないようにすべきだと思う。たしかに基礎や根底を理解していないと進めないのが学問ではあるが、もう大学生なのだし自分でできると判断した上で出席していないのであるから特に考慮する必要はないと思う。授業に出ていないからといってテストを受けられないというのはもってのほかである。(理2男)
- ・ 評価の基準が教員によってまちまちであるので透明性を確保してほしい。(理2男)

[回答]

学修すべき事項の全ての学修状況を、試験のみで判断しているとは限りません。成績評価については、絶対評価と相対評価によって異なりますが、一定の基準の下で行われており、成績分布状況がHPで公開され

ています。

(意見)

- ・ 学科の研究室の教授が退官するとき、その後の研究室のテーマなどがどうなるのかを早めに掲示などで教えてほしい。
(理2男)

[回答]

最近、制度上の理由で教員が退職しても、すぐに後任教員を採用できない場合がよくあります。また、後任者の具体的人選にも時間を要します。そのため、新しい研究分野(テーマ)を皆さんにお知らせするまでに、一定の時間を要してしまうのが現状です。

(意見)

- ・ 学部生(1,2年生)でも気兼ねなく研究室を訪問できるような環境を作って欲しい。縦のつながりが無いのが寂しい。(理2女)

[回答]

気軽にご訪問下さい。また、学科探検や学科分属ガイダンスを積極的に利用してください。

(意見)

- ・ 学部の中で自由に進路(専攻)を変えられるような仕組みになってほしい。(理2女)
- ・ 学科分属について全員が希望の学科にいけるようにしてほしい。(理1男)

[回答]

学科分属は系統立った学修を行ってもらうための仕組みです。分属までは、色々な分野に触れられるようなカリキュラムとなっていますので、この間に、自分の興味や将来の目標を確認しましょう。なお、転学科の制度はありますが、いくつかの満たすべき条件や面接等があります。また、認められた場合でも卒業が遅れることがあります。また、分属先は、できるだけ本人の希望に添うようにしていますが、各学科の実験・指導等が可能な人数を超えた場合は、難しい状態です。

(意見)

- ・ 学部4年時の研究室移行の人数制限について、一律何名以内ではなく、各研究室が受け入れ可能人数を設定すべきだと思う。その人数制限で希望研究室に入れず、1年を無駄にした結果、研究の道をあきらめる例を見たため。(理DC1女)

[回答]

大学はいろいろな分野の人材を育成する義務を負っています。したがって、学生をいろいろな研究室に一律に配属しなければならない面があることは否定できません。一度、所属する学科の先生に、学科としての研究室配属に対する考えを伺ってみて下さい。

(意見)

- ・ どんな人材を育てようとしているのかビジョンがみられないような気がする。そのため、自分で勉強することが多い。
(理4男)
- ・ めるすぎる(理4男)

[回答]

大きくは本学の「基本理念と長期目標」のとおりです。HPをご参照下さい。なお、大学における学修は授業及び自学自習が基本であり、授業計画も自身で立てていきます。自由度が大きい分、結果も自身の選択に左右されるという厳しさがあります。

(意見)

- ・ 全学だけでなく、学部専門の休講情報、事務的な掲示をネットを通じて閲覧できるようにしてほしい。(理3男)
- ・ 学部の休講情報もネット上に公開してほしい。(理3女)
- ・ 時間割や休校などの情報をインターネットで確認できるようにしてほしい。(理4男)

[回答]

本年度から、休講情報や重要な情報については理学情報システムによりインターネットを介して閲覧することができるようになりました。なお、他学部の学生、理学部1年生は閲覧できませんので、掲示板を見て

下さい。

(意見)

- ・ 便覧など、各種資料が見つづらい。理解しやすい内容に直すべきだ。(理1男)

[回答]

改善に努めていきたいと思います。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

(意見)

- ・ 教室によっては非常に寒い教室があるので(特に古い教室)、できれば改善してほしい。(理3男)
- ・ よく言えば歴史のある建物であるが、内部は時代に合わせて改装してほしい。トイレだけはどの建物もきれいにしてほしい。(理3男)
- ・ 老朽化してきている施設を建て直してほしい。学生が自由に勉強出来るスペースを増やしてほしい。(理2女)
- ・ 理学部の教育設備を向上させて欲しい。(理2男)
- ・ 一時期膝を怪我したときに古い校舎だと洋式トイレがなくて困ったことがある。あと、全学教育の教務は学部学生の教務に比べ対応が良くないように感じる。(理2女)
- ・ 古い建物の暖房設備を改善して欲しい。せめて窓が一枚しかないところは二重窓にするなど。(理5男)
- ・ 理学部6号館と理学部2号館を連絡通路でつないで欲しい。中央食堂(生協)でキリンガラナを販売して欲しい。(理2男)
- ・ 私が現在までに使った施設はどれも立派なもので、恵まれていると思う。(理4女)
- ・ 小樽商科大学に行った人からは、羨望のまなざし。(理2男)
- ・ 特に使わないのでわからない(理4男)

[回答]

貴重なご意見ありがとうございます。施設改善の参考とさせていただきます。キリンガラナは生協に要望して下さい。

(意見)

- ・ 個人で使えるロッカーが欲しい。(理2女)

[回答]

個人用ロッカーの設置にはロッカーを置くスペースをどのように確保するかという大きな問題があります。スペース管理は各学科で行っていますので、必要理由を明確にした上で、所属する学科の先生と相談してみてください。

(意見)

- ・ 理学部にも文系棟にあるようなワークステーションを設けて欲しい。(理3女)

[回答]

各学科に情報端末室がありますが、ワークステーションが必要な場合には、端末室管理者に相談下さい。

(意見)

- ・ 顕微鏡等の実験設備が人数分ない。高い学費を取っているのだから当然買うべきである。(理3女)

[回答]

実験設備については、分野等の事情によって異なりますが、予算の中から優先順位を付けて充当しています。特に実験等に支障がある場合には、担当教員に相談下さい。

(意見)

- ・ 1限はよいが5限にもなると明らかに環境が悪い。これは明らかに場を提供している側の怠慢である。環境が劣悪であれば授業の効率もさがる。これくらい小学生でもわかって、給食後のゴミ拾い等を行っているのにそれを怠っている大学側には全く誠意が感じられない。せめて2限から3限までの昼休みのときと5限終了後に簡単なものでもいいので掃除を入れるべき。(理2男)

[回答]

清掃は毎日行っていますが、5限になると環境が悪いというのは、残念ながら皆さんの一部が施設をきれいに使用していないということだと思います。食後（給食後）のゴミ拾い等は大学が行う業務でしょうか？ゴミを出した方が片付けるべきと考えます。また、清掃を1日に数回行うということは、それだけ経費がかかるということです。大学としては、皆さんに施設をきれいに使用してもらうことで、清掃に係る経費を教育を充実するための経費に充当することが重要と考えていますが、皆さんはいかがでしょう？

5 教職員の対応（応対等）に関すること

（意見）

- ・ 学部の事務室の昼休みが、講義の昼休みと重なっていて不便なので、30分でもいいからずらしてほしい。図書館の本をどこで返してもいいようにして欲しい。（理3女）
- ・ 事務室の窓口の昼休みを学生の昼休みとずらして欲しい。窓口が開いている時間が今のままだと、履修届けを出すときなど、授業や実験を抜け出したりしなくてはならない。（理3女）

[回答]

同様の要望が多数ありましたので、教務係・大学院教育係窓口を昼休みも開けるようにしました。ご利用下さい。

（意見）

- ・ 事務室の対応を親密にして欲しい。（理2男）
- ・ 学科の事務の学部生への対応が不親切。学業に関する説明が不十分。（理3女）
- ・ 北大の職員は怠慢であると思う。仕事にやる気を感じられない。能力とやる気のある人材に徹底した教育を行って欲しい。また、保守的な感じがする悪く言えばお役所ものもっと大学を色々変えていこうする姿勢を前に出して欲しい。事務へ行く度イライラする。（理2男）
- ・ 事務の対応が適当である場合がある。（理2男）

[回答]

不注意や怠慢な学生には注意しますが、多くの事務職員は、親切・丁寧な対応を心がけており、あなたがそのように感じる対応があったことは非常に残念です。基本的ルールから外れない妥当なものであれば柔軟な対応をとっています。もし、保守的と感ずることがありましたら、その都度ご指摘ください。

【 大学院 】

1 教育・授業に関すること

（意見）

- ・ 授業が難しすぎてついていけません。勉強不足といえばそうかもしれませんが、生徒に何かを教えるというのが授業なのだとしたら、もう少し丁寧でわかりやすい講義でもいいのではないかと思います。（理MC1女）
- ・ もうすこしわかりやすい授業をして欲しいと思うような先生もいる。（理MC2女）
- ・ 授業を受ける側にもその姿勢等の問題があるとは思いますが、授業内容やそのやり方にももう少し工夫をして欲しいです。例えば、この分野の話がいかに面白いかなど、教える側がいかに面白そうに話をするかで、授業に対する理解度が大きく変わると思います。（理DC3女）
- ・ 学生の側からみると全般的に大学院教育の質は、学部の時と同様に余り良いとはいえないと思う。もう少し、学生に対して動機付けをうまくできるようなやり方を考えてほしい。（理MC1男）
- ・ 大学院講義を行う人の意識が低い。そのため、授業の展開が非常にわかりにくい人が多い。講義を受けていて「やれと言われたからやっている」と感じさせる人がいる（理MC1男）
- ・ 予備校の先生に授業して欲しい。（理DC1男）
- ・ 大学院大学とは言っても、学部生への教育を十分行うようにして下さい。（学部の専門の授業にやる気のない先生が多過ぎます）（理MC2女）

[回答]

大学は、受動的に手取足取り教わる「生徒」であった初等中等教育とは異なり、自発的・主体的に学ぶ場です。授業は双方向的に成立するものですから、聞き取りにくい言葉や読みづらい板書などを含め、不明な

箇所や分かりづらい説明があれば、教員に、その場で直接、積極的に質問してください。

なお、大学としても、学生のやる気を引き出すような分かりやすい教授法、ICTを活用した教授法等について、創意・工夫することを目的としたFD（ファカルティー・ディベロプメント）「教育面に関する教員研修」を実施して、学生に対して分かり易い授業を目指す等の取り組みを続けているところです。当該取り組みが具体的な授業及び全ての授業に反映されるには、多少の時間がかかると思いますが、徐々に改善の方向に変わりつつあると考えております。また、高等学校までの学習歴が特に多様化した理科教育については、多くの教員が、研究活動の成果を迫られている多忙な時間を割いて、数年がかりで現代の状況に応じた未履修者にも分かりやすい教科書の編纂・選定なども行ってきていますので、教員の取り組みと努力にもご理解をいただきたいと思います。

（意見）

- ・ 学生に特許や企業の利権に関わる仕事ばかりさせて、学術研究がさせてもらえない。教官の下請けをただ働きさせられているだけで、研究指導や就職の世話などは全くしていない。大学は教育機関ではないのか？（理DC3男）

【回答】

研究指導の内容・在り方に関する問題の場合は、研究計画そのものの相互理解に関する専門的内容を含むことが多いので、先ず専攻の学生委員又は教務委員の先生に相談してください。それでも解決が困難な場合は、高等教育機能開発総合センターの「学生相談室」等にも相談できるシステムがあります。

（意見）

- ・ 本人の興味をつぶすような指導をしないこと。研究第一主義という口実で学生の生活を拘束するような指導をしないこと。修了させないと脅して無理やりに研究させるような指導をしないこと。特に理系研究室では、上記のようなアカデミック・ハラスメントが横行している。毎日12時間以上研究室に拘束され、教授に従わなければ嫌がらせや脅しを受ける。こういった状況を何とかしてもらいたい。明るみに出ないだけで、こういったストレスを受けている大学院生はたくさんいると思う。セクハラだけでなく、こういった問題にも対策室を立てて取り組むべき。（理MC2男）
- ・ 研究室により方針が異なり、先生の強権が通るままになっていることもあります。ひたすら卒業するために耐えている学生も多いと思いますが、大学として何か救済策を考えてもらえないでしょうか？先生同士のいがみ合いなどを目にすることも多く、学生の立場としては困ることも多々あります。（理MC2女）
- ・ 教官の人間指導をしてほしい。どの程度、個々の教官は指導する学生の活動や生活に対して介入していいのか？あまりにも自分にとって不利益かつ理不尽であると感じられる干渉をうけたことがある。（理MC1男）

【回答】

「ハラスメント」について、大学全体としては、従来、セクハラに偏した対策となっておりましたが、この度、アカハラ・パワハラを含むハラスメント全体に対する相談体制として充実させる方針を決定しました。ご遠慮なく相談員にご相談ください。なお、別途、何でも相談できる「学生相談室」システムもあります。

（意見）

- ・ 大学院生が実際に実験に役立てれる授業の存在をもっと知りたい。（理MC2女）
- ・ 実験等を行う上で必要な知識や技能を教える授業が欲しい。（理MC2男）

【回答】

修士課程の修了要件は、①在学年数②所定の単位③研究指導及び④修士論文の4項目が定められています。本件の要望はカリキュラム再編の時に参考とさせていただきますが、大学院における実験等は、研究指導と一体的に行われる場合が通例ですので、先ず研究指導担当教員と相談してください。

（意見）

- ・ 大学院で英語の授業を開設してほしい。（理MC2女）
- ・ 語学の授業を質・量とももっと充実させてほしい。（理MC1女）
- ・ 学部生から英語で授業を受ける、課題を英語にする。大学院生の留学義務化・研究費申請のための教育・論文指導の徹底。（理DC1男）

【回答】

どのような内容の英語教育を希望しているのかが不明確ですが、本学言語文化部が大学院生をも対象としたさまざまなレベルの外国語教育にとりくんでいます。改善の要望は具体的に提案してください。

（意見）

- ・ 大学院の履修登録の電算化。教職などの単位の読み替えもすべて電算化し、ホームページなどで詳細に公開してほしい。また、過去の講義名が、今現在のどの講義名に対応しているのかなども掲載してほしい。後期に履修する予定だった教職講義の読み替え先の講義が、事務の手違いで実は前期の講義であり、履修できない状況になった。日本全国で統一的な単位認定制度を作るべき。また、少なくとも基礎科目についても全国統一基準を作った方がいい。必修科目などは同じ講義名でも教官によって内容が違う上に、クラスによって講義を指定されてしまうので良くない。全体的に単位認定基準を厳しくした方がよい。それと同時に第三者的な視点から講義の内容を評価するシステムも作る必要がある。学生、教員の両方の質を上げる必要があるからである。大学教授というものには、研究だけではなく、次の世代を育てる社会的責任があるはずである。（理 DC 2 男）

【回答】

具体的な多くの提案をいただき、有り難うございます。大学院の履修登録の電算化については、実施に向けて検討中です。しかし、「教職講義の読み替え先の講義が、事務の手違いで履修できない状況になった」とありますが、DC 学生は教職課程から見れば既卒者ですから履修条件については「科目等履修生」と同様に対応せざるを得ません。もし本件事例が「教科に関する科目」の不足単位に係る履修であれば学部の授業科目ですから、実行教育課程表においてあらかじめお断りしてあるとおり、開講期等（主たる対象学年等）は当該学期の事情により変更されることがありますし、カリキュラム自体の改訂に伴う読替措置の場合は従前の開講予定学期と異なる可能性がさらに強まります。又は「教職に関する科目のカリキュラム及び開講計画の変更」に伴うものであれば「説明（改訂見込みの情報を含む）」が不十分であったものと思われませんが、教職課程に関する全学的な変更計画について 6 ヶ月以上前に学部の担当者が把握することは困難場合がありますのでご理解願います。また、教職課程に関する電算化の実施については、個別の単位修得状況及び学習歴に応じた複雑な判断が必要ですので、実現のためには、克服すべき多くの課題があることをご理解願います。さらに、教職免許の日本全国統一的な単位認定制度については、本学レベルでは解決できない問題です。単位認定基準を厳しくする件及び第三者的な授業評価システムの件については、貴重な意見で、良いアイデアであると思いますが、実現に向けてはかなり問題があるように思います。

（意見）

- ・ 学生だけでなく、各教官同士もしくは第三者が授業をチェックするなど、別の評価基準を設けるのも良いと思う。いくつかの授業には時間の無駄を強く感じるがあった。（理 DC 2 男）

【回答】

第三者的な視点による授業評価システムについて全国的に検討されつつありますが、公平性・透明性の確保、適任者の選定、経費等多数の問題がありますので評価システムの検討には時間を要するものと思われます。

（意見）

- ・ 研究者と教育者を別けても良いと思う。素晴らしい研究者が素晴らしい教育者ではない。（理 MC 2 男）
- ・ 有能な教員の採用、無能な教員の解雇。広域な研究領域（分野）の確保（理 DC 4 男）
- ・ 教員の教育指導をしてくれ。大学教員は研究職と教育職をかねていることがわかってないジジイがおおすぎる。（理 MC 2 男）
- ・ 授業を行う教授達がお互いにどのような内容、進捗で進めているのかを確認しながら行って欲しい。現時点では全く連携が取れていないように思われる。また、教授によっては自分の研究のみに依存しており、学生や授業のことをないがしろにしている者もいる。教授に対して定期的に検査やセミナーを開き、より良い教育環境を整えて欲しい。（理 MC 2 男）
- ・ 不評であった先生は外してほしい。冬期は教室の空気が悪い。（理 MC 1 男）

【回答】

大学としても、学生のやる気を引き出すような分かりやすい教授法、ICT を活用した教授法等について、創意・工夫することを目的とした FD（ファカティー・デベロップメント）「教育面に関する教員研修」を実施して、学生に対して分かり易い授業を目指す等の取り組みを続けているところです。当該取り組みが具体的な授業及び全ての授業に反映されるには、多少の時間がかかると思いますが、徐々に改善の方向に変わりつつあると考えております。また、高等学校までの学習歴が特に多様化した理科教育については、多くの教員が、研究活動の成果を迫られている多忙な時間を割いて、数年がかりで現代の状況に応じた未履修者にも

分かりやすい教科書の編纂・選定なども行ってきていますので、教員の取り組みと努力にもご理解をいただきたいと思います。

(意見)

- ・ 実学を目指している様子が全く見られないのは悲しき事です。授業はそもそも自分の研究内容やその分野の経緯を発表する為のものでしょうか。私は、実際に現実として活かされている内容を見なければ理解できないと考えます。具体的に、数学で数式を扱うとして、その数式の意味、利用価値などを念頭において実際にやらせてみたり、見せてあげれば良いのです。なぜ大人になると授業中の作業がなくなるのでしょうか、なぜ大人になるとノートにとるだけの授業で良いのでしょうか。内容が広範囲にわたるのはわかりますが、使えずにすぐ忘れるような内容を展開してみても何の足しになるのでしょうか。例え一つでも使える技術、内容を身につける事が学ぶと言う事なのではないのでしょうか。小、中、高と大学は違うのはわかりますが、あまりにも理解されない内容を展開している事には将来の危機を感じます。しかし、先生方が忙しいのも理解できます。この際、教師と研究を分業するスタイルを確立すべきであると思います。(理 MC 2 男)

[回答]

研究指導の内容・在り方に関する問題の場合は、研究計画そのものの相互理解に関する専門的内容を含むことが多いので、先ず専攻の学生委員又は教務委員の先生に相談してください。それでも解決が困難な場合は、高等教育機能開発総合センターの「学生相談室」等にも相談できるシステムがあります。

(意見)

- ・ 閉鎖的な研究室体質を是正してほしい。自分の研究活動が社会の発展につながるのだという実感が薄い。企業や他大学との交流を増やし、外部から刺激を受ける機会が増えればよいと思う。授業に関しては、学生の理解度を把握しない一方的な講義が多いと感じる。研究活動ではなく、教育に全精力を注ぐ教員がいてもいいのでは。(理 MC 2 男)

[回答]

教員の一方的な授業にならないように、自分自身が理解していない箇所について、担当教員に直接質問しては如何ですか。積極的な質疑応答や意見交換があり、時には即答できないような鋭い質問を受けることを先生方は望んでいます。

(意見)

- ・ 理系であれば、教科書の内容をただ教えるだけでなく、応用を考えた上での教育をしてほしい。例えば、ある公式があつて、その公式をどういう場面で使う必要があるかなど。(理 MC 2 男)

[回答]

本学理学部・理学院の教育において、「教科書の内容をただ教える」教育は考えられませんので、当該教員に質問等をしてください。それでも納得できない場合は、教務委員の先生に相談してください。

(意見)

- ・ 大学院に入ってから授業は、あまり役に立ってはいない。(理 DC 3 男)

[回答]

何にとつて「役に立っていない」と言いたいのか分かりませんが、特に理学（ピュアサイエンス）領域において、研究成果と自然・社会等との関連がリアルに認識されるには時間を要する場合は多いことはご承知のとおりだと思います。DC 3 年生ですから、自分自身の研究活動についての意味を確認できない場合は、先ず、指導教員と討論してみるべきではないでしょうか。

(意見)

- ・ 北大の教育では才能が伸ばされていない。(理 DC 2 男)

[回答]

貴方が主張し伸ばしたいと思っている「あなたの才能」とは何でしょうか。また、「北大の教育」とはどのレベルの何を指摘したいのでしょうか。DC 2 年生ですから、「研究指導の在り方」が主たる問題であるならば、先ず指導教員と討論すべきです。

(意見)

- ・ 無駄な必修授業が多い。(理 DC 1 男)

[回答]

博士後期課程のカリキュラムは、学位論文の作成をめざす研究指導と直結した授業科目しかありませんので、他の課程について指摘したいのであれば、具体的・論理的に展開してください。博士後期課程学生の問題提起の在り方として遺憾に思います。

(意見)

- ・ 専門に関する講義が少なすぎるので教員を増やす等して開講数を増やして欲しい。(理 MC 2 男)

[回答]

専攻の指摘がないので具体的な趣旨がわかりませんが、先ず当該専攻の教務委員の先生に相談してください。

(意見)

- ・ 授業のノートを PDF にして配布していただけたらよかったと思います。(理 MC 2 男)

[回答]

そのような場合は、直接担当の先生に「配付」を願い出してみるべきでしょう。(貴方は自分の希望を先生に伝えることに障害がある方ですか。ただし、コミュニケーション能力の十分ある健常者の要求としては疑問があります。)

(意見)

- ・ 教科書高い。(理 MC 1 女)

[回答]

残念ながら、専門書は発行部数が少ないために高額とならざるを得ないものが多いですね。グチ的には共感できます。

(意見)

- ・ 授業の選択の幅を広げてほしい。研究室において教官に対して学生の人数が多すぎる。(理 MC 1 男)

[回答]

18 年度入学の学生からは、ご指摘の幅広い選択ができるように専攻の枠を外した「理学院共通科目群」を設定しました。研究室の学生数については、各専攻の事情がありますので、指導教員に相談してください。

(意見)

- ・ 専門授業について生徒があまり参加できる形式ではなく、授業のみが一人歩きしている感が強いのでグループ学習を取り入れた生徒一人一人の参加を促すものがもっとあっても良いと思う。(理 MC 2 男)

[回答]

今後、カリキュラムを「見直し」する際に参考とさせていただきます。

(意見)

- ・ シラバスを充実させてほしい。(理 MC 1 女)
- ・ 大学院の学生便覧が分かりにくい。卒業に必要な単位などの説明をもう少し簡潔にまとめてほしいです。(理 MC 2 男)

[回答]

大学院の修了要件等については極めて簡素ですので、あなたのご要望は理解しかねますが、「実行教育課程表」等に関するご意見は専攻の教務委員にご相談ください。

(意見)

- ・ 大学院の履修登録の方法が分かりづらい。(理 MC 1 女)

[回答]

履修登録方法の説明に限らず、分かり易さを心がけていますので、窓口等で具体的に指摘してください。

(意見)

- ・ 講義の開講情報を広く取りまとめて通知してほしい。外部から先生を招く場合などは、世話人の努力により通知が行

き渡っている場合もあるが、そうでないこともある。(理DC3男)

[回答]

授業関係の掲示等については、本年度から理学・生命科学5号館低層等3階に掲示板を集中化しました。また、理学情報システムでさまざまな情報サービスを開始しましたのでご活用願います。

(意見)

- ・ 大学は教育機関であると同時に、研究機関なのでショウガナイと思うが、講義の休講が多いように感じる。(理DC4男)

[回答]

休講の多い教員への不満については、まず直接意見を伝えてください。納得できない理由のまま改善されない場合は、専攻の教務委員にご相談ください。

(意見)

- ・ 教職関係の授業を履修しやすくしてほしい。(理MC2女)

[回答]

本研究科・学院のカリキュラムにおいては専修免許に必要な特別な単位は求められておりませんので、大学院生が学部段階の基礎資格に係る必要単位を修得し残した場合の履修方法に関する要望と思われますが、学部レベルの授業時間割において大学院生の履修や研究計画を配慮することは極めて困難です。

(意見)

- ・ 大学の各学部、学科において取得可能な特別な資格について、必要な講義等の告知を入学時のオリエンテーションなどの際にあらかじめ行って欲しい。社会に出た際に、どのような人間として期待をうけるであろうか想像できるようにすることで、意識の向上をはかることができるのではないかと。(理MC2男)

[回答]

「取得可能な資格」については、本学大学案内及びホームページ等において十分周知されていると思います。なお、個々の資格取得に必要な授業科目については、一般的に多くの学生を対象とする教育課程の主目的ではありませんので、必要の程度に応じて関係する学生便覧等において個別に説明しています。

(意見)

- ・ たとえ必修科目でも落とすときは落とすべき。必修科目でたくさん落とすと来年その授業を受け持った先生が大変だからとか、講義室に入り切らない人数になるとか関係ないと思う。(理MC2男)

[回答]

貴重なご意見ありがとうございます。ただし、ご指摘のような理由で合格させている事例があるとは信じられません。もし事実の場合は、専攻の教務委員にご相談ください。

(意見)

- ・ COEの新しい試みで授業をするのは非常に勉強になるが、教員自体にCOEのプログラムが目指そうとする目的を目指していない場合がある。(理MC1男)
- ・ おおむね満足している。(理MC2男)
- ・ 本年度後期に編入学して、まだ教育・授業を受けた事がないのでわからない。(理DC2男)

[回答]

具体的な提案や苦情ではなく、素朴な感想ですので、敢えて回答しません。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

(意見)

- ・ 講義室が寒くて困っています。夏は暑い人に合わせられるため、風通しがよすぎて寒く、冬は暖房でも部屋全体が温まりません。講義室の電灯の確認をもっとしっかりやってほしいです。何日も切れっぱなしということがありますので、授業にも支障が出ると思います。(理MC1女)
- ・ 冬になると、北大構内の建物内でも場所によって暖房の効き方が違い、寒い所と暑い所があるので、どちらも適温に設定して欲しい。(理MC1女)

- ・ 場所柄，秋口から寒くなるので講義中の暖房を早く入れて欲しい。院生に比べ，研究生のほうが待遇が良いように感じる。この差を無くして欲しい。(理DC 4 男)
- ・ 扉をもう少し気密性の高いものに，基本的に実験区域は土足禁止にして欲しい。(理MC 2 男)
- ・ 建物を立派にしてほしい。(理MC 2 男)
- ・ 同じ学科であっても，学部間（棟毎）に快適性が全く異なると思います。破れたカーテンや1年間使えない女子トイレなどはどうかと思いますが・・・（3号館）。(理MC 2 女)
- ・ 部屋を有意義に使用するべき。物置と化している部屋をいくつか見ている。(理MC 1 男)
- ・ もっと広い実験スペースが欲しい。図書館の利用時間を拡大してほしい。(理MC 1 男)
- ・ 理学部のオートロックについて，自動扉が動かない時間帯，学生証を忘れてしまうと開錠できないのは少々不便である。学生番号を入力したら開錠できるようなシステムにはならないのだろうか。(理MC 1 男)
- ・ 防犯にもっと力を入れるべきだと思う。(理MC 2 男)
- ・ 理学部6号館を他の研究棟とつなげてほしい。ビル風がひどく，冬は道が凍結して6号館に近寄ることができない。部分的にロードヒーティングを施しているが機能していません。液化センターから大きなタンクを6号館に運ばなくてはならないがかなり不便です。(理MC 2 女)
- ・ 理学部6号館からのロードヒーティングを7号館入り口のスロープまで延長していただきたい。現在のままでは冬場はスロープとしての意味を成していない。また，その入り口付近の冬場の水捌けの悪さを改善していただきたい。試薬管理システムが非常に使いづらいのでソフトの改善をしていただきたい。特に試薬の登録が非常に面倒な作業となっている。(理DC 1 男)
- ・ せっかく広い土地があるからには，実験施設が欲しい。(理MC 2 男)
- ・ 理学部の高層棟のような窓は，風が強いときにあけると壊れそうで怖い。夏のときなど，開けないと暑いし開けると壊れそうになる。ただの流行や見た目で今の窓を採用したのだろうが，普通の引き戸の窓が一番良い。建物が多いので目的地がどこかはっきり分からないことがある。分かりやすい地図をホームページに掲載してほしい。(理DC 2 男)
- ・ 時事の話ですが，暖房費の節約でしょうか。使用していない教室を把握し，地道に止めて回る，あるいは全ての教室を研究室に割り当ててしまう，など。私の研究室の周りでは，事務が部屋の管理，使用割り当てを行っているようでした。(理DC 3 男)
- ・ ロードヒーティングを節約するのはやめてほしい。駐輪場が狭い，場所が悪い。建物を分けるのはやめてほしい，全部つなげてほしい。エレベーターが遅い，少ない。各階に男女トイレがほしい。食堂の数を増やしてほしい。学食の値段が高い。西区に抜ける道がほしい。(理MC 1 女)
- ・ 喫煙所の電気つけろ（論文読んだとき消される）。駐輪所なさすぎ。原付入れなさすぎ。地感科邪魔。エレベータ足りない。喫煙所足りない。食事が生協でしか買えない。図書館早くしまりすぎ。警備員電気消しすぎ（夜に消される電気入らない）。中途半端なロードヒーティングは逆効果。生協のトラベルセンター態度悪い。生協のおばちゃん適当すぎる（ごはん少ないときがある）。(理DC 3 男)
- ・ 地方施設の維持，効率的な人員配置。派閥争いのポストとして利用しない。(理DC 4 男)
- ・ 主に理学部6号館と創成科学研究棟しか知らないが，施設・設備は非常に整備されており，優れていると思う。また，景色等の環境面が素晴らしく，研究にも良い影響を与えられると思う。冬期の環境に関しても，同様である事を望む。(理DC 2 男)

【回答】

暖房については，予算効率等の面から全学的な集中ボイラー方式となっており，現在のところ細かい対応が難しい状態です。各部屋のバルブや換気によって温度調整をお願いします。なお，あまりにひどい場合には，窓口まで部屋番号をお知らせいただければ幸いです。

施設については，予算の制約はありますが，優先度の高いものから順次改善を図っていますので，ご理解をお願いします。

オートロックについては，防犯・管理上，変更の予定はありません。電球切れ等については，点検漏れと思われる。恐れ入りますが，その様なことがありましたら，窓口へご一報いただけると幸いです。実験区域の土足厳禁については，実験の担当教員・技術職員にご相談下さい。

（意見）

各研究科附属の図書館等，利用時間可能な時間が平日17時までというお役所的な施設に非常に不便を感じる。また，学部生で講義が多かった頃は事務が12時～1時まで昼休みになるのが非常に不便で，学生と同じ時間に昼休みをとってどうするんだと問い詰めた気分だった。30分ずらすことくらい造作もないと思うのですが・・・。(理MC 1 男)

[回答]

同様の要望が多数ありましたので、教務係・大学院教育係窓口を昼休みも開けるようにしました。ご利用下さい。時間外開館については、できるだけご期待に添えるよう前向きに検討していきたいと思います。なお、時間外の図書室の利用が緊急に必要な場合、事前に電話等でご相談ください。」

(意見)

- ・ 液化センターの夜間汲み出しの手続きが面倒なのが挙げられると思います。まず、この夜間くみ出しの手続きの理由が危険防止と言うのはどうも理解し難いです。鍵を渡してしばらく帰って来なかったら警備員さんが見回りに行く事のどこが危険防止になるのでしょうか。せいぜい事後処理程度の事ではないのでしょうか。それに夜間必要が生じて、警備員さんが見回りだった時などは待たなくてはならないのでしょうか。微々たるものですが警備員さんの負担と研究者の負担を解消するような手続きを考えるべきであろうと思います。研究機関として24時間研究に支障をきたさない事を望みます。ただ、ずっと一日中管理していると言う訳にはいかないのも承知しているので、現在の夜間の規制そのものは結構ですので、たった数リットルの為に30分以上も時間がかかるようなシステムはもっと考えてほしいと思います。とりあえず冬になる前にシステム簡略化を御願ひします。(理MC2男)

[回答]

理学研究院極低温液化センターでは、高圧ガス保安法に基づく安全管理のため、保安係員であるセンターの職員が不在となる夜間および休日における液体窒素の汲み出しを禁止する方針です。平日の日中に液体窒素を汲みおいていただきますようご協力をお願いいたします。

(意見)

- ・ 大学院生は学校に泊り込むこともあるので、シャワー室や仮眠室は必要。(理MC1女)

[回答]

皆さんの学修にかかる経費は授業料だけでまかなえるものではありません。そこには税金が使われています。自分の生活に係る経費を国民に負担させることはできません。ご自身で工夫できるのではないのでしょうか？

(意見)

- ・ 多様な測定装置を揃えて欲しい。(理MC1男)
- ・ 研究設備を維持できるだけの予算を投じて欲しい。(理MC2男)
- ・ 学内は充実している。研究室内は充実しすぎていると言ってもいいかもしれない。過剰な設備投資や、眠ったままになっている実験装置が多すぎるような気がする。金や場所の無駄遣いがあるのではないかな。(理MC2男)
- ・ please try to down the cost for using equipments please simplify the procedure (理DC2男)
- ・ 設備は大体は充実していると思う。特に無し。(理DC1男)

[回答]

予算の制限はありますが、具体的なご要望がありましたら、教員や技術職員にご相談下さい。なお、機器等は必要があって購入していますが、研究内容の変化や技術革新により、その後使われなくなることがあります。良い活用方法があれば、是非ご提案下さい。

(意見)

- ・ 工学部、一部の理学部には研究室が学部時代からそれぞれ割り当てられ、自分の専門の先輩や同僚と様々に啓発しあえるのに対し、数学科や他の分野でそのような場が与えられていないのは不公平と言わざるを得ない(理MC2男)

[回答]

数学科は基準に比して大幅に狭いスペースで研究教育活動を行うことを余儀なくされています。このような悪条件の下でも、理学部3号館1階に学部学生諸君のために、自習室・就職資料室を設けています。積極的に活用してください。

(意見)

- ・ 自分の所属する理学研究科地球惑星科学専攻(理学部8号館)には建物内に喫煙スペースが存在せず、玄関前で喫煙する状態となっている。自身の専攻事務の積極的な活動で予算が組まれるまで進んだにも関わらず、同じく8号館に所属する数学科の反発で喫煙所の設置が阻まれた。その理由が、「数学科には喫煙する人間がいないから。」というものら

しいが、自分の知り得る限りでも数学科の人間は喫煙している上、立ち入り禁止のはずの屋上でも喫煙した痕跡を残している。また、数学科・地球惑星科学科問わず、研究室で生活していない者たちは玄関前で喫煙し、さらには吸殻を放置している状態であり、研究室で過ごす人間にも観光客にも不快感を与えている。受動喫煙禁止が謳われる一方で、この禁止によって受動喫煙が促進されていることに、大学側にはもっと目を向けて頂きたい。(理MC2男)

[回答]

基本的には「公共空間の全面禁煙をめざすべき」との意見が極めて多いのですが、マナーを守らない喫煙者を排除する有効な手段が困難な現状において、当面は、場所と予算の許す範囲内で「完全分煙設備の充実」を図らざるを得ないと考えております。また、玄関周辺、廊下等を始め「公共空間は、指定された許可施設以外は全面禁煙」であること及び「指定された喫煙設備の場所」について、看板等により周知・徹底を図りたいと考えています。マナーを守らない者に対しては、教職員・学生を問わず、遠慮無く指導的に注意し合うよう皆さんのご協力をお願いします。

ただし、ご指摘中の「その（喫煙室設置反対の）理由が、『数学科には喫煙する人間がいないから。』というものらしい」という部分については事実誤認があります。8号館への喫煙室設置提案に対する数学科としての当時の検討結果は、①8号館玄関付近は「喫煙場所」とすべき適切なスペースではないこと②8号館関係の喫煙希望者については、渡り廊下で接続されていてすぐ近くにある、6号館（隣の棟）2階（後に1階に移設）の整備された喫煙室を利用できることを理由としたものでした。憶測や伝聞に基づき、事実確認が不十分なまま他へ意見を公表する態度は、科学する者の心構えとして非常に残念に思いますので敢えて説明しました。

(意見)

- ・ 共同利用施設”機器”に関して、不自由な点や不鮮明な点が多く、説明会やマニュアルの拡充を希望します。(医MC1男)

[回答]

どこの何が問題なのかが指摘されなければ状況が分からず、改善について検討のしようがありません。

3 経済問題（授業料、奨学金等）に関すること

(意見)

- ・ TAの機会を増やしてほしい。本当に研究をする目的で北大に入学した人ならば、アルバイトに時間を費やすより勉学に励みたいと思う。その目的を学費などの金銭的な問題で妥協したくない。また、自宅生でも学費を自分で稼いで払っている人もいますので、自宅生ということで、金銭的な面で一人暮らしの人と区別するのはやめてほしい。(理MC1女)

[回答]

TAの採用基準等については、専攻の教育方針とも密接に関連していますので、個別の特殊事情を含め、当該専攻の教務委員又は学生委員の先生にご相談ください。

5 教職員の対応（応対等）に関すること

(意見)

- ・ 北キャンパスの人間にとって、授業関係などの事務からの連絡が遅いことがあるので気をつけてほしい。もっと、学内便を充実してほしい。(理MC2男)
- ・ 事務の対応が悪い。重要な連絡事項などの公示が遅い。もっとインターネットを利用してほしい。(理MC1女)

[回答]

理学部から離れている学生に対しては、配慮したいと思います。なお、休講の連絡等を含め、理学情報システムを整備しましたので、ご活用ください。

(意見)

- ・ 教務係などの方の対応が良くないと思います。窓口においても対応してくれない人、融通の利かない人が多いです。また、仕事ができる人でないと駄目とは言いませんが、あまりにも気が利かない人もおり、二度手間などで手続き等に時間がかかってしまいます。(理DC3女)

[回答]

窓口対応については、改善していきたいと思います。

（意見）

- ・ 教務課の人の対応が悪いと思う。不明な点を質問に行った際、「ホームページに書いてあります」とだけ言われ、結局よくわからないままだ。お忙しいのはわかりますが、学生の生活をサポートするのも仕事だと思った。（理MC2女）

【回答】

「理学部教務係」においてご指摘のような対応があったとは考えられませんが、「学務部教務課」でのケースとも読み取れますので、せめて「何に関する質問であったのか」くらいは明記してください。

（意見）

- ・ 事務の昼休みが12～13時までと、学生の休み時間と被っているのは納得いかないです。（理DC1男）

【回答】

教務関係の窓口は、休憩（昼食等）時間の交替制導入により、昼休みも開けることにしました。

（意見）

- ・ 事務の人そんなに人数いらないと思う。電気の節約より授業料の値上げよりいらない事務の人減らした方がいい。（理DC3男）

【回答】

あなたは事務職員の業務内容をどれだけ理解して発言しているのでしょうか？ 定員削減の課題もあり、事務の省力化・効率化をめざす業務の見直しが求められていることも事実ですが、「いらない事務の人」とはどの部署を指しているのか具体的なご指摘があれば具体的に説明します。

（意見）

- ・ 他学部の実務員の対応がひどすぎる。教職の免許を取るのに理学部に行っているが、中年の男性事務員に、他学部の学生には免許を取らせたくないといわれた。質問をしても、大声で頭ごなしに否定され、非常に不快である。農学部の事務では、他学部の学生には責任が取れないという理由で、質問に対して十分な回答を得られなかった。社会人として、常識のある言動を期待します。（工MC1女）

【回答】

理学部教務係には、近年とみに他学部学生（大学院生）からの、数学・理科に関する「教員免許取得希望相談」が増えていますので、本学部学生便覧に掲載している全学教職課程委員会の文書「教員免許を取得しようとする学生の皆さんへ」を抜き刷りしておいて配付し、熟読したうえで所属学部（研究科・学院）の教務係等あて相談するよう指導しています。なぜならば、他学部履修には学部・研究科（学院）それぞれの教育方針に基づくルールがあり、大学院生の場合の履修計画は、さらに、指導教員による研究指導計画と密接に関わるからです。これらの説明を聞こうとせず、自己の希望のみを達成しようとする態度の学生に対して「自己都合を無理に認めさせようとする身勝手な人には教員免許を取得して欲しくない」と言うことはありますが、「他学部の学生には免許を取らせたくない」と言うことはありませんし、耳にしたこともありません。

なお、本学はそもそも教員養成大学ではありませんが、本学の教職課程は、学科・専攻単位で文部科学省から特別の認定を受けたカリキュラムにより編成されており、取得可能な免許状の種類が入試の出願前に十分周知されている学科・専攻における正規の教育課程については十分配慮されています。学生が事前に明示されている条件についての理解不十分等により希望と異なる学科・専攻に入学してしまった場合は、そもそも例外的な特別の相談となることを認識してください。

7 就職に関すること

（意見）

- ・ 将来が不安でたまりません。切実です。（理DC1男）

【回答】

各専攻の就職担当教員及び学務部キャリアセンターに相談ください。

10 その他

(意見)

- ・ 大学院に進学して、就職先も決まってそれは良かったと思う。同時に大学教授という人種が、全員がそうではないが、世間知らずで研究のためなら他人の権利を侵害してもかまわないと考えている人間だということも知った。研究者として立派でも、人としては下の下でしょう。卒業後もう2度とこんなアカデミックの世界には関わりたくないと考えている。早く卒業して縁を切りたい。(理MC2男)

[回答]

「ハラスメント」について、大学全体としては、従来、セクハラに偏した対策となっておりましたが、この度、アカハラ・パワハラを含むハラスメント全体に対する相談体制として充実させる方針を決定しました。ご遠慮なく相談員にご相談ください。なお、別途、何でも相談できる「学生相談室」システムもあります。

(意見)

- ・ 効率化の必要性もよくわかりますが、スリム化するべきところがほかにあるはず。とりあえず、仕事をしていない年寄り教官をくびにしましょう。(理DC4男)

[回答]

本当にその人の活動全体を見て「仕事をしていない」と言うのか、具体的な指摘が必要です。

(意見)

- ・ OBの言う事を鵜呑みにしないでほしい。(理DC1男)

[回答]

具体的な事項等の指摘がなければ、貴方が何を言いたいのか理解できません。

(意見)

- ・ 教員の数を増やしてほしい。あと北海道という場所なので科研費を持ってない学生は研究集会などで他大学との交流がとりづらい。またそのために刺激しあうことがなく北大の中だけに留まり意識が低いように感じる。しかし、研究するには気候的にとても良い所だと思う。(理DC1男)

[回答]

教員数の増員は、人件費削減が要求されている昨今、非常に難しい問題です。他大学との交流等について、北海道という地域的なハンデはありますが、「魅力ある大学院教育イニシャティブ」やCOE等のとりくみを活用して、若手研究者の成長を支援するさまざまな努力を続けています。

(意見)

- ・ 学生の声を投書できるような場所を各学部を設置していただきたい。学部生や院生が投書しにわざわざ教養の建物まで行くことがないため。(理DC1男)

[回答]

理学部・理学院の建屋内への設置について検討します。

(意見)

- ・ 先生を論文とそのインパクトファクターで評価しないで欲しい。(理DC1男)

[回答]

大学院担当教員の資格基準は法令等により定められておりますが、「論文(研究業績)」はそのうちの重要な一つです。その他多様な評価項目がありますが、教育上の実績、担当能力も重要な評価項目の一つとされています。

(意見)

- ・ 小さいものでは、冬季のロードヒーティング等、生活の安全に関わる設備が未だ満足のいくものではない。大きな問題としては、教官と学生の間に生じる人間関係の亀裂に対する保証に、大学が責任を持って関与していない。教育という名目の上に、過剰に研究結果を要求され、肉体的、精神的に苦痛を伴う生活を余儀なくされる学生が数多く存在することを認識し、福利厚生につとめる必要があると考えられる。(理MC2男)

- ・ 全ての研究室に言えることではないと思いますが、主に理系の研究室では研究以外の仕事が大学院生に多いと思います。研究室運営のための庶務を行ったり、先生の代わりに学術雑誌への記事を執筆したり、先生の講演のための資料作りをするといったことです。研究室の一員として指導教官のためにそういったことをするのはよいのですが、その雑務のために夜遅くまで家に帰れなかったり、平日は雑務で研究ができず、休日も仕方なく学校に来て研究したりしています。なかにはそういった雑務を学生にやらせて自分は先に帰ってしまう教官もいます。聞いたところによると昔はもっとひどく、そのような状況で研究があまり進まず、研究室内の研究発表で成果が出ていないとひどく叱る教官もいたそうです。雑務を全くなくして欲しいとは申しませんが、せめて自分の研究もきちんと進められる環境にして欲しいです。
(理MC1男)
- ・ 言葉によるセクハラを長年受けている。実際に手を出さなければ、ごめんなさいと謝れば済むんだ、その程度のことなら何回でも謝ってやる、と開き直られたり、もしセクハラ委員会に言えば、就職できないようにしてやる、学会で発表できないようにしてやる、などの脅しをうけた。日常生活、研究活動に差し障るほど苦痛で、心身の不調により留年した。夢と希望を持って北海道大学に来たはずだったが、特に男性職員の人間性には大いに失望した。(理DC3女)

【回答】

大学全体としてセクハラ相談員を配置していますので、お気軽に直接ご相談ください。また、「ハラスメント」について、大学全体としては、従来、セクハラに偏した対策となっておりましたが、この度、アカハラ・パワハラを含むハラスメント全体に対する相談体制として充実させる方針を決定しました。ご遠慮なく相談員にご相談ください。なお、別途、何でも相談できる「学生相談室」システムもあります。

医 学 部 ・ 医 学 研 究 科

【 学 部 】

※【医】は医学科回答，【保】は保健学科回答を示しています。

1 教育・授業に関すること

（意見）

- ・ 学部の授業を2年次からはじめたほうがいいとおもう。カリキュラム的にきつい。(医3女)
- ・ 一年生のときは暇だったのに、二年になって授業をつめすぎ。ちゃんと考えてカリキュラムを組んでください。その上勝手な授業変更も多くて嫌になります。学生にも学生なりの生活があることを考えてください。(医2女)
- ・ 看護の二年なのですが、授業がきつすぎてすごく疲れます。同じ内容の授業を何度もやっているような気がします。課題をやる時間もあんまりないです。(医2女)
- ・ 1年後期は授業数もとても少なく、むしろ暇だったが、2年の後期から、専門が入って週ほぼ25コマととても忙しくなった。時間割の組み方をもう少し考えて欲しい。また、空きコマとなっているところに次々授業を入れられても、こちらにも都合があるので、あらかじめ授業があると言うなりなんなりして欲しい。(医2女)
- ・ 一期生だからかもしれないが、授業体系が今ひとつ確立していなく、変更も多く、とても負担に思うことが多い。あきコマにすべて授業を入れられる上に補講があるのは耐えられない。精神的、体力的に負担である。教科書に15万くらい使ったのにも関わらず、ほとんど授業中に使わない。すごく負担だったので、不満。授業の中で、とても古い資料を使うことがよくあり、最先端のものを学んでいるはずなのに、何十年も前のものを利用することがいいのか疑問に思うことがある。(医2女)
- ・ 効率的にしてほしい。(医2女)
- ・ カリキュラムを見直したほうがいいと思う。入学後にまずモチベーションが下がる。(医2男)

【回答】

【医】18年度入学生より、履修単位数の上限設定が行われ、学期による履修単位数の偏りもかなり解消されるようになりました。また、これに伴い、過度な履修計画も緩和され、授業やレポート等によりしっかりと取組めるように改善され、成績も向上しています。

【保】医学部保健学科は、4年間の教育課程を1年次1学期から2年次1学期までの「基礎教育期」、2年次2学期から4年次2学期までの「専門教育期」と2期に分けています。

基礎教育期においては、幅広い教養を養うために、全学教育科目を主とした開講計画になっているため、専門教育期移行後の2年次2学期は履修科目が多くなってしまい、忙しく感じているかと思います。保健学科は設置されてまだ3年目の新しい学科です。完成年度経過後（平成20年度以降）にカリキュラムの見直しを予定していますので、各学年毎の授業科目数や学生の負担などを考慮してより良いカリキュラムを作成していきたいと思っています。

なお、授業変更については、なるべく早めに連絡・周知するなど、急な変更のないように対応していきたいと思っています。

（意見）

- ・ 情報提供の充実。(医2男)

【回答】

【医】ホームページを利用した情報提供についても、検討したいと考えています。

【保】休講などの講義関係や、奨学金募集、その他の連絡事項など、内容毎にスペースを定め随時掲示しておりますが、掲示スペースの見直しを含め、今後より一層情報伝達の工夫について検討していきたいと考えています。

（意見）

- ・ 実験・実習・ゼミの類を除いて、講義で出席を取るのはおかしい。こちらは授業料を払っており、教員は給料を貰う立場だ。その授業が不要であるという判断は学生個人の裁量に任されるべきだ。たとえ必修科目であるにせよ、その学習目標を個人的に自習して達成すれば責められる謂われはない。(医4男)
- ・ 出席を取る必要があるのかが不明です。授業にでている人間としては、別に取っても取らなくてもいいし、むしろ出席カードだけを貰おうともぞもぞと動いてくる人たちがいる方が余程不快ですし、そもそも、講義中に内職している人がいるのに、彼らが出席になるのも意義が見いだせません。(医5男)
- ・ テストは厳しくていいから出席はぬるくしてほしい。(医4男)

- ・ テスト、レポートが多過ぎる。一週間で3つ以上できるわけがない。教員は自分の教える授業のことだけを考えるのではなく、生徒が受けるすべての授業を把握してレポートやテストを実施すべき。生徒に非常に負担がかかる。寝る時間もかなり減ったし、レポートの期限のせいでほかの授業中にやらなければ間に合わないことも多く他の授業にも支障をきたしている。(医2男)

[回答]

【医】大学生活は、授業料だけで賄われているわけではありません。特に医学部では、その何十倍もの教育経費が、税金、すなわち国民・社会の血税により支えられています。それを忘れて、「こちらは授業料を払っており、教員は給料を貰う立場だ。その授業が不要であるという判断は学生個人の裁量に任されるべきだ」というのは、社会人として適切であるかどうかもう一度真剣に考えてください。もし、本当に授業が不要と判断できるなら、正当な理由をつけてキチンと提言してください。

出席だけで成績が判定される訳ではなく、出席は教育の機会を少しでも与えるための手段です。この手段を目的とはき違えている学生がいることも確かです。しかし、学修の到達度は、授業にでることや、予習復習をすることなど、本人の意識と取り組む姿勢で大きく変わります。そしてその違いは、結局本人にそのまま跳ね返ってきます。もし、君が高い意識と真剣な姿勢で勉強しているなら、出席カードだけでもらって満足している同級生を不快に思うよりも不憫と思うべきです。

(意見)

- ・ 心理学実験の授業の意味がわからない。学生が学ぶものは少なく、ほとんど文学部の大学院生の研究の実験台になっているとしか思えない。皆、非常にフラストレーションが溜まる授業だと言っている。そして、時間ぴったりに鍵がしまり、交通機関の遅れのために5分遅れたが入室を認められなかった。しかも必修の2時間続きである。非常に腹が立った。これから冬を迎えるにあたって、バスやJRは非常に乱れる。その度に入室が認められなく、そのせいで留年することはとても不条理だと思う。本州の大学じゃあるまいし、北国の学校なのだから少し考えればわかることだと思う。早急な改善を求める。(医1女)

[回答]

【保】意見に関して、当該科目を開講している講座から、授業の実施方法について回答をいただきました。当該科目を開講している講座として、その授業の実施方法についてのみ回答します。

この授業(2講連続で2単位)は毎回、最初に実験(個別実験あるいは集団実験)を一斉におこなって、その後、その実験の心理学的意義を解説するという方式を取っています。心理学実験では、実験中の環境を静謐に保つことが必要不可欠であることから、遅刻者の途中入室をさせないように特に厳しくしています。実験開始後に鍵をかけていることについては、実験の妨害排除として必要な措置と考えています。

このような特徴を持った授業のため、第1回はオリエンテーションとして、これらのことをすべて履修希望者に伝えています。同時に、そのことをふまえて、通常の授業開始時間(8時45分)より15分遅い開始(9時)としています。もちろん、降雪などの影響で交通事情が悪い場合は、開始を遅らせるなど、それなりに対処しています。ちなみに、今年度の学生諸氏への注意では、「実験終了後に開扉して、十分な理由があった場合には、その後の入室を許可するので、遅刻者は待機しててください」と伝えています。

なお、前段に「学生が学ぶものは少なく」とありますが、厳しい受講条件を受け入れて選択科目として履修している学生も多く、実績のある授業です。ぜひ、積極的な学習態度で受講してもらいたいと思います。また、「ほとんど文学部の大学院生の研究の実験台になっているとしか思えない」という発言ですが、TAの大学院生はすべて実験を補助しているのであって、院生用の実験などは当然ながら一切おこなっていません。すべての実験は教育用に構成されたもので、印刷・配布した実験マニュアルに則って実施しています。

心理学実験が必修科目となっている学生諸氏には、この厳しい受講条件に対して、「履修しない」という選択肢がないこととなりますので、現状では、覚悟して履修してもらうしかないと考えます。

(意見)

- ・ 教官の熱意がなさすぎる。(医5男)
- ・ 教官は、話し方や授業の進め方などの技術をもっと磨いて欲しい。学生が興味を持てるような授業をする努力をして欲しい。(医3女)
- ・ 生徒がわかってないのに教員が勝手に納得している。基本ほとんどの先生。(医2男)
- ・ 大学で教えるには教育の理論などを必ずしも学ぶ必要がなく、そのせいで講師によって授業の善し悪しに大変な差があり、問題だと思う。学生は学費を払って大学に来ているので、ある程度以上の授業を受ける権利がある。だから授業の講師を決める際にその人の教育の技能を計るなど教育の質を上げる努力をしてほしい。(医3男)
- ・ 教員は研究が主な仕事であるためか、教育者としての技量をあまり備えていない人が少なからずいると思われる。その点を改

善するために、教員自身また大学側に何らかの対策を講じてもらいたい。(研修など) また、分野間の連携をきちんとしてもらいたい。いわゆる「縦割り」のような授業が多い。医学部では特に臨床(病院)と研究と教育とが乖離しているように思える。この状態では、学部で学んだことが医師になった際に生かせない、ということがでてくと思う。(医3男)

- ・ それぞれの教員の授業に関するアンケートを行っているが、まったくそれが生かされていない。もっと授業の内容が明確かつ濃いものにしてほしい。(医2男)
- ・ 学生に不評な講義をする先生の指導をちゃんとやってほしい。(医5女)

[回答]

【医】授業アンケートの教員へのフィードバックに加え、教員の教育技能や横断的交流を図る目的で、毎年ファカルティー・デベロップメント(FD)を行っています。そこでは、カリキュラムの改善や、効果的な授業方法などについて意見を交換し、改善方法を話し合っています。しかし、もし、教員の熱意や技能などに重大な問題があるとクラスの学生の大半が感じるような場合は、学生の意見をとりまとめ教務係に相談してください。内容を検討し、担当教員に事実を確認の上、必要に応じて適切に対処します。

【保】授業に対する理解度については、授業を担当している教員が学生の理解度を確認しながら、授業を進めていくのが望ましいと思いますが、わからない点ができた場合には、随時教員に質問してはいかがでしょうか？また、授業アンケートについては、集計後に分析結果を教員に通知しています。

(意見)

- ・ 教員を増やし、小グループでの学習時間を増やしてほしい。(医6男)
- ・ 少人数制の授業を増やしてほしいです。(医5女)

[回答]

【医】法人化以前も職員の定員削減があり、法人化後はさらに教員の削減が加速しています。これにより、小グループ学習を実行することがより困難になってきています。これに対し、カリキュラムの編成や、効率的な授業の工夫などで対処しようと努力しています。

(意見)

- ・ 医学部生に過剰な課題・試験などを与え、さらに厳しすぎる採点基準・合格点で、無慈悲に留年者を多数出していることは非常に不愉快。医学部医学科では、自由な北大の気風が失われている。(医2男)
- ・ 最近「学生に厳しく」という風潮が学部でできて、自由なスタイルで勉強できる利点が失われていくように感じています。法人化されたことで、システム改革の目的が単に底上げになっていると思います。レベルの低い人に合わせた教育方針はよくないと思う。いろんな人がいるのが社会なので、ムリヤリ足並み揃える必要はないのでは。底上げの教育をするくらいだったら、留年や退学の処分を厳しくすれば、学校から求められる実力をつけられない人はやめるか落ちるかするのでそれでよいと思います。(医6女)
- ・ もう少し厳しくしたほうが良い。無意味な授業はやめたほうが良い。毎年授業評価をして翌年にフィードバックするなどして。(医6男)

[回答]

【医】学生の間でもこのように考えが分かれるように、試験や課題が厳しすぎて無慈悲なのかそうでないのかも学生さんにより受取り方が大きく異なるはずですが、さらに、近い将来社会人として仕事をし責任を果たすべき大学生にとって、大学での学業が厳しいことと自由な気風とは相反することなののでしょうか？もし、本当に、「医学部生に過剰な課題・試験などを与え、さらに厳しすぎる採点基準・合格点で、無慈悲に留年者を多数出している」ことが教員側の一方的な独善的行為であるならば、学生の意見をとりまとめ教務担当係に相談してください。しかし、その前に、自己実現や社会のために、自己の大学生活が現在の状態がよいのかどうかとも内省してください。

(意見)

- ・ 私は医学部の学生でしたが学校で習ったことはほとんどありません。二年間でもいいと思います。多くの日本の大学は学生の能力を落とすためだけに存在しています。それは高校生までの学力の平均が世界最高なことを見ても明らかです。医学部の基礎系に関する内容はすべてカットすべき。アメリカですら4年間しか学校はない。後半二年間は実習であって講義はない。それらの現状を踏まえ基礎系の授業はアカデミックな授業をするべきという御旗のもとに基礎の自己満足とも思える授業を展開していることをやめさせるべき。そして実習をもっと増やすべき。(医6男)

【回答】

【医】すこし誤解があるように思えます。アメリカの医学部は確かに4年間ですが、医学部に入学するためには、その前に4年制の大学で教養科目と基礎専門科目をしっかりと学び、その能力が確認された人だけが医学部に入学できるのです。ですから、基礎となる学問をしっかりと学んでいるのは、むしろアメリカの医学生の方です。卒業後、医学部卒業者が、臨床医としてだけでなく臨床医学や生命科学の研究者としても活躍し多大な実績を出していることは、世界の共通した認識です。解剖学、生化学、生理学、薬理学、病理学、社会医学など、ヒトという動物種の1つをこれだけ深くかつ多角的に学んでいることが、医学部の最大の特徴です。これが、将来の基盤となっていることは疑いのない真実です。

（意見）

- ・ 学部専門に上がる前の教養課程の意義をもう少し考え直した方がいいと思う。確かに一般教養を得るということは重要な意味を持つと思うが、わざわざ1年半もかけてそれを行う価値が現在あるかどうか疑問である。学部が上がった後に学ぶ内容も、時間が限られておりカリキュラムもかなり圧迫されているように思うのに、その上まだ教養に時間をかける納得のいく説明をもっとしていただきたい。そうでないならば、もっと学部専門教育のほうに力を入れるべきではないか。（医2女）
- ・ カリキュラム編成が単なる数合わせに終わっており、教育効果についての評価などがまったくなされていないのは問題である。学部はカリキュラム編成に真剣に取り組んでいるつもりのようなのだが、実際の運用面に関しては各講義担当教員への指導が不十分のためまったく絵に描いた餅である。講義の責任教官は各コマの担当教員の講義内容に関して何も口出ししないのはおかしいと思うのでしっかり責任を取るべきである。教員の教育に対する熱意や信念のなさにあきれている。学生による授業評価アンケートを骨抜きにしようとしているのは問題である。やる気のない教員の講義を受けるよりも、その時間に学生の自主的な活動を奨励したほうが学生の能力は高まると思う。（医3男）
- ・ 教養課程での授業を専門分野につながる内容にして欲しい。（医4女）
- ・ 基礎科目（数学、理科等）の選択範囲を広げてほしい。（医2男）
- ・ 医学部のカリキュラムの見直し（1年前期から専門科目を取り入れるべきだと思う）。（医5男）
- ・ カリキュラムを見直したほうがいいと思う。入学後にまずモチベーションが下がる。（医2男）
- ・ 効率的にしてほしい。（医2女）
- ・ 一般教養科目よりも専門科目を一年から学びたい。（医1男）
- ・ 体系だった講義（教育専門の教官）。（医3男）

【回答】

【医】ある国立大学で、一般教養不要論を背景に、入学時から専門教育を始めればより学生の意欲が向上し教育効果が上がると期待して、入学後すぐに解剖学実習を始めたそうです。しかし、この試みは失敗し、数年後元に戻ることでなりました。どうしてでしょうか。高校時代は医学部受験のために友人や社会との交流も制限する形で受験勉強に励み、医学部入学後は医師になるために必要な専門科目の習得に励むことは、効率論からみると一見良さそうに見えます。しかし、勉学は、特に医学の勉学は、結局は患者さんや家族、ひいては地域社会の幸福や安寧のために役立って初めて意味のあるものになります。もし、自己も他人も視野にいれる余裕もなく勉学だけに一生懸命励んで卒業した医師に、あなたの体と健康を信頼して預けることができますか？それまでのようにやるべきことばかりがあった受験生の生活ではなくなるので、ほとんどの学生は教養時代で一体何をやるべきかかを考えるでしょう。そこで、これまでの自分を見つめ、他人の生き方を知り、社会のしくみをするとは、実はかけがえのない貴重な時期なのです。それは、過ぎてから、わかることなのですが・・・

【保】全学教育科目は、本学の教育目標・人材養成理念に基づいて、各学部とも共通に設定されている科目です。他の専門分野や文化に触れる機会を持ち、異なった価値観のあることを理解すると同時に、多様な発想と感性を磨くことによって、豊かな創造力が生み出されるものと期待されており、特に保健学科では、医療人に必要な教養、倫理観と人間性を養うのに重要な科目です。

基礎科目については、専攻によって必修科目数や必要な修得単位数が異なりますが、理科については、物理学、化学、生物学と幅広い領域の科目が履修可能です。

（意見）

- ・ 在学時に、専攻の選抜人数を突然変更すること。入学当初と話が違う。（医2女）

【回答】

【保】保健学科看護学専攻における助産師課程履修者選抜についてのご意見とされますので、このことについて回答します。

あなたが入学したときは、保健学科はまだ設置されて間もなく、助産師課程について、履修者数や選抜方法などの詳細は決まっておらず、入学当初は、人数などの具体的な説明はしておりません。これは、文部科学省において、助産学実習での分娩取扱件数が学生1人当たり10例以上と定められており、この件数の達成可能な実習施設数が当時は決まっていなかったため、実習可能な学生数を算出することができなかったことによるものです。現在は、「北海道大学医学部保健学科看護学専攻助産師課程履修者選抜に関する申し合わせ」により選抜方法等を定め、履修者数は前年度における実習施設数ならびに分娩件数を考慮して決定することとしております。

（意見）

- ・ 独自性が欲しい。北海道大学の名前に甘えているところがある。もっとハングリーに新しいことに挑戦して欲しい。環境以外、面白いと思ったことが無い。ボランティアの情報提供が少ない。(医4女)
- ・ ①専門であろうが教養であろうが、最終的な勉強は自身でしなければならないので、講師の先生の講義内容は各先生毎でよいと考える。しかし大学であるが故に先生方が教職が主ではないために講義を煩わしく感じているのではないかと言うことを授業の雰囲気から察しないことが無いとは言え切れない。例えそうであっても講義は講義の時間として専念して欲しいとも考える。
②大学の授業に関して疑問を感じるのは、試験・レポート等が行ったらそのまま過ぎ去り、フィードバックが無いことが多数であることである。ミスを省みる機会が少なくなってしまうし、出題する先生が何を期待しているのか、何に観点を置いているのかが分からずに終わることもある。原則として答案、レポートの返却と総評を付けて下さるくらいのシステムを作って頂きたい。
③グループ学習形式の授業もある一面ではよいのだが、その裏でやる人とやらない人が分かれ、そうにも関わらず個人の評価は無視されることが多い。目が行き届かないのは分かるが、要領のよさが出来を左右する状態が生じ得ることに教官として目を向けて頂きたい。(医4男)
- ・ もっとしっかりした教育制度にしてほしい。フレキシブルさにかけると思う。(医5女)
- ・ 教養課程の授業はよくカリキュラムも練られていたと思うが、専門課程に上がってからは、研究熱心のあまり学生指導にはほとんど興味のなさそうな教官が数多く見受けられた。授業料を払わされているが、そういう教官の担当する必修科目を受講しなければならなかったのは理不尽極まりない。(医5男)

【回答】

【医】学生にもいろいろな目的や姿勢があるように、確かに教員にも講義を大切に考え用意周到に準備をする人やそうでない人までいろいろいるでしょう。やはり、それを少しでも良い方向に持っていくには、教員から学生／学生から教員への相互フィードバックが大事だと思います。これらを建設的な意見・提言として、真剣に受け止めたいと思います。

（意見）

- ・ 教養期間の教育内容・期間を再考すべき。医学部生にはもっと早い段階から病院で患者と触れ合ったり、医療チームのほかの職種や医師の話を聞いて、モチベーションを保つか上げるように工夫が必要。現状では、教養期間にやる気をなくしてしばらくそのままの学生が多い。(医5男)

【回答】

【医】時間的には十分とはいえないかもしれませんが、教養コースで病院や施設を訪問し医療従事者や患者さんと接するカリキュラムを組んでいます。ならば、このような科目をもっともっと増やせば、果たしてモチベーションはそれだけ保てるようになるのでしょうか？ある学生にはある基礎科目や臨床科目がモチベーションを高めるきっかけになるかもしれないし、別の学生にはカリキュラム外の体験がそうなるかもしれません。結局、6年間の医学教育課程の中に必要最低限の要素をぎっしり取込んだものがカリキュラムなのです。教育はモチベーションのきっかけを与えるという意味で重要ですが、与えられるだけではその維持やさらなる向上は果たせません。学生自身の能動的で意欲的な姿勢が最も大事な要素です。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関する事

（意見）

- ・ 学生自習室がある旧看護宿舎の老朽化が激しいので、自習室の移転とまでは言わないが、修理を行って欲しい。壁の塗装がボロボロとはがれている部分などを見ると、今話題のアスベストの問題が頭を過る。(医6男)
- ・ 学部生の落ち着いてすごせる場所を確保してほしい。学生の自主活動を奨励するよう勉強会用の部屋などを確保してほしい。暖房を入れるかどうかを寒さでなく日で(11月から4月?)決めるのはやめてほしい。夏の講義室の暑さを緩和してほしい。生協食堂を21時まで営業にしてほしい。(医3男)

- ・ おおむね満足しています。医学部は学生の6年間で研究室に所属することがないので、学内に自分の場所がありません。学生がリラックスできるような場所をたとえば図書館などに作って欲しいです。(医6女)
- ・ もっと勉強できる環境を作ってほしい土日も開けてほしい夜遅くまで開けてほしい。(医2女)
- ・ いい。満足。学生にも、深夜施設に入るのに必要な暗証番号を教えてほしい。(医2男)
- ・ とても清潔でいいとおもう。(医3女)

【回答】

【医】現在は、管理棟一階の旧組織学実習室を改装して、明るい学生自習室にしています。時間などについて、今後対応したいと考えています。生協の営業時間等は、採算の問題とも絡みますので、利用状況等調査が必要かと思えます。

【保】保健学科については、図書室、自習室及び端末室など、決められている時間の範囲内で利用してください。

(意見)

- ・ 旧看護棟ロッカールームをきれいに掃除してほしいです。(医5女)

【回答】

【医】旧看護宿舎棟については、業者委託により平日は毎日清掃しています。気持ちよく利用するためにも、皆さんもゴミの始末などご協力お願いいたします。

(意見)

- ・ 古い、寒い、汚い。(医3男)
- ・ 建物が古いのでできれば新しくしてほしい。(医2男)
- ・ 現在授業を受けている教室が何十年も前から使われているものらしい。老朽化がひどいわけではないが立地のせいで風通しが悪く、何より日光が入らず常に薄暗い。八時間睡眠を取った後でも眠くなるのはそのせいでもあると思うので、できれば改装や移転をしてほしい。(医3男)
- ・ 施設の老朽化が気になることがあります。(医2女)
- ・ 医療を学ぶ場なのに少々汚い。薄暗い。(医2女)

【回答】

【医】建物の改修を進めている段階ですが、全国の施設整備計画と国の予算の兼ね合いから、思うように進まないことも事実です。臨床講義棟に加え、2年前には医歯学総合研究棟が落成し、少しずつですが教育施設の改修も進行していますし、数年後には基礎講義室も新しくなる予定です。

(意見)

- ・ 冬になると北向きの教室がとても寒い。(医2女)

【回答】

【保】建物が古いため、暖房が入っていても暖気が充分に行き渡らないところもあるかと思いますが、すぐに対応可能な場合もありますので、どこの教室かをお知らせください。

(意見)

- ・ 予算の関係とかもあるのですが、11月からしか暖房がたかさないというのは、辛いです。情報教育センターのご厚意で医学部に端末を相当数置いていただいている上にこういう要望も厚かましいのかも知れませんが、変換辞書など、「医学部仕様」にして下さると学生の作業効率が上がるのかも知れないな、と思います。医学部に限ったことじゃないですが。(医5男)
- ・ 医学部の基礎棟の古さは何とかならないのか？北海道の10月末で暖房入らないとは何事だ。(医5男)
- ・ 時期ではなく気温で冷暖房の調節してほしい。(医2男)
- ・ 医学部の暖房設備があまりにひどく、勉学に集中できる環境とはとても言えない。(医3男)
- ・ 老朽化が激しい。寒冷地なのに、窓が一重なのはありえない。また、暖房のいれる基準があいまい。晴れて暑い日に、朝から暖房をいれ、逆に寒い日にしばらくたってから暖房をいれている。(医2女)

【回答】

【医】予算等の関係もあり、全学的に11月～4月を暖房期間としていますので、気温に合わせて調節できるような服装をする等、ご協力をお願いします。また、建物の老朽化については、順次改修を進めている段階ですので、ご理解をお願いします。

【保】暖房については、全学的な問題であるため、現在はその日の気温によつての調節は困難です。暑い場合はスチ

ームの調節を適宜おこなってください。

(意見)

- ・ 施設設備の情報が入ってこない。(医2男)

[回答]

【保】図書室や自習室の利用等については、学生便覧に記載しています。その他暖房の通気期間など、随時掲示にてお知らせしていますので、ご確認ください。また、他に知りたいことがありましたら、事務窓口へお問い合わせください。

(意見)

- ・ 喫煙スペースをもっと区別して作ってほしい。(医5女)

[回答]

【医】本学部では、平成18年1月から敷地内全面禁煙とし、医学部管理棟1階に設けた喫煙室でのみ喫煙が許可されています。なお、北大病院においても、敷地内全面禁煙となっておりますのでご協力をお願いします。

(意見)

- ・ 敷地内の衛生環境（ゴミ、カラスなど）。(医2男)

[回答]

【医・保】敷地内のゴミについては、全学的に年に1回、キャンパスクリーナーを設けていますが、普段でも教職員だけでなく、利用者個々の意識も重要です。ご協力をお願いいたします。

(意見)

- ・ 保健学科の暖房器具の音がうるさい教室があるので、どうにかしてほしい。カンカンと大きな音が鳴るので授業に支障がでる。(医2女)

[回答]

【保】現在の保健学科の各教室の暖房設備は、蒸気を薬学部ボイラー室から供給を受けラジエーターにより暖房しています。蒸気を通気する際にカンカンと大きな音が鳴りますが、これは冷えた蒸気管に熱い蒸気が通気することにより発生するものです。残念ですが北大の現在の暖房システムではこれを防ぐ手立てはありません。なお、大きな音については、暖房通気時の最初の1分くらいですのでご理解ください。

(意見)

- ・ 保健学科の売店が小さいと思います。品揃えが少ないのでみんなしょうがなくカップラーメンを食べています。体に悪いと思います。食堂も遠いし、どうにかならないでしょうか。マイクの調子が4月から悪いようですが、いつになったらなおるのですか？休憩室とか、ロビーとか、休み時間に学生が自由に使える場所があまりに少ないです。いつも使っている教室を卒研とかで使われると、行き場がなくなってしまいます。(医2女)

[回答]

【保】売店については、大学生協で運営しています。スペースの関係もあるため、すぐには対応はできません。マイクについては、修理済みです。また、2階に多目的室(1・2・3)があります。使用予約がない場合は、自由に利用可能ですので、各部屋のドアにぶらさがっている使用予定表で確認の上、食事や勉強などにご利用ください。勉強する場合には、他に図書室隣に自習室があります。月～金が8:30～20:00、土が9:00～18:00(長期休業期間中は月～土 9:00～18:00)となっていますので、こちらもご利用ください。なお、自習室の日曜日の使用についても、検討していきたいと考えています。

(意見)

- ・ 食堂を保健棟にも作ってほしいし、保健棟自体建て直してほしい。(医1男)
- ・ 医短がぼろすぎる。(医2男)
- ・ 保健学科校舎をきれいにしたい。(医2男)

[回答]

【保】現在の保健学科建物は南側A棟・B棟が昭和46年・北側C棟・D棟が昭和57年に建てられているため、経年による老朽化が目立ちます。特に、高等教育機能開発総合センターが、明るく・きれいな環境であったため余計に、

感じるとは思います。

建物改修の予算要求を毎年行っているところですが、現在のところ、予算的に非常に厳しい状況です。学部で出来る範囲として、廊下・教室等を中心とした清掃の徹底を請負業者にも指導しておりますこととお知らせします。なお、食堂についても将来計画の一環として考慮していきたいと思っています。

3 経済問題（授業料、奨学金等）に関すること

（意見）

- ・ 医学部の学費、国立は安いかなぜあんなにかかるのか？どこに還元されているかまるで実感が無い。面白くない講義にあれば価値はないと思われる。実習にいても多くは見学で学生に金を使う場面はまったくない。もっと透明性を持たせた会計を期待いたします。（医6男）

【回答】

【医】毎年予算と決算が組まれていますので、会計はいつでも見ることができます。医学部6年間、講義や実習を行う建物や部屋の維持や整備、教職員の人件費、実習教材の購入・収集・管理、安全衛生費など、学校の運営には想像するよりも多大な費用がかかります。

4 図書館に関すること

（意見）

- ・ 学部内の図書館の利用時間が朝の9時から夕方6時までなので改善してほしい。一日フルに授業が入っているので学生としては大変利用しにくい。あまり意味がない。（医2女）

【回答】

【医】医学部図書館：平日は10時まで夜間開館（8月の夏季休業期間を除く）をしています。また、3年次以上については申請することにより特別利用（24時間利用）が可能になります。

【保】保健学科図書室：保健学科では、専門教育期の学生（2年次2学期～4年次）は平日17：00～19：00も学生証で入退館が可能です。（資料の貸出は行っていません。）

なお、平日の19：00～21：00及び土・日・祝日は事前に教員の許可を得て図書室に届け出ることで利用可能です。

（意見）

- ・ 医学部図書館のトイレをきれいにしてほしい。（医2男）

【回答】

【医】1日1回清掃をしています。臭気については担当係と打合せをしてダクト等の清掃をすることにしました。なお、1階にある多目的トイレもご利用いただけます。

（意見）

- ・ 医学部図書館の蔵書数をもっと格段に増やしてほしい。（医5男）

【回答】

【医】医系図書の最新の蔵書を維持するために以下のような入り口があります。

- 1) 医学部全分野に「教員選定図書」の選定を依頼し、希望のある図書は購入しています。
- 2) シラバスに搭載された図書は出来る限り購入しています（廃刊等により入手不可能な図書は除外）。
- 3) 新刊案内等の情報により、所蔵している図書の改版図書は極力購入しています。
- 4) 医学部図書館のホームページから希望図書の受付をしています。

「医・ホームページ」→「オンラインサービス」→「図書購入リクエスト」

※ もし具体的な希望図書がありましたら上記4) からリクエストして下さい。また蔵書数が格段に少ないと感じる研究分野（例えば医療情報、脳科学など）を特定して、2階に設置している「投書箱」（勿論2階カウンターでも受理）に入れて下さい。至急蔵書調査を行い検討しますが、大部又は高価な資料は図書委員会を通じて購入を検討することになります。

5 教職員の対応（応対等）に関すること

（意見）

- ・ 大学の教員の先生方はとてもいい先生方ばかりでしたが、教務（医学部）の人の態度が非常にえらそうな態度を毎回されて非常に不愉快です。いい大人がまともな口の利き方ができないのはいかなものかと思います。（医6男）

【回答】

【医】日頃より窓口対応においては、言葉遣いに気をつけ、親切、丁寧な対応を心がけるよう指導をしておりますが、そのような対応があったとすれば、大変申し訳ありませんでした。今後とも更に研鑽を積んで、適切な対応をするよう指導いたします。

6 車両（自動車・自転車・交通規制等）に関すること

（意見）

- ・ 駐車場がほしい。（医1男）

【回答】

【医・保】本学では、構内における騒音、振動等の防止を図り、構内を教育・研究の場にふさわしい環境にすること及び事故防止のため、身体の不自由な方等特別の理由がある場合を除き、学生の自動車・オートバイによる通学を禁止していますので、駐車場の設置はできません。

10 その他

（意見）

- ・ 先輩を交えての飲み会への参加者は1500円徴収されるのはまだわかる。しかし、不参加者までもが500円を毎回徴収されるのはいかなものかと思う。一度は仕方がないと思ったが、それが何度も続いているのである。おかしいと思う。自由参加なのであるのだから、参加する者だけ払うべきである。そのほかにもこの大学では無駄な雑費がかかり過ぎである。せっかく国立大学に入った意味もないじゃないか。（医1女）

【回答】

【保】飲み会の会費についてはぜひその幹事へ疑問をぶつけてみてください。

また、医学部保健学科では、授業料の他、教科書、白衣、実習施設への交通費などが入学してから卒業までにかかりますが、すべて医療職になるために必要な費用である他、大学生活を有意義に過ごすために必要な最低限の費用であると考えています。

（意見）

- ・ 保健学科は医学部であるにもかかわらず、医学科と相当な区別をされている。そうした、明確な区別をして、保健学科を疎外するのであれば、学部そのものを分離したほうがいように感じる。（医1男）

【回答】

【保】どのような点から疎外感を感じているのでしょうか？医学科と保健学科は養成する職種が異なるため、カリキュラムも当然区別されており、また建物が異なるため、そのように感じているのかもしれませんが、全学教育科目では保健学科以外の学生と一緒に勉強することができ、交流も持てると思います。医学科学生その他、様々な学部の学生と積極的に交流してください。

【 大学院 】

1 教育・授業に関すること

（意見）

- ・ 大学院が学際的になってきているのは良いと思います。一部、体裁だけが先行していて内実はあまり実質的でないカリキュラムもあると思うので、今後の改善に期待します。（医MC2女）
- ・ 医学研究科修士課程は発足してから間もないせいもあるが、講義が全く体系的ではない。何を目的としたカリキュラムなのか不明。医学的な知識を身につけさせたいのであればもっと時間を掛ける必要があるし、そうでないならもっと自由な形にしたほうが良い。今のままでは教員にとっても、学生にとっても有意義な時間とは考えがたい。（医MC2女）

- ・ 講義の時間を午前中のみにして欲しい。講義科目の選択肢を多くして欲しい。(医 MC 1 女)
- ・ 大学院という性格上仕方の無いことかもしれないが、個人個人の目的等に合わせた授業内容や、選択科目の充実を図っていただきたい。(医 MC 1 男)

【回答】

修士課程の目的は、募集要項に述べてあるとおり、医学部以外の4年制学部を卒業し将来の医科学研究を志す優秀な学生に対して、次の博士課程への進学に必要な学識を修得させ、最終的に各出身学部で取得した多様な知識や技術を活かした独創的な発想ができる医科学研究者・教育者・および高度専門職業人を育てることです。本修士課程では、そのための医学知識に必要な基本項目に焦点を絞った講義を、異なる専門分野の教員が、基礎講義を中心にして一部臨床講義も含めた体系的な講義を行っています。但し、これらの基本的な講義に基づいて、学生が自学自勉をすることを要求しています。その際、必然的に生じる疑問・質問を積極的に科目担当教員と話し合う体制をとっています。すでに学部の講義から経験済みと思いますが、講義を、一方的に受け身で受講するだけでは、たとい、どのように時間をかけようとも、この目的は達成されません。また、学生の研究時間を確保するためにも、学部のように講義に時間をかけることはできません。残念ながら、私個人の経験では、質問に来たのはこれまで1名のみですが、今後、より多数の学生が、より積極的に科目担当教員に質問に訪れることを期待します。

講義科目の選択肢と個人個人の目的等に合わせた授業内容の期待については、選択科目の医学セミナーがそれぞれの専門分野で、意欲のある学生に対して種々の形態の授業を展開しています。積極的に、学生自らが何をしたいのかを担当教員と話し合ってください。

選択科目については、医学研究科開講の選択科目12科目12単位から10単位以上修得することになっており、これだけでは選択科目が充実されていないように思われがちですが、大学院共通科目（例年40科目以上開講）についても選択科目に含まれますので、かなり充実しているものと考えます。ただし、大学院共通科目履修にあたっては、大部分が他研究科の講堂等で行われるため、学生は移動しなければならない不便な面もあるかと思います。なお、本研究科の修士課程にあっては、平成19年度入学者からカリキュラムが大幅に変更となり、本研究科独自に開講される選択科目の内容も大きく変ることになります。現在、在学している学生についても当該選択科目を履修し、現行の選択科目に振替認定が出来るよう検討いたします。

講義の時間帯を午前中にしてほしいとの要望について、本研究科の教員の大多数は医学部の専門授業科目を兼務しており、基礎医学系教員にあっては更に全学教育科目（全学部共通1年次開講科目）及び大学院共通科目を担当している教員がいます。又、臨床医学系教員にあっては大学病院の診療にあたり修士課程の授業を午前中のみ開講することは、困難な状況にありますことをご理解ください。

（意見）

- ・ 学部の授業で研究に関連するものは受講できるシステムを検討して欲しい。(医 MC 2 女)

【回答】

規程上、修了要件に含めることは出来ませんが、学部授業を受講することは当該授業科目責任教員の許可があれば可能です。手続き等は大学院係にお尋ねください。

（意見）

- ・ その研究室で何をしているかは、実際に見ないとわからないので、研究室に配属になる前に、研究室の状況を公開すべきである。配属先はそれから決定したい。(医 MC 1 女)

【回答】

修士課程設置当初は分野への配属を1年次1学期終了時としておりましたが、平成17年度入学者から現行といたしました。2年間で課程修了となる修士課程にあっては、入学時から教員が責任をもって指導することとしたためです。ご理解ください。

（意見）

- ・ 将来的なビジョンを持ちやすい授業と環境。(医 MC 1 男)

【回答】

将来的なビジョンは、個々人がそれぞれの出身学部等で取得した学識により、当然異なります。医学研究科修士課程は、個々人がそれぞれの出身学部で取得した多様な知識や技術と、修士課程での研究の融合により、独創的な発想ができることを目指しています。そのためには、個々人が、自ら考えようことを、科目担当教員或いは指導教

員と、積極的に話し合うことが必要です。将来的なビジョンが、指導教員側から、一方的に学生に与えられるものであるとは考えていません。

（意見）

- ・ 講義の際、プロジェクター設備の使用方法がわからなかったために、授業開始が遅れることがあったので、プロジェクターの使用方法がわかるようにマニュアルを置く等をして欲しい。（医 MC 1 女）

【回答】

簡易なマニュアルは置いてありますが、使用するパソコンの機種により操作が異なることがあることから、操作方法について担当教員へ周知いたします。

（意見）

- ・ 指導教授の変更や分野の変更が容易にできるように制度を柔軟にしてほしい。今の制度だと、大学院に入ってみて指導教授と合わない、圧力を受けたといった場合に、大学院生はなかなか逃げることができない。あるいは多分野の同時専攻などを認めてほしい。（医 DC 1 男）

【回答】

指導教員の変更は可能です。大学院教務委員会委員長にご相談してください。

なお、「他分野の同時専攻など認めてほしい」との要望について、複数の専攻に籍を置きたいものと解しますが、現専攻に籍を置いたまま他専攻の研究指導等を受けることは可能です。

（意見）

- ・ 大学院（特に博士課程）の授業科目に必要性を感じないものが多い。研究時間を無駄にとられているだけ。博士課程の学生は必修科目でなくとも必要なら自分の意思で選択する人が多いと思うので選択科目にしてほしい。博士課程まで進学する学生は英語での学会発表や留学を考えている人が多いと思うので英語でのプレゼンテーションを訓練する授業が選択できると良いと思う。（医 DC 4 女）
- ・ ためにならない授業ばかりである。1時間半をどうやってつぶすかという講義ではなく、学生のためになる講義をしてほしい。教育についてもっと真面目に取り組んでほしい。（医 DC 4 男）
- ・ 博士課程ではD1の内は講義にかなり長時間とられることがあるのが気になる。臨床系の人にとってはもっとそう思っているかもしれない。（医 DC 4 女）
- ・ 大学院の授業はあまり意義の感じられる物が無いと思う。自分が行う研究に即したものが無い。（医 DC 4 男）
- ・ 現在の必須科目の内容がかなり偏っているように感じられます。医学研究科では必須講義のなかで神経生理学・解剖学を中心とした必須講義が多いと思われますが、免疫関係などの講義は少ないと思われます。必須講義がなぜ選ばれているかなど公開はされないのでしょうか。（医 DC 3 男）
- ・ まじめに教育に取り組んでください。（医 DC 3 男）
- ・ マンネリである。（医専 1 男）
- ・ スタッフをもっと充実すべき。（医 DC 3 男）

【回答】

学生の意見が、一方で、研究時間をもっと確保したい。そのために必要性を感じない授業科目が多いという意見から、他方で、学生のためになる講義をしてほしい、教育についてもっと真面目に取り組んでほしいという意見まで、多様です。さらに同じ授業でも、学生が所属する分野により、ある学生にはためになり、別の学生にはためにならないという反応になります。博士課程の目的は2点あります。一つは、この課程を修了して、皆さんが医学博士号を授与されるに相応しい医学の学識、研究能力を獲得すること。もう一点は、その能力を実証できる学位論文を査読付きジャーナルに投稿して受理されることです。医学博士号を授与されるに相応しい医学の学識の獲得のためには、自分が現在行っている研究と直結しないかもしれない学識も必要です。これがないと、細部のみにこだわり、全体をみることが出来ないことも起こってしまいます。また、研究方向が将来変わることも起こります。そのとき、基本的な授業を事前に受けていたかどうかは、その後の研究の進展に大きな影響を与えます。

優れた学位論文を一流のジャーナルに掲載することが望ましいことは、いうまでもありません。本医学研究科では、分野によって違いはあるにしても、世界レベルの研究が行われています。博士課程の限られた時間で、優れた学位論文を仕上げるためには、多大な努力が必要です。この点も考慮した上で、医学研究科では、異なる専門分野の教員が、基本項目に焦点を絞った講義を行っています。但し、これらの基本講義に基づいて学生が自学自勉することを要求しています。その際、必然的に生じる疑問・質問、あるいは、個々人が、自ら考え思ふことを、科目担当教員或いは指

導教員と、積極的に話し合うことが必要です。ある授業が意義がないと判断することは、個々人の自由ですが、前述したとおり、同じ授業でも、学生が所属する分野によっては、意義があると判断する学生もいることを忘れてはいけません。多くの授業は、選択必修です。自分にあった授業を選択してください。

必須講義のなかで神経生理学・解剖学を中心とした必須講義が多いという指摘ですが、これは正しい指摘ではありません。入学年度により若干異なりますが、必須講義としているものは少なく、神経生理学も解剖学も選択必修です。基礎医学の種々の分野の中から、皆さんが選択するものです。学部と異なり、大学院が専門分化することは、やむを得ません。全領域を大学院がカバーすることは、不可能であるからです。

英語でのプレゼンテーションを訓練する授業は必修科目に含まれています。授業要項で確認し、指導教員と話し合ってください。また、医学研究セミナーでも、それぞれの専門分野で、意欲のある学生に対して種々の形態の授業を展開しています。英語を含めている分野もあります。積極的に、学生自らが何をしたいのかを担当教員と話し合ってください。

（意見）

- ・ 学部のときから研究室を訪問できるシステムを作った方がいいと思う。(医 DC 3 男)

【回答】

興味のある研究室があれば、直接、希望する研究室へ申し出ていただければ可能です。

なお、平成 18 年度入学者から新たに「医学研究実習」を必修科目として開講し、1 年次から希望する研究室（他人数の場合は抽選）で履修することになっています。

（意見）

- ・ 自分の研究に専念したいが、取得単位が多すぎて困っている。私は理学部出身で今までに受けている実習・授業と二重になる実習・授業が多いと感じる。医学研究科の中でも医学部出身の授業と他の学部出身の授業を分けてほしい。受けなくてもいいと感じる実習が多い。(医 DC 1 女)

【回答】

大学院博士課程の修了要件は 30 単位以上と国の大学院設置基準で規定されており、増やすことは可能でも、減らすことは出来ません。又、学部授業との重複について、具体的にどの授業科目を指しているのか判りませんが、二重履修を理由として不必要とお考えであれば、直接、担当教員へ申し出て、ご相談ください。現時点で同一授業科目にあって、出身学部毎に授業を展開することは考えておりません。

（意見）

- ・ 仕事終了後に研究をするのは辛すぎる。研究を行うならば、臨床は行わず研究だけに専念させてほしい。(医 DC 1 男)
- ・ 大学院に入り、大学病院の下請けばかり行う事が多く、本来の学業及び研究が出来ないことは非常に残念です。医師でない大学院生との差が広まり、むなしさがつづります。(医 DC 4 男)

【回答】

医療現場から長期間離れて研究に専念することも考えられますが、臨床医として専門医・指導医取得のために医療現場にあって研鑽も十分意義があるものと思います。

（意見）

- ・ 医学課程では多くの大学院生が大学病院で働いているため、皆が一斉に授業を受けるのは実際は困難である。時間の取れるときに受けられるようにインターネット上の授業等を充実させて、そこである程度単位が取れるようにしてほしい。こういう調査をして大学院を本当によくしようと思っているなら、大学院の授業を一度でも見学に来れば、皆が仕事に追われてあまり出席できず、かろうじて出席しているものはほぼ寝ていることがわかるので、いかにそれが意味のないことかを知るはずだ。(医 DC 3 男)

【回答】

確かに、授業中に寝ている学生があまりに多いのと、学生からの質問があまりにも少ないことに驚き、何のために大学院に入学したのかと呆れています。最低の努力で学位が欲しいだけなのかと推定していました。指摘のように、皆が仕事に追われて大学病院で働き疲れて、寝ているとは知りませんでした。医学研究セミナーは、それぞれの専門分野で、意欲のある学生に対して種々の形態の授業を展開しています。積極的に、学生自らが何をしたいのかを担当教員と話し合ってください。e-learning については、現在は整備されていません。

(意見)

- ・ 大学院生が、自分の興味のある他学部・学部の授業を受けられるようにしてほしい。また、学内での交流をもっとできるようにしてほしい。(医 DC 1 男)
- ・ 他の研究科との単位互換制度を充実させて欲しい。(医 DC 1 男)

[回答]

先方の学部・研究科の希望する授業科目責任教員の許可があれば履修可能です。手続き等については、大学院係に早めに申し出てください。ただし、学部授業で修得した単位は、修了要件には含まれません。又、他研究科の授業科目を履修し、その単位を修了要件に含める場合は、別途、本研究科の承認が必要となります。

(意見)

- ・ 医学研究科においては大学院の授業要項が各個人に配布されません。経費がかかるため全員に配布することが困難であれば、きちんとその旨を説明し、その内容や授業のスケジュール・履修届の提出期限などホームページで確認できるようにしてほしい。(医 DC 3 男)

[回答]

授業要項は入学時に新入生全員に配付し、2年次以上の学生については、所属分野へ教員分と合わせて配付し、不足ある場合はご連絡いただくこととしておりました。なお、平成 20 年度からは授業要項は電子化する予定です。その他の事項については、掲示で周知しておりました。HP 掲載については、今後、HP の充実を予定しており、その中で検討させていただきます。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

(意見)

- ・ せめて北大の学生には図書館は 24 時間開放にして欲しい。セキュリティの問題もあると思うが、玄関が閉まるのが早い。その割に、各研究室、実験室のドアの鍵が簡素であるため、それぞれの研究室でのセキュリティ強化が必要であると思う。(医 MC 2 女)
- ・ 医学部、遺伝子病制御研究所の老朽化が激しい。(医 DC 3 男)
- ・ 講堂の冷暖房設備の充実。夏場、空気を通やすくするために戸を開けておくためのドアストッパーを設置して欲しい。(医 MC 1 女)
- ・ 実験をするにあたり、確実に必要なのにないものが多い。逆に必要のないものが多い。(医 MC 1 女)
- ・ 24 時間使用可能にしてほしい。(医 DC 4 女)
- ・ 設備が老朽化している。何をするにしても、古い機械しかなく、研究そのものにも時間がかかってしまう。(医 DC 4 男)
- ・ 施設のセキュリティをもっと高めて欲しい。(医 DC 1 男)
- ・ 全体に古い。新しい建物が建っても建て増しの連続のため施設間の動線がまったく考慮されていない。古い物品を廃棄しようとしても、いろいろな事務的制約のため捨てられずにどんどん研究室内に溜まっていき、スペースの無駄遣いになっている。(医 DC 4 男)
- ・ 学生用のコンピュータを多くしてほしい。(医 DC 2 男)

[回答]

医学研究科の建物の改修工事が南研究棟、東南研究棟と進み一時中断していましたが、平成 18 年度から東北研究棟、平成 19 年度には北研究棟の改修が決定しております。今後、中研究棟、図書館、管理棟の改修に着手されることとなります。その中でセキュリティ、不要物品の整理、機械・器具類についてもある程度改善されるものと考えております。

(意見)

- ・ 共同利用施設機器に関して、不自由な点や不鮮明な点が多く、説明会やマニュアルの拡充を希望します。(医 MC 1 男)
- ・ 清掃が行き届いていない。病院は特に入札した業者を評価しないで、そのまま甘んじて採用しているように思える。掃除の人は怠慢なのに、事務方はそれを観察していない。困る。(医専 1 男)
- ・ 他の学部や北大内の異なる研究施設の利用をもっと簡便にして欲しいです。また研究費などももっと融通が効けば良いと思います。(医 MC 2 女)

[回答]

具体的に指摘してください。個々の質問について回答させていただきます。

(意見)

- ・ 産学連携が進むような体制を整えてほしい。(医 DC 4 男)

[回答]

施設・設備に関して発せられているご質問の趣旨が良く理解できません。それをもう少し具体的に説明いただければ回答させていただきます。なお研究における産学連携は大変重要で、北海道大学全体としては知財本部設置や企業との包括連携など、また医学研究科独自でも連携研究センター「フラテ」の設置などの体制作りを進めているところ です。

3 経済問題（授業料、奨学金等）に関すること

(意見)

- ・ 大学院生、特に博士課程進学生の経済的支援を増やしてほしい。大学院生、特に博士課程に在籍している人の多くは、ある一定の専門知識、或いは技術を持ち合わせていながら、収入を得る機会を手放して、博士課程に進学し、研究を行っています。一方、大学院から公表される論文の、人的労力の多くは博士課程大学院生が負っています。論文公表による恩恵は大学院、あるいは教官が浴しています。大学院生は論文を作製するにあたり、専門的知識を得る、という恩恵を受ける事になりますが、しかし、これは入学科及び授業料を支払う事で補われていると思います。つまり、大学院生が負っている人的労力に対してはほとんど対価が支払われていないのではないのでしょうか。少なくとも博士課程に進学している大学院生は企業に就職しているものと変わらない、或いはそれ以上の時間、研究に専念しています。これに対して RA 或いは TA 費として支給が行われていますが、はたしてそれが見合うものなのかは社会的な通念に照らし合わせてみても疑問です。(医 DC 4 男)

[回答]

文部科学省が大学・大学院教育にかけける予算は、先進国の中でも極めて低いものであることが指摘されています。大学院学生に対して、大学が全額給付することが普通に行われている米国の有名私立大学と比較して、残念ながら日本での現状は、大学院生に対して極めて厳しいものです。現状では、種々の分野で指導教授が個別の予算を取得し、その中から大学院生に種々の形で経済的支援を行っています。指導教授と話し合ってください。

大学院から公表される論文について、大学院生が負っている人的労力に対して、ほとんど対価が支払われていないという指摘について、もしも、大学院生がそれらの論文の共著者でないのであれば、その指摘は当然です。しかし、共著者であるのであれば、さらに、それが学位論文になるのであれば、その指摘は、全く、論外といわざるを得ません。それでも、その指摘が妥当であると主張するのであれば、大学院を退学して、一般病院あるいは企業に勤務することを勧めます。優れた論文を一流のジャーナルに掲載することは、簡単なことではありません。その共著者であるということは、国際的にも、優れた研究者であると認められることを意味します。そのような論文公表を継続することにより、専門分野で自らの将来を切り開くことができます。国内外で、そのような人材が求められています。比較のために、米国の有名私立大学での、学位審査の厳しさは、本医学研究科の比ではありません。彼らの多くは、優れた論文を一流のジャーナルに掲載するため、まさしく寸時を惜しんで研究しています。

(意見)

- ・ TAに関して。他の研究室では、一人、1ヶ月あたり10万支給ということを聞いたが、私のいる研究室は一人年間で10万と言われた。同じ学生なのに、この差はなんでなのか理解できない。(医 MC 1 女)
- ・ 今までずっと同じ研究室にいたが、他の研究室の話を聞いてみると、TAの支給額、物品配布、生徒への待遇が随分違うなと思った。(医 MC 1 女)

[回答]

TAの目的は、大学院学生が在学中に研究のみならず教育方法を学ぶことと経済的支援の一助としての二つがあるかと思います。したがって、一分野に偏らず広く浅く任用することとしています。

任用にあたっては、年度当初に学生個々の年間の担当時間数を決定し、実施分について月毎に報告いただき、手当を支給していますので、ある期間に学部授業が集中して開講される場合、年間の時間数をすべて一ヶ月間で消化される場合もありますが、学生個々の手当てにご指摘のような大きな差はありません。

また、研究室への予算配分は大学から配分されるものと研究室独自で科学研究費等の外部資金を獲得し、その目的に沿った研究に費やされるものであり、そのような場合は、物品購入費等に差が生じ、ご指摘の結果も想定されますが、これは当該研究室の努力によるものであり、止むを得ないものと考えます。

(意見)

- ・ 何故、研究のみ行なっている大学院生(医師ではない者)と病院業務(大学に貢献している)を行なっている大学院生の授業料が同じなのかは非常に疑問をおぼえます。さらに研究のみ行なっている大学院生(医師ではない者)が奨学金や授業料免除の可能性が高いことも悲しくなる要因です。(医 DC 4 男)

[回答]

日本学生支援機構奨学生の人数については、研究科毎に人数が配分されており、応募者が多い場合は、成績（1 年次にあつては入学試験の成績、2 年次以上の場合は1 年次の成績等）に基づき選考しています。又、授業料免除については生活困窮度等を勘案し決定されております。したがって、選考にあたって、申請者が医師であるか否かを採用基準にふくめているものではありません。

(意見)

- ・ 授業料免除の枠を拡大して欲しい。研究をしているためアルバイトをする時間が無い。また、医学研究科の大学院を4 年間から3 年間にしてほしい。(医 DC 1 女)

[回答]

医学研究科博士課程の標準修業年限は国の大学院設置基準で4 年と規定されており、3 年にすることはできません。ただし、優れた研究業績を上げたものについては、3 年以上在学で修了することができます。詳細は大学院係にお尋ねください。

(意見)

- ・ 医学課程の大学院生は、ほとんどが大学病院で臨床医として働いているにもかかわらず、大学病院からはほとんどの者が給料をもらえず、また年金や健康保険も自分で加入して支払っているのが現状である。大学院側から何かできるとは思えないが、大学病院に働きかけてもっと社会的地位のようなものを認めて、年金や健康保険などは事業者として管理してほしい。大学病院の安価な労働者として重要な地位を占めているのは明白なのだから。大学院側でもそういう現状があることは把握しているはずで、その問題に関して大学病院側に全て押し付けるのもうやめてほしい。もし把握していないというのなら、そんな声も届いていないこのようなアンケートに自分が時間を費やしたことを後悔する。(医 DC 3 男)

[回答]

種々の制約がありすべての要望に答えることはできませんが、従来、大学病院の医員の身分のままでは大学院への入学は認めておりませんでした。数年前から医員のままで入学できるよう改善しています。また、北海道医師会又は北海道大学医師会への加入が前提となりますが、平成 17 年度から北海道医師国民健康保険組合に大学院学生が加入できることになっています。

(意見)

- ・ 設備もそうだが、金銭面での貧弱さが感じられる。知人に関東の私立大学で研究していた人がいるが、明らかに金銭面で貧弱。これでは研究したくてもお金がなくて出来ない。いい論文がでるわけもなく、世界的にいい研究が出来るとは思えない。(医 DC 4 男)

[回答]

先に述べたとおり、文部科学省が大学・大学院教育にかける予算は先進国の中では極めて低いものです。文部科学省から大学院に対する配分だけでは、各分野での先端研究は不可能です。このため、各分野の指導教授らが、個別の研究費を取得し、それによって、それぞれの分野での先端研究を継続しているのが現状です。研究に必要な資金等については、指導教授と個別に話し合ってください。

研究したくてもお金がなくて出来ない等のコメントについて、総論としては、このようなネガティブな発想はするべきではありません。文部科学省からの、研究に対する支援体制は、最近大きく変わってきています。大学院に一律に支援するのではなく、個々が提案する研究内容を審査して、優れたものに対して支援する方向です。個々人の研究提案についても同様です。ネガティブにならず、世界的にいい研究がしたいという意欲を大事にして、まず、あなたは何をしたいのか、具体的な、検証可能な研究計画を出して、指導教授とよく話し合ってください。

4 図書館に関すること

(意見)

- ・ 医学部図書室の蔵書をもう少し充実して欲しい。(医 MC 2 女)

【回答】

具体的な希望図書があれば医学部図書館のホームページから希望図書の受付をしていますので、ご希望があればお寄せください。（詳細は学部回答欄を参照してください。）

（意見）

- ・ 医学部生以外の医学部図書館の夜間利用。（獣 DC 1 男）

【回答】

他学部・研究科の方でも夜間午後 10 時までではご利用できます。

5 教職員の対応（応対等）に関すること

（意見）

- ・ 事務の学生に対する対応が非常に悪い。横柄な態度をとられた上に部署をたらい回しにされたこともあるので、改善してほしい。（医 DC 1 男）
- ・ 勤務態度の悪い技官，対応の悪い事務職員等のリストラが必要。いまだに，学生に対して役人的な応対をする事務職員がいる。技官は現時点で解雇の心配が無いためか勤務意欲に全く欠けていると思うときが多々ある。必要な書類に関する対応などが後手後手に回り，また話がきちんとわかる担当が居なかったりで事務的にも，相談する教官に対してももの足りない（指導力不足）を実感する。（医 DC 4 男）

【回答】

事務職員の場合，概ね 3 年で異動となります。そのため異動直後，若干，不手際が生じる可能性もありますが，現時点（平成 18 年 12 月）では，ご指摘のあった事項は改善されているものと考えます。

10 その他

（意見）

- ・ 大学病院の負の遺産（看護婦，技師など）のために医学系大学院生が犠牲になるシステムは改善して欲しい。北大病院のような設備が整っているところならば若くてやる気のある人材が容易に集まると思います。若くやる気に満ち溢れ，安い賃金で働く労働者を雇い，高給取りのコメディカルを解雇することを切に願います。（医 DC 4 男）

【回答】

具体的（部署・氏名）にご指摘いただきたい。

（意見）

- ・ 医学研究科に所属する以上，たくさん問題がありますが，個人に対してどのようなサポートがなされているのかが未だに不鮮明であり，将来的な不安もまたあります。自分自身では解決できない大きな問題に関してのサポートと情報の提供，それらを利用相談しやすい環境作りを強く希望します。（医 MC 1 男）

【回答】

基本的には研究指導教員が対応することになりますが，コミュニケーションがとれない場合は，大学院教務委員会委員長（平成 18 年度 福島教授）へご相談ください。事務的な内容であれば大学院係へご相談されても構いません。

（意見）

- ・ 大学院生であるが，大学病院での勤務を強制されており，研究ができず不満である。（医 DC 2 女）

【回答】

医療現場から長期間離れて研究に専念することも考えられますが，臨床医として専門医・指導医取得のために医療現場にあって研鑽も十分意義があるものと思います。

歯学部・歯学研究科

1 教育、授業に関すること

【学部】

（１）１年次から専門科目をもっと展開して欲しい。

現在はご存じのとおり歯科医師となるに必要とされる事項を自ら積極的に考え、行動できるようにするためのモチベーションを養うことを目的として、「歯科学概論」を１年次通年で展開しております。また、夏季休業期間中にはECE（早期臨床体験実習）を実施し、実際の医療現場を地域医療の第一線を担う先生方から学んでおります。

今後、このような意見があることを踏まえ、学部教務委員会で検討して参ります。

（２）教員の授業態度について

歯学部では、FD委員会を設け、毎年宿泊でFD研修を行い教育方法の改善を不断に行っています。学生からの授業評価も重要な意見としてフィードバックしておりますので、是非真剣に評価をお願いします。

ご指摘の件については、FD委員会、教務委員会等で教育方法の改善に努めて参りたいと思います。学生諸君も是非とも授業には積極的・主体的に取り組み、その上で教員と積極的な意見交換を行ってください。

【大学院】

（１）大学院の授業について

休講、変更等については、可能な限り事前に周知するようにいたします。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

（１）建物等

①学生用駐車場が欲しい

本学では、キャンパス内の騒音・振動等の防止を図り教育・研究の場にふさわしい環境を維持すること及び交通事故防止のため、学生の自動車・オートバイ等による通学は禁止しております。

②学部棟が汚い

③トイレをキレイにして欲しい

④歯学部の建物をきれいに建て直して欲しい

⑤歯学部をもっとキレイに

⑥研究施設が狭い、危ない

「建物」としては、今後、数年後に計画されている大規模改修にて整備される予定です。

なお「建物内部の清掃状況」については清掃業者に対して指導を徹底しますが、学生の皆さんも使用に際して気配りをされるようお願いいたします。

⑦歯学部にも「生協食堂」が欲しい

学生の声として理解できますが、スペース確保の面及び利用者数と経営効率の面からも検討しなければなりません。

⑧満足しているし、もったいないと思う

施設については今後ともその緊急度を判断しながら整備し、少しでも快適な就学環境にしていきたいと思います。

⑨計画性を持った予算の執行…無駄な修理がある…必要な補修出来ない

修繕については、緊急性・優先度を判断しながら行っているつもりですが指摘にある「無駄な修理」「必要な補修が手つかず」の具体的な例を、示して頂ければ今後の参考にします。

⑩共通施設が管理されていないので使う気にならない

講座間の格差についてですが、まずは、所属されている講座・研究室等の指導教員に相談してください。教員からの要請に応じて、ある程度の改修を行うことは可能です。

(2) 機器等

- ①**全てにおいて時代遅れ。30 年前の機材で訓練しても技術的に遠回り**
- ②**設備、実習器具ともに不備がある。研究機関としての大学の在り方を考えて欲しい**
- ③**もう少し充実してほしい**
- ④**設備が乏しい**

予算の制約もあり直ちに全ての機材を更新することは困難ですが、計画的に更新をしていく予定です。設備が乏しいという指摘については、具体的に例示ください。その結果を今後の整備の参考にさせていただきます。

⑤社会人大学生…1 人用の机が欲しい

各講座・研究室等の場所の問題もあると思われますが、机等については、まずは、それぞれの指導教員に相談してください。

3 経済問題（授業料、奨学金等）に関すること

【学 部】

(1) 教科書代がこんなにかかるとは思わなかった。国試対策本を毎年図書館に入れて欲しい。

歯学部では、第82回～第99回までの歯科医師国家試験の問題と解説を掲載した「Answer」誌（全15巻）を毎年購入しています。また、歯学部図書室では、希望図書を募っておりますので、希望がありましたら、所定の用紙によりお申し出ください。

【大学院】

(1) TA 経費が実働に対し少ない。

TA の任用に当たっては、限られた予算で実施しております。このため、TA 人数、予算が異なる他研究科とは金額が異なる場合もあり得ると思いますが、実情をご理解いただき、学部学生の教育補助に協力方よろしくお願いします。

(2) 大学全体から講座単位への研究助成をして欲しい

大学の予算に関する要望については、本研究科ではお答え出来ません。なお、研究助成の公募については、北大のホームページの研究協力・産学連携に掲載されていますので、各講座から積極的に応募願います。

6 車両（自動車・自転車・交通規制等）に関すること

【大学院】

(1) 遠隔地から通学する学生の通行証がとれないことが不満。

本学では、キャンパス内の騒音・振動等の防止を図り教育・研究の場にふさわしい環境を維持すること及び交通事故防止のため、学生の自動車・オートバイ等による通学は禁止しております。なお、真にやむを得ない場合は、臨時通行証を交付しますので、教務係へ申し出てください。

薬学部・薬学研究科

【学部】

1 教育・授業に関すること

（意見）

- ・ 数ある授業のうち私の受けたものについては、概ね満足しています。後輩達が同様の教育を受けることができることを望みます。

【回答】

現在の1年生からカリキュラムが大幅変更になりますが、後輩諸君もよりよい教育を受けられるように教員一同がんばりたいと考えています。

（意見）

- ・ 教養の授業の方が、学部2年の時の授業よりも先生方が自分の好きなことを話しているせいか面白かった。学部での初期の授業も興味を持って聞けるよう、何か工夫が欲しい。

【回答】

専門科目の講義は、学部として学ばなければならないことを講義する場合が多く、指摘のような「教える自由度」が教養課程の講義よりも減少している場合もあります。専門科目の基礎知識が一定レベル以上になると、より専門的な教員の講義も興味を持って聞けるようになるかと思います。6年制教育の実施に伴い、6年制課程の講義は薬剤師養成を目指して一定の内容を学ばなければならない傾向が増加するかと思いますが、4年制課程の講義は、より自由度の高い学問的に味わいのある講義が増えることが期待できます。

（意見）

- ・ 実習のレポートが多すぎる。自分の時間を過ごせない。

【回答】

実習は、実験をやれば終わりというわけではなく、実験結果を客観的にまとめ、そこから考察するという過程を経て初めて完了します。実習時間前の予習や実習時間後のレポート作成は、自分のサイエンスの思考や文章の書き方を鍛錬する良い機会です。薬学部のカリキュラムは濃密ですが、がんばって取り組むことを期待します。

（意見）

- ・ 2年以降は学部での講義が多くなってくるが、もっと公開授業や学部の壁を越えた実習があれば刺激になって勉強に対する意欲がわくとおもう。

【回答】

専門科目の講義は、学部として学ばなければならないこと、国家試験受験のために学ばなければならない内容も多くなっています。このため、希望通りの講義や実習の開設は、時間的に困難な状況です。しかしながら、今後、国家試験受験を必要としない4年制課程の学生には、講義の選択肢が増加すると思います。

（意見）

- ・ 1年次からもう少し専門科目もあった方が良かったように思う。
- ・ 教養科目の中は、必修科目はいらないと思う。

【回答】

現在の高等学校の履修では、理科の科目を例に挙げても物理、化学、生物を全て履修して入学する学生は少数です。薬学部は少なくとも理科3科目（物理、化学、生物）の基礎が出来ていないと専門教育を良く理解できません。このため教養科目でも必修科目は必要です。また、語学に関しても専門課程や大学院課程では英語は必要であり、サイエンスの共通言語は基本的に英語です。このように将来の勉強に必要となる科目は教養科目でも必修科目になっています。

（意見）

- ・ アンケートの結果が反映されていない。

【回答】

アンケートの結果の全てをすぐに反映することは事実上不可能ですが、学生の意見として取り入れ、出来ることか

ら改善を進めています。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）について

（意見）

- ・ 冷房を完備して欲しい。

【回答】

第2講義室は冷房を完備してあります。新築予定の講義室は空調完備を計画しています。

（意見）

- ・ 薬学部も教養のようにきれいにしてほしい。

【回答】

新研究棟の建設は、狭隘化を解消し「きれいにする」ための学生・院生・教職員の悲願ではありますが、予算的な問題等で実現は困難を極めています。6年制課程の学生の進級に伴い講義棟を新築する計画があり、講義室に関しては、改善の見込みがあり、ぎゅうぎゅう詰めの部屋でのセミナーなどは改善できるかと思います。研究スペースの改善は、安全性の確保も含めて今後の課題です。

（意見）

- ・ 大学生協の営業時間の延長、土日の営業。薬学部には食堂を作してほしい。

【回答】

生協の営業に関しては、購買部の土曜営業を行っています。食堂の設置要求は毎年でていますが、もっと要望の高い教育・研究スペース等の増設が実現していない段階では難しいのが現状です。

【 大学院 】

※薬学研究科は平成18年4月に生命科学院に改組転換

1 教育・授業に関すること

（意見）

- ・ ある程度満足はしています。ただテキスト重視ではなく最先端の研究（担当教官の研究以外）に触れた講義も期待したい。他大学の研究者の講演（特に海外）の回数がもう少し多ければと思う。それが金銭的に難しいのであれば学部の枠を越えた講義の充実を望みます。

【回答】

薬学研究科から生命科学院に大学院教育組織が再編成されたことに伴い、今後、より広い領域の講義を聴講できる機会が増えると期待できます。また、他機関および海外研究者の講演会等を、大学院講義とは別に適時開催していますので、履修単位とは別に参加することを勧めます。

（意見）

- ・ もう少し学生の立場に立った授業を！急に専門用語を並べられても学生には分からないと思う。

【回答】

わからない点は、講義中に積極的に質問する事が大切です。

（意見）

- ・ 大学の先生（教授、助教授たち）はだいたい教えるのが下手である。

【回答】

教員により教授法に違いがあるかと思います。わかりにくい講義に関しては、教員に直接言うことも必要です。また、単に教わるという姿勢ではなく、積極的に学び取るという姿勢が大切かと思っています。

（意見）

- ・ 教育機関としての認識が足りないと思います。私は大学院から北大にきましたが、現在の研究科のほとんどの教員が自分の研究

にしか興味がないように見受けられます。授業も少人数制といえば聞こえは良いのですが、ゼミの延長でしかないものが多いです。大学院は自分で勉強するところですが、研究室の様々な仕事、雑用に追われ、なかなか自分の勉強する時間がもてません。

【回答】

一般的に、日本の大学院は教員数に比較して院生数が多すぎます。また研究・教育を支援するスタッフの数も少なく、指摘のように教員も院生も必ずしも満足できる状況にはないかと思います。大学院では研究と教育は表裏一体となっています。優れた研究を実行しつつ大学院教育を充実することがベストであり、本学も研究組織や大学院組織の再編を通して改善に取り組んでいます。研究室の雑用等に関しては、所属研究室で実体が異なるので、担当教員とよく話し合ってください。

（意見）

- ・ 成績に関して評価方法の具現化および客観性。

【回答】

新しい大学院組織である生命科学院では、大学院における単位の実質化に取り組んでいます。

（意見）

- ・ 薬学研究科には授業や教育に関心がある教授は数える程度しかいない。大学はあくまで教育機関であるので、教育をきちんとやるべきである。特に修士課程の授業などは教官もやる気がないのでほとんど意味をなしていない。そういう教授はきちんと評価し、やめさせた方がよい。来年度から薬学は6年制を迎えるが、学生のことを考えた選択をして頂きたい。現在の体制では、北大薬学に入学することはお勧めできないので、後輩には勧めたくない。

【回答】

現在の大学院制度は発足以来かなりの年数が経ち、現状に適合した組織の見直しが行われています。薬学研究科では、教育機関としての学生の所属組織（学部）、大学院生の所属組織（学院）を教員の所属する研究組織（研究院）から分離して、教育の充実に配慮した組織再編を行いました。どの大学院でも、現在ではほぼ全入状態となっている大学院修士課程の教育は、従来の大学院教育とは違った方向に進んで行くと思われます。教員の評価に関しては、研究院組織で行っていますが、評価をどのように扱うは今後の課題です。大学院は国内外に多数有り、出身大学の大学院に進学する必要はありません。

（意見）

- ・ なかなか良い。

【回答】

何がよいのか挙げられていませんが、こういう意見は教員の励みにもなります。

（意見）

- ・ たまに片手間に講義をしている先生がいて、こちらのやる気がそがれる。

【回答】

講義に関する要望は、担当教員に直接言うべきです。意見が成績に影響することはないでしょう。

（意見）

- ・ 専門家の設置。

【回答】

専門家の意味が不明ですが、実務家教員の配置は整備を進めています。

（意見）

- ・ 先生へ教育をしてください。すなわちどういうことかという、これまでの研究成果は立派でも、人間的に育っていない（学生とのディスカッションや会話すらままならない）教授がたくさんいます。彼らの言い分としては教官は「教育者」ではなく「研究者」だという事ですが、教授とは一研究室のトップに立つ人間なのですから、学生の相談にのるのが使命だと思います。是非、大学の教官へ教員免許取得制度を設けてください。これは切実な願いです。

【回答】

上記の大学院組織の再編成の項を参考にして下さい。教育方法に関してはFaculty Developmentを行っています。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

（意見）

- ・ ある程度満足しています。ただ他の研究室にしかない測定機器がある際学生だけでは気軽に使用できないのが残念です。その機器がどこに所有しているのかを探すのも大変です。

【回答】

研究室の機器は教員の競争的資金により、課題とした研究を実行するために購入されたものが多く含まれます。制度上このような機器は目的外の使用を想定していませんが、多くの教員は大学院生の使用に関して制限を設けていないと思います。担当教員を通して他研究室の機器も使用できるように交渉して下さい。しかしながら、故障や修理の問題もあり、このような機器を「気軽」に使用できるかどうかは別問題です。社会通念に従った使用方法が望まれます。大学院教育に必要な高価な機器に関しては、共通機器室等に設置してあります。

（意見）

- ・ 教室が小さめではないですか。80人のクラスで80人用の教室では横の人との間が狭すぎます。横に長い机を廃止するか、講義室をもう少し大きくすべきです。

【回答】

講義棟の拡充と研究施設の増築は薬学部・薬学研究科（薬学研究院）の長年の懸案です。現在、薬学部本館に隣接した2階建て新講義棟の設置が計画されており、100人以上収容の大講義室も計画されています。予算や規制の問題があり、100%満足できる増築や講義室の改善は難しいのが実情です。

（意見）

- ・ 足りない。

【回答】

施設の狭隘化は、薬学部に所属する全ての人が実感していることであり、特に講義室の不足は開講にも影響を与え、研究スペースの不足は危険な状態を生み出しています。講義室に関しては、上記のように改善の見込みがあり、ぎゅうぎゅう詰めの部屋でのセミナーなどは改善できるかと思います。研究スペースの改善は、安全性の確保も含めて今後の課題です。

（意見）

- ・ 安全性をより確保できるようがんばって欲しい。

【回答】

安全性の確保に関しては最善を尽くしていますが、建物のスペースの問題もあり、すぐには解決できない事情もあります。狭隘化のなかで大変でしょうが、実験の際に事故を起こさないように注意を払って下さい。

（意見）

- ・ 薬学研究科の研究敷地が狭い。医学部、歯学部など学生の少ない学部より薬学など学生の多い研究科の新棟を建設すべきである。

【回答】

新棟の建設は、薬学部狭隘化を解決する唯一の方策として、長年取り組んでいる課題です。実現できるように努力を続けます。

（意見）

- ・ 薬学部に食堂が欲しい。

【回答】

毎年である要望ですが、教育・研究施設の充実など解決すべき課題が多く優先的に取り組むことはできません。雪深い地で夜遅くまで研究・勉学に励む院生の為に必要な施設であることは理解しています。

（意見）

- ・ 私の研究室では4年生と修士の学生は研究室で自分のパソコンをインターネットに繋ぐことができず（いまだこんな研究室があるなんて思いもしませんでした）、2台のパソコンを10人以上で使用しています。学部生は情報センターのIDを持っていて学部の分室など使えるようですが、院生は使えないと聞きました。こういう研究室もあることをご理解いただき、院生も使えるよう

にして欲しいです。

【回答】

研究室担当教員と話し合っ解決すべき問題かと思ひます。共通の情報室の設置が理想でしょうが、本学には狹隘化のために改善が必要とされている優先事項があり、端末を設置した院生共通の情報室の設置は、残念ながら優先的に解決すべき問題とはなりません。

（意見）

- ・ 研究スペースが狭いことが、研究効率の低下につながっていると思ひます。
- ・ 研究施設は狭いが、資金面等様々な問題も絡んでいるので、仕方ないと思ひます。共通の研究機械はかなり充実しているのではないかと思ひます。しかしながら、薬学に関して言えば、授業を行なう講義室はおそらく最低レベルである。

【回答】

薬学研究科の研究・教育スペースの狹隘化の解消は、効率的な研究や安全性の確保のために必要であるとの認識を持っています。きちんとしたスペースを確保できるように、今後も努力を続けて行きます。

（意見）

- ・ 不満はないがNMRを増やしてほしい。

【回答】

生命科学院の教育・研究設備の充実でNMRを設置しました。

（意見）

- ・ 各研究室にエアコン。

【回答】

札幌といえども発熱機器が多く存在する実験室は、夏場は暑くなり精密機器の作動に問題を生じることもあります。また、機器や実験の性質上、窓を開けられない場合が多いと思ひます。現在、研究室のエアコンの設置は各研究室の負担のもとに行われておりますが、電力契約の問題もあり数は限定されています。しかし、夏場に室温が上昇する最上階の研究室を対象にガスエアコンを各研究室の負担で設置しています。

（意見）

- ・ 特に今の状態に不満はありません。

【回答】

今後も引き続き改善に努めていきます。

3 経済問題（授業料、奨学金等）に関すること

（意見）

- ・ 一個人の興味ではなく、社会に貢献できる研究を行っている機関に多くの研究費が割り振られることを望みます。法人化後も、論文の数のみで研究費が下りたり、職員の採用が個人的コネクションで決まってしまうシステムが根強く残っています。価値ある研究・人材に国の経費をかけて欲しいと感じます。

【回答】

研究・教育の評価は難しく、予算は国の施策にも依存します。北海道大学では、競争的資金を獲得できるように、各教員は努力しています。薬学研究院では、教員の採用が個人的なコネクションにたよることは、ほとんど無いと思ひます。COEの採択など、大学院生の教育・研究が充実するように努力しています。

（意見）

- ・ 博士課程まで進学することになりましたが自立した生活を送りたいと望んでいます。年齢のこともあり順調に研究が進行しても27歳まで親のスネを嚙り続けるのには抵抗がありどうにかならないものかと悩んでおります。27歳といえば通常ならば企業においても、また公務員であってももうほとんどが自立した生活を送り、仕事にも慣れていることを考えると自分の行った選択がベターなのかとても不安になります。

【回答】

博士課程の院生に関する経済的支援は、昔に比較すればかなり充実しています。学振特別研究員の採択率は増加して

いますし、COE を介した支援もあります。国の施策として、博士課程の院生に経済的支援をおこなう処置が考えられ始めています。

(意見)

- ・ 授業料免除の枠を増やしてください。TA, RA などの賃金を上げてください。

[回答]

博士課程院生への支援は、国のレベルで検討されています。授業料免除等の課題は、残念ながら一組織では解決できない問題を含んでいます。

(意見)

- ・ 私は授業料、生活費等一切の費用を自分で工面しています。学部の際は授業料が全免でしたが、大学院は半免になり生活費を削っている状態です。勉学の時間を削ってアルバイトをすればそれだけ収入が増え、半免も通らなくなかなかねず、さらに時間を削ってアルバイトを増やさないといけなくなって悪循環です。全免を減らして半免を増やす方針だと入学してから知りましたが、その必要性が理解できません。学費が払えなくなったら退学すると思います。奨学金に関しては、第1種を希望しましたが通りませんでした。一方でほとんどの人が1種で採用されている研究科もあります。希望者数に対する割合を考えるなど再考して欲しいです。また、私の研究科では院試の成績で優先順位を決めるようなのですが、院試はフェアではありません。筆記試験はほとんど期末試験と同じですし、面接は外部生のみ行い、内部生は満点だそうです。こんなことがわかっていたらはじめから入学を希望しなかったのと思います。奨学金希望者に対して何らかの形で順序をつけるのなら、外国語の成績だけを考慮とか経済的状況を基準にするとかいろいろ方法はあると思います。

[回答]

大学院生（特に博士課程の院生）に関しては、上記したように経済的な問題を解決すべく取り組みが、色々なレベルで動き出しています。人数の多い修士課程の院生には、奨学金が行き渡らないなどの問題点はあると思います。大学院入試はフェアに行われています。

(意見)

- ・ 工学研究科の一部で実施している、授業料とほぼ同額の奨学金制度？があると聞く。これは、入学者全員が受けられるらしく、授業料のためにバイトをする必要も無く、院進学がしやすくなると考えられる。こういった制度を他の研究科にも導入して欲しい。

[回答]

工学研究科がどのような予算処置で実行しているのかは不明ですが、生命科学院の多くの院生は、COE 等の RA に採用されており、一般的に他研究科の院生よりも経済的支援は充実しています。

(意見)

- ・ 「北海道大学」に対する期待・要望ではないが、学生実態調査の自由記述ということなので。大学で1日の大半を過ごす毎日、生活に余裕がない。バイトもできないので経済的にも苦しい。親父殿の好意にて学費から生活費まで最低限の面倒を見てもらっているが、これが30歳目前にしてすることかと少々悩むこともある。某科学雑誌には、日本の大学院生は過半数が経済的に苦しく、健康的に何らかの不安要因を抱えて（もしくは実際に健康を害して）いるなどというコラムが載ったかと思えば、別の科学雑誌には院生は無給で研究室の仕事に従事させられているのも同然というコラムまで載る。「皆そうなのか」と納得させられる。納得といっても「それが正常なのだ」ということではなく、「あちこちで当たり前のようになり通っている問題なのか」ということである。時間と経済に関する不満は挙げればきりが無い。

[回答]

教員が大学院生時代に比較して、経済的な支援は増加しているように思えますが、生活実態はさほど変化が無いことは理解できます。大学院修了者が社会の中核として重要な役割を果たし、社会が大学院生の教育に対してより改善すべきであるという認識を持って貰う必要があります。院生に研究室の雑用が振り分けられるのは、教育・研究を支援する人材の不足がもたらすしわ寄せと考えられ、米国では考えられない状態です。大学院教育・研究に社会が金をかけるべきであるという認識をより多く得るために、社会に発言すると共に有為な人材として社会で活躍して頂くことを希望します。

10 その他

(意見)

- ・ アカハラの改善に期待します。

【回答】

ハラスメントを担当する教員がいます。まずその教員に相談して下さい。

（意見）

- ・ 旧国立大学だけあって、基本体質は独法化されても変わらない。大学とは、しかも北大のような地方の中心的存在である大学は、何のために存在しているのかも一度良く考えるべきであろう。大学は学生の教育が第一、第二に社会への貢献をするべきであり、教授を満足させるために存在するべきではない。もっと開かれたシステムにすべきである。例えば、総長や学部長はきっちり決めるべきである。総長などは外部から教育及び経営がまともにできる人になるべきである。教授陣の権力で決まるべきではない。総長がでた学部に新しい建物が建つなど、あまりにくだらない。同様に学部長も様々な意見を聞いて決めるべきである。薬学はほぼ年功序列。事務室等も完全にお役所システムである。すべてにおいて、きちんとした評価をするべきである。母校が将来学生のことをきちんと考えられる良い大学になってくれることを望んでいます。

【回答】

日本の大学に関する一般的な意見であると思います。よりよい日本の社会を築いて行くためには、徐々にでも改善しなければならない指摘は含まれています。国の施策もありますが、北大はどういう大学を目指すのかの理念を挙げて取り組む課題です。なお、北大、薬学研究科ともきちんとした評価を行って改善に努めています。

1 教育・授業に関すること

(意見)

- ・ 私は工学部情エレ系電子工学科に属していますが、学科専門科目で選択できる授業科目が少ないです。その上、他の科目と内容がかぶっていることが多く、新しい内容を勉強したい私には不満です。教養科目では専門性を欠くので、学科専門の選択科目としてバリエーション広く講義を開講して欲しいと思いました。(工3男)
- ・ 後期における選択科目が少なく取りたい授業があまり無かったので、科目数を増やしてほしい。(工1男)
- ・ 教養の授業は無駄が多すぎる。後々のためにならない。もっと早い時期から専門科目を行うべき。特に情報処理は必要ない。その他教養の必要単位を減らし専門科目を増やすべきだと思う。(工4男)
- ・ 全学教育を短くして欲しい。(工3女)
- ・ 教養科目をもっと減らしてほしい。興味の無い科目を嫌々取られる量が多すぎる。教養を取らせるなら、興味のある科目をとれるようにして欲しい。そして、やりたい勉強があつて入学したのに、その内容にまったく触れないのでは人のやる気がなくなる。指導カリキュラムを根本的に見直すべきである。(工4男)

[回答]

古くは、180単位以上を履修していた時代から、最近では130単位程度まで卒業に要する履修単位は減少してきています。その根本、GPAの導入、履修単位の上限設定には、単位の実質化（授業を受けるには同じ時間だけの予習時間並びに復習時間、従って授業時間の2倍の時間を予習復習に求める）の考え方から、それほど多くの授業を履修できないとの考えがあります。一般教養と専門科目のバランス、専門科目の中での内容の広がりや個々のテーマの掘り下げ方のバランスの問題は、北大全体および各学科における教育課程全体に関わる問題ですから、個々の要望にすぐに答えられませんが、カリキュラムは学年を追って履修することで体系的な知識が身に付くように構成されています。また、2年生から3年生前半にかけては、それぞれの学科の専門科目のうち特に基礎になる科目が多く用意されることから、重なる授業内容があるかもしれませんが、その内容はその学科で特に重要な事柄ですのでしっかり身につけてください。取りたい科目が少ないとしても、その学期にある必修科目をしっかり習得するように努めてください。北海道大学は4つの基本理念を掲げています。特に全人教育、国際性の涵養の視点から教養教育は重視されています。卒業後の人生において役立つ科目であると確信しています。ただ、楔形に3年目、4年目でも教養科目を履修できる制度、専門科目を幾分低学年に移すよう取り組んでいます。

(意見)

- ・ 独立行政法人化ということもあり、近年特に教育に関する様々な制度が充実しつつあるのではないかと感じる。しかしながら、学生の意識はついていないのが現状ではないだろうか。このような状況ではせつかくの制度も一部しか機能しないだろう。大学生とは本来どのようにあるべきかという、物事の捉え方、考え方の面を変えていかなければならないと考えさせられることが度々ある。学力はむしろそれに付随するものであるだろう。これは難しい問題であることは間違いないが、全学教育課程で多い集団的授業では難しい。少人数の授業などを活用して、教官、学生の信頼できる人間関係を早い段階から構築できればと思う。いずれにしても大学の教官と係わる機会が3,4年からというのでは遅すぎるように思う。(工4男)

[回答]

研究室配属を早めることはプラスとマイナスの面があると思います。なぜなら、教養科目の期間は、人間形成の重要な期間でもあり、この段階ですぐに専門科目を学ぶことは多面的なものの見方を身につける機会を逸する可能性もあるからです。しかし当然学問に対する意識づけを行ううえで大きなプラスもあり、今回の意見は今後の大学運営にも参考にさせて頂きたいと思いますので、これからもどんどん意見を出してください。一般教育演習は、今後受講人数を制限し、論文指導等を積極的に取り入れていく方針です。学生同士の活動として、研究室NAVI、履修相談など積極的に進めているグループもあります。そこでは学科・学部を越えたつながりが作られており、学生支援はこれからの大学の重要な柱であると認識され始めています。

(意見)

- ・ 熱心な授業を受けたい。(工4男)
- ・ 腐った授業をする教員を排除すべき。プレゼンテーション能力のない、もしくは能力を身につける気もない人間が授業をしても

聞いている側は身につくものがなく時間の無駄。そしてそういう教員に限って単位を出し渋るのは話にならない。(工4男)

- ・ 専門科目の基本となる教育をさらに充実して欲しい。(工4男)
- ・ 適当な授業が多い(開始・終了時間等)。(工4男)
- ・ やる気ない教授をどうにかしてほしい。(工3男)
- ・ 年配の方を教員として授業をするのはやめて欲しい。聞き取りづらいし、板書も適当で授業を受ける意欲がなくなるから。(工3男)
- ・ 先生方の講義に対するやる気のなさはひどいものがある。もっと講義の大切さを考えていただきたい。(工4男)
- ・ もっとおもしろみのある授業をしてほしい。大学にこなくても単位さえとればいいという考えに納得がいかない。(工4女)
- ・ 教員の授業の面白みのなさ。将来に役に立つ話をしてほしい。(工3男)
- ・ 教授は高校までの先生と違って教える気のない人が多い。やる気を出させる工夫を。(工3女)
- ・ 理不尽な教員がいた。授業を連絡なしでさぼったり、テストしないと言う話だったのだが、いきなりしたり、結局8割が単位を落とした。(工4男)
- ・ 休講が多い先生がいるので、きちんと授業をやるべきだ。(工3男)
- ・ 講師の声が聞こえないことが多いので聞きやすくしてほしい。(工3男)
- ・ やる気のない講師、能力のない講師が毎年講義をしている理由がわからない。そういった教員を減らすことができないなら、逆にやる気のある講師、能力のある講師の待遇を上げるなどすることで、状況の改善を図って欲しい。評価に関して、学生の評価を鵜呑みにすることは難しいかもしれないが、ある程度は評価を人事、給与体系に影響させるか、せめて、非常に低い評価が毎年続くような講師に対しては、警告などをしてほしい。(工4男)
- ・ 教授陣にももう少し授業について勉強して欲しい。何を言っているのか分からないと聞く気さえ失せてしまう。特に学部生にとっては重要な問題である。(工MC1男)
- ・ 学部の授業はたまに出ていても意味がない、と本気で感じる授業がいくつかありました。そういうところはもう少ししっかりしてほしいかなと思います。(工MC1男)
- ・ 教員の態度が悪い。また特定の教員に対してであるが、生徒を比較するべきではない。また生徒の意見も教員は聞くべきである。(工4男)

[回答]

具体的なことはわかりませんが、講義に対する熱意に欠ける教員もいるかもしれません。各教員が授業アンケートをとって実情を把握し、改善する努力をしています。また、講義は一方通行だけではいけないと思います。学生の皆さんもわからないところを積極的に質問してください。きっと手応えがつかめるはずです。やむなく休講が多くなる場合もあると思いますが、補講等の処置を充分とるように配慮いたします。来学期も半期15週を確保できるように時間割を作成しておりますし、休講になった場合の補講日も設定してありますので、教員への周知を改めて行います。講師の声が聞き取り難い場合は、マイク等を使用するように知らせてください。教員の倫理綱領の作成など北大が進めている施策に対応して工学部においても新任教員研修、授業改善のFD等の取り組みで教育内容の向上に努めます。

(意見)

- ・ あまりに、履修科目の選択に自由がきかないことに不満を感じています。今現在のシステムでは、学部・学科を越えた授業の履修が認められていない為に、たとえどれだけ興味のある授業を欲しようと(僕は今年度一年生の工学部応用理工系生徒なのですが、この条件では地学実験の選択者は正規の統計学を履修することが叶わず、水産学部44-45の統計学の講義をとろうとしました)許されず、また来年になればその条件は緩和されるそうですが、それでも来年にその科目が履修できるかは(来年の後期に、必修科目と再履修の統計学が被る可能性がある)定かではありません。せめて来年の時間割で、僕と同じ立場の人間が不平等を被るような条件にならないよう気をつける等のことは、当然のこととして、していただきたいと思います。(工1男)

[回答]

できるだけ自由度を広げる努力をします。

(意見)

- ・ 現在の状態が普通だとは思いますが、できれば授業の内容の充実を図ってほしい。難しい内容の授業を教科書のまま、内容も完全になぞるだけの授業では興味が薄れてしまいます。(工4男)
- ・ 大学の講義は大変分かりづらい。教員は学生のレベルを把握してないのか、わかりやすいように教える事を考えてないのか。授業が何の役に立つかわからない。まるで高校までの授業となら変わるところがない印象がある。必要性があると思わせるような授業が、また興味がそそられるような授業が少ないように感じる。(工4男)

【回答】

各教員が講義内容を充実すべく努力しており、教員側の教授法、教えるためのスキルの改善に関しては、FD等の取り組みもなされています。

（意見）

- ・ 特別講義や留学の情報がいつも目立たないところに出ているのが良くないと思う。就職案内の広告よりも学術的な内容のものをもっと目立つように張り出してほしい。(工4女)
- ・ 情報が掲示される箇所が少なすぎると思います。(工4男)
- ・ もっと情報を多くしてほしい。掲示が少ないし、小さくてわかりづらい。(工3男)

【回答】

掲示板については、学科別、項目別に分けて掲示するようにしておりますが、スペースの関係上複数の掲示物が重なること等、見づらいこともあるかと思います。また、掲示物についても、学科で作成したもの、事務で作成したもの、他の団体から送付されて来たものがあり、書式や、大きさ等の違いもあり、結果として目立たないものもあるかと思えます。今後については、学部が学科制からコース制に変更になったことに伴い、掲示場所等の再編成をすることも考慮しており、できるだけ見やすいような掲示（場所を含めて）心がけたいと思います。

（意見）

- ・ 全学教育は幅広く教養を身につけることができ、面白い授業もたくさんあり、すばらしいシステムである。これからも面白いテーマの授業が多く開講されることを期待している。しかし、必修科目の一部に疑問を感じることもある。自分自身の例では、教養の必修科目に化学があったが、実際今の生活で化学を使うことはなく、これからもめったに使わないであろう。確かに幅広い知識を身につけることは大切だが、高校時代にも学んだあまり実用的でない分野を大学においても必修にすることの意味がよくわからない。(工4男)
- ・ 本当に将来的に役立つ教育や講義が設置されているのか疑問である。(工4男)

【回答】

学生諸君の将来は可能性に満ちています。その可能性が多様であるほど役に立つ知識や教養の幅も広がります。知識も経験もなく将来の進路も決まっていない段階で、何が役に立って何が役に立たないなどと決め付けることは、自らの可能性を狭めることに他なりません。

（意見）

- ・ 授業のカリキュラムをいきなりレベルが上がったりするのではなく、順序だてて行って欲しい。座学ばかりでなく、実際に行動する科目を増やして欲しい。(工3女)

【回答】

カリキュラムは、学年を追って履修することで体系的な知識が身に付くように構成されています。その学期にある必修科目をしっかり習得するように努めてください。”実際に行動する科目”は、これを指向する研究室を自ら選択すれば、十分に経験することができます。

（意見）

- ・ 教官同士の横の連携が無いため、同様のことを取り扱っていて重複が多いように感じる。(工4男)

【回答】

具体的なことはわかりませんが、学問はそれぞれが関連をもちつつ成り立っていることも理解してください。それぞれの学科の専門科目のうち特に基礎になる科目が多く用意されることから、重なる授業内容があるかもしれませんが、その内容はその学科で特に重要な事柄ですのでしっかり身につけてください。

（意見）

- ・ もっとだらけない感じの、カリキュラムにしてほしい。1年でだらけるとなかなかその生活から抜けられなくなってしまう。(工2男)
- ・ 腐敗・形骸化した授業を廃止し、まともな授業と差し替えて頂きたい。必修、自由選択の講義のうち救いたい物が1～2割はあるように思います。(準必修にはほとんど見かけませんが。)また授業カリキュラム自体にも、大いに改善の余地があると思います。学部の方はまだ良いのですが、教養部の授業には優秀な人材をもっと投入するべきだと思います。(工2男)

【回答】

科目を履修するうえで、能動的な姿勢で学ぶことで科目に対する意識は変わると思います。また、自由な時間があるとなれば、それは学生が個々の指向に応じて自分の人間力を高めるために与えられた貴重な時間と考えるべきだと思います。大学からカリキュラムとして与えられることを待つだけの姿勢は改めてください。新任教員研修、授業内容改善FD活動、WEB教材開発などを通じて授業内容の向上に努めております。また、授業内容の学生評価を通じて具体的に指摘いただければ講義内容の向上に繋がります。

（意見）

- ・ 同じ授業でも先生によって単位の判定が違いすぎる。（工3男）
- ・ 担当教員によって、単位の取得の難易度が違いすぎる。（工4男）
- ・ 履修者の四割も単位を与えない教官がいるが、それはいかなるものかと思う。（工2男）

【回答】

個々の事例についてはわかりませんが、科目内容がシラバスの範囲である限り、多少の難易度の差はあるとしても、本来履修すべき内容の範囲を学んでいるのであり講義内容を習得するよう努力してください。単位認定基準の厳格化、評価基準の明示と極端なばらつきを防ぐ努力を続けています。一方で学生の準備がその基準に満たない場合は単位が与えられない場合もあるかもしれません。その評価が妥当であるかどうかのチェックは全学教育では始められております。

（意見）

- ・ 授業、教育に関してはまあまあよくやっていると思うが、研究費が削減されている影響で、末端の学生にまで(研究などで)影響が及ぶのは如何かと思う。確かに効率化は大変重要であるが、もう少し柔軟に考えて欲しい。（工4男）

【回答】

大学法人化の流れでどの大学も経費の削減が求められています。しかしながら、教育・研究・社会貢献・学生活動支援を重要な柱に学生が大きく飛躍する大学になるよう努力しています。

（意見）

- ・ アンケートが実施されるが、それを教員や人事のような部署などが全く反映していないようなところが見られる。反映できないのであれば紙の無駄だ。（工2男）

【回答】

アンケートは教員の人事のための資料ではありません。講義の改善などを目的とするものですので、今後も建設的な意見を期待しています。評価の高い先生の授業を参考にするなどの向上策を検討中です。

（意見）

- ・ クラス単位のレクリエーションのようなものをもっとやりたかった。榆寮祭じゃ物足りない。（工4男）

【回答】

他人に任せないで自ら企画してみたいかがでしょうか？

（意見）

- ・ 体系的にしてほしい。（工2男）
- ・ もっと生徒のことを考えた授業、カリキュラム（工3男）

【回答】

カリキュラムは、学年を追って履修することで体系的な知識が身に付くように考えた結果として構成されています。その学期にある必修科目をしっかり習得するように努めてください。

（意見）

- ・ もっと選択肢を増やすべきだ。（工1男）

【回答】

要望事項の「選択肢」が何を指すのか不明なところもありますが、将来の分属先（工学部の場合は、コース）の選択肢のことであれば、平成17年度からは従来の学科を改組し、学科・コース制を採用しましたので、従来よりは進路の選択肢が広がっております。また、「講義科目」の選択肢のことであれば、北大は総合大学として全学教育の充実にも力を注いできており、主題別科目、総合科目、一般教育演習など十分な科目の選択肢が用意されています。

（意見）

- ・ もっとわかりやすい説明をしてください。もっと親身になってください。（工4男）

【回答】

全国の大学で進められている単位の実質化要請に応えるため、学生は十分な予習・復習が求められています。教員もわかりやすい説明に努めております、また、教員研修を充実してきておりますので教育の方法も向上していると思います。あなたは毎日どのくらい予習復習の学習をされていますか。理解を深めるためには学生の皆さんもより一層予習・復習をお願いします。また、質問をしていただければ理解いただけるよう教員は個別に説明をいたします。

（意見）

- ・ 卒業に必要な単位に、学科により格差がありすぎる。（工4男）

【回答】

個々の学科で十分検討した結果の単位です。必修単位の数だけで大変さの判断はできないと思います。また、出来るだけそろえる議論の中から決められたことをご理解ください。

（意見）

- ・ 結局、要領の良い奴がのりくらりと通ってゆき一生懸命な人がばかを見る。また、学部によって忙しさがまるで違う。アルバイトや旅行、飲み会を頻繁にしている文系とアルバイトをする暇も無く、睡眠時間と食費、娯楽費を削って勉強している理系が、果たして同じ扱いでよいのだろうか？（工4男）
- ・ 遅刻とかしてきても、代返などで出席足りて、単位を取ってしまうのはどうかと思う。ちゃんとしたシステムにしてほしい。（工3男）

【回答】

短期的な見方をせず、長期的にみてどのような態度で講義に望むのが将来の自分のプラスになるかという観点で判断してください。

（意見）

- ・ また、工学部社会工学系では4年次から研究室配属となるが、遅いと思う。学部卒で就職する場合、自分の専攻分野が言いづらい。（大きな部活やサークルに入っている人を除き）先輩方との接触が希薄なため、情報（大学院での生活や就職活動での話等）を得る機会が少ない。将来の方向性（目標）が決まらないと勉強にも力が入らないと感じる。よって、学部3年次から研究室配属をすべきだと感じる。（工4男）
- ・ 研究室入りをもっと早くしてほしい。（工4女）
- ・ 学部の授業は教員・学生ともモチベーションが低かった。このままでは時間の無駄でしかないので、もっと改良するべきである。個人的には研究室配属をあと一年前倒しするべきであると考えている。（工MC1男）

【回答】

今後検討の余地はあると思いますが、研究室配属前の科目はいずれ必要なものばかりであり、そのベースの上に卒業研究があることを理解してください。

（意見）

- ・ 他学部履修の手続きが面倒。（工4男）
- ・ 他学部の授業も簡単に受けられる環境にして欲しい。（工4男）

【回答】

工学部では、他学部等履修申請にあたり、履修届の提出のほかに、履修申請書を提出してもらっています。手続きが面倒であるという指摘はこの申請書の①授業担当教員の許可印をもらうこと、②学科（コース）長の承諾印をもらうことであると考えます。①の「授業担当教員の許可印」については、当該科目が他学部等学生履修の可否を確認してもらうことを目的としております。例えば、自学部学生に対して履修者の調整を行っている実験、実習科目、ある科目を修得したうえでの講義を展開する科目のように、一部の科目において他学部等学生が履修できない科目があるからです。②の「学科（コース）長の承諾」についてですが、工学部では、卒業要件単位算入の可否等について、所属学科・コースで判断することとなっていること、また、他学部等科目を履修するにあたって、当該学科・コースの授業のほとんどが必修科目であり、その内容を確実に理解し単位修得するうえで支障がないかどうか、各学科・コースにおいて、所属学生の履修および単位修得状況を把握するシステムのための手続きですので、手間はかかることは承知していますが、理解していただきたいと思います。

（意見）

- ・ カリキュラムの改変で単位を落とした場合、習得が困難な場合があるので改善して欲しい。（工2男）

【回答】

改善する努力をしますが、単位を落とさないように一つ一つ着実に勉強してください。

（意見）

- ・ 私は工学部ですが、もっと創作的な授業を増やしてほしいです。理論的なことを教わるばかりでなく、自発的なアイデアを使った授業がしたいです。（工3男）

【回答】

創生科目は存在していると思います。しかし理論を学ぶことは重要ですので大変でもしっかり習得するよう努力してください。

（意見）

- ・ 北大外からの講師や、民間からの講師をもっと多く招いて、講義をしてもらいたい。また、ゆとりも大事だけど、きちんと教えるところは教えてもらいたい。そのために少々必要単位数が増えても、なんら不満はありません。（工5女）

【回答】

集中講義や特別講演など企業等から講師を呼んで実施しています。

（意見）

- ・ 総じて説明がわかりにくい。テストで、授業内容を無視した問題を出すなど、理不尽な点がある。（工2男）

【回答】

その授業内容と実際の問題文を見てみないと何とも言えません。疑問があるのならば、まず担当教員と話すことです。それで解決する場合も少なくないでしょう。

（意見）

- ・ あまり意味がない。もっと実践的なカリキュラムにしてほしい。工学部として思うことは研究職やメーカー志望でないのに、無計画に大学院に進む学生が多すぎると思う。研究を3年生の最初からやって研究はこういうものとわかってから、自分の適正を判断して、就職活動か院進学にのぞむのが理想と思います。大学院はあまり意味がないので学生の為にも現在の大学院重点化の取り組みはよくないと思います。（工4男）

【回答】

大学院大学と位置づけられる北大にあって大学院での教育研究経験は多数の学生の進学にとって意味がないはずだと断言できません。

（意見）

- ・ 現在は他学部の講義を受講することなどはできるが、あまり一般的ではないというイメージが強い。より学際的な視野を持つためにもそういったことに対してもっと積極的になったり、手続きが楽になったり、また情報が得やすくなると助かる。（工3男）

【回答】

まず、自身の専門性をしっかりとさせることが必要です。明確な意識を持って他学部の授業を受けることは現在でも可能です。また、大学院でも、大学院共通授業は多くの研究科の協力の下研究科の枠を越えた学際的講義が準備されています。

（意見）

- ・ 1つのコースの分属可能人数を増やしてほしい。（工1男）

【回答】

希望するコースへより多くの人が配属できるよう分属可能人数をできるだけ広げるように努力しています。

（意見）

- ・ 試験時また授業内の小テスト時におけるカンニングの防止にはもっとがんばって欲しいと感じる。カンニングする方も見つからないようにやるのだから発見摘発も困難だということはわかるが、一部にまったく注意していない先生がいるのが気になる。正直、カンニングの防止が行えないのならば成績優秀者の院試免除等はやめるべきだと思う。1度不可になった授業で再履修を行い優を

得た場合に1度目で優を受けた人と同じ扱いを受けるのはおかしいと感じる。実際に、可になりそうだからその後の授業を休み、テストも受けないでわざと不可を取り、再履修で優を狙うという手法が存在するので成績評価制度の見直しを望む。(工2男)

[回答]

カンニングの防止には努力を払います。再チャレンジによる努力の成果は認めるべきだと思います。不可を取ると、GPA評価が下がり不利益になる制度が始まりました。

(意見)

- 工学部システム工学科のシステム設計という授業がありますが、学校のシラバスには90分とあるのに、毎週180分授業すると第一回目の授業が始まってから知らされました。そのくせに単位は90分しかくれないと言われました。問い詰めてみると、授業が始まる前から180分には決まっていたが、時間割表に180分と表記すると単位も180分の単位を与えなければならなくなるので、事前に決定していたにも関わらず生徒には知らせなかったそうです。単位を与えたくないというわがままな理由のために。僕はそのために授業を一つ取れなくなってしまいました。最悪です。ほんとうに理不尽でなりません!!! (工3男)

[回答]

「システム設計」は、工学部創成科目として、製図通則の説明後、実際の電動自転車を分解し、スケッチ、製図したのち、組み立て、発表を行うといった流れで行っています。全15回のうち、以下の3回、すなわち、電動自転車の分解、組み立て、発表に関して、終了するまで通常の90分を越えて授業が行われる場合があります。今後は、通常の90分以内に授業が終了するように工夫していくようにします。

(意見)

- 使う教科書を統一してほしいです。先生によってばらばらで、前半だけやって後半は違う先生が違う教科書を使うと、とても勉強しにくい。教科書を指定しておいて、授業でその教科書をまったく使わないというのはよくないと思います。特に、先生自身や、北大の先生が書いた本を買わされる場合にそのようなことが多い気がします。(工4男)

[回答]

具体的なことがわかりませんが、シラバスに反した内容であれば改善の工夫が必要となります。

(意見)

- 一科目で多くの講師から授業を受けられる講義をもっと増やしてほしい。(工6女)

[回答]

授業方法については、その科目の内容に応じて開講されています。

(意見)

- もう少し出席条件を緩和してほしい。(工3男)

[回答]

出席しなくても授業内容を理解できるということでしょうか？全て出席するつもりでがんばってください。

(意見)

- 無理を承知で頼みますが、学生のレベル低下に何とかして対処して欲しいです。(もちろん、単に受験問題の難度を上げると要求している訳ではありません。もっと根源的な解決が必要かと存じます。)(工2男)

[回答]

大学として非常に重大な問題として受け止めていることは事実ですが、あなた自身の問題としては、自ら進んで勉学にいそしみ、学問への理解を深めてゆくのみだと思います。そのような学生に対しては、教員はいくらでも助力を惜しみません。

(意見)

- 教育者と研究者を完全に分離し、1,2年次は教育担当の先生が授業を教える。(給料の査定は主に学生の理解や評価などによる)3年次からは研究室に配属させ、担当の教官をつけ、その教官には自らの研究を進めさせるとともに学生の卒業研究の指導に当たらせる。(給料の査定は研究成果による。)とともに、学生の授業は教育担当の先生が続けて教える。また、勉強の必要性をわからせるために一年次から2年間通しての研究課題を与え、それを達成するために授業科目を理解することが必要という感覚を植えつける。また、2年末にその課題を発表させ、その成果により進級の可否を決めると良い。(工MC2男)

[回答]

研究に専念する教員と、授業に専念する教員を分ける議論は本学でも過去にありました。本学においては、最先端に研究を進めている教員を通じて生き生きとした授業を受けてもらうことを念頭にしています。研究のわからない教員に研究者を目指す学生を教育できませんし、研究だけなら大学の教員である必要はないのです。

(意見)

- ・ 学部1年からもっと専門を学ぶべきだと思います。受験後、よくはたらく頭に専門知識を吸収させるべきです。専門を学んだ今、以前よりもっと教養の講義に関して興味を持っています。(工MC1男)

[回答]

教養科目の期間は、人間形成の重要な期間でもあり、この段階ですぐに専門科目を学ぶことは多面的なものの見方を身につける機会を逸する可能性もあるからです。

(意見)

- ・ 全学教育だけでなく学部教育においても、総合大学としての利点は今後も活かしてほしい。(工MC2女)

[回答]

他学部等履修の制度は今後も進めていく予定です。

2 施設・設備に関すること

(意見)

- ・ 工学部は建物の構造が入り組んでいて迷いやすいので、案内板や案内図をもっと多く配置して欲しいと思います。それはもちろん教養棟に関しても言えることです。(工3男)
- ・ 工学部棟の地図をもっといろんなところに設置してほしい。(工2女)

[回答]

工学部正面玄関に電子式の案内板設置予定です。その他の場所については、検討します。

(意見)

- ・ 工学部（特にトイレ）を綺麗にしてほしい。(工1女)

[回答]

経費の執行状況などにより前向きに考慮したいと考えています。老朽化したトイレについては改修等も検討したいと考えております。

(意見)

- ・ 工学部本棟に使用されていない部屋が多いので有効に利用してほしい。(工4男)

[回答]

A棟のことと思われますが、使用されていない部屋はありません。

(意見)

- ・ 院生室を広くして欲しい。(工4男)

[回答]

各研究室の面積は学生数などにより基準があります。研究室（教員等）と相談願います。

(意見)

- ・ 学部間での設備の格差がありすぎる気がする。新しい設備がどんな基準で誰がどう何を求めて建設するのか明確にしてほしい。(工4男)

[回答]

建築時の基準に基づいて設備されています。新しい設備を建設する際は、北海道大学全体の施設計画に基づいています。

（意見）

- ・ 24時間開放の自習室などがあればいいと思う。（工4男）
- ・ 自習室にエアコンと量を増やしてほしい夏休みにどこで勉強するか困ります。（工2男）
- ・ 夜遅くまで利用できる学習室が試験前ほしくなる。（工3男）
- ・ 自習のできる大きな部屋を設けてほしいです。（工3男）
- ・ 学部・学年関係なく使用できる24時間使用可能な自習室を設けてほしいです。（工2男）

【回答】

今後の検討課題とします。

（意見）

- ・ 工学部等古い施設が多い。また、冬は徒歩の学生のために学内バスがあるとありがたい。（工4男）
- ・ 工学部の研究室が古くなっているので、新しくしてほしいです。（工2男）
- ・ 汚い施設は早く新しいものにしてください。（工学部の1部とか）（工4男）
- ・ 施設が少し古いです。（工2男）
- ・ 老朽化している建物を建て直してほしい。（工4女）
- ・ 学部・学科間の格差がはげしいと思います。平等にすることは難しいでしょうけど、古い施設を使っている学生には新しい設備を導入するなどの対策をしてほしいと思います。（工4男）
- ・ 工学部のA棟はきれいだが、それ以外の棟は汚い。特にH棟は汚すぎると思う。きれいにしたい。（工3男）

【回答】

北海道大学全体の施設計画で概算要求等を行っていますが国の財政が逼迫しているため、一部しか実現していない状況であり引き続き要求します。実験設備の場合は研究室に相談願います。

（意見）

- ・ 研究室が寒い。（工4女）

【回答】

夜間のことと思われるが、届け出により補助暖房も認められますので研究室へご相談願います。

（意見）

- ・ 施錠時間が早い。（工4男）
- ・ 工学部で研究するのに深夜は入れるようにしてほしい。時間関係なく研究したいのに深夜入れないのはつらい。（工4男）

【回答】

施錠時間については夜間の安全性などを考慮して決められていますので、深夜の入室は正面玄関の警務員室で対応しております。

（意見）

- ・ 現在改修が構内のあちこちで行われているので、よくなると思う。（工4男）

【回答】

ご理解ありがとうございます。今後とも協力よろしくお願いします。

（意見）

- ・ パソコン等の管理をもっとしっかりした方がいいのでは？（工4男）

【回答】

具体的な内容がわかりませんが、パソコン等は研究室（教員）のもとで管理することになっております。

（意見）

- ・ 工学部にATMがあればいい。（工3男）

【回答】

スペース、採算性、相手方が支払う借料の問題等もあり難しいのが現状です。北部食堂や中央食堂等にATMがありますので利用願います。

（意見）

- ・ 冬なのに夜、暖房が入らないのはどう考えてもおかしい。学部・学科によって設備がまるでちがう。座るスペースすらないのもあれば無駄にテーブルといすだけが並んでいる所もある。同じ授業料を払っているのにどうしてここまで差ができるのか。（工4男）

【回答】

暖房の通気時間は特殊な施設を除いて同じと考えています。大学全体が良くなるよう考えておりますが、限られた予算では難しい状況ですのでご理解願います。

（意見）

- ・ 冬季、皆厚着をしているのだから暖房は抑え目でいいと思います。（工2男）
- ・ 学内で省エネルギーを推進しているのだから、必要以上に暖房を入れるのはどうかと思う。（工3女）

【回答】

教室の温度により運転時間を調節していますが、さらに工夫したい。放熱器バルブでの温度調節を行ってください。

（意見）

- ・ 外に喫煙所、ゴミ箱を設置してほしい。吸いながら落ちていて不愉快だから（工3男）

【回答】

現在、噴水横に喫煙場所、ゴミ箱を設置しております。みなさんの大学ですので一人一人が自覚し、きれいな大学にするため、ご協力をお願いします。

（意見）

- ・ 情エレ棟に生協を作って欲しい。（工2男）

【回答】

場所の問題、生協の経費の問題など厳しい状況です。

（意見）

- ・ 工学部では男子トイレに比べ女子トイレが少ない。（工3女）
- ・ 基本的には満足しているが、工学部の女子トイレが少なく、教室の場所によってはトイレが遠く不便なこと、工学部は分煙がされていなくて、階段でタバコを吸っている人がいること、教養のS棟など、寒い教室があることなどが、少し困る。（工2女）

【回答】

女子トイレについては、場所などの問題もあるが検討したいと考えております。分煙はされていると考えています。階段、廊下はもちろん禁煙です。ルールを守り工学部はもとより大学全体が良くなるように皆さんのご協力をお願いします。

（意見）

- ・ 大学施設内の電気がついていないこと多くて、学内が暗いです。（工3男）

【回答】

省エネで暗い部分もあります。今後改善をしたいと考えております。

（意見）

- ・ 暖房がうるさいのでなんとかしてほしい。（工3男）

【回答】

通気始めは音が少々出ますがご理解願います。

（意見）

- ・ 工学部をきれいにしたい。人を育てようという環境ではない。気分が重くなる雰囲気である。（工4男）

【回答】

環境については、考慮していますが、今後も、良い環境作りを進めて行きたいと考えていますのでご協力をお願いします。

(意見)

- ・トレセンの運動器具が故障したときほったらかしの時間が長い。工学部の暖房が入る時間が朝は遅く感じる。真冬などコートを着ないと耐えられないのが辛い。(工4女)
- ・とにかく、冬の暖房まで本州基準(17時に切れる)にされると、もっとも寒く、テストのある2月に体調が崩れるので何とかしてほしい。あと、サークル会館の遠さを何とかするか、循環バスを通してほしい。もっとも、循環バスがどこで止まるのかすらもわからないが。バス停を作ってみては?あと、ここ1ヶ月くらい前から13条門の辺り(13条門自体?)が強烈な異臭を放っている。イチョウの臭いではなく、濡れ雑巾を干さずに放置した様な臭い。あれを何とかしてほしい。(工4男)

[回答]

暖房の通気時間は特殊な施設を除いて同じと考えています。

(意見)

- ・憩いの場がほしい。気軽に入れる喫茶店風の待合室や工学部の正面玄関を明るい雰囲気にしてほしい。(工4女)

[回答]

ホールは憩いの場となっております。また、地下食堂の利用も可能です。経費、人の問題など難しいですが、検討を行いたいと考えています。

3 経済問題に関すること

(意見)

- ・教科書が高い。北大の先生が書いたものならもっと安くしてもらいたい。(工3男)

[回答]

同じような教科書であればできるだけ安い教科書を指定するよう教員は考慮しています。全学教育の教科書は大学の先生が著作された共通教科書を使い北大出版会も努力するなどの方策が模索されています。

4 図書館に関すること

(意見)

- ・図書館の利用可能時間を増やして欲しい。むしろ図書館でなくても良いので、もっと夜遅くまで自習できる場所を作って欲しい。(工3男)

[回答]

工学研究科・工学部中央図書室は9時から20時まで開室しています。開室時間延長時間帯(17時~20時)には1日平均87名が入室し、貸出総数の22.5%が延長時間帯の貸出となっており、18時以降1時間ぐら이가利用のピークです。反面、19時の在室人数(座席数60席)は1日平均5.3名です。今後、利用の状況と予算を考慮しながら「時間延長」を考えていきます。なお、附属図書館(本館)(北分館)は平日9時~22時まで、土曜日曜9時30分~18時まで開館しておりますのでご利用くださるよう願います。

5 教職員の対応に関すること

(意見)

- ・事務員が傲慢である。また、平気で嘘を教える。教員免許に関する質問に対して嘘を教えてくるようじゃ終わっている。(工4男)
- ・法人化になった以上、大学は店で、学生はお客であるから大学職員の対応などをもっとよくしてほしい。(工4男)
- ・北大の事務をなんとかしてほしい。適当すぎるような気がする。コンビニの店員の方がまだ信用して話が出来る。窓口の対応の仕方としては、札幌市のなかでは最低最悪。(工4男)
- ・最近は改善してきているが、事務の対応がいまいちである。お客として役所に行ったときと、民間企業に行ったときの窓口などの対応を考えてみて欲しい。独立行政法人化に(良いか悪いかは別に)なってしまったからには民間のサービスやノウハウから学べる部分は多いと思う。それから、ずっと北海道に住んでいる自分としては愛着が深いこともあり、現在の北海道の経済状況などには危機感を抱いており、それは更に地元での就職が難しい事にも繋がっている。北大は北海道内でも一番の大学であり、学術的貢献をだけでなく地元企業との連携などで、特許の共同研究や地元への優秀な労働力の提供(これらは学生の就職先拡大にも繋がる)など、地元へ即した連携が必要だと思う。もちろん、製造業などが少なく弱小企業の多い、道内の地元企業との連携は非常に難しいのは重々承知であるが、そういった面にも今まで以上に目を向けてもらいたいと思う。北海道という場所に立地する大学とし

て北海道を元気にする一助となるように何が出来るか考えて行って欲しい。(工4男)

- ・ 学部にも教養にも言えることですが、教務の人の態度がわるすぎる！！いやいや仕事しているのが丸わかりで不快です！！(工3男)

[回答]

事務職員の窓口対応については、これまでも学生の視点に立った教育サービスを心がけて対応しておりますが、このような意見があったことは残念に思います。窓口職員と学生さんとのやりとりで、言葉の理解の相違から、お互いに解釈が違ってしまうことなどがあったのではないかと思います。今後このような指摘を受けないよう、より一層誠意ある対応をしていきたいと思ひます。

6 車両に関すること

(意見)

- ・ 自動車通学の禁止は様々な理由から理解できるが、(自宅からの通学なので)研究で夜遅くなる時や、土日に急に通学しなければならなくなった時などには自動車通学をもう少し簡略に許可してもらえるなど、もう少し柔軟に考えて欲しい。また、どうしても時には事務で臨時の通行証を発行してもらえが、金曜夜などに週末の遅い時間の通学がわかった時などに対応してもらえないので、その辺りも是非とも検討してもらいたい。(工4男)
- ・ 車の通行証が春のはじめしか申請できないのは、知らない人が多く不公平だと思う。学生の車で入構にたいして厳しくなり、当日の急な用事に対して一回学部に行ってからまた家に帰って車をとってまた戻ると言う理不尽な時間がかかる。学部に研究室がないものや家が遠いものに対して大変負担が大きい。それに13条や正門からしか出入構できないことと北大周辺の渋滞と重なって時間のロスがひどいので何とかしてほしい。(工4男)

[回答]

学生の自動車通学については原則禁止しております。やむを得ない場合の臨時構内通行証の発行については、時間外でも職員が在室している場合は対応しています。特殊事情による通年の通行証の発行は、年度替わりに掲示をして申請の受付を行っております。特に理由等がある場合、発行枚数に限りがありますが、受け付け期間経過後でも個別に対応を行っております。

10 その他

(意見)

- ・ 北大にきてすこしがっかり、もう少し活発と思っていました、つまらないですね。(工3男)

[回答]

教員も授業を一方的な座学としないように工夫を進めています。授業を受け身のものと考えずに積極的に発言・質問するなど、授業を教員と共に活発なものにするよう努力をお願いいたします。また、インターンシップ、HUSTEP授業さらには、クラブ活動など正課外の学びにおいても自ら活動されることを期待します。あなたが中心となって北大を活発な大学にするチャンスが広がっています。大学も学生活動の支援に積極的です。

(意見)

- ・ 家と学校の距離が遠いため、気軽に大学に行けない。そのため、講義・テストの連絡を見に行くのに一時間と800円かかったりする。書類を家に忘れたりしたら時間的に間に合わないこともある。事務的な手続きや、講師からの連絡はオンラインで処理されることを望む。(工1男)

[回答]

入学当初から、学生への連絡事項は主として掲示で行われることを周知しております。常に掲示板を見るよう心がけてください。オンラインを利用した事務手続き等は、全学的な検討が必要と考えております。

(意見)

- ・ 学生数を減らしてほしい。(工2男)

[回答]

工学部は平成17年度からコース制を採用しており、また一般教育演習など20人程度の少人数の講義を増やしていますので、来年度は更に少人数講義の利点を生かせる体制作りを進めています。

（意見）

- ・ 4年にもなって北大内で知らないことが多すぎるのももっとわかるようにしてください。（工4男）

【回答】

どのような情報を知りたいのか分かりませんが、年4回（4・7・10・2月）学生向け発行の「えるむ」雑誌にいろいろな情報を掲載しております。また、工学研究科独自で作成しております、「えんじにあ RING」や、北海道大学のホームページをご覧ください。

（意見）

- ・ 親友が持てない人が多くなっているように感じる。親友とまでは言わずとも、友達が持てない人も多いような気がする。自分と似た考え方の人がばかりで集まってきたため、他者に対する理解が出来ない人も増えているように思う。また、将来に対して夢や期待が持てない人も多いような気がする。これは大学に期待する事ではなく、時代、もしくは20才前後と言う世代のせいなのかもしれないが、大学生活を楽しんでない人もたくさんいると強く思う。（工4男）

【回答】

どのような学生生活を送るか？ それは個人の自由ですが、自ら目標を定め自ら学修していく姿勢が大学では大切です。皆さんが有意義な学生生活を送り、将来、社会の中核として活躍できるよう、大学としては教育研究面で最大限の努力、支援を行っています。独立独歩、わが道を行くという学生さんもいるでしょうが、貴君が指摘するように他人への理解が足りない、夢や希望を持てない北大生が増えているとしたら由々しきことです。大学は、友人、先輩、後輩、教員との日頃のつき合いから、社会性を身につけていく場でもあります。卒業研究や大学院進学後の研究生活で、新たな友人関係を築いていってくれることを期待します。課外活動も社会性の涵養に大きく役立ちますので、大学として出来る限りの支援を行っています。もちろん、部活にどっぷりつかり、勉強が疎かになってはいけませんが、もし、友人関係で悩みがあるようなときは、学生相談員の教員に気軽に相談しましょう。

（意見）

- ・ 受験時に細かく分野を分け過ぎているせいで全体の学力が低下していると思う。また道内勢が増えれば増えるほど北大の質も低下すると思うので積極的に道外にも北大の受験を奨励すべきである。（例えば東京で受験できるようにするなどの工夫を行う）（工1男）

【回答】

大学として学生編成・募集単位改革を現在検討中です。

（意見）

- ・ 工学部に女の子をもっと入れてほしい。（工MC1男）

【回答】

昔に比べ徐々に女子学生は増えています。女子学生に対して入学を特別に優遇する措置はすべきとは考えていません。むしろ、誰に対しても魅力ある大学作りを行い入学者のスペクトルを広くする（幅広い人材を集める）ことが重要で、女子人数はそれに応じて増加するものと思われます。

【大 学 院】

1 教育・授業に関すること

（意見）

- ・ 学生に学問および実験を教える気がある教員とない教員の差が激しすぎます。大学の教員は研究職である前に教育職であるのだから、学生を教育する気がないのなら大学をやめて他の研究所なりに異動していただくようにしてほしいです。（工DC1男）
- ・ 教員によって授業に対する姿勢が全く異なるので、当たりはずれが大きすぎる。単位をとりやすい授業がよい授業と学生の間では言われがちであるが、ためになる授業、身になる授業をしてくれる熱意ある教員を育成していただきたい。（工DC1男）
- ・ とりあえず講義しているという雰囲気を感じる。もっと、活きる講義をしてほしい。（工MC2男）
- ・ 教員によって授業の内容に差がありすぎる。授業内容を外部の監査委員などからチェックをしてもらう必要があるのではないかと。（工MC2男）
- ・ 自分でもけして一生懸命勉強してきたとは言えないので、偉そうなことは言えないのですが、全般的に成績の評価が甘いように思います。他人事ではないのですが、基礎学力が不足しているという自覚があり、これから北大出身という肩書きを持って社会に出ることに不安を感じます。もちろん学生自身のやる気によるところの方が大きいとは思いますが、レポート提出のみの大人数で

の講義を単位として認定しているのは多少気にかかるところです。もちろん全く必要ないと言いたいわけではなく、これらの講義は確かに興味深く、知識として身につけて損はないものでしたが、これらは正式な講義というよりも学内の講演会という形でもよいのではないかと感じます。それよりもクラス単位（少人数）の基礎的な学問をきっちり修得する講義にもっと重点をおいた方がよいのではないかと危惧します。（工MC2女）

[回答]

基本的に、大学は教育機関であり、学生を教育することが重要な目的であると考えており、本研究科では、FDなどの職員研修の機会を利用し、能力改善・向上に努めております。また、授業への取り組みについてはアンケートを実施し改善するよう努力しています。

（意見）

- ・ 専攻が細分化されて、履修が不便になった。専攻外科目の履修を許可を取らずに自由にできるようにしてほしい。（工MC1男）

[回答]

専攻外の科目履修に関しては、当人の研究内容と履修科目を考慮し指導教員との相談が不可欠となっております。

（意見）

- ・ 使える人材をポストドク、助手、講師レベルから多く採用するべきだ。また、教授クラスでも、なるべくなら使える人材を登用するべきだ。（工MC1男）

[回答]

「使える人材」の意味が不明ですが、教員の採用についてはそれぞれの職種の資格要件により採用しております。

（意見）

- ・ 私は博士課程の学生ですが、他の研究室の方と話を聞くと、博士号申請条件の解釈が研究室間で異なる気がします。教授会など全体を通して何度も会議が行われ内部で意見が調整されているはずなのに、何故統一された見解にならないのか全く不思議です。時間的犠牲で会議をするくらいなら定時に一斉に帰宅されたらどうですか？（工DC3男）

[回答]

具体的な問題はわかりませんが、もし、学術成果に関してならば、専門によりどの程度の成果を出せるかが異なるので一元化するのは難しいです。

（意見）

- ・ 授業内容を、欧米並みに厳しくするべきだと思います。アルバイトなんかやっている暇がないくらいに、毎日課題を出すくらいがよいと思います。年々学生の知識のレベルが下がってきていると思いますので。（工MC1男）

[回答]

適切な課題は必要ですが、大学院では自主的に課題を見つけ出し、取り組む姿勢も望まれます。大学院での教育のひとつに修士論文作成にいたる過程での研究を通じた教育があり、授業内容だけを重くするのではなく、バランスが必要となります。このような意見があったことは教員に周知したいと思います。

（意見）

- ・ 大学院の授業が大変で実験に差し支える。もっと授業の数を減らすなり、内容を軽くするなりしたほうがいい。（工MC1男）
- ・ 授業を減らしてほしい。（工MC1男）

（回答）

修士論文のための実験と思われるかもしれませんが、どちらも軽視できない教育の過程であり、一概に講義の内容を軽くすることは妥当ではありません。修士1年生のときに必要単位はほぼ取得できます。授業があっても少しずつ研究をするべきと思うので指導教員とよく話し合う必要があります。

（意見）

- ・ 大学院の授業は教官が講義をするわけではなく、学生が発表することが多い。発表練習という面では良いと思うが、内容をあまり理解していない学生が何も知らない他の学生に説明をしても理解は深まらないと思う。（工MC2男）
- ・ 大学院の授業は学生の発表が主体であり、授業料の意味がわからない。もっと専門についての詳しい講義を受けたい。教員が対外的な活動で忙しいのは理解できるが、もう少し学生にも目を向けて欲しい。人材育成場、教育機関であることを意識して欲しい。（工MC2男）

[回答]

実態がわかりませんので講義内容については、アンケート調査を実施する予定です。プレゼン能力を養う機会は重要ですが、問題は内容だと思われます。指導教員からの助言等をもらい十分な準備のもと授業に臨むことが必要です。

(意見)

- ・ 大学の研究室という閉塞された空間で病んでいる人が大勢いると思う。研究活動は一生懸命やるのは当然であるが人間性を失った指導を行っている教員はいると思う。大学では研究活動がメインなのはわかるが人間性を失わせるような指導を教員にさせて欲しくない。(工MC 1 男)

[回答]

人間性を失わせる指導とは具体的になんであるか分からないので回答できませんが、学生相談室に相談してください。

(意見)

- ・ おもしろい授業を増やしてほしい。(工MC 2 男)
- ・ 授業はもっと面白いものを、選択枠を広げて行って欲しい。(工MC 2 女)
- ・ わかりやすい授業をしてほしい。学生のやる気も大切であると思うが、それ以上に教え方が良くないと思う。(工MC 2 男)
- ・ 支払う授業料に見合った講義あるいは指導を受けたい。(工MC 2 男)

[回答]

面白く授業をするというのではなく、分りやすい授業をすべく、多くの教員は努力していますが、今後もより一層わかりやすい授業を行うよう努めます。講義を通して学生が自ら面白さを発見して興味を持って勉強することも必要です。

(意見)

- ・ 在外講師を呼ぶべきだ。(工DC 2 男)
- ・ 学外からも講師を積極的に招待して多角的で魅力的な授業を計画して欲しい。(工MC 2 男)

[回答]

質問の意図が不明ですが、特別講義等でお呼びしています。

(意見)

- ・ 前にも記述したが、大学院の授業の単位の結果をなかなか出してくれない。それなのに、卒業時に単位が揃ってないからと卒業できないのは理不尽だと思う。いまだにわからない授業もある。あとはTAのこと。給料が研究室によって違うし、管理体制がしっかりっていない。また、他の研究室では実験の手伝いで給料がもらえたりしているのに、私の研究室ではもらえないなどといったこともある。そのあたりしっかり統一してもらいたい。(工MC 2 男)

[回答]

単位の結果については、教員の多くが早く出すよう努めていますが、今後も早く出すよう努めたいと考えます。TAの採用については、統一の基準により、各専攻毎それぞれの申請状況に基づいて採用しています。

(意見)

- ・ 教員が授業に対して熱心ではない。教員が忙しいのもわかるが、授業を履修した学生に対して失礼だということも多々ある。(工MC 2 男)
- ・ 授業内容をぜんぜん覚えていない。これは自分のせいであるが、教員のせいでもある。同居していたアメリカの学生は必死に課題をこなしていたのに対し、自分が受けている授業の(学生・教員両方の)手抜き程度に不安を感じた。(工DC 3 男)
- ・ 講義にもっと力を入れてほしい。やる気のない教授が結構いる。(工MC 1 男)
- ・ 学生が学費を払ってきているのだから、もっと親身になってよい教育や研究活動を行って欲しい。たとえ学生の自主性を尊重したとしても、学生は教員を通じて学びに来ているのだから、教員はもっと学生に教えるようにして欲しい。(工MC 2 女)
- ・ 教育に熱心な教員を増やして欲しい。(工DC 1 女)
- ・ 教師の授業の仕方を指導して欲しい。すばらしい先生もいるが、ひどい授業も数多くあった。(工MC 1 男)
- ・ 5年間毎年毎年思うことだが、授業内容がひどすぎる。理解を促す授業ではなく、教員の自己満足の授業でしかないように思う。受けていて参考になった、または理解が深まった授業は数えるぐらいしかない。教え方が下手なことを学生の理解力の乏しさのせいに行っている人が非常に多い。(工MC 1 男)
- ・ 修士の授業はほとんどが学生の発表によるもので、教授・助教授が手を抜いているように思われる。(工MC 2 男)

- ・やる気のない先生はやめたほうがいい。研究第一なのは分かるがいろいろと工夫して面白い有意義な講義がもっと増えると良い気がする。(工MC 1 男)
- ・授業の充実度を高めて欲しい。先生の中にはただテキストを学生に読ませて、黒板にテキストを丸写しして終わりという方もいらっしゃると思います。授業ではテキスト以上の内容を盛り込んでもらいたい。(工MC 2 男)
- ・教員の充実を図ってほしい。(工MC 1 男)

[回答]

基本的に、大学は教育機関であり、学生を教育することが重要な目的と考えており、本研究科では、FDなどの職員研修の機会を利用し、能力改善・向上に努めております。また、授業への取り組みについてはアンケートを実施し改善するよう努力しています。

(意見)

- ・北海道大学は伝統的な教育理念を持つ反面、古い体制に執着する悪い傾向があるように思う。例えば、北海道大学の教職員は他の大学と比べて、自分の大学出身者が非常に多く、閉鎖的な体制といえる。これからの教育機関は国内に限らず、海外の教育機関出身者も含めたグローバルな教育体制が必要であり、北海道大学は特にそのことを意識しなければならない。(工DC 1 男)

[回答]

教員は公募制になっており、他大学出身者が増加しているように思います。自学の出身者が多いことが閉鎖的であるとは一概に言えないと思います。

(意見)

- ・大学に入るまでは、進学するという目標をもって学習することができ、ある程度、学習にたいする意欲もあったが、大学に入ってからでは、単に単位を取ることだけが目標であり、その場しのぎの知識しか身につけられないので、ある程度、授業の最後に資格検定試験を受けるなどして、学習意欲を掻き立てるような仕組みにしてほしい。(工MC 1 男)

[回答]

将来の目標をもって取り組んで下さい。講義を通して学生が自ら面白さを発見して興味を持って勉強することも必要です。

(意見)

- ・大学院の履修届を、入学時に全てまとめて提出するのは、無理がある。結果として、副専の講座をとるのに、主専修の講座に影響がでないか否か(時間的・内容的な意味として)不安にならざるを得ない。(工MC 2 男)

[回答]

履修届の提出については、指導教員と相談の上提出することになっています。又、入学時のガイダンスで指導しており、学生便覧にも記載していますが、必要に応じ、各学期の初めに変更届けを出すことで変更できることになっています。

(意見)

- ・講義時間を短くして、短時間に集中的にやって欲しい。(工DC 2 男)

[回答]

大学の規程で講義時間が決まっています。教える内容として必要不可欠なものがあり、講義にもよりますが、一般には現在程度の時間をかける必要があると思います。

(意見)

- ・大学院の授業について、選択の幅が狭い。興味を持っているものをもっと選択させてほしい。交換留学先での単位を認めてほしい。(工MC 2 女)

[回答]

副専修の講義は専攻外科目で履修可能なシステムになっています。交換留学先での単位については、相手先の講義内容を確認し本研究科で認定される必要がありますが、単位を認めることは可能です。

(意見)

- ・大学院は学部と比較すると、講義内容が不明瞭(シラバスと食い違う点、特に評価基準等に関して)。(工MC 2 男)

[回答]

具体的な相違点はわかりませんが、シラバスに沿った授業をするように教員に周知し、改善を呼びかけます。

(意見)

- ・ 英語の文献を和訳させるだけの授業は要りません。民間や他大学、研究機関などと連携し、「現場」を感じることのできる授業を受けたいと思います。例えば「建築計画」の授業ならば、実際に建物を受注し、設計、施工、引き渡しまでをリアルに、もしくはヴァーチャルに体験できるような授業があったらいいと思います。(工MC2男)

[回答]

インターンシップ制度を活用して現場を体験してください。

(意見)

- ・ 学部、大学院の講義において、丁寧ではない授業が多いと感じている。ここでいう”丁寧”とは,”分かりにくい”という意味ではなく、講義の内容の意義や有用性の説明が少ないということである。ただ、数式を追って「はい、こうなりました」では、何について考えたのかさえ分からない。常に「今から、何をしようとしているのかを」はっきりさせて、学生のモチベーションを上げる心がけがほしい。(工MC1男)

[回答]

モチベーションあるいは人生に対するビジョンは他人に与えられるものではありません。大学や教員は、学生が自らの力で自分自身のモチベーションを高めるための環境を提供するものであり、現にそのような環境を提供しています。

(意見)

- ・ 他の大学の学生と同じことを勉強したい。(工MC2女)

[回答]

各大学、各研究科ではそれぞれ独自の教育目標掲げて教育、研究を行っており、履修の方法も大学、研究科によって異なります。本工学研究科では双峰型教育を特色としており、主専攻、副専攻の二つを履修することで、幅広い専門知識を身につけた技術者、研究者を育成することを目標としています。そのため、授業科目の選択でやや自由度に欠ける面はありますが、他専攻、他研究科の授業科目も履修することは可能ですので、これを利用すれば科目選択の自由度が高い大学と同様な履修はできます。

(意見)

- ・ 大学院での授業数をもっと増やして卒業までに受講しなくてはならない科目数を増やすべきである。(工MC2男)

[回答]

研究分野に合わせた設定をしています。修士論文のための研究を通して教育することも大学の目的のひとつであり、一概に講義数を増やすことは妥当ではないと考えます。

(意見)

- ・ 休講が多い、補講が少ない。(工MC2男)
- ・ 身勝手に休講や遅刻する先生がいる。建築科・〇〇は教授としての資格はないものと思われる。(工DC1男)

[回答]

教育機関としては休講に対しては補講をすることが必要不可欠です。すべての教員に、このような要望や意見があることを周知します。

(意見)

- ・ 早く専門的なことを学ぶ機会を増やす。(工MC2男)

[回答]

専門的なことを早く学ぶべきか、基礎的なことを十分に習得した後にすべきか、どちらが良いかは一概には答えられない難しい問題です。科目内容に依存するだけでなく、個々の学生のモチベーション、能力、学習時間にも依存する。現状では各学科ごとに最も教育効果が上がるような配慮のもとにカリキュラム編成がなされています。

(意見)

- ・ 教授との関係が非常に悪いが、助手がいなく、助教授は研究室が違うので相談できない。本当に苦しい、なんとかならないもの

か。(工MC2男)

[回答]

学生相談室に相談してください。

(意見)

- ・ 講義を受けていて思うことがある。大学の学生は、主に2つに別れている。1つはまじめに講義に参加し、授業に十分ついていけるグループ。もう1つは授業はそこそこに扱うグループ。そういったいわゆる二層化現象の存在する中、講義においてはそこそこのグループに対して何とか単位をとらせることが優先されている風潮を感じる。すると、十分授業を把握しているグループがさらに発展した内容を理解する時間と能力があるにもかかわらず、そこそこのグループに足を引っ張られている形となっている。そういった状況では、教育目標である世界に通用する人材の育成というよりは、学習レベルが平均的化された人材の大量育成といった方が正しいと感じる。独法化された大学でますます優れた人材を輩出する必要が叫ばれる中、果たしてそのような教育をつづけていて良いのか？2つのグループを差別化し、それぞれにあった講義を行うとか、課題を与えるとか飛び級を拡充するとか工夫する必要があると考えます。優れた能力を持ったものはどんどん発展的内容を学習できる環境が必要である。(工MC1男)

[回答]

習熟度別のクラス編成というには興味深いアイデアですが、教員数・教室数・時間割などの制約によって事実上不可能だと思います。積極的に学びたい人達が学習できる体制を検討する際に参考にしてゆきたいと思います。

(意見)

- ・ 将来どんなことにつかえるか方向性がわかるように授業してほしい。分属等の前にあまり情報が入らない。(工MC1男)

[回答]

科目の目標はシラバスに記載しており、分属前のガイダンスでも説明しています。

(意見)

- ・ 今年から組織が改変されたため、主専修科目の無関心な講義をいくつか取らなければいけないことに不満があった。もっと自由度の高い科目選択ができればよいと思う(主専修の単位取得要件を8から4~6に変更するなど)。(工MC1男)
- ・ 自分には必要ないと思われるような授業まで受講しなくてはいいなく、その結果授業のレベルが下がり、大学院の授業は期待はずれだった。(工MC1男)
- ・ 大学院で、自分と関係のない分野の単位を取らなければならないこと。(工MC1女)
- ・ 学部的时候は、専門外のことも広く勉強するのは必要なことであると思うが、大学院に入学してまで、専門外の勉強はしたくない。去年までのカリキュラムで十分良かったと思う。ほかの学科は分からないが、少なくとも、建築では、そう思う。(工MC1男)
- ・ 専攻による区分があまり理解できない。あまり関係のない分野の授業を主専攻としてうけなければならないことがある。(工MC1男)

[回答]

主専修、副専修の仕組みを理解下さい。双峰型の教育であり、違う分野も学んでおくことは、将来必ず役立ちます。

(意見)

- ・ 私は高校卒業後、その年大学受験を失敗したため、北海道大学入学前に一年間予備校に通っていました。そういう経験からか大学教授の授業は面白くないと感じています。勿論学問そのものに面白さはあるとは思いますが、それを見つけづらい、解りづらくするような授業をする教授もいる。国から給与を与えられ講義を持っている、という事に対するプロ意識が極端に低いと思う。自分の父母が支払ってくれている学費の一部が、そういった教授に支払われている事を考えると非常に腹立たしく思う。(工MC1男)

[回答]

大学は高校や予備校と同じ目的で教育しておらず、社会に貢献できる技術者の養成を目標にしておりますので、この点も理解してください。講義を通して学生が自ら面白さを発見して興味を持って勉強することも必要です。

(意見)

- ・ 授業教室の移動が多いのが嫌。(工MC1男)

[回答]

講義室が不足気味であり、受講者数により教室のやり繰りを行うため一部、講義により移動が多くなることもあるのでご協力ください。

（意見）

- ・ 博士課程対象の「高度科学技術英語」は非常にありがたい。本格的なテクニカルライティング（英語）の講義があると良いと思う。（工 DC 3 男）

【回答】

SEED（工学系教育研究センター）等では実施していますので利用してください。

（意見）

- ・ 北海道という地理的な問題もあるかもしれないが、各界の著名人を特別講師として招くといいと思う。他大学と比べてこういった機会はとても少なく感じる。（工 MC 2 男）

【回答】

各界の著名人が、所謂マスコミに多く登場する著名人を指すのであれば、特別講師として招く意味はありません。十分ではないかも知れませんが、専門的な特別講師は特別講義や特別講演で招く機会があります。

（意見）

- ・ 英語で授業をするのをやめて欲しい。授業の内容もわからなくなる上、英語の勉強にもならないので意味がないと思う。（工 MC 1 男）

【回答】

国際化している現在では英語は将来にわたって必要です。英語で勉強したことが必ず役に立ちます。

（意見）

- ・ もっと体系的な講義をしてほしい。今の講義は単に教授の専門のみに重点が置かれている。昔のように研究者養成のみに力を注ぐのではなく、社会で運用できる知識に重点を置いてほしい。（工 MC 2 男）

【回答】

多くの教員は体系的な講義をしていると思いますが、このような意見・要望があることを全ての教員に周知します。

（意見）

- ・ 優、良、可の評価の一貫性が、今よりももう少しあればいいと思う。（工 MC 1 女）

【回答】

教員個々人の優・良・可のレベルを統一することは困難です。

（意見）

- ・ ディベート形式の授業をもっと増やして欲しい（工 MC 2 男）

【回答】

意見分布をみてみないとコメントできないですが、講義の形式は内容に応じたものとなっております。

（意見）

- ・ 学生の能力に比べ、授業のレベルが高すぎる科目があると思う。特に、大部分の学生が単位を落とす科目など、レベルの乖離が大きすぎないように努めてほしい。（工 MC 2 男）

【回答】

大学院の講義のあり方として、高いレベルのものも含める必要もありますが、内容の難易は研究分野により異なります。

（意見）

- ・ 授業、課題が日程的に暇な時と忙しくなる時の差が大きいと思う。適切なカリキュラムを構築すべきだと思う。実社会で即使えるような授業があればいいと思う。（工 MC 2 男）

【回答】

カリキュラムの構築は専攻・学科の理念に基づいて立てられております。大学では実社会で役立つための基礎知識を身につける所であり、何よりも自ら考えることを学ぶ所です。

〔意見〕

- ・ 授業内容の割に授業料が高い奨学金の利子は学生殺しだ。利子を取るのは金融と一緒に。(工MC1男)

〔回答〕

日本学生支援機構の奨学金には第一種奨学金(無利子)と第二種奨学金(有利子)があります。民間等の奨学金も無利子・有利子等がありますがご自分の希望にあった奨学金をよく検討して応募してください。本学部では応募者が多い場合は、選考委員会で受給者を決定しております。

〔意見〕

- ・ 授業料を払っているのに、授業を1学期に6回しかしない、先生もいる。本当にこれでよいのかと思う。そのあたりの調査はどのようなものか？学生に聞いて学校を良くするのも重要だとはおもうが、事務が、少し積極的に表に出て無作為に調査するのも必要なのではないか？(工MC1男)

〔回答〕

6回で単位を出しているとすれば問題ですが、より詳細な状況を事務局へお教え願います。

〔意見〕

- ・ 「大学で何をやったのか」ということは「配属研究室で何を研究したのか」ということだと思う。学生と研究室の関わる時期はもう少し早くてもいいと思う。研究室に入って初めて、学部時代の講義の必要性を感じた次第である。(工MC1男)

〔回答〕

あまり焦らないことです。十分に基礎を身につけなくては優れた研究ができません。

〔意見〕

- ・ 単位の計算ミスで留年を余儀なくされた友人・知人が多数いる。自己責任と言ってしまうまでもうだが、ミスをした本人にとっても就職内定先にとっても大きな損害である。計算方法も煩雑であり、ミスをする学生も無視できる人数ではないと思う。3年次終了時点で、卒業要件の不足分を計算し、通知するシステムくらいは、あっても良いと思う。(工MC2男)

〔回答〕

単位は、指導教員と相談の上、履修届を出し、修得することになっており、学期の修了毎に配付する学修簿により単位を確認できます。

2 施設、設備に関すること

〔意見〕

- ・ 共有設備の管理が非常にずさんである。またその維持費も十分に賄われていない。(工DC1男)
- ・ 分析機器の充実。または既存機器の修理等に当てる費用の充実。(工MC2男)
- ・ 壊れている研究用機器が多すぎる。冬の暖房はもっと遅くまで使えるようにして欲しい。新しい研究棟と古い研究棟の差が激すぎる。同じ授業料払っているのに！見晴らしが良い建物にいる人がうらやましい。トイレくらいはきれいに改装して欲しい。(工MC2女)
- ・ 現在、暖房が17時になったらきれてしまって夜が非常に寒いので、できれば22時くらいまではつけていてもらいたいです。(工MC1男)
- ・ 暖房を夕方以降や土曜にもつけてほしい。(工MC1女)
- ・ 暖房設備に関して。昼間は暑く、半袖で過ごせるくらいですが、17時に暖房が止まると、建物の古さもあって急激に冷え、研究に支障をきたします。設備の改善を強く望みます。24時間稼働し、部屋ごとに温度調節ができることが理想的です。電気設備に関して。特に冬期ですが、電気ストーブを数個つけるとブレーカーが落ち、コンピュータに悪影響が出るのがたびたびあります。上限値の改善をお願いします。(工MC2男)
- ・ 建築棟をどうにかしてほしい。特に電気のブレーカーが落ちやすい。あとに方向避難ができないと思う。これって防災法違反じゃないのですか？冬期間、暖房を5時で切らないでほしい。(工MC2女)
- ・ 上下に開閉する窓ガラスがいたるところにあるが、上側と下側の窓の間に隙間がある構造になっていて、冬はとても寒い。特に研究室は致命的に寒い。冬季間のヒーターの稼働時間が短いのは非常に困る。卒論や修論期間であり、どうしても夜に作業する必要がある。夜間もヒーターを使えるようにして欲しい。どこの研究室も、別途、ヒーターを用意して対応しているが、それならば、研究室ごとに暖房をオン、オフできるようになったほうが良いのではないかと。水道水が硬水なのは問題だと思う。本当に飲んでいいのか心配だ。女子トイレが少ないという不満を良く耳にする。(工MC1男)

- ・ 夜間も暖房いれてほしい。(工 MC 2 男)
- ・ 工学部の F 棟だが、冬寒い。(工 MC 1 男)

[回答]

各研究室に運営費が配分されておりますので、研究室に相談願います。暖房の通気時間は特殊な施設を除いて同じと考えています。大学全体が良くなるよう考えておりますのでご理解ください。窓ガラスについては、場所が特定できませんが、研究室に相談願います。老朽化したもの（トイレを含む）については、改修も検討したい。

(意見)

・ 事前に設計をちゃんと業者の方と議論されているのでしょうか？道路に駐輪禁止と書く前に、駐輪場を確保しつつ新しい棟の配置を考え設計するべきですね。駐輪場が不足しているのは昔から認識されているはずです。事前に必要な駐輪スペースを見積もっておけば、今頃駐輪場を整理しているおっちゃんたちも楽だったかも知れませんが、ある程度人件費削減できますよね。(工 DC 3 男)

[回答]

空いている駐輪場もありますが、職員も含めて駐輪する人が多いことや卒業などで北大を離れる場合に自転車を放置していく人が多いことから、場所が不足している状況にあると思われます。ルールを守るようご協力お願いします。放置自転車の処分には多大な経費がかかっていることをご理解願います。

(意見)

- ・ 安全は大切であるが、環境改善にかかる費用を研究室に負担させすぎではないかと思う。(工 MC 2 男)

[回答]

安全管理・環境改善には教職員、学生などのご協力も欠かせなく、費用もかかりますが、最低限の安全・環境改善経費の負担にご理解願います。

(意見)

- ・ 実験室の床のタイル張り替えなどの雑用を学生にやらせるのはいかなものかと思う。(工 MC 2 男)

[回答]

このようなことがありましたら事務部へ相談願います。

(意見)

- ・ 原子炉が欲しい。中性子実験ができる環境が（学内ではなくてもせめて道内に）欲しい。共同利用の実験設備の手続きを簡略化して欲しい。(工 MC 2 男)

[回答]

教員と相談願います。

(意見)

- ・ 新しくしてほしい。(工 MC 2 男)
- ・ 工学部を改築してほしい。(工 MC 1 男)
- ・ 貧相すぎる。研究室によって差がありすぎる(工 DC 2 男)
- ・ 建築棟が古いのでどうにかしてほしい。(工 MC 1 男)
- ・ 工学部校舎（特に機械棟）がぼろすぎる。地震があったら危険。(工 MC 1 男)
- ・ 古くて危険な設備等は撤去するか取り替えるかしてほしい。特にふるい校舎は雨天や融雪のたびに漏水に悩まされ、備品が悪影響を受けていると思う。(工 MC 2 女)
- ・ 古い便所を新しくしてほしい。(工 MC 2 男)
- ・ 快適である。しかし、情報系や材料系に比べて、機械系・資源系・土木建築系などの旧校舎は老朽化がひどく、建て直してほしい。(工 MC 1 男)
- ・ 老朽化した設備の更新を早急に行ってほしい。A棟・材化棟・情エレ棟以外は非常に悲惨な状況になっている。トイレだけを改修するような小手先のことでなく、耐震補強といった根本的なことから取り組んでほしい。(工 MC 2 男)
- ・ 老朽化した設備は順次改善して欲しい。実験器具の不足や、購入金不足に学生が困ることのないよう、研究費をもっと増額すべきだ(工 MC 2 男)
- ・ 実験室が古い。工学部に関してはなぜ社工と物工の建物ができないのか？(工 MC 2 男)
- ・ 工学部の古い棟（Aのみ改修されたが）の改修を望む。アスベストの問題など、安全面はどうか。また、A棟との行き来が

しやすくなる(一度1階に下げる必要があるため、非常に遠回り)。(工MC1男)

- ・工学部が全般的に施設の老朽化が進んでおり、不愉快である。(工DC1男)
- ・研究科によって建物に差がありすぎると思います。もっといい設備にしてもらいたい。(工MC2男)
- ・きれいな校舎にして欲しい。特に工学部は汚い。(工MC1男)
- ・もう少し新しい施設がほしい。(工MC1男)
- ・リフォームして欲しい。実験室を広くして欲しい。(工MC1男)
- ・工学部の老朽化が進んでいるので、できるだけ早く改善してもらいたい。(工MC2男)
- ・新しい建物が欲しい。(工MC1男)

[回答]

北海道大学全体の施設計画で概算要求等を行っていますが(工学部も要求)国の財政が逼迫しているので、一部しか実現していない状況であり引き続き要求します。

(意見)

- ・仮眠を取ることができる施設や、シャワー設備などがあったら助かる。教室の空調が効きすぎていてもったいないし暑すぎる。(工MC1男)
- ・仮眠室の設置。屋上に自由に出入れる。マクドナルド・吉野家等ファーストフード店の導入。また、コンビニエンスストア等の導入。生協店舗の拡大(工MC1男)
- ・徹夜をすることが多いため、洗面所やシャワールームを設置してもらいたい。(工MC2男)
- ・研究で徹夜することもあるため、自宅から学校は遠いため、シャワー施設が欲しい。(工MC1男)

[回答]

仮眠室・シャワー設備の設置については、多人数を収容しなければならず安全面、維持費などに問題があり難しい状況です。教室の空調は、こまめに調節をお願いします。

(意見)

- ・古い建物はとくに問題では無いが、電気系統が弱いので実験に多少の支障を感じる(工学研究科)。私はキャンパスに緑が豊かな北大が好きであるが、最近の校舎の工事を見ていると一時的な工事のために自然を破壊している感じを受けます。一時的な工事現場のために大きな木を切ったりするのは真に遺憾である。また、経済的に余裕があれば理系の実験棟以外は高層化し、空いた土地に緑を増やしてもいいのかもしれない。新しい校舎(理学部と工学部)は無駄な空間が多すぎる。廊下が狭かったり、教員の部屋に適切な空間(内地の大学と同一のサイズにする必要はないはずである)が無いために廊下に物を出すなど景観・安全性が悪い。(工DC2男)

[回答]

電気系統・防災などについては、工事の要求を行い毎年少しずつ改善しています。樹木については、真にやむを得ない場合のみ伐採していると考えています。

(意見)

- ・安全に対して個々の研究室任せになってしまっており、統一した安全管理が欠けていると思う。(工MC2男)

[回答]

工学部には多数の研究室があり安全主任者を配置しています。安全管理は統一した規定、規則によっています。また、入学時にガイダンスを行っています。

(意見)

- ・古い研究室にも冷房は入れるべき。(工MC1男)

[回答]

研究・実験に真に必要な冷房装置は設置されていると考えております。必要があれば研究室にご相談します。

(意見)

- ・共同利用の研究施設が欲しい。(工DC3男)

[回答]

どのような共同利用か不明ですが、大学内には何力所かありますので教員と相談します。

(意見)

- ・ 暖房の入れ方を工夫してほしい。特に日中は暑すぎる。(工MC1男)

[回答]

教室の温度により運転時間を調節していますが、さらに工夫したいと考えています。また、室内にある放熱器弁で温度調節を行ってください。

(意見)

- ・ 学部に保健施設等を整備させてほしい。事務だけ上水道を使用し、各研究室には北大の処理水(井戸水)を使わせるのは問題がある。このことについては、早急に解決されない場合はメディアを通して問題を提示するなど然るべき対処を取りたいと思う。(工MC2男)

[回答]

事務だけ上水道(札幌市水道)を使用しているということはありません。工学部団地は塩素消毒し、飲料水(井水)として使用しています。雑用水(井水)は主にトイレなどに使用されています。なお、上水道は主に実験用・ボイラー補給水用として使用しています。

(意見)

- ・ バリアフリーを広げて欲しい。(工DC2男)

[回答]

主な出入り口はスロープ等を要求し、実現しています。具体的な場所を示してください。

(意見)

- ・ 個人でパソコンを持ち込まなければならない。(工MC2女)
- ・ 工学研究科に所属しているが、ものを作る設備が不十分であると感じる。(工MC1男)
- ・ PCの性能が低い。(工MC2男)

[回答]

研究室に、ご相談願います。

(意見)

- ・ 実験室が狭い。高価な分析装置を共同利用施設として使用できないか。(工DC3男)
- ・ どこにどんな設備があるというのをリストにしてもらえるといいと思う。違う研究グループのものも相互に貸し合えるようなシステムがあるといいと思う。(工MC2男)
- ・ どの研究室にどのような実験設備が整っているかを知ることができ、必要があれば他の研究室との貸し借りができるような制度を作って欲しい。(工MC2男)

[回答]

分析装置等の共同利用は空いていれば可能と思われます。研究室にご相談願います。

(意見)

- ・ 不具合のある機械はすぐに修理や入れ替えをしてほしい。機器の使用状況に応じた予算配分を求める。(工MC1男)

[回答]

研究室により相違があると思われます。ご相談願います。

(意見)

- ・ 工学部にATMをおいてほしい。(工MC1男)
- ・ 学部内のATMとコンビニ的なものの設置(工MC2男)

[回答]

スペース、採算性、相手方が支払う借料の問題等もあり難しいのが現状です。北部食堂や中央食堂等にATMがありますので利用願います。

(意見)

- ・ 外観だけを取り繕って中身は何の改修もなされていないように思える。観光客対策も必要なのかもしれないが、やはり学生が心

地よく研究することができるようにするのが最優先である。(工MC1男)

[回答]

もっともだと考えます。学生などが勉学、研究に最善となる環境を造るべくこれからも心がけます。

(意見)

- ・ 私は工学研究科所属である。ゆえに工学部の施設を日頃から利用機会が多いのだが、工学部の建物自体が継ぎ足し継ぎ足しで出来ているためか非常に入り組んでいて、指定された教室、部屋に辿り着くまでに非常に多くの時間を費やしてしまう。それに車いすの生徒の入学を阻害でもしているかのように段差や階段が多いと思う。工学部には建築科などもあるのだから、しっかりして欲しいと思う。(工MC1男)

[回答]

確かに学科、専攻の増に伴い建物が継ぎ足しで建設されました。このため、段差なども生まれました。今後も施設の安全性なども含めて、対応したいと考えております。

(意見)

- ・ 実験室及び実験棟の研究室にエアコンがないため、夏は非常に暑い。また窓に大きな隙間があるため、冬期間は夜6時を過ぎると寒すぎていられないくらいである。(工MC1男)
- ・ 冷房、暖房の完備。(工MC1女)
- ・ もっと実験装置を購入してほしい。予算が足りない。(工MC2男)
- ・ 実験室が手狭で学生各自の実験スペースを確保することが困難な状況である。それはどうにかならないものか。(工DC2男)

[回答]

研究室にご相談願います。

(意見)

- ・ 自販機などを多く設置してほしい。(工MC1男)

[回答]

場所の問題と経費をクリアできれば可能と考えます。具体的な場所を示してください。

(意見)

- ・ 工学部の玄関や駐輪場などに無駄なお金をかけ過ぎている。たいした利用価値もなく必要性も感じられない。そのようなお金があるならもっと有意義に使うべきだ。導入にあたった人物にその是非を問いたい。(工MC2男)

[回答]

駐輪場については、必要と考えています。予算は有効に使用していますが更に検討したいと考えています。

(意見)

- ・ 学内が暗い。大型装置の搬入が困難だ。実験室と居室が離れすぎている。(工MC2男)

[回答]

省エネのため確かに暗い部分もありますが、今後改善していきます。

(意見)

- ・ 大判ポスター用のプリンターが工学部事務前の部屋に1台しかないが、あと2台くらい数を増やして欲しい。あと利用時間を拡大して欲しい。休日でも使えるようにして欲しい。(工DC3男)

[回答]

現有機プリンターは高速機の導入を予定しています。経費の問題があり、増設は難しい状況です。また、休日使用となると管理面などの問題もあり、難しい状況です。

(意見)

- ・ 今の研究室の独立した運用体制では器具の重複が多く無駄が多いと思われる。もっと事務の方々が研究費について十分立ち入るべきではないだろうか。(工MC2男)

[回答]

研究室の運営に事務が関与はできないと考えます。教員と相談して、相互利用を考えてはいかがでしょうか。

（意見）

- ・ 仮眠室を設置してほしい。工学部と情報科学研究科の図書室の利用時間を22時まで延長してほしい。工学部と情報科学研究科の自習室を24時間開放してほしい。カードキーの有効範囲を拡大してほしい（例えば、情報科学研究科に所属する者は、情報エレクトロニクス棟や工学部等、メインの建物には夜間でも入れるようにしてほしい）。総務の窓口を18時まで営業させてほしい。（情MC2男）
- ・ 図書館と事務の時間を長くしてほしい。（工MC2男）

【回答】

仮眠室については、多人数を収容しなければならず安全面、維持費などに問題があり難しい状況です。工学研究科・工学部中央図書室は9時から20時まで開室しています。開室時間延長時間帯（17時～20時）には1日平均87名が入室し、貸出総数の22.5%が延長時間帯の貸出となっており、18時以降1時間ぐらいが利用のピークです。反面、19時の在室人数（座席数60席）は1日平均5.3名です。今後、利用の状況と予算を考慮しながら「時間延長」を考えていきます。なお、附属図書館（本館）（北分館）は平日9時～22時まで、土曜日曜9時30分～18時まで開館しておりますので御利用くださるよう願います。カードキーについては研究室に相談願いたい。

（意見）

- ・ 現在工学部の旧材化棟に席を置いています、自分のいる階に女子トイレはなく、唯一ある下の階のトイレは何週間も清掃されていなくて異臭が漂っています。壁紙は剥がれ落ちてくるし窓も隙間風だらけです。廊下は暗いし電気をつけてもすぐに消されます。省エネなのはわかりますが、夜中に一人で帰宅するときなどいつ犯罪が起こってもおかしくないように思います。最低限の電気はつけられるようにスイッチの数を増やすなどこまめにつけたり消したりできるようにしてほしいです。（環境MC1女）

【回答】

トイレ清掃契約は1日1回となっておりますので、ひどく汚れているようでしたら事務に連絡願います。電気については、警務員に連絡し、改善しました。

（意見）

- ・ あいている部屋を他学部へ貸し出すくらいなら、実験室として使用させて欲しい。（工MC1男）

【回答】

必要性妥当性などを審査し許可を行っておりますのでご理解願います。実験室については、各研究室の学生数等により面積が算定されています。

3 経済問題に関すること

（意見）

- ・ 今年入学した博士課程の学生だけ授業料免除というのはおかしい。それ以前に入学した学生と比べ100万近くも差額があり、平等とはいえない。（工DC2男）

【回答】

この経済支援は平成17年度入学生から実施しておりますが、財源に限りがあり、申請者数がどの程度になるか未知数であったことをご理解願います。

（意見）

- ・ 基礎研究にも研究費が欲しい。（工DC1女）

【回答】

一般の運営費交付金は各研究室に平等に配分されています。

（意見）

- ・ 授業料が年々上がってきている。やむを得ない事情があるとは思いますが、電気のつけっぱなしや冷暖房のかけ過ぎ、意味の分からない工事（設計の段階で十分に検討するべき）など、無駄使いを止めてからにして下さい。（工DC3男）

【回答】

無意味な共通工事は行っていないませんが、今後も節約に努めて行きたいと考えていますので、ご理解願います。

（意見）

- ・ 授業料高い！！！！！！そんなに払うほどの内容かと思ってしまう。修士2年は授業もないのに。(工MC2女)
- ・ 値上がりしている。何に使っているかはっきりしてほしい。MC2年になると授業がないのに、1年時と同じ授業料を払う事に疑問を感じる。(工MC2女)
- ・ 法人化で授業料が高くなった。それなのに、学内で改善された点が見当たらない。有用にお金を使ってほしい。(工MC1男)
- ・ 大学院入学科が高すぎる。修士をとるためだけで、その他の技能を身につけられるとは思わないのになぜ授業料が高くなっていくのかわからない。(工4男)
- ・ 授業料に見合った教育をしているとはとても思えない。法人化したのなら無駄をはぶいて授業料を上げるのではなく下げる方向にいてほしい。(工4男)
- ・ 現在の授業料は多少なりとも親などからの支援を受けていることを前提に決められているのかと思うくらい高額であると感じる。正直、奨学金を受けていてもすべてが授業料に消えてしまうため、教科書等の教材費を捻出するのが困難である。また、英語ⅣのTOEIC強制受験は強制させるのなら授業料から出して欲しいと感じる。(工2男)

【回答】

学生一人当たりに使われている教育・研究経費は、学生一人当たりが納入する入学科・授業料の数倍であり、入学科・授業料が高いとはいえません。欧米の著名大学の授業料もわが国の国立大学の授業料に比べれば高額です。北大には、膨大な学術情報、高度な科学機器類があるので、授業料等が高いと考えるならば、積極的にこれらを活用するように自ら努力し、能力・知識を高めることで入学科・授業料が高いという感じは薄れると思います。

（意見）

- ・ これは、一大学の問題ではなく国の政策に問題があると感じている。法人化政策や義務教育予算削減などを通じて、教育、学問に対する予算はなおざりにする傾向が強くなっていると感じている。特に大学は、研究機関でもあり教育機関でもあるのだから、志す学生を経済的なふりかけずに受け入れてほしい。授業料は確かに高い。加えて奨学金が、利子もあって心理的に利用しづらい。特に、本当に研究を志すようになっての、修士課程、博士課程の学生に対する（国の）経済的な援助は必要だと思う。学問研究に後継者が少なくなっていくことは先々が心配であるからだ。その点、工学部独自の取り組みについては支持する。他方、他学部（特に文系学部）が心配である。何も、一つの研究分野だけで学問が進展するわけではないことを最近強く感じており、工学部の学生だけが支援されればいいと言うわけではない。(工MC1男)

【回答】

工学研究科としては、今後も種々の学生支援法を検討し、実施していく予定です。

（意見）

- ・ 基本的に現状で問題ないとは思いますが、事務手続きがわかりづらいことと、それに関するお知らせなどが学生に行き渡りづらい環境だと思います。大事な情報など、もっと学生が気づくようにしないと、見逃してしまうと思います。(工MC1女)

【回答】

学生への連絡は基本的に掲示により行っており、学生は掲示を見る必要があります。掲示板の整理を行い見やすいように改善していきますので、注意して掲示を見てください。

（意見）

- ・ 告知はわかりやすく、迅速に行って欲しい。(工MC2男)

【回答】

授業料・入学科免除の告知は、いままでは個人情報の関係上、学生番号を掲示板で周知しておりましたが、平成18年度後期分から、掲示板に公表せず本人に直接窓口で手渡すこととなりました。

（意見）

- ・ 企業との共同研究を増やし、担当学生には相応の経済的援助をおこなうべき。(工MC1男)

【回答】

共同研究と学生の経済支援は切り離して考えるべきです。経済的援助は奨学金制度を利用すべきでしょう。

（意見）

- ・ 一部の人にだけ、給与の奨学金の情報が流れていた事があるので、全員に情報が行くように徹底してほしい。(工MC2男)

[回答]

具体的な奨学金の内容はわかりませんが、申請資格が特定されているものがあり、対象者にのみ通知している場合がありますので、ご了承願います。

4 図書館に関すること

(意見)

- ・ 学部・付属する図書館を土日や祝日にも開館してほしい。Nature や Science など、どこの図書館にもある雑誌の購読を減らして、他の書籍の充実を図ってほしい。(工MC 1 女)

[回答]

土曜・日曜日は附属図書館を御利用くださるよう願います。雑誌、特に洋雑誌は電子ジャーナル化されて全学で閲覧できるため、学内の雑誌タイトル重複率が大きく減少しています。現在、購入している冊子体の雑誌は、利用者要望を満たす、基礎的かつ最小限の購読となっています。所蔵図書資料の充実のため「図書リクエスト」(図書の購入希望)を受け付けていますので、所定の用紙(中央図書室にあり)に必要事項記入のうえ、工学研究科・工学部中央図書室へ提出ください。「検討」のうえ購入いたします。御協力をお願いいたします。

5 教職員の対応に関すること

(意見)

- ・ 事務と研究側の連携を効率よくしてほしい(手続きなどで不便な面がたまにあった)。(工MC 2 男)

[回答]

具体的なご指摘があれば、改善していきたいと思います。

(意見)

- ・ その奥の机に座っている事務のあなた。申請書類が欲しいとか書類を提出に来た学生がたくさんいるのに、知らないふりはないでしょう。しかも、先生が来たとき「どういったご用件でしょうか」って先に並んでいる我々は後回しかい。企業の研修で、「お客様への対応は会社の対応でもあり会社の質が問われる重要な場面なのです」と説明があった。この論理で考えれば、北海道大学の事務はお偉い様重視ということですね。全ての事務の方がこの対応ではないのですが、一人でもこのような対応があると全体のイメージが悪くなるということを認識して下さい。(工DC 3 男)
- ・ 事務職員は、独立行政法人になったにもかかわらず、サービスも悪いし、愛想もないのはおかしい。学生が払った授業料で働かせてもらっているという気持ちがあるかもしれない。あまりにも、ひどい対応をしている人がいる。そういう声は、数多く聞く。(工MC 2 男)

[回答]

事務職員の窓口対応については、これまでも学生の視点に立った教育サービスを心がけて対応しておりますが、このような意見があったことは残念に思います。窓口職員と学生さんとのやりとりで、言葉の理解の相違から、お互いに解釈が違ってしまふことなどがあったのではないかと思います。今後このような指摘を受けないよう、より一層誠意ある対応をしていきたいと思っています。

10 その他

(意見)

- ・ 現状では、研究室の教授はお山の大将になっており、その勝手な行動を管理できる環境がない。そこで、所属学生たちの意見を吸い上げその担当教官などに注意や処分をすることのできる機関やシステムがほしい。そのことにより、研究費などの不正経理や危険物の不正投棄、アスベストや劇物・劇薬の隠れた使用、学生に対するパワーハラスメント・アカデミックハラスメントなどを多少なりとも取り締まることができるはずだ。(工MC 2 男)
- ・ アカハラはどこに相談すればよいですか。どの程度なら相談可能ですか。(工MC 2 男)

[回答]

相談先としては、現状ではアカデミック・ハラスメント専門の相談員がいませんので、学生相談室に行ってみるのが良いと思いますし、セクシュアル・ハラスメントが関係している場合はもちろん、そうでない場合でもセクシュアル・ハラスメント相談員に相談してみるのも良いと思います。また信頼できそうな教員が周囲にいる場合には、その方に相

談することも試してみる価値のあることです。力になってくれる人が必ずいるはずですので、あきらめずに捜してみてください。解決策は状況によって様々ですが、たとえば大学院生などで指導教員からハラスメントを受けている場合であれば、最も容易で有効な方法の一つは指導教員を変更することです。

〔意見〕

- ・ 教授、助教授はその研究室をまとめるリーダー的な立場にあるはずです。しかしリーダー的な立場に立つ際に必要な能力が欠けている教授が多すぎると思う。教授、助教授、助手になる際にそのような能力や人間性を問う審査があつて然るべきだと思う。(工 MC 1 男)

〔回答〕

教員の採用についてはそれぞれの職種の資格要件により採用しております。

〔意見〕

- ・ 社会人 Dr 受け入れの PR をもっとするべきではないでしょうか。そのことによって、産学官連携も深まると思います。(工 DC 2 男)

〔回答〕

博士後期課程学生を増やすよう各教員も PR に努めていますが、研究科全体としても PR をするよう努めています。

〔意見〕

- ・ 教授・助教授の多くが時代錯誤。古い考え方の押し付け、思いつきでものを言う、理不尽な叱責などが見受けられる。非常に学生は困っている。そこで定期的に「教授にふさわしいか」「助教授にふさわしいか」「この助教授が教授に昇進していいのか」「この教授に名誉教授を与えていいのか」などについて研究室に配属済の学生に対するアンケートを実施するのはどうかと提案する。アンケート結果と学校側の人事は無関係でいいと思うが、学生の声を広く聞き入れることも需要だと考える。世間では教職員の破廉恥な事件が新聞を賑わせたり、北大病院職員が痴漢で逮捕されたりと、職員の資質が問われている時代ではないかと考える。人格的に問題のある教員が立場の弱い学生に対し、精神的な苦痛を与えていることは間違いのない事実である。人事および、役職について学生アンケートの結果を考慮することを提案する。(工 MC 2 男)

〔回答〕

学生の声を聞くことは重要であり、アンケートを行うことは良いと思います。しかし、教員人事に限らず、重要な案件が無記名アンケートの結果に左右されることは健全ではないと思われます。

農 学 部 ・ 農 学 院

【 学 部 】

1 教育・授業に関すること

（意見）

- ・ 必修の授業を減らし、選択必修を増やしてほしい。（農2男）

【回答】

農学部では今、いくつかの学科で、必修科目を減らし、選択科目を増やす方向で、カリキュラムの改正が進められています。しかし、改正されたカリキュラムの適用は来年度入学生からで、既在籍者には適用になりませんので、既在籍学生は現行カリキュラムで履修していくしかありません。

（意見）

- ・ 主に1年次に受ける教養での授業を、どの学部にも所属しようともっと多く受けられるようにしてほしい。また、教養の授業を、どんな内容の授業があるのかももっとわかりやすくしてほしい。（農2男）

【回答】

全学教育科目は全学部生向けに多数展開されております。また、授業内容については、1年次に配付しております授業要綱集を参照してください。

（意見）

- ・ 教職科目をもっととりやすくしてほしい。（学年指定をなくす・毎学期に開講するなど。）取れるうちにとっしまわれないと、どんどん4年にたまっていくので、断念しそう。現在キャリアセンターで行っているような、ビジネスマナー/企業研究講座が授業科目に入れられないか。（農3女）

【回答】

教職科目については、教育学部が担当部局となって開講されているものであり、1年次から順次履修できるよう科目は配置されておりますので、教員志望者は、自学部の履修と併せ計画的に履修するようにしてください。キャリアセンター主催のものが履修科目としてなり得るか検討してみたいと思いますが、ビジネスマナー・企業研究講座が科目としての条件（講義時間数や成績評価のあり方など）を満たしている、あるいは満たせる可能性があるかどうかの問題となります。

（意見）

- ・ 上の学年の授業も、ある程度履修できるようにしてほしい。たとえば、自分の所属する学科の授業でなくても、上の年次でたまたま選択履修科目になっているという理由で履修できないのはおかしいと思う。もっと柔軟に対応していただきたい。（農2男）

【回答】

カリキュラムは、概ね基礎から応用まで順序立てて学べるように学年進行で配置されています。科目によっては必ずしもそうでない場合もありますので、学科長や教務委員、科目担当教員に相談して見て下さい。

（意見）

- ・ 他学科の実験、演習にも参加できるようにしてほしい。（農2女）

【回答】

他学科の実験の履修は実験設備の関係で不可能です。設備などを必要としない演習は条件によっては可能ですので、科目担当教員と相談して下さい。

（意見）

- ・ 興味ある授業をもっとたくさん受けられるように、時間割をもっと考えてほしい。（農4男）
- ・ 暇すぎる時期と忙しすぎる時期の差が激しすぎる。ちょうどよいくらいの忙しさになるようにカリキュラムを作してほしい。（農2男）

【回答】

各学科の専門授業科目は、重ならないように時間割が作成されています。他学科・他学部の授業科目は10単位以

内が卒業単位として認められますが、講義時間が重なる可能性が出てきます。重なった場合、優先させる科目をまずその期に履修し、他の科目は次年度以降に履修するなどの対応が必要になります。

〔意見〕

- ・ 全学教育科目の科目について、各科目の授業内容をもっと検討するべき。この学部学生にこの授業内容は適しているのか、など。必修科目は学部専門科目につながるような内容を考えるべき。必修科目なのに身にならない授業であることが多かった。(農3女)

〔回答〕

全学教育科目は、すべての北大生が身につけておかねばならない共通の素養をはぐくむ「コアカリキュラム」として展開されているものです。幅広い学習に役立ててください。

〔意見〕

- ・ 農学部などは1年時の成績により2年の分属が決まるのに、先生によって秀や優のとりやすさなど、異なるのをどうにかしてほしい。(農1女)

〔回答〕

全学教育科目については、「全学教育科目の成績評価基準のガイドライン」により適切な評価が行われています。

◆授業内容の改善及び教員の授業方法について

〔意見〕

- ・ 授業内容の科目間の重複が見られる。(農3男)
- ・ 論述の課題を意識的に多く出してほしい。学問だけでなく、実際に外(社会)に働きかける活動もさせてもらえると面白いと思う。(農3女)
- ・ 学生実験の内容をもっと充実したものにしてもらいたい。(農3女)
- ・ 専門の授業はもっと課題について厳しくしたり、真剣に勉強させるような雰囲気にしたほうがいいと思う。また、より幅広い現象・事象について紹介したり、知的好奇心を刺激する授業をしてほしい。加えてもっと上手な授業をしてほしい。(農3男)
- ・ 議論重視。詰め込み知識教育では大人になれません。(農3男)
- ・ 大学にはまともなカリキュラムや、授業が無いと思う。だからある程度の課題を出され参考書などを示してもらえたら、自分で勉強するので、出席で生徒を拘束しないでほしい。もっと自由な学風でいいと思う。(農3男)
- ・ 各教官に、講義に使用する資料の作成や講義の進行の仕方をもう少し力を注いでもらいたい。研究者としてだけではなく教育者としての自覚を今以上に持ってもらいたい。黒板の前で資料を見ながら、しょうがなく講義をしているように話すのではなく、頻繁に学生の方を見て「この内容を伝えよう。」という意識を見せて欲しい。評価に納得のいかない講義があり、これについて教官に確認を取ろうと試みたが、シラバスに連絡先が書かれておらず、確認が取れなかった。教官の中には評価の基準を答案返却や、直接教官へのメールでの問い合わせという形で示して下さった方もいらっしまったが、多くの場合は学修簿を見てみないと分からなかった。今後は、学生に対する評価基準の公開をもっと徹底してもらいたい。(農3男)
- ・ 自分の知識が足りないという理由があるかもしれないが、言っていることを理解するのが難しい講師が多いと思う。大学は基本的に自分で勉強をしていく場と考えてはいるが、講師によってその分野に魅力を感じたり、感じなくなったりもするから質を上げてほしい。(農2男)
- ・ 教員の指導能力の評価、及び改善のための明確な制度作り。(教員の自主性を尊重するといっても、駄目な人はいる。そういった人は授業を担当させないか、指導能力を改善するべき。)(農2男)
- ・ 教官によって授業の内容や重み、熱意が違って、不平等や授業の当たりはずれがある。もっと受けたいと思う授業にしてほしい。(農3女)
- ・ 情熱的な授業を希望する。(農・男)
- ・ 教授は大変そうだがもっと教える意欲がほしい。(農4男)
- ・ 先生の熱意がある授業と熱意がない授業で質がまったく違うことに問題があると思う。(農4男)
- ・ もう少し学生と教授が接しやすい状況を作してほしい。(農2女)
- ・ 教授自身に講義する気を感じられないことがありとても残念だった。入学時のガイダンスなどで、一般に、どこへ意思表示すべきかを説明だけでなく、具体例や事例とともに教えてほしい。(農4女)

〔回答〕

講義は教員のみならず学生が積極的に参加してこそ、実りあるものになるという性質をもっています。講義を良くするためにも、学生諸君の積極的な参加を期待します。また、「学部学生による授業アンケート調査」によれば、

年々、講義の質が向上しているのが伺えます。

◆学科分属について

(意見)

- ・ 農学部の場合、1年次の全学教育等の授業成績で、2年次の学科分属が決まる。そのため、楽に単位取得ができ、かつ“優”をすぐにもらえるという授業を受講するという傾向が多く、多くの農学部学生にある。私自身、1年生のときはただよい成績をとるために授業を受けていた。学科分属のやり方を少し考えなおしてみるべきではないのか。(農4女)
- ・ 教養の存在意義について議論を深めてほしい。また学科分属の仕方にも問題があると思う。GPAにしても同一の科目にもかかわらず教員の違いによって評価の仕方が多いに異なり大変不公平だ。(農1男)
- ・ 学科分属というシステムについて、もうすこしなんとかならないかと思う。学科分属の考え方はいいと思いますが、自分の場合、行きたい学科に行けず、教務の人や教授などに学科をどうにか変えられないでしょうかと尋ねたが、君のような生徒の要望をいちいち聞いていたら成り行かなくなる学科が出てくるから基本的に無理だと言われました。一年次の成績で決まったことだから仕方ないことかもしれないけれど、やっぱり納得いきません。農学部の学科分属は優を取ったもの勝ちみたいな分け方のため、自分のとりたいものより、優の取りやすい授業を優先してしまう傾向があると思います。私の場合も、優を取れる科目(農学概論など)をあまりとらなかったために他の人に大きく差をつけられていたことにきがつきました。今や全く興味のないことを毎日続けていて、学校に行く気力があまり起こりません。(農2男)

[回答]

農学部は7学科があり、それぞれに学生定員が定められています。農学部に入学者を学科の定員に沿って分属させなければなりませんので、現行の分属システムがとられています。現行のシステムでは意に添わない学科に分属になる可能性もあります。ある学科に絶対に行きたいのであれば、一般教育課程でがんばって勉強して頂きたいと思います。

2 施設・設備(図書館、課外活動施設を除く)に関すること

◆食堂の増設

(意見)

- ・ 食堂を増やしてください。学部、教養間の移動時間を考えてください。(農4男)

[回答]

現在、教養周辺に2カ所、理学部側に中央食堂、クラーク会館食堂、さらに農学部の食堂がありますので、適宜利用願います。なお、農学部食堂は、現在改修中ですが、改修終了後は以前より20%程度広くなる計画です。

◆休憩室・自習室・学生スペースの要望

(意見)

- ・ 自宅が遠いので、空きコマが続くとき用に休憩室がもっとほしい。(農3女)
- ・ 24時間開放の自習室がほしい(農2女)
- ・ 各学部に24時間勉強できる教室を一つでいいからつくってほしい。(農2男)
- ・ 学生スペースがより充実することを願う。(農4男)

[回答]

現在休憩室を設置する空きスペースがありませんが、改修工事の終了後には食堂を日中使用していない時間帯をラウンジ等として、開放する計画です。

24時間解放の自習室、教室の設置は管理運営上困難な状況にあります。

◆暖房・冷房設備及びWCについて

(意見)

- ・ トイレの戸が閉まりにくい。トイレの水道の蛇口が閉まりにくい。暖房のつくタイミングが悪すぎる。授業中寒い。暖房がうるさい。(農4女)
- ・ 4月にも暖房を入れてもらいたい。(農3女)
- ・ エアコンデショナーをつけてください。(農4男)
- ・ 教室の机にもっといいものがほしい。図書館の冷暖房を強化してほしい。(農3男)

- ・ 農学部建物の暗い。女子トイレの数が少ない。(農3女)

【回答】

トイレ等の修理は、連絡いただければその都度修理を行っていますので、担当係まで連絡願います。
暖房については、11月より4月まで通気していますが、室内温度及び外気温度等によってある程度調整して通気しています。暖房通気時の騒音については、現在の暖房方法で解消することは不可能ですので、通気開始の時間を休み時間ににするなどの検討をいたします。

なお、現在、改修計画に基づいて改修が進行中ではありますが、終了後は空調設備による暖房及び冷房となる計画です。改修工事が完了した講義室から空調設備の利用が可能となります。

(意見)

- ・ トイレをきれいにしてほしい。(農2女)

【回答】

清掃を一定の間隔(毎日、週3回、週1回)で行っていますが、清掃時間帯が7:00~11:00頃となっているため、清掃後に汚れてしまうことや、清掃前であることなどから指摘されていることもあると思いますが、間隔と時間の関係をご理解ください。

S棟トイレの壁・天井等の汚れは改修工事が完了したら綺麗になります。

◆駐車場及び情報処理室等について

(意見)

- ・ 駐車場の充実をしてほしい。パソコンルームのパソコン及びプリンターが壊れていることが多い。(農4男)
- ・ 駐車場をもう少し増やしてほしい。フィールド調査系の研究をする人間にとって車は必須であり、駐車場など整備された環境があるとありがたいです。(農4男)

【回答】

学生には必要時に臨時通行証を発行していて、臨時駐車場の使用をお願いしております。

なお、現段階では駐車場を整備する計画はありません。

パソコン及びプリンターの故障については、担当者までお知らせ願います。その都度修理を致します。

◆実験室等の充実及び照明設備他について

(意見)

- ・ 実験設備や実験室を充実してほしい。農学部の建物内が薄暗いのももう少し明るくてもいい。(農3男)
- ・ 農学部が改修されるそうですが、前よりも狭くなると聞き大変不安です。現状を見ても十分な広さはないと思われますが、これをさらに狭くするといわれると学生の居場所が無くなってしまわないかと思います。(農4女)
- ・ 各研究室で差がものすごくある。共同施設をもっと知らせてほしい。(農4男)

【回答】

現在、改修計画に基づき改修工事を行っています。改修内容については、委員会において、機器等の共有化などの考えにより効率的な利用方法について協議を行い、公平な面積配分により各研究室等において内容等を検討した計画で改修工事が進行中です。

明るさについては、現在、改修計画に基づき改修工事が進行中ですので、改修後は基準にあった明るさとなります。

(意見)

- ・ 研究に必要な施設・設備を最新のものにするための予算をもっと増やしてもらいたい。やはり学部や研究室をまたいでの機器等の使用は当人だけではなく、相手の方への負担にもなるため、どうしても消極的にならざるをえない。(農3男)

【回答】

施設・設備を最新のものにするには多額の経費が必要となり、当研究院のみの予算では難しい状況ですので、今後、検討が必要です。

◆附帯設備及び廊下について

(意見)

- ・ 農学部の教室の設備が古い。S22教室の黒板のガタつきを何とかしてほしい(農2男)

【回答】

現状の黒板は、上げ下げ方式のためどうしてもある程度のクリヤランスが必要です。多少ガタ付はあります。現在、改修計画に基づき改修工事が進行中です。黒板等の付帯設備等については更新の予定です。

（意見）

- ・ 農学部は改築。廊下が人とすれ違うぎりぎりのスペースしかない。（農2男）

【回答】

廊下に物品等を置くことは原則禁止ですが、場所によっては物品等により狭くなって、通行に支障となっており、ところもありますので、気がつき次第、各研究室等に撤去の依頼をしている次第です。

（意見）

- ・ 電子ジャーナルでの文献入手において、古い年代のものも入手できるようになってほしい。あとは警備をもっと強化してほしい。農学部はカードキーがなく誰でも侵入できるので、パソコンなど物品の管理が不安である。（農4女）

【回答】

電子ジャーナルの契約と予算は、大学全体で行っているもので、契約以外の個々のタイトルについては、現在のところ文献複写によるサービスで対応しております。
中央玄関以外は、早めの施錠で対応し、ガードマンによる巡回を行い、防犯に対応しています。

（意見）

- ・ 今年はアブラムシの大量発生で気持ち悪かった。何とかできる部分があるなら何とかしてほしい。無理ならしょうがない。このような学生の意見を聞いてくれる機会をもっといただけてよかった。（農3男）

【回答】

各自、研究室等で対応していただくことになっております。

（意見）

- ・ とある研究施設の建設完成予定日が大幅に遅れたことに対して少し不満である。（農4男）

【回答】

対象研究施設が不明。

（意見）

- ・ 授業料免除など大切なことが書かれている掲示板があまり整理されていない。探すのに時間がかかるし、見落としがちである。前回は申請したが、今回は申請したかったが気づかないうちに配布期間が終わってしまっていた。なので、もう少し整理してもらいたい。（農学部掲示板）（農2女）

【回答】

掲示板については、限られたスペースの中で常日頃から整理しながら掲示しております。また、授業料免除に関しては、例年その期の授業終了前から授業開始時（約3ヶ月程度）に掲示しており、周知には十分な期間かと思えます。

3 経済問題（授業料、奨学金等）に関すること

（意見）

- ・ 授業料の割に研究における自己負担が大きく大変困っている。野外調査における補助制度を設けてほしい。移動手段では車が必須であり、交通費における出費に苦勞している。講座で共有の車が所有できる制度を設けてほしい。（農4女）

【回答】

公用車を配置することにより、管理・運営、費用、車庫等の問題があるので、レンタカーを借り上げて対応していただきたい。

4 車両（自動車・自転車・交通規制等）に関すること

（意見）

- ・ 現在は、通行許可証をとれば学生でも車で構内に入れるシステムですが、来年度からもこのシステムを継続してください。フ

フィールド調査を中心とする分野では、調査器具の準備・片付けの都合上、どうしても車で構内に入る必要があります。(農4男)

【回答】

今後も修学上必要な場合等は臨時通行証により対応します。

【 大学院 】

1 教育・授業に関すること

(意見)

- ・ 授業のアナウンスをもっとやってほしい。(農MC1女)
- ・ 授業があまりない。もっと受けたいが情報が入ってこない。(農MC1男)

【回答】

講義の開講時期や内容に関する情報は、講義担当者から農学院関係者全員にメールで送られています。注意してメールを見て下さい。

(意見)

- ・ 大学院講義に関して、他の学院の講義も単位として認可されるとうれしい。単位の認定の仕方を一本化してほしい。たった一回参加しただけで単位認定される科目があったり、何回もでてレポートを多数提出する科目があったりと差が激しい。またインターンシップを単位として組み込んでほしい。(農MC1女)

【回答】

従来から他の専攻、研究科若しくは学院の専攻の授業科目の履修は認められており、修士課程の単位とすることができます。(農学院便覧農学院規程第6条第2項参照)

(意見)

- ・ 集中講義ではなく、決まった曜日にしてほしい。(農MC1男)
- ・ 授業の時間割がかなりわかりにくいのでもっと明確に提示してほしい。(農MC1男)

【回答】

出来る限り決まった曜日に開講するように努めていますが、講義担当者の時間確保や講義室確保のため、現状では全ての講義を決まった曜日に定期的の開講することは難しいのが実情です。

(意見)

- ・ 大学院の授業を充実させてほしい。(農DC2女)
- ・ 大学院の授業に関して、担当教官は誰か、授業を何回受ければ単位が取れるのか、単位は取れたのかなどが不明。(農MC1女)

【回答】

大学院生用のシラバスを作成し、講義概要、担当教員などの情報を発信していますが、今後シラバスをより充実したものにしていきたいと思います。

(意見)

- ・ 大学院授業の履修状況を学部同様に確認できるようにしてほしい。(農MC2男)
- ・ 大学院生の単位取得に関する確認がしにくい。学部生のころのきちとしたシステムがあるのに、院生になったとたんとても適当になった印象をうける。受講したはずの授業の単位がいつになったら取得できているのかわかりにくくて、卒業するための必要単位がとれているのかの不安がつきまとう。(農MC2男)
- ・ 実験に多くの時間を割かなければならない大学院生のことも考えたスケジュールを組んで欲しい。取得単位数の把握が極めて困難であり、自分が卒業単位数を満たしているのか分からないので現在の取得単位数を確認できるシステムを作って欲しい。(農MC2男)

【回答】

学生証提示の上、窓口で確認する事ができます。(18年度入学者からはシステム化されておりますので、学部同様ACMで確認できます。)

(意見)

- ・ 画一的でない講義をしていただければそれでよい。講義選択の幅を教養だけでなく、学部に行ってから幅広くしておいてほし

い。(農MC2男)

【回答】

他学科・他学部の授業科目は10単位まで卒業に必要な単位として認められます。卒業単位には含まれませんが、それ以上に履修することは勿論差し支えありません。

（意見）

- ・履修届けの書き方がややこしくて、不親切。もっとわかりやすいものにすべき。(農MC2女)

【回答】

専攻別に履修届様式を定めており、履修希望科目に○を付す様式としておりますが、不明な点がありましたら質問いただければと思います。

（意見）

- ・大学1年の時に農学部に来ることがめったにないのに、提出課題の告知を農学部の掲示板に貼られ、それに気づかず提出できなかったで、期限を延ばして欲しいという無理だと言われ、成績は不可にされた。理不尽すぎる。1年生は教養で授業を受けているのだからその辺を考慮してもらいたい。(農MC2男)

【回答】

従来学部からの1年生への周知事項は、必ず全学へ掲示依頼をしております。当時の担当者の連絡ミスかと思いますが、このようなことがないように十分気をつけます。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

◆暖房・冷房設備について

（意見）

- ・夏、研究室が蒸し暑すぎることが少し気になります。(農MC2女)
- ・旧校舎の実験室に冷房を！(農MC1男)
- ・冷暖房設備を整えるべき。夏暑すぎるし、冬は寒すぎる。研究者だけでなく、実験にも影響があるので、きちんと考えて欲しい。(農MC2女)
- ・夏期、実験室が暑すぎて実験どころでない。(農MC1女)
- ・夏は常に部屋の温度35℃くらいになり、全く勉強も実験も集中出来ない。対策を即刻するべきだ。(農MC1女)
- ・農学部の旧棟に冷房設備を導入してもらいたい。(農MC2男)
- ・研究設備をもっと充実させて欲しい。研究部屋を増やして欲しい。(農MC2男)
- ・夏に冷房を入れてほしい。(農DC1男)
- ・夏季に冷房がほしい。また冬季の暖房も部屋ごとに調節できるようにしてほしい。古い校舎があるのは仕方ないが、できる限り良好な環境がほしい。(農MC2男)

【回答】

現在、改修計画に基づき冷暖房の空調設備導入工事が進行中です。改修後は、部屋毎に温度調節が可能となります。

（意見）

- ・農学部の暖房を休日も入れてほしい。玄関のドアをオートロックにするのはいいが、外から入れないという現状がある、学生証で入れるようにはできないだろうか？トイレが汚い。深夜に学生が残っているのに廊下の電気を消さないでほしい。(農MC1男)
- ・夜に研究を行うと、電気がほとんど消えていて怖いです。(農MC1女)

【回答】

休日に暖房を入れることは、現在のシステムでの部分暖房は不可能であり、経費の面から困難と思われます。その場合は局所暖房（ガスストーブ等）の使用をお願いします。

現在、改修計画に基づき冷暖房の空調設備導入工事が進行中です。改修後は、部屋毎に温度調節が可能となります。

現在の中央玄関での外部からの入庁は、インターフォンでの応答により入れます。

改修後の廊下の照明は、人感センサーにより点灯されます。

（意見）

- ・農学部棟の冬季暖房が強すぎて、勉強に支障をきたす。敷地南西側に出入り口が無いのは大変不便である。(農MC2男)

【回答】

現在、改修計画に基づき改修工事が進行中であります。暖房及び冷房については、改修後は、温度調節が可能となります。なお、改修前の建物は、ラジエーターバルブの調整及び窓などを開放して温度調整をお願いします。出入り口については、保全上、実験畑等を通るため支障がでると思われます。

◆WCについて

（意見）

- ・ トイレにウォシュレットを設置。（農MC 1 男）

【回答】

現在、改修計画に基づいて改修中であります。改修建物の洋式トイレには全て設置しています。

（意見）

- ・ 農学部の本棟と新棟の設備の差はしかたないが、トイレは新棟のように早く明るく暖かく温水便座にしてほしい。本棟は女子トイレと男子トイレが別の位置にあるのでわかりづらい。（農MC 1 女）

【回答】

現在、改修計画に基づいて改修中であります。トイレについても新棟と同じような内容で改修しています。また、北棟及び南棟の中央よりの場所に男子及び女子のトイレを3階まで増設する計画です。

◆スペース、機器の格差及び効率的利用について

（意見）

- ・ 研究室によって設備に格差があるのはおかしい。（農MC 1 男）
- ・ 同じ研究科での設備の格差は是正すべき。（農MC 1 男）

【回答】

実験等設備機器以外の電気・機械等の設備については、個々の研究室等の要望により設置しています。改修建物については、空調設備・換気設備等が全室に設置されていて、その他の設備は個々の研究室等の要望により設置しています。

（意見）

- ・ 実験室が非常に狭く、機材があまりないので思ったように研究を進めることができません。（農MC 2 女）
- ・ 研究室単位での研究設備のデータベース化施設設備を必要に応じて貸し借りしやすい環境を整えてほしい。（農DC 2 男）
- ・ とにかくスペースが足りない。農学部では改修工事が現在進められており、それに伴って研究室の引っ越しが予定されているが、研究に多大な影響が出る上に引っ越し先のスペースが現在より狭くなるのでは夢も希望もない。早急な拡張を希望したい。（農DC 2 男）
- ・ 人対スペースが不均衡である。（農DC 2 男）
- ・ 研究室・講座によって研究設備・スペースの充実度が違いすぎる。少しの違いであれば文句はないが、あからさまに違いすぎる。同じ授業料を納めているのだから不平等が生じるのはおかしい。そこは改善してもらわないと困る。（農MC 2 男）
- ・ 実験するスペースの拡大。（農DC 2 男）
- ・ 自分の所属する研究科の設備を充実させてほしい。（農MC 1 男）
- ・ 学部生の研究意欲向上のためにも研究設備や調査資金は十分に出すべきだと思います。授業料を払っているのに他の費用でも支払うことになるのだと大学のあり方としてよくないと思います。（農MC 2 男）
- ・ 効率的な実験ができるような、機器・施設があれば、より有意義な学生生活を送れると思います。実験に忙しすぎて、論文を読んだり、自分で勉強できる時間がありません。（農MC 2 男）
- ・ 広い研究室にもらいたい。（農MC 1 女）
- ・ 研究設備をもっと充実させて欲しい。研究部屋を増やして欲しい。（農MC 2 男）
- ・ 他の研究室や研究科でどのような装置、設備があるのか公開してほしい。他の研究室の設備をもっと使えるようにしてほしい。（農DC 2 女）

【回答】

現在、改修計画に基づき改修工事を行っています。改修内容については、委員会において、機器等の共有化などの考えにより効率的な利用方法をについて協議を行い、公平な面積配分により各研究室等において内容等を検討した計画で改修工事が進行中です。

(意見)

- ・ 新棟との格差が大きい。(農 DC 1 男)

[回答]

現在の建物は、老朽化・狭隘化等の現象が表れ、そのため、耐震化及び共有化等を考え効率的な利用方法を検討した上、改修計画がなされそれに基づいて改修中です。

◆休憩室・自習室・学生スペースの要望

(意見)

- ・ 自動販売機をもっと増やしてほしい。誰でも利用できる広い休憩室がほしい。(農 MC 2 男)
- ・ 学内に休息のとれる場所がほしい。(農 MC 2 男)

[回答]

現在自動販売機については、設置者である北大生協との関係があるため、協議を要します。は空きスペースがありませんが、現在、改修計画に基づいて改修しています。終了後には食堂を日中使用していない時間帯をラウンジ等として、開放する計画です。

(意見)

- ・ 駐車場が欲しい。仮眠施設の充実をはかって欲しい。生協の 24 時間営業。24 時間暖房。(農 MC 1 男)

[回答]

学生には必要時に臨時通行証を発行していて、臨時駐車場の使用をお願いしている。仮眠室とはいきませんが、改修後は食堂を食堂として機能していない時間帯をラウンジ等に開放する計画です。24 時間営業は、生協側の問題ですが、経営効率との兼ね合いがあると思います。24 時間暖房は、現在の管理運営上不可能です。局所暖房(ガスストーブ等)の使用をお願いしています。なお、現在建物を改修中ですが、空調設備の設置により可能となります。

(意見)

- ・ 仮眠室が必要です。冷暖房設備の改善(24 時間で土日も)。警備員が勝手に電気消す。警備員が良く寝ている。正面玄関の反対側のドアが閉まるのが早すぎるのと、土日も空けてほしい。警備員よりもカードリーダーの導入と、セコムを付けてください。トイレが少ない。トイレの便座が冷たくて痔になりそう。(ウォシュレットもお願いします) 洋式が足りません。喫煙所を増やしてください。(農 MC 2 男)

[回答]

現在は空きスペースがありませんが、現在、改修計画に基づいて改修しています。終了後には食堂を日中使用していない時間帯をラウンジ等として、開放する計画です。現在、改修計画に基づき改修工事が進行中であり、暖房及び冷房については、改修後は、温度調節が可能となります。なお、改修前の建物は、ラジエーターバルブの調整及び窓などを開放して温度調節が可能となります。現在、改修計画に基づいて改修中であり、改修建物の洋式トイレには全て設置しています。また、WC の増設は北棟及び南棟の中央よりの場所に男子及び女子のトイレを 3 階まで設置する計画です。

◆出入り口に関すること

(意見)

- ・ 農学部に関しては夜間のセキュリティを強化してほしい。現行の状況では誰でも入れるので。(農 MC 1 女)

[回答]

正面玄関、北棟各出入口には盗難防止用のカメラが設置されている。改修工事を行う建物の出入口には全てカメラが設置されますので、セキュリティが強化されます。

(意見)

- ・ 農学研究科の夜間出入りをもっと簡便にできるようにしてほしい。(総合実験棟の 6 時半以降の出入り)(農 MC 2 男)

[回答]

盗難対策等を考慮すると制限せざるを得ません。

(意見)

- ・ 夜でも出入りしやすいようにしてほしい。(農MC1男)

[回答]

正面玄関、北棟自動ドアは施錠後においても警備員に申し出れば入れます。

(意見)

- ・ 絶対的に部屋（スペース）が不足。時間外でも通常通りに建物に出入りできるように、全ての入り口をカードリーダー式にして欲しい。(農DC1男)
- ・ 農学部正面玄関を、理学部のように学生証をカードリーダーに通せば24時間出入りできるようにしてもらえると便利です。(農MC1女)
- ・ 深夜早朝に学内に出入りしたいのだが、出入り口が施錠されており、入れないことがある。カードリーダなどを設置して、自由に出入りができるようにして欲しい。(農DC3男)
- ・ 実験等の都合で夜間大学に行かなければならない事があるので出入り口をカードキー等によるドアロック方式にして、24時間出入り可能にして欲しい(農MC2男)
- ・ 施設は正面玄関のみでも学生証に作動し開錠する設備にして欲しい。夜間に学校に入ることができないのは不便である。(農MC1男)
- ・ 農学部正面玄関の夜間の扱いを何とかして欲しい。今時ドアノブの噛みを外して立ち入りを防ぐってそれはないだろうと思います。看板みたいのが挟まれて事実上夜間も出入り自由になっていますし守衛もいるのかいないのかわからん状況です。あちこち泥棒が入っているみたいですが(私の研究室も泥棒に入られました)、あのセキュリティでは当然でしょう。工学部では夜間は基本的に学生証をカードリーダーに通さないと入館できないと聞きました。農学部も学生証を利用したカードキーを設置しセキュリティを高めてください。正面玄関に設置するのが無理だったら、裏の新しい建物(農学部本館と2階の渡り廊下でつながっているやつ)にカードリーダーを設置し正面玄関は完全に施錠しても良いと思います。(農MC2男)

[回答]

全ての出入り口でのカードリーダー方式では、工事費及び維持管理費等の問題と保安上の問題もあることながら、現在の計画では中央玄関の1ヵ所となっています。

正面玄関、北棟自動ドアについては警備員室に申し出れば入れます。

(意見)

- ・ 学部の正面玄関以外の施錠時間を6時半から延ばしてほしい。(農MC1男)

[回答]

6時半以降に総合研究棟・共同実験棟に出入りされる場合は正面玄関が23時まで開いているので、正面玄関をご利用願います。北棟は、自動ドアが平日22時まで開いていますので、自動ドアをご利用願います。他の出入り口は盗難対策等を考慮すると制限せざるを得ません。

(意見)

- ・ 建物への土日の出入りをもっとしやすくしてほしい。(農MC1女)
- ・ 深夜や休日も研究しているので、裏口など小さい出入り口の利用時間帯の延長や土日の利用を検討してほしい。日常の出入りや非常時の避難のことを十分に考えてほしい。もう1点。農学部の廊下はものを置きすぎている。地震の際に非常に危険だと思う。仮に夜間に地震が起こると上記の2点の問題が重なって、避難に支障がでます。(農MC1男)
- ・ サブ入り口(正面以外)が閉まるのが早すぎる。(農MC1男)

[回答]

裏口の出入り口はセキュリティの問題があるので、現状どおりとしたい。北棟の自動ドアについては、土・日・祝日は8時から20時まで開いています。施錠されている出入り口は、非常時に外へ出られるシステムになっています。

◆その他

(意見)

- ・ 暗い。狭い。実験できない。研究にかなりの支障をきたす。生徒をいたくたくないのかな。(農MC1男)

【回答】

現在の建物は、老朽化・狭隘化等の現象が表れ、そのため、耐震化及び共有化等を考え効率的な利用方法を検討した上、改修計画がなされそれに基づいて改修中であります。

（意見）

- ・ 設備の改修などのために研究が中断してしまうのは避けていただきたい。（農 DC 2 男）

【回答】

支障が無いように土日に行うようにしておりますが、緊急時は、後日に被害が拡大しないようやむ負えず行う場合がありますので、ご理解願います。

（意見）

- ・ 農学部の内装工事をするのはいいのだが、わざわざ天井を低くするという感覚がわからない。規格があるのだと思うが、そこに各大学の独創性が入る余地はないのか？（農 DC 4 女）

【回答】

天井を低くすることは、梁の下に天井を作ることによって電気等配管等が低コスト化が可能であること（梁を貫通させることは、耐震上問題が生じる）、また梁等の仕上げが省けることなど、総体的に低コスト化を考えています。なお、保存が必要な会議室・大講堂等は現有のままで計画されています。

（意見）

- ・ シャワー室をもっと充実させて欲しい。農学研究科の建物は、いつまでもあのままに残してください。（農 MC 2 男）

【回答】

シャワー室は新棟に 1 カ所あるのみです。使用者の責任で清潔さを保ってください。

（意見）

- ・ 部屋を広くし、実験機を増やして欲しい。夜間、無駄に電気がついているので、省エネルギーに配慮した建物、設備を導入して欲しい。プラズマ TV に金をつぎ込むくらいなら、授業料を安くせよ。（農 MC 2 男）

【回答】

総体的に省エネルギーに対応した計画となっています。また、個々の省エネへの理解と協力が必要です。

（意見）

- ・ アスベスト除去を急いでほしい。図書館の夜間開館を希望（農 MC 2 女）

【回答】

平成 18 年 11 月から 12 月にかけて全てを撤去します。農学部図書室は 20 時まで開館しております。（附属図書館は 22 時まで）

（意見）

- ・ 夜に廊下の電気を消すのは危険だと思う。理学部は、電気を消すのを禁止している。（農 MC 1 女）

【回答】

改修後の廊下の照明は、人感センサーにより点灯されます。

（意見）

- ・ 共通機器枠を増やしてもらいたい。（農 MC 2 男）

【回答】

共通機器枠の意味が良くわかりませんが、大型設備は共同利用が出来るようになっています。学科単位または講座単位で使用する機器はそれなりの台数が整備されていると思います。

（意見）

- ・ 研究機器（高価なもの）は、講座単位ではなく数講座で分担購入できる仕組みがあると良い。それを管理するための技官がいるとなお良い。技官は、講座付の助手代わりの仕事をさせるのではなく、もっと全学的に必要なことに従事させるべきだと思う。うまく人員を配置できれば、結果的に公務員数削減にもつながると思う。（農 DC 2 男）

【回答】

複数講座で同一品を必要とし、共同利用が可能であれば、各講座でお金を出し合って購入することは可能です。

（意見）

- ・ 研究用にパソコンを与えてほしい。（農 MC 2 男）

【回答】

指導教員等と相談してください。

（意見）

- ・ 世界各国のテレビ（地上波）をリアルタイムで見られる施設をつくって欲しい。（農 MC 1 男）

【回答】

施設・設備を作るには非常にお金がかかるので、当分の間は難しいと思います。

（意見）

- ・ 設備の老朽化もあって改修工事をするようだが、引っ越しをする側への配慮が感じられない。明け渡す期日の連絡は早かったが、引っ越し先や手順など連絡が遅すぎる。（農 DC 1 男）

【回答】

今後の参考とさせていただきます。

（意見）

- ・ 分野、研究室間での差がありすぎるように思う。均等な予算配分をするべき。予算を十分に与えないくらいなら、統廃合するくらいじゃないと生殺しのようだ。うっかり日陰の分野に入ってしまった学生がいることを考えるべきだ。（農 MC 2 男）

【回答】

教員数、学生数等に応じて均等に予算配分しております。

（意見）

- ・ 農学部への引越しの時期が、就職活動時期に完全にかぶるので、希望の職種に就職できるかどうか分からない不安がすごくある。学生のことを考えて引越しの時期を決めてほしい。11月や10月が一番余裕がある。できるだけ早く具体的な日程を告知すべき。（農 MC 1 男）

【回答】

今後のスケジュールは、平成19年4月・10月及び平成20年4月・10月を予定しています。

3 経済問題（授業料、奨学金等）に関すること

（意見）

- ・ 私の所属する森林科学科はフィールド調査が多く、また北海道全域に調査地が散らばっており、森林の調査などは森ですので公共の交通機関もないので自家用車の移動が多いのが現状です。当然ガソリン代・滞在費も必要ですが、これらも研究の必要経費として見なして欲しいです。また根本的に調査に出かけるには大学の公用車のようなものを作ってそれで出かけるとなると車を買わずに済みます。車がないと研究ができないというのにもかかなり負担です。維持費もあるし数十万円のお金で車を買うのも大変です。黒塗りの公用車を買うよりライトバンみたいなのを5台くらい買って調査・研究用に使わせてくれたほうが研究成果は出ると思いますよ。（農 MC 2 男）

【回答】

公用車を配置することにより、管理・運営、費用、車庫等の問題があるので、レンタカーを借り上げて対応していただきたい。

（意見）

- ・ 奨学金を申し込む際、掲示板の内容では初めて受ける側にとってはややわかりづらく、事務に質問しに行きましたが、他に同じような質問を何人もしていたことが後でわかりました。お金のことなのでもう少し詳しい説明を掲示してほしいです。（農 MC 1 女）

【回答】

奨学金については、民間等も含め多数あります。掲示板は限られたスペースしかありませんので、すべてを掲示するのは不可能なため、一覧としてまとめ周知しているところです。応募を希望する学生さんはご面倒でも窓口で詳細について照会願います。

（意見）

- ・ 国際学会に行ったり留学したいので、その辺の経済的な援助を充実して欲しい。（農MC2男）
- ・ 学内や研究科単位で海外渡航助成金というものがあり、私もお受けしたことがあります。海外渡航目的だけではなく、研究費として受けられる助成金があるとよいかと思います。学生個人で、研究に関する機材や書籍を購入ができる機会があれば、研究意欲が増すと思います。（農DC3男）

【回答】

本学院では、札幌農学振興会奨学金等制度として「大学院学生の海外渡航に対する助成」があり、指導教員の同意を得た上で申請することができます。採択された場合、20名以内及び15万以内で助成します。また、この他にも、「大学院生の研究に対する助成」がありますが、成績優秀者として推薦された者に限ります。留学に対する援助としては、北海道大学の留学制度に沿って応募し、採択された場合、奨学金があたることもあります。詳細は「北大生のための留学ハンドブック」にありますので、必要な方は窓口でお受け取りください。

10 その他

（意見）

- ・ 研究者にはもっと社会性を持って欲しい。閉鎖空間にいるせいか、社会的常識に欠けていると感じることが学生の視点から見ても思う。特に対人関係で驚かされる行動や言動が多い。また教授・助教授が卒業をさせる権利を自分が持っているかのような発言は「アカハラ・パワハラ」だと感じて精神的な苦痛だ。「こんなじゃ卒業させられない」等の発言は、当人たちは学生に奮起してもらおうとして言っているのかもしれない。しかし、学生は非常に弱い立場であり「卒業させてもらえなくては困る」という考えを持ち、「先生の言うことには逆らわない」「言われたことだけをやる」「先生の機嫌は損ねない」という考え方になりやすいと思う。またこれは研究発展には大きな阻害要因だと思われる。セクハラ以外のハラスメントにも十分気を遣って欲しい。（農MC2男）

【回答】

いわゆる「アカハラ・パワハラ」の疑いのある事実については、できるだけ早く学生相談室等に相談すべきです。関係者から一定の事情を確認した上で、大学としての「調査委員会」を設置する等の対策が取られることになると思います。

獣医学部・獣医学研究科

【学部】

1 教育・授業に関すること

（意見）

- ・ 「させる、やらせる」といった高校、予備校の延長のような授業，教育をやめてほしい。もっと，学生に自主性をもたせた，大学らしく，さらには北大らしいやり方を考えてほしい。（獣4男）
- ・ 大学は教育機関でもあるため研究のみならず授業にも少し力を入れてもらいたい。（獣3男）

【回答】

学生諸君の要望に添い，自己主導型の学習ができるように複数の科目でPBL（problem-based learning）テュートリアルを導入し，その効果を検討しています。また，平成10年から学生による授業評価を行い，その結果を冊子にまとめて教員と学生全員に配布し，カリキュラムの改善，授業内容・方法の改善を図るように全教員に周知させてきました。評価も年々向上していますが，これからも改善に努力します。

2 施設・設備（図書館，課外活動施設を除く）に関すること

（意見）

- ・ 実験器具がたりて無い場合もある。（獣3男）

【回答】

実験器具に関しては，毎年，実験実習設備経費により充実させるように配慮してきましたが，器具や設備が不足することも多々あるかと思しますので，まず，担当教員に具体的な要望を出してください。

【大学院】

1 教育・授業に関すること

（意見）

- ・ 教育・研究レベルの向上。獣DC1男）
- ・ 研究に活かせると思って，基礎と名のついた統計学を集中講義で履修したが，こちらの度をあまり把握していないような，ひどく専門的な講義が行われ，終わってみれば単位は出たが，ほとんど何も理解していないことがあった。自分自身の程度の低さも原因のひとつであることは承知しているが，もともと数少ない大学院の授業なので，履修して何か少しでも得るところのある質の高い講義が行われることを望む。（獣DC4男）
- ・ 大学院の授業といっても，ほとんど聞くだけで大した成績評価もしない講義ばかり。この現状なら，成績を付けて単位を認定するようなシステムである必要がない。（獣DC2男）
- ・ 大学院の授業は本当に単位のためだけの授業に感じるので，もっと有意義な授業があるといい。（獣DC3女）

【回答】

大学院生にとって有意義な授業，自己主導型の授業，教育システムの改築，また，厳格な成績評価を行うべく，カリキュラム，授業内容・方法の改善に着手しました。

統計学については，本研究科では大学院1年目を対象にした研究方法論の中で講義していますが，そこでは，統計学の基礎と応用のほか，「受講生各自の抱えている問題の検討」を含む，大学院生にとって理解しやすく，役に立つものだと考えていますが，「何も残っていない」ということがないように，担当教員と十分に討論（検討）ください。（註）ご意見のあった授業は，この研究方法論のことですか？それとも全学の大学院共通授業のことですか？ 獣医学研究科の研究方法論で回答しました。

2 施設・設備（図書館，課外活動施設を除く）に関すること

（意見）

- ・ 獣医学部の動物病院をしっかりとらせてほしい。国内唯一の獣医学部なのに恥ずかしい。（獣DC1女）

[回答]

国内唯一の獣医学部ですが、残念ながら臨床系教員の数は、日本で一番少ないのが現状です。そのような限られた数の臨床系の教員だけで、全ての獣医療領域について最新の教育・研究を行うことには限界もありますが、臨床系教員の個人的な努力のほか、スタッフ不足を少しでも解消し、最新医療を提供・指導するため、非常勤獣医師や動物看護師を雇用するとともに、研修獣医師制度の活用、診療機器の充実など、改善に取り組んでいます。

本学部附属動物病院は、欧米や我国の私立大学の附属動物病院に比較すれば、その規模・設備・マンパワーにおいていずれも見劣りするのは事実ですが、我が国の旧国立大学の附属動物病院はいずれもほぼ同規模であり、相対的に見劣りすることはないと考えています。最近、附属病院独自で可能な設備やマンパワーについて、前述のとおり積極的に改善を進めていますので、その努力にも目を向けてください。

(意見)

- ・ 無駄な研究設備の購入はやめた方が良くと思う。もはや使わない器械を、「備品だから事務手続きが面倒」という理由で、いつまでも捨てずに置いてあるからただでさえ、少ないスペースが無駄になっていることに意外と気がついていない。(獣DC4男)

[回答]

研究設備は、必要理由があって購入しています。活用されていない器械ですが、器械は、耐用年数等を勘案し、他の部署での有効利用を図るようにしています。再利用部署が決定するまでは、当該部署（スペース）で保管していただいています。

(意見)

- ・ 動物病院と実験動物施設を分けてほしい。(獣DC3女)

[回答]

動物病院と実験動物施設とはご指摘の通り異なるもので、区別されております。ただし、動物病院内での治療上の必要性から、入院室とは別室で「病犬」のための「献血犬」が動物実験委員会の許可を受けて飼育されております。ご理解ください。

実験動物施設については、国際的に実験動物施設を評価・認証する機構（AAALAC）があり、承認・登録されますと動物愛護の精神から理想的な実験動物施設として国際的に認められたことになります。

現在、当研究科では、この登録申請に向けて動物舎の改修が行われており、充実した施設へ改善を図っています。

(意見)

- ・ ゴミの分別を徹底するべきだ。一般家庭のゴミをどれだけ減らそうが、大学で出る大量かつ無分別なゴミで全て台無しになっているような気がする。教員・学生個々の意識が低すぎる。環境悪化を防ぎたいなら、ゴミ担当員くらい設けて自然保護の精神を訴えるべきだ。学祭中に機能していたゴミ分別を普段から行うべきだと私は思う。こういった見返りなしの活動を理解してくれる人はあまりいないが、日本らしい美德であり、ひとつの教育でもあると思う。(獣DC4男)

[回答]

獣医学研究科では、発生する一般廃棄物の分別については、各フロアにゴミ分別収集ボックス等を設置するとともにゴミ集積場を確保し、学生・教職員にゴミ分別収集への周知・啓発を図り、環境保護に資する取り組みを行っています。

3 経済問題（授業料、奨学金等）に関すること

(意見)

- ・ 学振の奨励金を頂いているが、奨学金を辞退し、TA給与がもらえなくなり、そこから国民年金保険や住民税等を納めるようになるわけで、決して楽ではない。実家の家計を考えると、親に頼ることもできないので、授業料まで払うことになる、むしろ厳しい。無記名だから言わせていただくが、私の通う教室では慣例的に学振奨励金を受けている大学院生にTA給与は支払われないことになっている。だが、同じだけ働いているのだから、皆と同じように給与は頂きたい。(獣DC4男)

【回答】

学振の特別研究員に採択された場合は、規則により、奨学金等は辞退することになっています。学振の特別研究員制度は、優れた若手研究者に研究に専念できるよう毎月研究奨励金を支給する制度です。奨励金は、①特別研究員の生計の維持に必要な経費 ②研究の遂行に関連する経費（学会関係経費、各種研究集会等への参加費、学術調査に係る経費、自宅での研究に必要な経費、所属・関連機関への交通費）に充てる為に支給されております。この他にも特別研究員奨励費という科学研究費補助金も交付されておりますので、同制度の趣旨に則り、採択された研究に専念してください。

10 その他

（意見）

- ・ ごく一部の教員の生徒へのパワー・ハラスメントがあることは事実です。大学院に進んでも教授・助教授による圧力で鬱病などになって課程途中で退学する人もいます（事実、以前在籍した講座がそうでした）。社会性・モラルのない教員はゴマンといることでしょう。教員への指導なども少しは考えてほしいと思います。（獣DC1女）

【回答】

パワー・ハラスメントについては、教授会や教員集会にて注意を促すとともに、FD などにより教員の教育を検討中です。また、現在北大内に設置されている「セクシャル・ハラスメント防止等対策室」が、パワー・ハラスメントやアカデミック・ハラスメントも取扱う「ハラスメント防止等対策室」となり、各種の相談を受けますので、ご活用ください。

水産学部・水産科学院

【学部】

1 教育・授業に関すること

（意見）

- ・ 代返、カンニングが多い。実際にそういうやつが自分より成績いいといい気はしない。改善案を真剣に考えて欲しい。(水2男)

【回答】

不正に対しては断固たる態度で臨んでいますが、今後、より一層の取組みを心がけます。

（意見）

- ・ これからも総合大学としての特色を生かしていけるようなカリキュラム作りを目指して欲しいと考えます。特に、入学当初にはそういった利点の素晴らしさについて理解することは難しいと思いますが、ガイダンスなど行い、如何にこの大学の長所を活用していくべきか新入生に考えさせる場を設けるなどして欲しいと思います。同時に教授の方々の教養の講義に対する意識レベルのばらつきも強く感じられました。今後改善すべき点かと思います。(水4男)

【回答】

カリキュラムに関する事項については、各学科内はもとより水産学部教務委員会において検討の上で制定したものです。今後も検討を重ねながらより良い教育課程を目指します。

入学時のガイダンスの重要性はもちろんですが、全学教育科目の中に「北海道大学の人と学問」という特別講義が開講されています。これは総長をはじめ各学部長が担当するもので、北大に入学したばかりの学生に、本学および各部局の設立の経緯、発展の過程、現状、およびそれぞれの学問分野の概要を知ることによって、本学の学生としての自覚を持ち得るようにするものです。入学生には大学の意義を考える良い機会になるものと思います。

また、授業の内容、方法につきましては、毎年、教員向けの研修会（FD 研修会）を開催し、教員同士の意見交換を行い、改善に務めています。さらに、毎年行われる学生による授業アンケートの結果をフィードバックし、今後も改善を心がけます。

（意見）

- ・ 教員により授業に対する考え方が大きく違いすぎると思う。やる気のある教員の授業は非常に興味をそそられるが、嫌々やっているような教員の授業は聞いているだけでも苦痛である。ゼミ形式の授業を増やす・外部講師（英語の授業を予備校講師に任せるなど）による授業・ボランティア活動や海外旅行も単位に含めることなどを検討していただきたい。更に、「飛び級制度」についても考えてもらいたい。函館キャンパスでは語学の授業が一切開講されない。札幌キャンパスでは語学の授業が学年に関係なく十分に受講することが出来るにも関わらず、函館キャンパスでは一切不可能だ。図書館の設備も非常に悪く、語学の勉強が十分に出来ない状況に置かれている。先生方は「英語はしっかり勉強するように」とよく授業中に話をするが、勉強したくても十分な環境が備わっていない状況ではどうしようもない。函館近郊の大学と提携を組むことや札幌キャンパスの教員(言語文化部や国際広報メディア研究科など)を何名か派遣するなどの対応策があると思う。「函館キャンパス＝水産学部」という考え方を改めて、函館キャンパスも北大の一部、つまり総合キャンパスとしての機能が果たせるようにして頂きたい。やや無理のある要望かもしれないが、函館に来て水産関係の勉強しか出来ないのは退屈である。語学や教育問題・政治などにも関心があるので、可能ならば函館キャンパスでもこうした授業を開講して頂きたい。(水2男)
- ・ 学部移行後も語学の授業が受けられるようにしてほしい。(水3女)

【回答】

教員の授業に対する取組み姿勢や、授業の内容、方法については、毎年、教員向けの研修会（FD 研修会）を開催し、教員同士の意見交換を行い、改善に務めています。さらに、毎年行われる学生による授業アンケートの結果をフィードバックし、授業の改善を今後も心がけていきたいと思います。さらなる改善策等についてのご意見を今後もしどしお寄せ下さい。

語学教育や、教育問題・政治などに関する科目につきましては、現在函館キャンパス移行後には確かに履修機会は一部専門科目に限られます。希望者向けに語学の短期集中プログラムを実施していた時期もあるのですが、極端に履修者が少なく、加えて札幌から講師を派遣していたこともあり現在は休止中です。語学以外の科目の要望も踏まえ、近郊の大学との連携等を今後検討してみたいと思います。もう少し時間を要しますがご了解下さい。

（意見）

- ・ 教官の中に適正がない者がいると感じる（学生への暴力、理不尽な対応など）。しかるべき対応（相談室の設置や学生への調査など）を行うべきである。（水4男）

【回答】

教育、指導等につきましては、毎年、教員向けの研修会（FD 研修会）を開催し、教員同士の意見交換を行い、改善に務めています。よりいっそうの改善努力を心がけて行きたいと思います。また、さまざまなハラスメントにつきましては、相談を受け付ける相談室を設けております（厚生会館2階）。早めに相談してください。この他、函館キャンパスには、4名のハラスメント相談員がいますので、安心して相談してください。

（意見）

- ・ 先生によっては授業内容が自己満足で終わっている。お金と時間の無駄だったと感じることが良くある。（水3男）
- ・ 授業（特に必修科目）の進行速度が速すぎるため、内容を理解しきれないままどんどん進んでしまい、あまり効果がない。そのためもう少し授業内容と時間を考えて計画を立てて欲しい。（水2男）
- ・ 講義内容やパワーポイントの使いまわしをしないほしい。（水4男）
- ・ ゼミに入る時期が遅い。（水3男）
- ・ 先生達にもっと学生の授業におもきをおいてほしい。自分の研究が忙しく、学生の授業は放置されがちなのがする。（水3男）

【回答】

授業の内容、方法につきましては、毎年、教員向けの研修会（FD 研修会）を開催し、教員同士の意見交換を行い、改善に務めています。さらに、毎年行われる授業アンケートの結果をフィードバックし、今後も改善を心がけていきたいと思います。

（意見）

- ・ 最先端の研究のみを推し量るのではなく、総合大学として総合的な研究を続けてほしい。例えば、水産学部では海洋学を学べる分野が縮小され、生命科学の充実が進められているように感じる。学生が学びたい分野を限定しないでほしい。そして、スペシャリスト（観測、実験、処理などの技術面での）の育成にも力を入れてほしい。（水4女）

【回答】

平成18年度の学部改編により、一見、海洋学分野が縮小されているように感じられるかもしれませんが、各学科とも選択科目として、海洋学も生命科学も十分に履修できるようになっています。

（意見）

- ・ 一年から少しでも専門教科を勉強したい。（水1男）
- ・ 水産学部の生徒も、札幌である程度専門的な講義を受けられるようにしてほしい。概論ばかりではつまらない。（水2女）

【回答】

平成18年度の学部改編により、1年時から多くの専門科目を学部共通科目として履修できるように改善しました。

（意見）

- ・ 単位と関係なく授業を受けたい。（自己の知識を高めたり、様々な分野について純粋に学んでみたいため）（水4女）
- ・ 幅広い分野での開講を期待する。自分の知識を深めるために、専門分野以外のこともたくさん学べるようにしてほしい。（水1女）

【回答】

学部改編により、各学科とも幅広い選択科目を履修することが可能となりました。ただし、現在函館キャンパスで開講されていない科目については、札幌との距離的制約により履修は困難な状況です。函館キャンパスにおける専門分野以外の科目の拡充については、近郊の大学との連携等、今後の課題とさせていただきます。もう少し時間がかかりますがご了解下さい。

（意見）

- ・ 私は、水産学部の生産学科の3年生なのですが、実験がなく、午後には全く授業がないので、ひまずきて、他の学科と同じ授業料を払っているのに、とても損をしている気がします。なので、少しは実験をやらせてほしいです。（水3女）

【回答】

カリキュラムについては、各学科内はもとより水産学部教務委員会において検討の上で制定されています。今後

も検討を重ねながらより良い教育課程を目指します。平成 18 年度の学部改編にその検討が生かされています。

（意見）

- ・ 先生によって授業に対するシラバスの内容と違いが大きいののでそのへんいかなものかと思います。(水 2 男)
- ・ 授業だけの教員とは距離を感じる。しかし、本学よりも水産の方が教官との距離は近く、話しやすい。興味をひく授業があまりない。(水 3 女)
- ・ 教授の指導をするべき。監査など。(水 4 男)

【回答】

授業の内容、方法につきましては、毎年、教員向けの研修会（FD 研修会）を開催し、教員同士の意見交換を行い、改善に努めています。さらに、毎年行われる学生による授業アンケートの結果をフィードバックし、改善を心がけています。

（意見）

- ・ 結果的に授業終了が遅れても休み時間を長く取って欲しい。(水 2 女)
- ・ 休み時間を長くしてほしい。(水 2 男)

【回答】

平成 18 年度から授業時間割の時間帯を改正し、休み時間を 15 分間と長くしました。

（意見）

- ・ もうちょっと専門をする期間を長くしてもいいと思う。(水 3 男)
- ・ 自分は浪人して大学に入ってきたのだが、大学はもう少し自由な時間が持てる場所だと思ったので、正直あまりの忙しさにかなり嫌気がさしている。後期は少し楽になったが、自由時間や休暇がもっとあってもいいと思う。九大の歯学部に行った友人と会話をしてみると、北大と九大でかなり授業日数、休暇(1 学期につき何週あるか、また、1 週間に 90 分何コマあるかどうか)等でかなり差があることがわかった。無論私立大学と比べれば北大の忙しさはさらにはっきりしてくる。自分はもっと授業を減らすべきだと思う。(水 1 男)

【回答】

カリキュラムについては、各学科内はもとより水産学部教務委員会において検討の上で制定されています。今後も検討を重ねながらより良い教育課程を目指します。全学教育科目の授業数につきましては、平成 18 年度より履修登録の上限設定による単位の実質化を実現しましたので、実際の履修科目数は減少しています。

（意見）

- ・ 教師によって評価の厳しさが全然違う。教師が遅刻をするな。(水 2 男)
- ・ 授業の最後に来て出席届け出して帰るのを許して欲しくない。(水 2 男)

【回答】

授業の内容、方法につきましては、毎年、教員向けの研修会（FD 研修会）を開催し、教員同士の意見交換を行い、改善に努めています。さらに、毎年行われる学生による授業アンケートの結果をフィードバックし、改善を心がけています。今後も改善に努めて行きたいと考えますので、さらなる改善策等についてのご意見を今後もしお寄せ下さい。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関する事

（1）立地条件に関する事

（意見）

- ・ 立て直したほうが良いような施設はある。函館に水産学部のキャンパスがあるのが意味がないと思う。札幌で十分だと思う。(水 3 男)
- ・ 函館にキャンパスを移行する必要がまったくないと思います。この間車で札幌に帰った友達が事故にあいました。これの原因の一部は函館にキャンパスがあるからではないでしょうか。車で札幌に行く人はたくさんいると思います。これからこのような事故はたびたび起こることが危惧されると思うのですが…。石狩や小樽ではダメなのですか？？札幌キャンパスでも今やっている実験などは問題なくできると思うのですが。(水 2 男)
- ・ 函館キャンパスと札幌キャンパスの格差が大きいと思う。函館は学生寮が学校から遠く不便だ。(水 3 男)

- ・ 水産学部が函館にあることには、もちろんメリットもあるだろうが、本学の有用な設備を利用できない、他学部との連携がはかれないなどのデメリットも多いと思う。(水4男)

[回答]

現在、歴史的な経緯や社会的要請から水産学部が函館キャンパスにあり、将来的にも移転する計画はありません。函館は水産学を学び研究するには最適な立地条件であり、札幌にはなく函館でなければ出来ないものがたくさんあると思います。しかし、施設設備の老朽化は教育研究に支障を来していることは事実ですので、函館の立地条件を考慮した施設整備を検討していく予定です。

(2) 老朽化に関すること

(意見)

- ・ 申し分ないと言えば嘘になりますが、特に不満はありません。あえてあげるならやはり老朽化でしょうか、歴史的な重要性も十分にふまえた上で、学生が快適に学べる環境についてこれからも考慮願いたいと思います。(水4男)
- ・ 水産学部は札幌キャンパスに比べ、施設や設備などはかなり劣る。(水4女)
- ・ 建物により差が激しい。(水2女)
- ・ 函館校の施設が悪い。(水4男)
- ・ もっと新しく。水産ぼろい。(水3男)
- ・ 水産キャンパスの環境をよくすべき。函館の地理的な悪条件をカバーできるくらいの良い環境を作ってもらわないと、札幌との格差はなくなるしないし、学生の不満もなくなるしない。学問的には先端の研究を行っているのに、周囲の環境が良くないために不満があがったり、辺鄙なところにあるからという理由で偏見されているのが現状である。北大の一学部として学問のみならず周囲の環境でも、公立大、私大、札幌キャンパスに引けをとらないくらいまでに配慮してほしい。とにかく、この差別ともいえる現状を早急に改善していくべきだ。(水4女)
- ・ 夏になったら札幌キャンパスの北部図書館のすべての階で冷房を入れて欲しい。函館キャンパスの講義棟が古くて授業が受けにくい。(水2男)
- ・ 施設がきたない。実験棟をたてかえずにマリフロンティアかなんだか知らんがそんなものばかり建てていることは学生の教育におもきが置かれていない象徴だと思う。せめてトイレぐらい札幌と同じぐらいにしてください。(水3男)
- ・ 函館キャンパスの施設及び設備が非常に乏しい。図書館の開館時間やコンピュータの設置台数などを含め、札幌キャンパスに比べて非常に不利な状況である。図書館に関して言うならば、開館時間が平日は8時まで、土日・祝日は休館など、札幌キャンパスと比べて使用時間が極端に限られている。週末にレポートの内容を考察するために図書館に足を運びたいと考えているが、今の状況では不可能だ。学習環境を全学で一致することは、授業料を徴収している大学側の責任であり義務であると思う。函館キャンパスでこうした提案をしても、「予算の都合」や「来年度に検討する」など後手の回答が目立つ。他学部と同じように授業料を納めているのだから、こうした不公平さは即是正すべきものと強く感じる。この点に関しては、できる限り早い段階で大学側の主張を公表して頂きたい。また、札幌で出来る授業は、出来る限り札幌で行い、可能ならば「移行」という制度を無くしてもらいたいと思う。就職や勉強に関する情報／アルバイト事情／交通網など、札幌と函館には大きな格差がある。函館で授業をするメリットが私には理解できない。授業設備などに関しては、札幌キャンパスでも十分に対応が可能であると思う。部屋探しや引越しにかかる費用／アルバイトを見つけるまでの生活費など非常に苦労した。大学側からの積極的な補助を考えていただきたい。(水2男)
- ・ 水産学部の共用施設を改善して欲しかった。(水3男)

[回答]

老朽化の著しい施設が存在していますので、破損箇所の修繕には常時注意をしていますが、修繕費として使用できる費用にも限りがありますので必要最低限の修繕になっている箇所もあります。ただ、根本的な改善を図るには大規模改修を行わなければならない施設が多数ありますので、学内将来計画委員会にて検討し施設整備を行っていく予定です。

(3) 暖房設備に関すること

(意見)

- ・ 暖房が熱すぎる。熱すぎて集中できない。むやみにがんがん暖房かけるのはやめてほしい。(水2男)
- ・ 冬に一限での暖房が入らず寒い状態である。(水3男)
- ・ パソコンルームのプリンターが利用しにくい。たとえば紙が無い、故障しやすい、プリントアウトする方法が分かりにくい。水産学部の体育館の武道場の暖房の入る時間が七時頃からだと、朝練をする際に助かります。とても寒いので。冬場の武道場の暖房をもっと強力に入れて欲しいです。(水3女)

- ・ 去年の冬、函館キャンパスの建物がとても寒くて、授業中に防寒着を着ていても寒かったので、ふつうに寒いときは暖房をいれてほしい。あと、体育館も、活発ではないけど、部活をやっている、そのときもとても寒かったので、少しは暖房をいれてもらいたいです。(水3女)
- ・ 暖房をもっと頻繁につけてほしい。教室が基本的に寒すぎる。上着を必要とする授業環境はどうかと思う。(水3男)

【回答】

現在、函館キャンパスでは多くの施設で蒸気暖房を採用しております。蒸気暖房は温度管理が難しく、各室を個別に暖房を行うことも出来ないため寒いと感じる施設が在るのは事実と思います。今後の改修にて対応出来るよう整備計画を行っていく予定です。

(4) 屋外施設に関すること

(意見)

- ・ 駐輪場が少ない。また不必要な工事業が多いと感じる(函館キャンパス)。また学生サークル(公認団体)への対応が不親切。(水4男)

【回答】

駐輪場の増設には現状の放置自転車の整理を行った上で足りない面積を確認し、必要な数量を整備していきたいと考えています。

(5) 図書館に関すること

(意見)

- ・ 水産キャンパスの文化的な面での充実を図ってほしい。札幌キャンパスとの格差がありすぎる。例えば図書館の所蔵や就職支援など。北海道は寒いので暖房はしっかりしてほしい。(水4女)
- ・ 水産学部は本学に比べて図書館やパソコンの設備が悪い。(水3女)

【回答】

図書館の設備・所蔵資料・開館時間等の問題は別途、「図書館に関すること」の項目でまとめて回答していますので、そちらをご参照ください。

(6) その他

(意見)

- ・ 函館の施設をもっと増やしてほしい。(水2男)
- ・ 実験施設がごちゃごちゃしている。(水3女)
- ・ 水産学部の学生は札幌キャンパスの学生に比べ就職などといった情報の入ってくる質・量が極端に少ないと思う。クラーク会館などで行われる企業説明会を(以前札幌キャンパスのS2の授業で行った)衛星放送などを利用して函館でも見られるようにするなどして欲しい。(水3男)
- ・ 学部のことで申し訳ないですが、水産学部は、東京海洋大学に負けないような、深海探索の設備を作ってほしい。具体的には深海探索機を置いてほしい。(水1男)
- ・ 可能な限り新しい設備を導入してほしい。(水2女)

【回答】

施設・設備に関する内容として、直ちに回答することが難しい内容です。対応できるところから改善・導入し、時間が掛かるところは、よく整理をしながら関係部署とも協議をすすめます。

3 経済問題(授業料、奨学金等)に関すること

(意見)

- ・ 授業料免除は幅広く採用してもらいたい。経済力が心配で、大学院への進学を諦めなければならない状況に置かれている。また、北大独自の奨学金をもっと充実すべきと考える。成績優秀者に関しては授業料免除を積極的に行う・勉学の補助金を支給するなどして学習意欲を高める制度を確立していただきたい。水産学部は函館にあり、他学部と比較して施設・設備などが非常に乏しい。この点を改善することは勿論必要であるが、その改善までの期間は代替的に授業料を減額して頂きたい。この点は早急に検討し、回答を函館キャンパスで掲示してもらいたいと思う。(水2男)
- ・ 水産学部も「北大」であることを忘れないでもらいたい。函館キャンパスの施設/設備の充実はもちろんのこと、札幌キャンパスとの間を行き来できるような資金的援助も含めて検討してもらいたいと思う。現段階では、どうしても他学部との間に不公

平感があるように感じる。また、そうした対策は出来る限り早い段階で対応してもらいたい。対策の一例として特に、「函館キャンパス学生への資金援助」を積極的に講じてもらいたい。(水2男)

- ・ 学生が必要とするところに資金を使ってほしい。(水3男)

[回答]

まず、授業料・奨学金等に係る内容から回答します。授業料の減額という制度はありませんが、授業料の免除については、平成17年度から、半額免除者を増やすことにより、できるだけ多くの学生が対象となるように方針を転換しています。また、奨学金の制度を活用してください。奨学金は、日本学生支援機構によるものの他、出身都道府県・市町村や企業・財団によるもの等多くあります。募集があった場合は、掲示により周知しますので、掲示板をよく見て下さい。なお、ご指摘のありました、成績優秀者に対する奨励金が給付される制度も新たに整備していますので、引き続き勉学に励んでください。

その他、施設面に係る内容については、別箇所に記載していますが、皆さんの要望にお応えできるよう、対応できるところから改善していきます。

4 図書館に関すること

(意見)

- ・ 古い。水産の図書館がダメ。(水4女)
- ・ 函館の図書館についてもっと長く開けてほしい。蔵書が少ない。土日も開けてほしい。(水2男)
- ・ 水産学部の図書館を休日にも利用できるようにしてほしい。(水3男)
- ・ 水産学部の図書館利用を休日にもできるようにしてほしい。(水2男)
- ・ 函館の図書館を充実させてほしい。水産関係の図書は手に入るが、一般的な科学の本が手に入らない。(水3男)
- ・ 函館の図書館を休日にも使えるようにしてもらえると自習等に利用でき助かる。研究室に配属されれば必要なくなるかもしれないが、それまでの自習の場として開放してもらえると助かる。(水2男)
- ・ 函館の図書館を充実させてほしい(開館時間、ビデオ視聴室など)(水3男)
- ・ 図書館をもっと遅くまであけてほしい。コンピューターの数を増やしてほしい。札幌のようにビデオやDVDを見られる施設がほしい。(水2男)
- ・ 函館の水産学部について、図書館の休日開館など、休みの日でも利用できる自習スペースを希望します。(水2女)
- ・ 水産学部の図書館に不満がある。書籍の数、開館時間、座席の数。冬になったらちゃんと暖房を入れてほしい。(水3女)
- ・ 水産学部の図書館を祝日や休日にも開館して欲しい。また、開館時間も長くして欲しい。(水3女)
- ・ 函館キャンパスの図書館の蔵書をもっと増やして欲しい。(水2男)

[回答]

「図書館に関すること」に関する意見に対して、まとめて回答します。

1. 図書館所蔵資料について：ご指摘のとおり、部局図書館という性質および予算規模の面から、水産関連の書籍等を優先的に購入して、一般的な書籍が不足して分野が片寄っているのは事実です。今すぐに札幌キャンパスと同等にはできませんが、リクエスト制度などご活用いただき、一般書籍などの購入も遠慮無く投書いただけたらと思います。学部としては予算の制約がありますが、希望にはできるかぎり毎年度応えていきます。さらに、全学としての特別な経費配当の可能性など確認したいと思います。実現した場合には広く学部学生・教職員等の希望を募った上で資料購入を検討いたします。こちらは実現するまでに時間を要することをご理解下さい。

2. 開館時間等について：特に多く意見があがっている開館時間の延長および休日開館希望について回答します。休日の開館に関してですが、現状はご指摘のとおりです。学部全体の教育・研究予算の削減が続いている中で、「費用(人件費＋光熱費)」の永続的な増額は学部全体の承認が必要なため、かなり難しい状況です。そこで、現状での検討では開館時間延長と休日開館の要望を同時に実現するために、IDカードなどでの入館システムを導入した時間外の無人開館の方法を検討中です。ほぼ終日開館となるため暖房の問題を除けば利用者のみなさまには一番良い方法と考えています。初年度の初期投資さえ目処がたてば、年間の諸経費もかなり抑えることができるので、実現にはこちらの方法がベストと考えています。ただし、その初期投資に入退館システムと盗難防止システム導入となると数百万の経費を必要とします。学部での予算捻出が無理であれば上記と同様に全学としての特別な経費配当の配慮をいただかなければなりません。そのための要望提出等には図書館としても実現に向けて動きたいと思います。ただ、こちらにも実現までに時間がかかることをご理解下さい。

3. 設備について：座席数については、スペースの問題と利用度などから今すぐには増やせません。ただし、利用の便を考えると横並びの二人席を一人で利用することによる座席の無駄が多いように見受けられますので、個別の座

席として有効に活用できるような机などへの更新を検討します。

コンピュータの台数については、現状以上には増台しません。ネットワークのセキュリティ等の問題もあり、当館のような自由度の高いパソコンの設置は今後いたしません。パソコンの利用に関しては、情報処理演習室の積極的な利用などご協力をお願いいたします。

視聴覚の機器については、現状の設備での利用をお願いいたします。今後、ソフトの充実などにより利用状況が多くなった場合には増台等の検討をいたします。なお、現状のＡＶルームは個人の利用に適さない面もありますので、改善を検討いたします。

５ 教職員の対応（応対等）に関すること

（意見）

- ・ 教務の対応が悪い。（水３男）
- ・ 北大の事務(本学)は最悪。旧帝大系で北大がもっとも遅れているのは、事務の公務員体質のせいとか、閉鎖的でお役所的な部分があるからだと思う。学生に対する対応も悪すぎる。（水３男）

【回答】

学生の皆さんを不愉快にさせてしまったことについて、お詫びいたします。学生窓口では、可能な限り対応をさせていただきますので、どんどん利用してください。私どもも、皆さんに最新の情報を提供すべく勉強しておりますので、不安な点があれば、早期に相談してください。

６ 車両（自動車・自転車・交通規制等）に関すること

（意見）

- ・ 水産学部は交通の便が悪いので、４年以上じゃなくても遠方の生徒に駐車場許可書を出してほしい。（水３女）

【回答】

確かに、函館キャンパスは札幌キャンパスと異なり、ＪＲ函館駅からも相当な距離があり、そこからのバス等による連結もよくありません。ただし、駐車場スペースを、全教職員・学生等に割り当てることは明らかに不可能であり、将来もそうはなりません。教職員もバス等により通勤している者が多くおります。学生の皆さんには、基本的に車輛による構内乗り入れを遠慮いただいておりますが、研究室へ配属となり、最終バスの時刻までに研究が終了しないことが多くなる学部４年次生で、通学距離が２km以上ある学生に対しては、特例として、駐車場の指定を行った上、構内乗り入れを認めています。学部２，３年次生の皆さんは、この点をご理解ください。

７ 就職に関すること

（意見）

- ・ 函館での就職情報の提供の環境を充実させてほしい。実際にそのような人が函館にいるということを聞いたことがないのですが。（水３男）

【回答】

函館キャンパスでは、平成１７年度から、管理研究棟１階に「キャリア支援室」を設置し、この中に、ＰＣや書籍等を多く備えることにより、函館キャンパス所属の学生に対して、就職情報を提供しています。札幌キャンパスにあるキャリアセンターのスタッフともテレビ電話システムにより、面談が可能です。

また、人的な対応として、教員は就職支援連絡会議が、事務部は学生係が皆さんの就職相談の対応をさせていただきます。就職指導の専従スタッフはおりませんが、水産学部の特異な就職情報もありますので、こちらもご利用ください。就職支援連絡会議のメンバーは、掲示により紹介しています。

１０ その他

（意見）

- ・ 楽しくやっています。（水３男）

【回答】

学生のみなさんが、楽しくやっているということを聞きますと、心からうれしくなります。函館キャンパスのス

タッフ（教員も事務部も）は、みなさんが学内外で楽しい生活を送ることができるよう対応していきたいと常に考えています。

【 大学院 】

1 教育・授業に関すること

（意見）

- ・ 大学院の授業をなくして欲しい。（水 MC 2 男）
- ・ 大学院授業の意味があまり感じられない。基本的にやつつけな感じを受ける。（水 MC 1 男）
- ・ 授業が要らないです。先生がやる気ない。大学の授業と殆ど変わりがなかったり、研究室の実験テーマの紹介だけになっていると思います。学べることが少なく、その分研究にまわす時間が圧迫されている気がします。（水 MC 1 男）

【回答】

大学院の教育については、各専攻、大学院教務委員会等において、カリキュラムの検討を重ねた結果、必要な授業科目が制定されています。決して講義が不必要とは考えていません。ただ、その内容、教育法については、毎年、教員向けの研修会（FD 研修会）を開催し、教員同士の意見交換を行い、改善に務めております。この点については今後も改善に務めて行きたいと考えますので、さらなる改善策等についてのご意見を今後もしどしお寄せ下さい。

（意見）

- ・ 大学の教員は資格などがあるわけではないので、授業の下手な教員が多いように感じる。大学は研究する場所でもあり、教育の場でもあるので、研究者に授業の方法を教えるか、教養などであれば、授業専門の教員をおくべきだと思う。（水 DC 3 女）
- ・ やる気のある先生を残していってほしい。（水 MC 2 男）
- ・ 教員のやる気のあるなしで授業に差があると思う。単位のためにでているとは言え、もう少し内容を充実させて欲しい。（水 MC 1 女）
- ・ 授業の質の向上。大学という教育研究機関で教官をやるのであれば、先生方の教育姿勢が問われるのは当然です。内容も充分に検討されるべき。その点はおざなりな気がします。学生の成績評価の基準も個人に委ねられているようですが、ある程度は差が生じないようにしないと納得がいかない。私は一人の先生の講義によって、卒業等が延期された例をいくつも見た。かといって評価を甘くするのではなく、もう少し学生にフェアなものを考えていただきたい。（水 MC 1 男）

【回答】

授業の内容、方法につきましては、毎年、教員向けの研修会（FD 研修会）を開催し、教員同士の意見交換を行い、改善に務めています。さらに、毎年行われる学生授業アンケートの結果をフィードバックし、さらなる改善を心がけていきたいと思っています。

（意見）

- ・ 函館キャンパスでは専門分野外の講義を受けられないのが残念である。（水 MC 2 女）

【回答】

語学や、水産学以外の科目については、函館キャンパス移行後には確かに履修機会はありません。札幌キャンパスとの距離的制約により専門分野外の科目が開講できないのが現状です。要望を踏まえ、近郊の大学との連携等、今後検討してみたいと思います。もう少し時間をいただきますがご了承下さい。

（意見）

- ・ 水産学部における3年までの授業カリキュラムが、非効率的である。実験では2年と3年で同じ内容で変化がなかったり（水産海洋科学科）、専門科目でも、学生が知識を積み上げられるような適切な順序立てができていない。2年で応用、3年で基礎をやるような同じ分野の科目がある。また、来年度から学科編成が行われるが、時代の逆行、ネーミングセンスのなさを感じる。誰もが納得いく話し合いも行われないまま決定した上に、内容も悪ければ、これからの水産学部の未来に希望はない。これで高校生が水産学部を選択するだろうか。より優秀な学生を得られなければ、大学の意味が無い。（水 MC 1 女）

【回答】

カリキュラムについては、各学科、教務委員会等で検討を重ねた結果、教育に必要であるということで開講しています。ただ、開講時期等の問題は今後も改善を重ねて行きます。平成18年度の学部改編により、多くの問題は解決するだろうと考えています。ネーミングも大事ですが、もっとも重要なのは内容だと考えています。

(意見)

- ・ 授業で扱う内容があまり最新の情報とはいえない。もう少し最先端の情報、世界の流れ、国内の現状を、より具体的に授業で取り扱う必要が有るのではなかろうか。また、学部・研究院として何を指そうとしているのかが見えにくい。年に一度は学部長・研究科長が「在学中の学生・院生向けに」メッセージを発するべきではないだろうか。(水 DC 2 男)

[回答]

授業の内容、方法につきましては、毎年、教員向けの研修会 (FD 研修会) を開催し、教員同士の意見交換を行い、改善に努めています。さらに、毎年行われる学生授業アンケートの結果をフィードバックし、さらなる改善を心がけていきたいと思っています。在学生向けの学部長・研究院長からのメッセージについては、今後の検討課題とさせていただきます。

(意見)

- ・ 「水産学部に関して」・工学科目 (力学, 材料力学, 熱力学, 流体力学, 機械) の授業が少なく、教官も知識不足。・函館キャンパスでも語学の授業がもっととれるようにしてほしい。・無駄 (今時分, 必要なのか?) と思う授業が多い。(水 MC 1 男)

[回答]

平成 18 年度の学部改編によって専門のカリキュラムの問題はかなり解決できていると考えています。語学は希望者向けに語学の短期集中プログラムを実施していた時期もあるのですが、極端に履修者が少なく、加えて札幌から講師を招聘していたこともあり現在は休止中です。近郊の大学との連携等、今後検討してみたいと思います。

(意見)

- ・ 教職の単位に必要な授業を函館でも受けられるようにしてほしい。本学の学生は一度落としても在学中は問題なく受けられるが、水産学部生に対してだけ受けられなくするのがひどい。サテライトなどいろいろな方法があるのだから、同じ授業料を取るのであればそれなりの処置をするべきだ。事務の都合で一度受け付けられず悔しい思いをした。(水 MC 1 男)

[回答]

ご指摘のとおり教職科目については札幌キャンパスのみ開講の科目があり、水産学部、水産科学院の学生の皆さんには他学部の状況と比べて制限があるのは事実です。この状況を踏まえ、関係各所に働きかけ「日本国憲法」の複数機会の受講 (前期, 後期) を実現したところです。今後他の教職教科についても、近郊大学との連携等をさらに検討したいと思っています。ただし、教職については希望者のみの科目であることや、水産学部のみで実現できないことから必ずしもご希望に添えない場合もあろうかと思っています。また教員免許の取得については関係各方面の多大な協力 (例: 教育実習, 介護等体験) があって実現します。この点をご理解いただくと共に、「一度落としても」ではなく、履修機会がある時に出来る限り修得するよう、皆さんの健闘に期待したいと思います。

(意見)

- ・ 研究指導を指導してくれる助手や助教授の人数を増やすべきであると思う。現在理系学科の研究室では学生の人数に対する教員の人数が少ないため、十分な指導を受けることができない学生もいる。また、人数が少ないため、助教授、助手の方たちは研究室の雑務に追われている感がある。(水 DC 1 男)
- ・ 教官が研究をしていないと学生は育たない。学生を育てることができない。と思う。事務員を減らすことで、教官の時間がとられていることもあると感じる。(水 DC 3 男)
- ・ 研究室ごとにアシスタントがほしい。(水 MC 1 男)

[回答]

教員、事務員の人数を増やすことは、主に財政的な事情によって困難な状況です。そういう状況の中で教員や事務員一人一人が可能な限りいい教育研究ができるように努力しています。行き届かない点等は今後もどしどしご指摘をお願いします。

(意見)

- ・ もっと先生の研究内容を紹介するような授業や、学生が意見をまとめて発表するような授業を設けて欲しい。言われたことしかしない、自分で考えて行動出来ないような学生が増えてきている気がするので、もっと自主的に勉強できるような授業を希望します。(水 DC 1 女)

[回答]

少なくとも少人数の大学院特論等では、教員の研究内容紹介、学生の意見発表等が行われていると思いますが、今後ともより充実させるための努力を心がけて行きたいと考えます。

（意見）

- ・ 修士課程における授業がややいい加減に行われている感じがした。（水MC2男）
- ・ ちゃんと準備をして面白い授業をする先生と、そうではない先生がいるのは事実だと思う。（水MC1女）
- ・ 完璧です。（水MC2男）

【回答】

学部授業と同様に、大学院講義の充実をさらに深めるための努力を行いたいと思います。その一貫として、毎年、教員向けの研修会（FD研修会）を開催し、教員同士の意見交換を行い、改善に務めています。

（意見）

- ・ 外部との交流を増やしてほしい。（水MC1男）

【回答】

他大学や他研究機関の研究者を招聘して多くの講演会等を開催しています。広領域コースの院生には単位として認定しています。そういう意味での外部研究者との交流は決して少なくないと考えています。

（意見）

- ・ 教育について：4年生の卒業認定をもっと厳しくしてほしいです。最近の大学生は、完全週休2日制やゆとり教育のおかげで学生の質そのものが落ちてきているように思え、卒業研究(10単位?)に値する研究ができない学生が増えてきています(入試制度に問題がある?)。そこで、北大ブランドの維持および強化のため、社会に出しても恥ずかしくないきちんとした学生を卒業させましょう!現在(水産学部では)卒業研究発表を各研究室ごとにおこなっていますが、これを各学科(or各コース)ごとに卒業研究発表会をおこなうようにし、各学科(or各コース)の全ての教員が卒業研究に値する研究がおこなわれたのかを厳しく審議するようにしたらどうでしょうか?家庭の事情等で研究に集中できなかった場合は別として、やる気がなくて研究成果がでなかった4年生はどんどん留年させてもいいと思います。「内定が決まっている学生を留年させると、内定が決まっている会社から見た北大に対するイメージがよくない」という話を耳にしたことがありますが、それはただ単に会社の人事の人の見る目がなかっただけのことです。それよりも、「北大出身の学生はこんなことも知らないのか、こんなこともできないのか」と思われる方がよっぽど恥ずかしいことだと私は思います。アメリカの大学のように、入学試験は比較的簡単にし、その代わりに進級・卒業試験を厳しくすれば、学生の質は今よりかなり上がると思います。北大くらいのレベルの大学であれば、仮に卒業を難しくしても入学試験受験者が定員以下になるとは到底思えません。独法化して、これからの大学は何かしらの特色を出していかなければなりません。そこで、私は「卒業認定の厳格化」を提案します。授業について：博士後期課程では講義(特論)はなく、演習と特別研究しかありません。にもかかわらず、学部生や博士前期課程の学生と同じ授業料というのは腑に落ちません。（水DC2男）

【回答】

各学科とも卒業研究に値する水準をクリアーしているかどうかによって、単位認定を行っております。「卒業認定の厳密化」については、水産学部だけの問題ではなく、北大全体の、あるいは日本の教育システムに関係する大きな問題で、意見が分かれる点だと考えます。今後多くの議論を必要としますが、水産学部に関しては、水産学を修得したと認定された者が卒業に値するということが基本だと考えます。

（意見）

- ・ 教科書の内容を教える授業ではなく、参加形式のものがもっとあっても良いと思います。また、大学院では週に2回で短期の授業がありますが、負担が大きいです。やはり週1回が望ましいです。（水DC2女）

【回答】

大学院特論の場合は比較的少人数の受講生ですので、参加形式の授業形態は取りやすいと考えます。教員研修（FD研修）等で、こうした要望を多くの教員と共有したいと考えます。週2回の授業は、セメスター制度の導入によって短期集中型の授業形態に改編したためです。この利点として、集中的に履修することにより学習効果を高める、留学生・社会人の受け入れが、従来の4月入学のみでなく、10月入学も可能であることが挙げられます。また、フィールドワークが多い本研究院では、通年開講だと履修上大きな時間的制約を受けやすい側面があります。ご理解下さい。

（意見）

- ・ 水産科学院のシラバスの、単位の説明が非常にわかりにくいです。もうちょっとわかりやすくしてください。授業には大体満足しています。（水MC1女）

【回答】

シラバスの単位説明のどの点に不備があるのか再度ご意見下さい。検討させていただきます。入学時のガイダン

ス等においても単位修得についての説明を行っていますが、具体的な相談は教務係窓口までお寄せ下さい。

（意見）

- ・ 授業のほとんどはお話にならないほどレベルが低い。教官がものを論理的に考えることができないので、当然学生に考えさせるようなカリキュラムで講義をすることができていない。また、研究もできなければまともな指導をできない先生ほど、大学院生を確保したがる。ほとんどの教員がしている教育なるものは教育ではない。抜本的な改革が望まれるが、期待していない。（水 DC 2 男）
- ・ 研究室（担当教官）ごとに学位（単位）の取得難易度が異なる印象を受けるので、それを改善してほしい。（水 DC 2 男）
- ・ 基礎的な学問をもっと大切にすべきである。基礎がなければ専門性など意味を成さない。基礎なくして応用なし。考えさせる授業がまずない。（水 DC 1 男）
- ・ 授業内容の重複が目立ち、無駄を感じる。また、教官にやる気が見られないことがある。（水 MC 1 女）
- ・ 先生によって授業をやったり、しなかったりの差が大きすぎる気がする。（水 DC 3 男）
- ・ 教師に全くやる気が感じられないので改善してほしい。教師の偉そうな態度は改善した方がいい。学生と同じ目線で研究などに関しての会話をするようにするのが当たり前だと思う。海外に比べていろいろな面（特に研究）で遅れを取るのも最ものである。学生のモチベーションが低下するのも最ものである。（水 MC 1 男）
- ・ 指導教員が教育および研究意欲に乏しいと感じる。「自分で考えなさい」といった名目なのか、研究指導をほぼ放棄していると感じる。（水 MC 1 男）
- ・ 一貫性をもった目的を達成できるような授業の構成が絶対必要。単発授業は意味が無い。（水 DC 1 男）
- ・ 函館と札幌での授業の質に差がかんじられる。（水 MC 2 男）
- ・ あの授業で授業料は高すぎると思う。授業に見合った授業料にするか、もう少し他のところで見返りがあってもいいと思う。（水 MC 1 女）

【回答】

大学院の教育については、各専攻、大学院教務委員会等において、カリキュラムの検討を重ねた結果、必要な授業科目が制定されています。不必要な講義はないと考えています。ただ、その内容、教育法については、毎年、教員向けの研修会（FD 研修会）を開催し、教員同士の意見交換を行い、改善に務めております。この点については今後も改善に務めて行きたいと考えますので、さらなる改善策等についてのご意見を今後もお寄せ下さい。

（意見）

- ・ いくら独立法人化したとはいえ、基礎研究やなかなか金にならない研究を切り捨てる姿勢は許し難い。特に水産学部は派閥による再編がいやらしいくらい露骨である。学生の教育に熱心な教授が他学部へ飛ばされ、大学政治に執心な教授が優遇される呆れた現状だ。学生にすら嘲笑されている事実を当人たちは知っているのであろうか。学部の行く末が心配である。国内有数の教育・研究機関である意味を思い出すことを願う。（水 MC 2 女）

【回答】

学部・研究院で続けられている地道な基礎研究に関しては、膨大な貴重な知見の集積があり、近年各方面から注目され、共同研究の輪が広がってきています。研究院としては継続した研究が行われていく体制が出来上がっています。院生の方々の参加を期待しているところです。

学部・大学院の改革に際しては、構成員全員からの意見聴取が行われ、それぞれが考える水産科学研究院の将来像と役割が述べられています。これに基づき教員は適材適所に配属されています。構成員の得意分野は各個人により異なります。教員各自がその点を自覚し、皆さんの教育・研究に携わっています。

（意見）

- ・ 単位は欲しいが、調査で外にでることが多く、授業にでられない。（水 MC 1 男）

【回答】

短期集中型のセメスター制度を導入していますので、フィールドワークが少なくなる時期に履修できる科目も多く設定されています。また、原則的に毎年開講していますので、次年度に受講することもできます。詳細は、指導教員や教務係窓口で相談して下さい。

（意見）

- ・ 自主性を重んじたカリキュラムであると思います。もっと必修授業数を増やしてもよいと思う。ただ、語学など函館へ移行後に受けられる科目が無いことが残念である。（水 MC 2 女）

【回答】

必修科目を多くしなくても、毎年多くの科目が開講されていますので、多くの科目が履修可能です。ぜひ、受講してください。また語学については希望者向けに語学の短期集中プログラムを実施していた時期もあるのですが、極端に履修者が少なく、加えて札幌から講師を派遣していたこともあり現在は休止中です。ご要望を踏まえ、近郊の大学との連携等を今後検討してみたいと思います。加えて今後大学院科目の一部英語化も今後の課題です。

（意見）

- ・ 学部3年生（水産学部）のとき、授業がほとんどなくて暇でした。札幌だと他の学部の講義を聴きにいくことができますが、函館キャンパスではできません。もっと、バランス良く時間割を作っていただきたかったです。（環境DC2女）

【回答】

平成18年度の学部改編により、時間割のバランスはかなり改善されるものと思います。なお、現在、専門科目の単位の実質化を検討中です。これは、授業内容については、授業だけでなく、予習、復習を必要とするという本来の単位の考え方が基本にあります。空いた時間を暇ととらず、予習、復習の時間に充ててください。

（意見）

- ・ 興味を引く、あるいは今後の自分にとって有益な講義が少ない。また水産学部の教員の中には、学生に対する教育意識が低いものが多く、自己満足の研究ばかりで、産業に貢献しようという意識が低いものが多々見られ、学部の存在理由について再検討を要すると考える。今後水産学部は海洋学部に転換されるという噂を耳にするが、水産業を切り離し、海洋にのみ焦点を当てることは理学部の研究の範疇であると感じるし、全く無意味である。（環境MC1男）

【回答】

少なくとも近々に、水産学部が海洋学部に転換されることはありません。水産科学という複合科目は、基礎学を大事にしつつ、社会との接点を意識する実学でもありますので、無意味な講義はないはずと考えています。

（意見）

- ・ 教官が安全性について意識が低い。教官本人が実験をしないから、意識が低くなるのだと思う。（水DC3男）

【回答】

安全衛生講演会の実施等、意識の高揚に努めたいと考えています。教員が実験を行う機会は、学生・研究員の皆さんに比して少ないと思われそうですが、教員として、学生の実験を指導することは本務でありますし、教員自身の研究のために、実験は不可欠です。また、教員は実験計画のプログラムを考えることに比重が移っていますので、学生の皆さんから見ると、実験をしていないと感ずるかもしれませんが、全く実験をせずに、教育・研究活動は可能ではありません。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

（1）立地条件に関すること

（意見）

- ・ 札幌に移ってほしい。（水MC1男）
- ・ 場所が悪い。（水MC2男）
- ・ 水産学部を札幌に移転して欲しい。（水MC2男）

【回答】

学部の回答を参照願います。

（2）老朽化に関すること

（意見）

- ・ 老朽化している施設や設備は速やかに改善してほしい。（水MC2男）
- ・ 函館キャンパス（水産学部）と札幌キャンパスの設備に差がありすぎる。現在、函館キャンパスでは工事をおこなっているが、あまりきちんとした説明がなされずに施行されていることが気にかかる。どこをどう改善するのかもっと詳細に説明すべきだと思う。（水MC2女）
- ・ 老朽化が激しい。水道等最低限の設備が整っていない。（水MC1男）
- ・ 水産学部の新研究棟建設や太平洋池周辺の整備等にお金をかけるのもいいですが、その前に水産学部全体の水道管の工事をお

願います。毎朝研究室に來たらず、水道水を小1時間出しっぱなしにしないと水道水が錆で茶色くて実験には到底使えません。連休明けの日は、いつも以上に錆が多く、蒸留水を作るのも一苦労です。私の研究室では、蛇口の前にフィルターをかまし、できるだけ錆等が除かれた水道水を蒸留水製造装置にまわしています。どこの研究室でもこのようなことをしていると思いますが、一年でフィルター代等にかかるお金だけでも膨大になり、研究費の少ない研究室では厳しい現状だと思います。水道管工事にはかなりの時間とお金が必要だとは思いますが、近い将来いつかはやらなくてはならなくなることです。是非、近いうちに工事を着工してください。(水DC2男)

- ・ 施設の老朽化が気になる。(水道管の腐食等) (水MC2男)
- ・ 老朽化した電気関係を修復していただきたい。(水DC2女)
- ・ 古いものが多い。(水MC2男)

[回答]

老朽化の著しい施設や水道設備等は大規模な改修工事が必要となりますので施設整備が早急に進むことは困難ですが、学内将来計画委員会にて施設整備を検討していく予定です。また、施設整備に係わる工事内容の説明は、早い時期での公表方法等を検討したいと思います。

(3) 暖房設備に関すること

(意見)

- ・ 暖房装置の調整をしてほしい。(水MC2男)
- ・ 冬はちゃんとケチらずに暖房を入れて下さい。寒くて講義や実験に集中できません。事務室だけ暖かいのは不満です。(水MC1男)
- ・ 冬季期間の講義が、寒いときがあるので、暖房設備をもっと整えてほしい。(水MC2女)
- ・ 冬季、暖房が入るのが遅すぎる。臨機応変に暖房を入れてほしい。日程が決まっているというのはいい訳には全くならない。土日も暖房を入れてほしい。研究をしている学生のことを考えているとは全く思えない。これらのことを深く考えてほしい。(水MC1男)

[回答]

学部の回答を参照願います。

(4) 換気設備に関すること

(意見)

- ・ 講座の部屋が狭いので何とかして欲しい。またホルマリンを使用する部屋も小さい換気扇しかなく、健康を害する恐れもあると思われるので何とか対処して欲しい。(水DC1女)

[回答]

揮発性の高い溶剤を使用する作業はドラフトチャンバー内にて行ってください。

(5) 函館キャンパス施設の充実について

(意見)

- ・ もうすこし充実させて欲しい。(水MC1女)
- ・ 研究棟に使用していない部屋・設備が多いので、それを生かせるよう配慮すべきだ。新しい建物を作るより、今あるものを使えるようにするべきだと思う。体育館の使用人数が増えているので、もうひとつ作ってほしい。(水MC1女)
- ・ 研究施設を充実してほしい。(水MC1男)
- ・ 水産学部の施設を充実させてほしい。札幌キャンパスとの格差が大きすぎる。研究棟の増設キャンパス内の広場の整備をするのもよいが、その前に誰でもよく使う可能性のある図書館、食堂などを充実させてほしい。(水MC2女)
- ・ 無駄な建物を建てるのをやめて、もっと学生の要望にこたえるような設備をつくってほしい。(水MC2男)
- ・ 地域との連携という政治的なお題目の元に施設に投資している。税金の無駄である。(水DC2男)
- ・ 新しい物を作るだけでなく、既存の汚点を改善して欲しい。予算の使い方に偏りがあると感じられるので改善して欲しい。(水DC2男)
- ・ 函館は本屋が少ないので生協の本や図書室を充実させてほしい。あと誰もが公平に利用できる、意義のある増築をしていただきたい。利権だけで建設して学内の反対に遭い、結局おかしな方向で利用することとなったマリフロンティア棟の二の舞は後輩に申し訳ないので繰り返さないでほしい。(水MC2女)
- ・ 研究室間で施設・設備を含めた経済的格差を感じる。その研究室の方針・事情などもあるだろうが、例えば水産学部にあるマリフロンティアが一部の研究室しか使っていないなど。いくらいい施設をそろえても、使えない学生にとっては存在しないに

等しい。(水 MC 1 男)

- ・ 研究室の広さを広くして欲しい。フィールドワークをメインにしている研究室に対しては物置などの施設を増やして欲しい。(水 DC 1 男)
- ・ 水産学部のトイレについて。ドアを開けたら便座が開く機能がついていると聞きました。エネルギーとお金の無駄遣いだと思います。普通の物にしてください。大学内を走るバスについて。軟弱だと思います。環境汚染、エネルギーの無駄遣い、経費の無駄遣い、いいことはありません。廃止してください。(環境 MC 1 男)

【回答】

老朽化が著しい函館キャンパスの施設整備を行ううえで、改修・新営整備の完了した施設と未改修施設のグレードに格差が生まれていることは事実かと思われます。今後は、長期的に有意義な施設の整備充実を検討していきます。

(6) 北農寮について

(意見)

- ・ 今年10月から寮に女子ブロックができたが、男子ブロックとの設備の違いが大きすぎる。寮費が同じであるのなら、男子ブロックも同等に改装するべきである。ここまで格差が出来てしまうと、バカバカしくて寮費を払う気がうせる。(水 MC 1 男)

【回答】

大規模な改修工事となりますので早急な改善は難しいかと思いますが、生活環境の改善を寮生の方と一緒に検討していきたいと思います。

(7) 研究施設の面積について

(意見)

- ・ 研究室が非常に狭いです。例えば、大学院生および学部生が多い講座、少ない講座の差が大きすぎる気がします。先生一人に対しての割当を決めているために、起こっているような気がします。(水 DC 3 男)
- ・ 研究スペースがもう少し拡大できたらよいと思う。また、研究分野に関わらず、割り当てられる面積が一律というのが、理解できない。実験系は、スペースが必要。(水 DC 1 女)

【回答】

今後、施設整備を進めていくうえで実験室の再配置等を行い、施設面積を有効に使用できるよう検討したいと思います。

(8) 屋外施設に関すること

(意見)

- ・ 自転車置き場を新設してほしいです(少なくとも授業を受ける2・3年生が使えるだけの広さはあった方がよい。ロープを張ったり貼り紙をしても効果は期待できないと思います)。管理研究棟と北洋研との行き来が玄関からしかできないのは不便です(学生実験棟や図書館のように2階で繋がっていると便利)。(水 MC 2 女)

【回答】

自転車置き場につきましては学部の回答を参照願います。

渡り廊下の増設につきましては既存施設の構造強度の確認や建築基準法・消防法に照らし合わせたときの設備の追加の確認があるため、早急な改善は困難ですが、将来的な施設利用も考慮し検討していきたいと思います。

(9) 施設利用者への案内に関すること

(意見)

- ・ 女子寮に入寮しましたが、不便を感じるがありますが、大学側は対処してくれません。また、マリフロンティア棟は入るのに鍵が必要なので、鍵をもっていない学生が入る場合、携帯で電話をしている様子をよく見かけます。インターホンなどを設置したほうがよいと思いました。時には、外来のお客様がどうして良いのか分からず困っています。(水 DC 2 女)
- ・ どこにどんな機器があり、どのようなことに使用できるのかの説明がほしい。(水 MC 1 男)

【回答】

学外の関係者が初めて函館キャンパスを訪れた際にも戸惑わないような整備を検討していきたいと考えております。札幌キャンパスでは案内板等の設備が構内に計画的に配置されておりますが、それに比べて函館キャンパスは案内板等の施設整備が遅れていることは事実です。今後は、学内施設利用者だけではなく学外の関係者にも利用しやすい施設整備を考慮していきたいと思います。

(10) 施設室内環境に関すること

(意見)

- ・ 函館キャンパスで、アスベストが使われているのではないかと不安です。一昨年あたりに管理研究棟を改装した際、粉塵が飛散するのを防止するためのビニールシートが外れている箇所が所々ありました。それから、HINES にもっとがんばってもらいたいです。時々、インターネットが使えなくなるので、困っています。(環境 DC 2 女)

[回答]

函館キャンパスの管理研究棟にはアスベストが使用されている箇所がありますが、現在飛散の恐れのない状況にて管理しております。露出部分については今年度中に改修工事を行う事となっております。隠蔽部分については、今後も現在の状態を維持できるよう管理を続けてゆく予定です。

(11) 図書館に関すること

(意見)

- ・ 水産は函館にあるので、せめて図書館を札幌本館と同程度にしてほしい(利用時間など)。学内共有機器の扱いが大変ひどいので、共有の部屋には技官などを雇って管理してほしい。(水 DC 3 女)
- ・ 無駄が多い。学生は本を読みたいのだから図書館の設備をしっかりして欲しい。形で見えるものだけが施設と思ったら大間違い。知識が導かれていて、それが空気であるような環境を整えるべきである。(水 DC 1 男)
- ・ 水産学部の図書館を土日でも開館してほしい。同じ授業料を払っているのに、札幌と函館では設備の違いを感じる。(水 MC 1 女)

[回答]

図書館の設備・所蔵資料・開館時間等の問題は別途、学部生に係る「図書館に関すること」の項目でまとめて回答していますので、そちらをご参照ください。

(12) その他

(意見)

- ・ 水産ももう少しきれいに・・・民間のカフェを誘致したり。(水 MC 2 男)
- ・ 実験機器等やや旧式のものが多く現在の研究への遅れの原因となっているような気がする。(水 MC 2 男)
- ・ 実験機器や器具、実験する環境は恵まれていると感じている。(水 MC 1 女)
- ・ 調査に必要な道具があまりそろっておらず、毎回注文しなければならない。また、必要なときにモノが無く不便である。(水 MC 1 男)
- ・ とても、満足している。これ以上の充実は要らないです。(水 MC 1 男)
- ・ 調査等で学生が車で移動しなければならず、事故が起こったことなど、費用の面からも改善すべきだと思う。(水 MC 2 女)

[回答]

施設・設備に関する内容として、直ちに回答することが難しい内容です。ご不便をかけているところもありますが、対応できるところから早速対応させていただき、時間が掛かるところは、よく整理をしながら関係部署とも協議をすすめてまいります。

3 経済問題(授業料、奨学金等)に関すること

(意見)

- ・ 授業料に見合った内容にしてほしい。授業数が少ないのに院より学部のほうが授業料が高いのはやめてほしい。大学院生は研究を本分としているので、学部生よりも大学に対する貢献度は高いはずだ。(水 MC 1 女)
- ・ 研究費の拡大。(水 MC 2 男)
- ・ 自講座に研究費が欲しいです。同じ授業料でも、自講座と COE を受けている講座とは不公平を感じる。(水 MC 1 男)

[回答]

大学院の授業料が学部より高額なのは、大学院で行われる指導が学部生に対するそれより高度で専門的であることに依拠しています。実験系の場合、研究室での研究活動が即ち授業であると解釈されています。また、大学院学生が研究代表者として研究費を申請するプログラムもあります。募集の件数は多くありませんが、その都度掲示等により紹介を行っています。

4 図書館に関すること

(意見)

- ・ 現在、水産科学院に在籍しているが、学部図書館の蔵書数・種類が少なく、また、「水産」という専門に特化しすぎているように見える。学際的な研究・知識が求められている昨現状を鑑みれば、もうすこし、水産以外の専門書の充実を図るべきではないだろうか。(水 DC 2 男)
- ・ 函館キャンパスの図書館の開館時間を長く、土日も開館にしてほしい。蔵書数が少なすぎる。高校のほうがまだまし、しょぼすぎる。(水 MC 1 男)
- ・ 水産図書館の利用時間を長くして欲しい。(水 MC 2 女)
- ・ 札幌に比べ図書館の蔵書数・利用時間共に少なく、学生の勉学に対するやる気をそいでいるのが、大学自身だと思われる。たかが一学部のためにそこまでできないと思うならば、なぜたかが一学部だけを別の場所に置くことにしたのか。すべての学科に対するまともな理由が欲しい(水 MC 1 男)
- ・ 函館キャンパスの図書館。会館時間が札幌に比して短いのは困ります。1つしかないのだから少なくとも図書館本館と同条件にするべき。蔵書が少ないのはある程度は仕方がない。しかし函館市に大きな図書館がないことを考慮に入れるべきではある。(水 MC 1 男)
- ・ 水産学部の図書館は、論文を探すのには良いけれど、蔵書が少なすぎて利用価値がとても低く、とても図書館と言える状況に無いと思います。実際満足している学生は少ないと思います。蔵書数、分野数などを豊富にするよう改善してください。(水 MC 1 女)
- ・ 図書館の充実。(水 MC 1 男)
- ・ 水産の図書館をもっと充実したものにして欲しい。(水 MC 2 男)
- ・ 水産学部の図書館を土日にも開館してほしい。(環境 MC 1 男)

[回答]

学部生に係る「図書館に関すること」の項目でまとめて回答していますので、そちらをご参照ください。

5 教職員の対応（応対等）に関すること

(意見)

- ・ 事務の対応が非常に悪い。同じ内容を学生が聞いても答えてくれなかったり、他に回されたりするのに、教授が聞くとすぐに教えてくれたり、書類が通ったりするのはなぜなのか。(水 DC 3 女)
- ・ 函館キャンパスの事務の対応が悪い、サングラスをかけている（←ばかですか？）タメ口で対応、服装がなっていない（ノーネクタイ、靴下をはいていないなど）学生に悪態をつく職員。本当に試験して選んでいるのですか？(水 MC 1 男)
- ・ 事務の対応時間を検討してもらいたい。学生の使いたい時間に使えないケースもある。学生の「駆け込み寺」的な地位を占めるためにも、常に学生の立場で物を考えるようにしてほしいです。函館キャンパスにおける就職活動支援が不足している。就職活動のために札幌に行く負担をもう少し軽減できるように、キャリアセンターと学部を中心として取り組んでももらいたい。(水 MC 1 男)

[回答]

学生の皆さんを不愉快にさせてしまったことについて、お詫びいたします。函館キャンパスにおける学生窓口の対応時間帯は、平成18年度から2時間拡大し、8:30～18:15の間、連続して対応することとなりました。事務職員の勤務時間帯をずらすことにより対応しておりますので、学生の皆さんが話をしたい事務職員が不在の時間帯もありますが、可能な限り対応させていただきます。

キャリア支援関係は、「就職に関すること」の項で回答していますので、そちらをご覧ください。

6 車両（自動車・自転車・交通規制等）に関すること

(意見)

- ・ 帰宅が夜中になったとき夜道など歩くのが怖いです。研究で帰りが遅くなる女子学生には車で入構も検討してほしい。(水 DC 2 女)
- ・ 現在、函館キャンパス内は自由に(大学と無関係の車でも)車がで入りできる状態であるため、札幌キャンパスのように門のところに警備員を配置して通行証を持っている車しか入れないようにしてください！現に、通行証を持っていない学部生や院生が車で通学してきていたり、一般市民がサンクスのところの交差点をショートカットするために学内に入ってきたりしています。

幸運にも、まだ学内では人身事故は起きていませんが、事故が起きてしまってからでは遅いのです！人件費の問題がでてきますが、事故を未然に防ぐためにお金を惜しんではいけません！是非、校門に警備員の設置をお願いいたします。あと、水産学部が何のために学生に通行証を発行しているのかわかりません。稀に事務の方が通行証チェックをおこなって通行証のない車にチェーンをかけたりしていますが、事前にチェックする日を告知していたら無意味です。告知された日に通行証のない学生が車で来るはずがありません。やるのであれば、抜き打ちでやらないと効果はありません。と言うか、そもそも学生に通行証を渡す必要があるのでしょうか？また、現在の函館キャンパスには十分な駐輪スペースがなく、至る所に自転車が停められているのが現状です。駐車場を一つ潰してでも駐輪場の整備をお願いいたします。今年度函館キャンパスで発行している車の通行証の数に対して駐車スペースが充分であるのかわかりませんが、厚生会館隣の駐車場あたりを整備して駐輪場にしてはどうでしょうか？（水 DC 2 男）

[回答]

女子学生でも男子学生でも、研究活動の都合により帰宅が夜間となることが多い大学院生に対しては、通学距離が2km以上あり、4月に実施する交通安全講習会を受講した場合は、その願い出により駐車場の指定を行い、駐車許可証を発行の上、車輛による構内入構を認めています。また、通学距離が2kmに満たない学生の場合は、年度当初に、指導教員ごとに何枚かの臨時駐車許可証を交付していますので、帰宅が夜中になってしまう女子学生については、指導教員と相談の上、利用してください。

次に通行規制の問題ですが、まず通行ゲート設置や警備員の配置は、予算や設置スペースに制限があり、現段階で具体的になっていません。

それから、入構を認められていない車輛に対する注意は、当該車輛のタイヤをロックして、動けなくすることが目的ではありません。車輛による通学をご遠慮いただくことが最終目的なのです。大学院生に車輛による通学が認められるのは、特例であることをご理解ください。通行規制がないから、勝手に車輛で入構し、適当に駐車しておくのでは、社会一般からより高度な見識を求められる大学院生として、少々情けないではありませんか。皆さんでルールを守っていただくようお願いします。

自転車による駐輪スペースについては、屋根付き駐輪場による措置が間に合っておりませんが、ロープで囲った駐輪スペースに整列の上、駐輪してください。何処でもよいから自転車を駐めるのは、やはりルール違反です。

最後に、冬期間大学キャンパスに自転車・バイク（たまには乗用車）を駐めたままにする人がいます。絶対にやめてください。大学キャンパスは、みんなのものです。多くの教職員も勤務しておりますし、地域の方や企業の方も来訪されます。みんなでルール・常識を守り、よりよいキャンパスをつくっていきましょう。

7 就職に関すること

(意見)

- ・ 就職支援について、札幌では毎週のようにセミナー等行われるが、函館の学生は参加することが困難であり、差を感じた。（水 MC 2 女）

[回答]

学部生に係る「就職に関すること」の回答で述べましたように、函館キャンパスでも設備面や人的な面等により対応しておりますが、札幌キャンパスと全く同様の対応とはなっておりません。ただ、函館キャンパスでも、札幌キャンパスでの企画と同様のものを、全てではありませんが実施しておりますし、函館キャンパス独自の企画として、「水産科学院の学生を特に欲しい」という企業の採用担当の方にお越しいただく合同企業説明会を企画しております。例年多くの学生が参加しています。また、産業界で活躍されている水産学部卒業（大学院水産科学研究科修了）の先輩たちが多く来学され、適宜水産科学院・水産学部生を対象とした企業説明会を開催しております。「水産科学」の分野に特化した就職支援は、函館キャンパスの方が進んでいますので、どうぞご利用ください。

9 学生生活実態調査に関すること

(意見)

- ・ 実際この調査で聞かれたような踏み込んだことを聞かれるのは不愉快。学部学生20%、大学院生50%といいながらも私の講座の学生・院生ほぼ全員調査のお願いがきているみたいなので、どのようにこの調査の人选を行ったのか聞きたい。（水 MC 1 女）

[回答]

学生の皆さんの生活実態をできるだけ把握し、より効果的な学生支援に役立てることを目的に、このような調査を実施したのですが、皆さんが不愉快に感じられたことについて、この場でお詫びします。また、この調査をお

願う学生さんの人選を、作為的に行うことは決してありません。ご指摘のように、特定講座の多くの学生さんに依頼することになったのは偶然と思われます。

10 その他

(意見)

- ・ セクシュアルハラスメントについては様々な対策がなされているのは知っているが、実際に身近でセクハラに値することがあっても自分たちの今後の研究や無事卒業することを考えて我慢してしまうというのが現状だ。現在所属する講座でも教授のそのような行為に嫌悪感を抱く学生は多かったのだが、みんなで話し合い考えた結果、相談員の先生に相談するのは思いとどまった。自分の身近でこのような問題がおきて、様々な対策機関があっても口で言うほど簡単には利用できないものだと痛感した。このような事実があることを考慮に入れて今後の対策もしていただければありがたいと思う。(水MC2女)

[回答]

函館キャンパスには、4名のハラスメント相談員がいますので、安心して相談してください。さまざまハラスメントにつきましては、相談を受け付ける学生相談室を設けております(厚生会館2階)。早めに相談してください。

(意見)

- ・ 自分は育種関係の研究室にいますが、わざわざその学部合った理由をつけて研究しなければいけない点に不満があります。実際にやっている内容は、育種関係なので魚に限った話ではないし、同じ方法でヒトなどでも遺伝子に関係した病気を調べる際に使われている方法(物理的地図の作製)の基礎データを得る研究をしています。このように1つの学部の内容に合うようにやっていると就職のときの選択肢が狭まる結果となってしまうのでよくないように感じます。私事の提案ですが、育種なら育種学部というように1つにまとめてしまってもどうでしょうか。このように、よく考えるとその学部に限ったことではないものがいくつかあると思うのでまとめてしまってもどうですか。(水MC1男)

[回答]

教育、指導等につきましては、毎年、教員向けの研修会を開催し、教員同士の意見交換を行い、改善に務めています。ご指摘の内容は学部・学院をまたがる内容であり、学院横断型特論もありますがそれでも不満足でしょう。教育を受けるという受動的な立場でなく、自分の研究成果を学会活動をととして広くアピールし、各分野の研究者と交流していただければ、更なる展開が期待できると考えます。

(意見)

- ・ 北大は結構面白い研究をしているということを、もっと地域の人々に積極的にアピールしていくべきだと思う。公開講座や市民フォーラムをもっと積極的に開いてほしい。また地元企業と提携した研究などをもっと進めて、北海道らしい研究をたくさんできるようにしてゆきべきだと思う。(水DC1男)

[回答]

ご指摘ありがとうございます。現在水産学部・水産科学研究院は北大の中では活発な研究活動を展開している学部と評価されています。毎年、公開講座や市民フォーラムを行っていますし、産官学連携の事業も活発に行っています。公開講座や市民フォーラムに是非一度参加していただき、産官学連携関連の研究にも関心を持っていただければと考えます。

(意見)

- ・ 水産生のキャンパス移行は、他学部との交流などいろいろな面で不利益であり、また移行するのが2年生の途中という中途半端な時期は、住居の契約などで多々不具合が生じる。(水MC1女)

[回答]

ごもっともなご意見なのですが、水産学部のみ主張はとおりません。全学的な合意が必要であり、折に触れ理解を求めてゆきたいと考えています。

(意見)

- ・ 研究室の学生が教員に対して主張できる体制を整えて欲しい。教授の独断的な体制、やり方に対して精神的苦痛を少なからず受けながら大学生活を送っているのが現状です。セクハラ対策も当然だがアカハラ対策にも今以上に力を入れてほしい。(水MC1男)

【回答】

教員の多くは逆の悩みを抱えているようです。学生と教員相互のコミュニケーションをどうとるかみんなで考えてゆきたいと思います。特にここ数年、受身的な人が多くなってきています。待っていてもことは進展しませんので、フランクで前向きな話し合いの場を作るよう話し合っています。函館キャンパスには、4名のハラスメント相談員がいますので、セクハラ・アカハラに関しても相談してください。

（意見）

- ・ 若手研究者に対する優遇や枠の拡大。助手の雇用をもっと増やして、研究をしていない教員の解雇。理系に対する様々な優遇。
(水 DC 1 男)

【回答】

現在、学内には多くのポスドク研究者が活躍しておられます。若手・女性研究者支援プログラムも動いています。北海道大学大学院水産科学研究所・水産科学院の誰と指名がかかる研究者になってポジションを獲得していただきたいと考えます。

国 際 広 報 メ デ ィ ア 研 究 科

1 教育・授業に関すること

（意見）

- ・ 取らなければならない単位が多く、研究を進める時間をとりにくい。

【回答】

本研究科で定めている修士課程を修了するために修得しなければならない単位数は法令で定めている最低単位数ですが、今後ともより良いカリキュラムのあり方については検討を進めていきます。また、研究を進めるためにも有用な授業が多く展開されておりますので、活用してください。

2 施設設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

（意見）

- ・ 研究室と指導教員の在籍する建物が非常に遠く、不便であること。

【回答】

本研究科は言語文化部、情報基盤センター、留学生センター、観光学高等研究センターの教員の協力を得て運営されている関係上、教員が学内各所に分散しております。そのため指導教員が留学生センター、情報基盤センターの学生には不便を掛けていますがご理解ください。

5 教職員の対応（応対等）に関すること

（意見）

- ・ 事務で働いている方たちの態度が非常に悪く、提出書類などの詳細情報などが全くなく、いつも困っている。

【回答】

今後、このようなことがないよう一層の注意をします。なお、提出書類等について不明な場合は窓口にお申し出ください。

情報科学研究科

1 教育・授業に関すること

(意見)

- ・ 授業は指導教官のモチベーション次第だと思います。教官が意欲を持った授業、教官の興味をぶつけた授業は学生として受けていて有意義です。専門性が高まっていくにつれ、学習内容自体は自学自習で済ませる率も高くなるはずで、そういったモチベーションの部分こそを大切にしていけるようなカリキュラム遂行を望みます。(情 MC 2 男)
- ・ 大学は研究機関ではあるが、あくまで教育する場であり、学生のやる気を起こさせるような、環境作りや授業をしてもらいたい。もちろん、聞きたい、あるいは、受けたいと思う授業はあるが、先生によってはつまらない、生徒よりもやる気がないと思ってしまうようなものもある。そういったものに関しては、改善を求める。(情 MC 2 男)
- ・ 授業内容が広く浅く少々古い印象がある。基本を押さえる意味では十分だが、もう少し実践寄りの内容もあったほうが良いのではないかと。(情 MC 2 男)
- ・ 大学院のほとんどの講義が内容が薄く、受講する意義をほぼ感じない。(情 MC 1 男)
- ・ もっとためになることを教えてほしいと思う科目もある。(情 MC 2 男)
- ・ 将来的に社会で活躍できるような実力がつく講義をもっと多くして欲しい。(情 MC 2 男)
- ・ 一般的に話題になっていることや時事問題と関連付けて授業を展開すると、学生としては興味を持ちやすいし、面白いと思う。(情 MC 1 男)
- ・ 院の授業は無駄なので、廃止すべきだ。(情 MC 1 男)
- ・ 教員に授業の仕方を教える必要がある。(情 MC 1 男)
- ・ 大学院の授業は、テーマにもよるが時間的な負担にしかかかっていないと感じられてしまう。ただ単位をとるためだけに受講している授業がある。研究の時間に当てた方が有意義だと思う。(情 MC 1 男)
- ・ 教員は自分の得意分野のみを教えようとし、やるきが感じられない。学科、研究科を卒業したときに必要となる専門性は自分たちで学ぶしかない。講義が現在の技術の流れからかけ離れてきている。英語のカリキュラムは増やしたほうが良いのではないのですか。意味のない単位に時間を割くぐらいなら研究にまわしたほうがよっぽどよい成果がでるだろう。集中講義をもっと充実させるべきだ。履修届けを電子化しろ。(情 MC 2 男)
- ・ 現在の学生はやはりどこか大学をゴールだと思っていると思う。そういった学生をどうしても良く扱うか、少しでもそれらの中から今後の将来に対して具体性を持つようにさせるかは全て大学が決定できると思う。将来に対する具体性を持たない学生は、もちろん自分もだったと思うが、勉強に対する不信感がすごく大きい。この座学が一体将来の何のためになるのか、研究とどう関係するのか。そういったセミナーや大学院生による口頭発表などがあっても良いと思う。学生は受身に低いところに流されやすい。だから、組織によるそういったものがあってもよいかなと思う。そこまでやってもどうしてもない学生はどうしようもないが。(情 MC 1 男)

[回答]

授業に関する大変多くの要望が寄せられました。まず、このような要望が多いことを、われわれ教員は真摯に受け止めたと思います。皆さんの要望をまとめると、「有意義な授業はあるものの、概してモチベーションに欠け、学生にやる気を起こさせる講義になっていない」、「内容は希薄で、広く浅く時代遅れで、受講する意義を感じられない」、「将来、社会で活躍できる実力のつく実践的内容を望むが、実情は現在の技術動向からかけ離れている」、「将来どのように役立つのか、研究とどう関係するのか、さらには時事問題とも関連づけるなどして、授業の工夫・改善を図るべきだ」、「そうでなければ研究に没頭する方がよっぽどましだ」、「また、英語教育の充実、学生の能動的学習を促すセミナーや発表会などにも組織として取り組むべきである」ということなろうかと思います。今回の調査における皆さんの要望は、本研究科の教員全員に配信し、要望を認識してもらおうとともに多くの意見も求めました。それらを総合し、以下のよう

に回答いたします。

研究科の各専攻は、学術研究の推移や社会・産業界の要請を踏まえ、明確な設置理念の下に設けられています。また、専攻の講義は、2つの専門領域（主専攻および副専攻）に関する知識を体系的に学ぶことで、広い視野と柔軟な発想力を持った研究者・技術者を育てることを目的としています。研究はややもすると視野が狭くなり、壁に突き当たると解決策を見出せないまま途方にくれることがよくあります。学生のころは全く関係がないと思っていたことでも、10年後や20年後に、なぜもっと勉強しなかったのだろうと反省することが多々あります。ただ「無駄だ」と感じて講義を受けている場合は、本当に無駄になってしまいます。将来、必ず肥しになることを肝に銘じて、有意義に活用してくれることを、第一に希望します。

「基礎」と「応用」、「理論」と「実践」のバランスはとても大切です。各専攻のカリキュラムもそれを十分考慮して組まれているはずですが、ところが、「応用」や「実践」は個別の事例であるため普遍性が低いのが常です。「基礎」と「理論」の授業が不十分なままに、事例としての「応用」、「実践」を行うと職業訓練的なものになってしまいます。そのため、限られた時間で、より普遍的な「基礎」や「理論」を重視する講義が多くなるのも、皆さんが不満に思う要因かもしれません。すべての科目を「ためになる」、「実力がつく」、「時流に乗った」などの実践的内容にするとどうなるでしょう？ 皮相的な断片的知識の集積に終わり、時代の流れとともに、やがてはその多くが朽ち果ててしまいます。ふるいに掛けられた真の知識が蓄積され、学理として継承されます。多くの授業は、そのような内容を精選して実施されているはずです。

授業は学生さんと教員の双方向の情報交換の場です。皆さんの要望に応じて、不満に思える授業も大きく改善されるはずです。今後、こうした声を真摯に受け止め、授業内容の改善に努めていきますので、学生の皆さんも授業内容について具体的に改善を求めてください。受身の姿勢ではなく、積極的に質問、疑問、要望を投げかけてください。

一般に大学教員は、教師としての訓練を受けたことがないため、授業がわかりづらい、モチベーションが感じられないなど、以前から様々な意見や指摘を受けています。現在、ファカルティ・デベロップメント（教員に対して授業の進め方などの改善を考えさせるためのプログラム）などを通して改善のための方策が行われております。大学院の講義では、専門性が高く、一律に講義の仕方を各教員に指導することが難しい面もありますが、できるだけわかりやすい授業を提供するための努力はこれからも続けていきます。

なお、要望にある英語教育については、CEED（工学系教育研究センター）の提供科目（実践科学技術英語）や大学院共通授業科目（高度実践英語）などがあります。新カリキュラムでは、4年目に科学技術英語を取り入れました。これらを積極的に活用してください。履修届けの電子化については他の要望に対する回答を見てください。蛇足ですが、「…しろ」はありませんね。貴君の品格を疑います。

最後に、ある教員から寄せられた授業についての意見を掲載しておきましょう。「ためになる？」これは誰にもわからない質問です。また、「何がためになるか」は貴方に依ります。個人的な経験ですが、これまで過ごしたどんな時間も「決して無駄ではなかった」と今の私は断言できます。何もせずに寝続け遊び呆けた時期さえも。養分は気づかないうちに自分に吸収されます。学問については尚更です。限られた時間を一つのことに費やすと、別のことをする時間を失う、ということに気づくべきです。基礎学問は幅広く確固とした土台を作り、自分の足場を固めます。専門知識は鋭いナイフのようなもので、しっかりした足場の上でのみ効果的に使え、また、磨くことができます。実学は、様々なナイフであり、用途別には効果がありますが、用途によっては自分で専用の道具を作らなくてはなりません。そのためには、足場やナイフの磨き方が重要です。あせる気持ちはわかりますが、使い方の良くわからないナイフ、磨き方の判らないナイフはすぐに使えなくなるでしょう。10年後、20年後の未来への自分への投資をすべき時期が今ではないでしょうか？

（意見）

- ・ 実社会教育の充実。民間企業に就職する場合、研究・開発において費用対効果を考えなければいけないと思われる。しかし、大学教育では、費用対効果を考えるコスト意識が身につく教育がなされていない。また、知的財産権など特許に関する講義があると良いと思う。以上のような知識・経験を社会にでる前に身につけておけば、就職に大きなアドバンテージがあるのではないと思う。（情 MC 2 男）

【回答】

大学院教育のあり方については先の回答を参照してください。その上で、以下を補足しておきます。基礎研究では費用対効果が非常に長期にわたり、目に見えないこともあります。一方、応用研究や企業との共同研究では短期間で行なう必要性もあり、費用対効果が常に意識されていることも事実です。基礎研究は企業の研究として長期的に行うことが近年難しく、大学の役割として重要視されている部分です。なお、17年度からは、情報科学研究科のプロジェクトマネジメント関連科目やCEED（工学系教育研究センター）提供の創造的人材育成特別講義のように、費用対効果を意識した講義群も用意されていますので、それらを受講することも可能です。知的財産権など特許に関する講義、講演などは、知的財産本部、工学研究科連携推進部などが主催し、実際に行われています。ポスター掲示や電子掲示板の情報を頼りにどんどん参加してください。

（意見）

- ・ 独立法法人化に伴い、あまりにも企業との提携を押し進めるあまりに、研究のあるべき姿が蔑ろになっている気がする。数学的な背景をしっかりとサポートする教育を行って欲しい。このまま、成果主義を貫けば中身の無い研究が増えていくであろう。（情 MC 1 男）

【回答】

「数学的背景をしっかりサポートする教育を」というのはよい意見だと思います。必ずしも「企業との提携＝中身の研究」というわけではありません。大学の研究の本質は基礎研究、応用研究をバランスよく研究することです。年々、国からの運営交付金（これは税金です）は、削減され、大学の教育研究活動を維持していくには、科学研究費補助金のような競争的外部資金や会社との共同研究の獲得に努めなければなりません。特に、共同研究の多くは応用的研究に関するものが多いため、短期間内の研究成果を求められるのが実情です。だからといって、基礎研究を疎かにしてよいと考えているわけではありません。今後とも基礎研究、応用研究をバランスよく研究し、皆さんと一緒に着実に前進させていく努力をしていきたいと思っています。

（意見）

- ・ より海外を意識した教育や授業をして欲しいと思います。オランダではマスターに入ると授業は基本的にすべて英語。それに設備ももっと整っています。また授業もディベートやプレゼンを多く取り入れています。もちろん学生へも教員へも負荷は大きいですが、これからは必要なのではないかと思います。またもっと海外に目を向けさせることも大事ではないかと思います。みんな気付けていないだけで、気がつけばもっと海外を身近に感じることができると思うのです。（情 MC 2 男）

【回答】

国際性の涵養は本学として目指している目標の一つです。日本の学生が国際会議でたじたじとなっているのは確かに哀れな光景です。今後、様々な機会を捉えて、言語の壁を越えて皆さんの成果を世界に発信できるよう、我々としても最大限の努力を惜しみません。工学系教育研究センター（GEED）では、大学院科目として実践科学技術英語（英語による口頭発表）が開講されていますし、学部では、17 年度からの新カリキュラムに科学技術英語を取り入れています。しかし、貴君が指摘されているような外国並みの英語教育の強化を図るには、初等・中等教育とも足並みをそろえる必要があります。オランダでは、英語教育が充実しており国策でもありますので、日本とは比べようもありません。ただ、アジア圏でも、日本は立ち遅れており、文科省も大学院教育改革の大きな柱のひとつとして国際化を施策として掲げました。いずれにせよ、語学力の根幹には、母国語において、しっかりした論理構成に従って豊かな表現ができることが前提になります。内容がなければどんな言語でも伝えることができません。たとえ環境が充実しても、自ら学ぶ個人の努力が鍵となることはいまでもありません。

なお、海外インターンシップや海外留学等についても派遣制度がありますので、大いに活用してください。

（意見）

- ・ どうでもいい授業に授業料を払うのは許せない。（情 MC 1 男）

【回答】

大学院の授業に関しては先の回答を参照してください。繰り返しになりますが、学生のころは全く関係がないと思っていたことでも、10 年後や 20 年後に、なぜもっと勉強しなかったのだろうと思うことは多々あります。「どうでもいい授業」は存在しないのだということを肝に銘じてください。なお、授業料は、施設・設備に関する回答で詳しく述べてありますが、単に授業のみに対して納めるものではなく、研究指導や研究環境の整備にも使用されていることを理解してください。また、授業料の何倍もの税金が皆さんにつき込まれていることも理解しておいてください。

（意見）

- ・ 金返せ（情 MC 1 男）

【回答】

講義、研究指導、研究環境など具体的な事例を挙げて要望してくれば、より建設的な議論を行うことができます。一方的に「金返せ」（大学に学ぶ者としての品格を疑われます）では、回答のしようもありません。

（意見）

- ・ 情報科学研究科の授業において、専攻間の壁をなくして欲しい。（情 MC 1 男）
- ・ 履修科目数の制限をなくしてほしい。（情 MC 1 男）
- ・ 大学院の授業をもっと幅広い分野でも履修でき、単位として認められるようにしてほしい。（情 MC 1 女）

【回答】

履修科目数の制限は特にありません。ただし、あまりに多くの科目を「つまみぐい」で履修しては、体系的学修ができないため、修了要件に含めることのできる科目は、2つの専門領域（主専修および副専修）に関する知識を最低限修得するよう、履修制約を設けています。余力があれば、他専攻、他研究科、全学大学院共通授業の科目を自由に履修で

き、主専修、副専修以外の科目として単位認定されます。是非、興味のある授業を受講してください。

（意見）

- ・ 講義ごとに程度は異なるが、平均して単位取得が簡単すぎる。学生の留年を恐れずに、もっと単位認定を厳しくする必要があると思う。(情DC2男)

【回答】

各講義の単位は、担当教員により受講生が講義の到達目標を達成したと判断した際に認定されています。単位取得が簡単すぎるようであれば、学生のレベルと講義内容の均衡が取れていない可能性があり、検討する必要があります。ただ、大学院の講義は学部における講義とは異なり、いわゆる知識重視型ではありません。専門領域に関する高度な原理や応用・実践を体系的に学ぶことで、自分の頭で考え遂行する能力を養うことを重視しています。その意味で、単位認定の基準が必ずしも学部の場合とは同じではないことも理解してください。

（意見）

- ・ 現在いる教員が専門とする分野に限った授業を開講するのではなく、学生の希望する分野を専門とする教員を雇い、授業を開講して欲しい。研究室の分野についても同様。(情MC2男)

【回答】

各専攻は、学術研究の推移や社会・産業界の要請を踏まえ、明確な設置理念の下に設けられています。研究室、教員、講義も然りです。学生さんの要望も社会的要請のひとつですが、個々の学生さんの好みで研究室等を設置したら、いったいどうなるのでしょうか？ 教育組織として使命を果たせなくなりそうです。現状でも貴君の要望はいくらでも満たせます。それは、大学院進学時に自分の興味のある分野・テーマを研究している研究室を自ら見出すことです。他の研究室でも、他の大学でも可能です。もし、「簡単に大学院に進学でき、簡単に興味ある研究をすべて個人指導してくれる先生が自分についてくれること」を希望しているのであれば、どの環境でも実現するのは難しいように感じます。

（意見）

- ・ 情報科学研究科という大枠を整えたことはいいと思うが、専攻のわけ方や、学部の学科からの受け入れの分配などがうまくいっていない気がする。そのため、研究とまったく関係のない授業ばかりを受ける必要があったりすると思う。内容的に横断的なことを行っている研究室に関しては、学部の学科を超えて進めるようになってほしいと思う。(情MC1男)

【回答】

現在は、過渡期であり、上記のような印象を受ける学生さんがいることは理解できます。大学院は改組しましたが、学科は学年進行で旧学科のままで進んでいます。あと2年でこのようなことは解消されますが、それでは今の学生さんはどうなのかということになります。現時点で新旧の組織が混在していて、大変な部分はありますが、授業に関しては、無駄とか関係ないといったものはなく、将来必ず役に立つと考え、積極的に受けてください。研究室はいずれかの専攻に所属していますので、学生さんの専攻もこれで自ずと決まるため、融合的研究を行っている研究室のテーマによっては不満を感じることもあるでしょう。カリキュラムの柔軟性も視野に入れ、よりよい方策をこれからも検討していきます。

（意見）

- ・ 各教授、事務の方々、自分達が日本を良い国にするんだという使命感や熱意を持つべきだと思う。これは旧帝大たる北海道大学の義務だと思う。大学院での授業はつまらないとどの学生も思っている。それは教授陣の熱意が足りないからだ。そんな無気力な大人を見ている我々から無気力な人間が生まれるのは当たり前だと思う。時々、外部の民間の方が講師として来るが、彼らの講義は非常に面白い。やはり彼らの危機感は全く違う、と感じた。私は教授よりも能力・やる気のある若い助手や助教授の先生を良く知っている。熱意も無く、研究もできない教官は辞めさせ、優秀な若い人材にそのポストを明け渡すべきだと思う。今、早いうちに対応しなければ、将来、取り返しのないことになる。北海道大学そのものが国内の大学との競争で敗れるだけではなく、日本という国の力が弱まることになる。(情MC2男)
- ・ 担当教官のわがままなことに迷惑しています。自分のことしか考えていない、精神的に子供なことに困っています。(情MC1男)
- ・ ダメな教員はクビにしてほしい。研究室という単位が閉鎖的すぎる。(情MC2女)

【回答】

「日本をよくするために使命感、熱意を持つべき」という貴君の意見は基本的には正しいものです。これまでも大学として各教員の研究業績評価、社会活動評価、学生による授業評価を実施してきました。さらに、段階的ではありませんが、教員の任期制、業績評価による審査制度を取り入れつつあります。多様性・個人差があるのは人の集団としての

常ですが、よりよい教育研究組織を作るための検討と研鑽をこれからも続けていきます。なお、皆さんの目に触れないところで、教育研究のための組織の運営や外部資金の獲得など、多大の労力と時間が費やされていることも理解してください。助手や助教授の若い先生方が研究に集中できるよう、運営等に関しては原則、教授がその任を担っているのです。

「わがままな教員」や「ダメ教員」ですが、人により意見が違うかもしれません。まず、研究室の周りの人が皆同じように思っているかどうか聞いてみてください。本当に皆さんがそう思っているようでしたら問題です。研究指導を受けるには、学生と教員の信頼関係が重要です。何がわがままなのか、何がダメなのか、率直に話し合ってみるのもひとつの解決策です。難しいようでしたら、各種の相談窓口もありますし、身近な他の先生、例えば専攻長などに相談するなどしてください。その際でも、相手の人格を不当に傷つけるようなことはしてはいけません。あなたも先生も共に満足できる道を見出してください。日本の大学の研究室は概して家族的であります。それは閉鎖的でもあり、功罪両面から検討し直す時期なのかもしれません。

（意見）

- ・ 助手および技術職員などの研究指導者の確保は必要と思う。教授、助教授のみで学生の面倒見るのは容量オーバーである。（情 DC 2 男）

【回答】

人件費は年々削減され、特に法人化後は厳しい目標値が設定されております。助手や技術職員だけではなく、教授や助教授でさえ、これまで通りの人数を確保できないという危機に直面しています。近々、教員の職制見直しが予定されていますが、絶対数は増えませんので抜本的な対策が必要であり、より効果的な教育研究体制の再構築など、様々な検討を続けてまいります。直ぐにとはいきませんが、効果は徐々に現れてくるものと思います。

（意見）

- ・ 指導教官の指導が少ないです。（情 MC 1 男）

【回答】

待っているだけだと、なかなか指導を受けられないことがあるかもしれません。大学院は高等教育機関であり自ら考える力を養うところですので、学生さんから積極的に指導教員に質問や議論を働きかけることで、指導の機会を増やしてください。その際にはより具体的にどのような指導をして欲しいのかをきちんと伝えることが大切です。

（意見）

- ・ 博士課程学生は研究室のスタッフではない。雑用を全て博士課程学生に押し付けるのは止めて頂きたい。（情 DC 2 男）

【回答】

リサーチアシスタントとして研究補助業務に従事しているかどうかなど、個別な事情があると思われますので、それを直接聞かないと安易に回答できません。ただ、教育的効果のない雑用を課せられているとするならば、あってはならないことです。まず、指導教員の先生にそのことを率直に話して相談してみてください。どう考えても不合理な雑用であれば、パワーハラスメントの相談員の制度もあります。

（意見）

- ・ ウェブ上で単位取得状況を確認できるようにしてほしい・卒業に必要な単位数も同時に掲載してほしい（情 MC 2 男）
- ・ 大学院の履修届の提出や単位修得状況の確認を、学部並（端末で確認、証明書の発行をできるように）にしてほしい。もう少し手軽に確認できるようになると、就職活動等のときに楽になる。（情 MC 2 男）
- ・ 自由を重んじるなど、受講する講義の選択肢が非常に多いことは有難いし有益であると感じる。しかしながら、それに対する説明が不十分であり、修了間近になって単位等の不足を告げられる場合などが発生していると思われる。シラバス等で卒業要件等は触れられているが、単位取得の際に要件を満たしているかを自分でチェックできるシステムを作してほしい。話が変わるが、事務員の態度等にもいい加減というか誠意が感じられないと言う点からもこのような意見に至ったということも付記しておく。（情 MC 1 男）

【回答】

単位取得状況の確認は、現在のところウェブ上ではできませんが、これはセキュリティの面で万全の対策を施した上でないと実施できないためです。これまで大学としては利便性向上のため教務事務の電子化を段階的に進めてきており、今年からは1年次を対象に履修届のウェブ入力を学内限定入力で開始しました。順次、学部専門、大学院にも導入され、その段階で単位取得状況や必要単位数もウェブ上でも確認できる予定です。なお、現在は学期のはじめに単位取得状況

を交付していますので、疑問がある場合は、いつでも教務担当係に照会してください。また、一部の証明書は、証明書自動発行機で発行できますが、学部の場合と同様に 1 日に発行出来る枚数が決められています。事前に発行できる証明書や枚数を確認しておいてください。「事務員の態度」については、5 の「教職員の対応」を参照してください。

（意見）

- ・ 大学院の授業の休講・連絡などはホームページに掲載してほしい。（情報科学研究科棟の掲示板に紙で張り出されていると気づかない）（情 DC 1 男）

【回答】

すでに電子掲示板が運用されています。URL は下記の通りとなっていますのでご利用ください。

PC 用 <http://www.eng.hokudai.ac.jp/lecinfo/>

携帯用 <http://www.eng.hokudai.ac.jp/mobile/>

（意見）

- ・ 毎年、研究室配属の方法や卒業・修士論文の提出期限等が変わるのは混乱を招くので良くないと思う。（情 MC 2 男）

【回答】

ご指摘の点は研究科が発足した過渡期のことかと推測します。現在は、3 学科、6 専攻で、研究室配属の方法や卒論・修論の提出時期は毎年ほぼ同一のはずです。ただ、その後、学部の組織も 3 学科体制から 6 コース体制に移行しましたので、新コースの学生さんが研究室へ配属のときには、前年度と大きく変わってしまうことがあるかもしれません。学生の皆さんには、できるだけ混乱や不都合が生じないよう、ガイダンス等で周知徹底したいと思っています。

（意見）

- ・ 特にありません。今の状況で不便は感じません。（情 MC 1 男）

【回答】

教育研究のさらなる向上に努めていきます。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

（意見）

- ・ 情エレ棟のエレベータの運行が制限されるようになって不便です。我慢の価値があるほどの経費節減になっているのか示してほしい。（工 MC 2 男）
- ・ エレベータ全機器運転。（情 MC 1 男）

【回答】

年間経費、省エネ効果、利便性の点から検討を加え、ご要望に応えることにしました。12 月からフル稼働しています。

（意見）

- ・ 学部 4 年や修士 2 年の時は、授業をとっていないにも関わらず、授業料という名目でお金を払っている。そのお金は研究室での諸費用として、あるいは各施設での運営・維持費、人件費などに使われるのであろうが、最近研究棟のエレベータが夜間 1 機しか使えなくなり、大変不便に思う。授業料を払っているのに、維持費に割り当てられていない状況は納得いかない。一番切り詰めるべきところは人件費ではないのか？時に、何をしているのかわからない人を目撃する場合もあるし、時に、事務の方の態度に憤りを感じる時がある。独立行政法人ならば、もっとサービスの向上を心がけるべきではないだろうか？（情 MC 2 男）

【回答】

授業料の一部は、当然のことながら、講義に係る経費として充当されますが、教育研究設備の整備・維持管理にも使用されます（授業の有無に関わらず）。しかし、大学における教育研究活動を維持していくのには、授業料だけではとうてい賄えず、国からの運営交付金（税金）や科学研究費補助金のような競争的外部資金（これも税金）等を含めて大学の経営が成り立っています。これらの総額は皆さんが納める授業料の約 7 倍です。皆さんの教育に、これだけの税金が投資されていることも十分理解してください。当然、納税者への説明責任があり、収支については本学のホームページの広報・公開のページで開示されています。人件費は年々削減され、特に法人化後は厳しい目標値が設定されています。少ない人員で膨大な業務をこなしている事務の方々の苦労も理解してあげてください。このような状況下でサービス向上にも努めています。エレベータの件は、他にも要望があり、12 月からフル稼働しています。

〔意見〕

- ・ 研究室の設備等、配属先によって格差が大きすぎる気がする。例えば一人当たりのスペース、など。(情 MC 1 男)
- ・ 研究室ごとの設備格差がある。(情 DC 2 男)
- ・ 研究予算を増やして、実験環境の充足を図るべきだ。(情 MC 1 男)
- ・ 各研究室に対する予算を拡大してほしい。(情 MC 2 男)
- ・ 研究費をよりいただけると嬉しいです。(情 MC 2 男)

〔回答〕

国からの交付金（これは税金）による研究室の予算は公平に配分されています。年々、交付金が削減されている中で、研究科としては研究室の予算を極力維持できるよう努力しています。研究室の研究設備の購入費は主に科学研究費補助金のような外部からの競争的資金（これも多くは税金で、教員個人が獲得）によって賄われているため、研究室の裁量で整備できる範囲のものについては、指導教員がその責任を負っています。したがって、研究室の実験環境に関する要望は、その研究室の指導教員にお話ししていただく必要があります。大学の研究室とは、そのような厳しい競争環境下にあることをご理解ください。一人当りのスペースは、いずれの研究室も狭隘化が著しいのが現状です。研究室の面積は研究科で公平になるよう割り当てておりますが、実験設備や人員数などに応じて、調整可能な方策も検討していきたいと思います。

〔意見〕

- ・ 予算がついた研究室のみがよい設備で研究しているような気がする。もっと共同利用できる施設がないと変な利権争いに巻き込まれて思ったように研究ができなくなる。独立行政法人化したのならもっと施設に対しても柔軟性を持たせるべきである。長時間かかる研究をしていても休むスペースや食事の手配に苦労する。牛の臭いが年々ひどくなっているように感じる。巡回バスはいいと思うが時刻表などを設けるべきだ。図書館の利用時間が短い。食堂が夜遅くやっていない。生協にこだわる必要があるのか。保健管理センターの意味がなくなっている。農道を舗装しろ。喫煙所での喫煙を徹底させろ。(情 MC 2 男)

〔回答〕

年々、国からの交付金が削減されている中で、研究科としては研究室の予算を極力維持できるよう努力しています。研究室の設備は主に科学研究費補助金のような外部からの競争的資金によって賄われているため、格差を感じられるのかもしれませんが、大学の研究室とは、そのような厳しい競争環境下にあることも理解してください。共同利用施設については、研究科内・大学内に多くの施設がありますので教員とご相談願います。休むスペースについては2フロア毎にリサーチラウンジがあります。農場の牛も研究のための資産であり、農道も研究のためのものです。臭いが研究室までに及ぶことは考えにくく、農道も利便性を考慮して通行を認めているだけです。喫煙所での喫煙は最低限のマナーですので皆さんの協力をお願いします。食堂については、生協にはこだわっていませんが、夜間働く人のこと、経営が成り立つかなど、総合的な判断が必要かと思えます。営業時間はシーズンにより21:30頃まで延長されているはずですが、巡回バスの時刻表は、大学のトップページで検索できます。附属図書館（本館）（北分館）は22:00まで開館していますが、研究科図書室の利用時間延長に関しては、予算を考慮しながら「時間延長」を考えていきます。「保健管理センターの意味がない」は意味不明ですが、「保健管理センターの在り方検討ワーキンググループ」などで、よりよい運営方式を検討しています。

最後に、「しろ」、「させろ」はありませんね。教員の意見の中に「不平不満が多すぎる!」とありました。

〔意見〕

- ・ 現在の研究室の環境がよくない（人が歩くと床がゆれる。外光や景色が入りにくい。サーバーやエアコンの騒音 etc）。授業を受けるのに情報科学研究科棟まで遠い。(情 DC 1 男)

〔回答〕

「研究科棟まで遠い」とありますので、協力講座の学生さんでしょうか。離れていると、確かに不便です。教員も学内会議のためにイライラしながら移動することが、しばしばあります。ただ、5分余裕を持って出かけると、四季折々のキャンパスの変化を楽しむこともできます。物理的な距離はいかんともし難いので、ポジティブに捉えてください。研究室の教育研究環境、特に騒音については、まず、指導教員にお話しいただくことが必要です。ただ、建物そのものの対策に関しては、予算の関係上難しいこともあるのはご理解ください。

〔意見〕

- ・ 継ぎ足して建てた建物や古い建物が多く、バリアフリー化がなされていないので、バリアフリー化してほしい。一見、バリアフリー化されているように見えても、障害を持った人にとっては非常に不便な建物が多いので、せっかく専門の教員の方がいるのだから、有用な設備を敷設してほしい。中途半端にロードヒーティングを入れて、通路を氷の路面にするのはやめて欲しい。(情 MC 1 男)

【回答】

全学のバリアフリー化については、限られた予算をやりくりしながら、スロープの設置、身障者専用エレベータの設置など、必須の箇所から順次実行に移しています。既存の施設を一挙にバリアフリー化することは、現在の予算規模から極めて困難であることもご理解ください。気がついたことがありましたら、可能な限り対応しますので指導教員や事務室まで申し出てください。

（意見）

- ・ 仮眠室を設置してほしい。工学部と情報科学研究科の図書室の利用時間を22時まで延長してほしい。工学部と情報科学研究科の自習室を24時間開放してほしい。カードキーの有効範囲を拡大してほしい（例えば、情報科学研究科に所属する者は、情報エレクトロニクス棟や工学部等、メインの建物には夜間でも入れるようにしてほしい）。総務の窓口を18時まで営業させてほしい。（情MC2男）

【回答】

仮眠室については、多人数を収容しなければならず安全面、維持費などの点で困難です。図書室の利用時間延長に関しては、予算を考慮しながら「時間延長」を考えていきます。なお、附属図書館（本館）（北分館）は平日は9:00から22:00まで、土曜・日曜は9:30から19:00まで開館しています。情報科学研究科の自習室は、カードキー所有者はいつでも使用できます。カードキーの件ですが、有効範囲は希望通りになっているはずですが、カードキーは研究室経由で配布していますので、不具合がある場合は、まず研究室の先生に相談してみてください。教務の窓口については、毎日最終授業時間までは、対応ができるようにしています。

（意見）

- ・ 大学院の研究施設にシャワールームがほしい。有料でも使う人はいと思う（情MC2男）

【回答】

現時点でシャワー設置は人の配置、掃除、保守面より難しいと思われます。可能性は、検討してみます。

（意見）

- ・ 自転車置き場についてだが、どうして元の場所に置けなくなったのが不思議。何か説明が欲しかった。（情MC1男）

【回答】

元の場所とは情報棟の西側をさしていると思われますが、元々歩道であり自転車置き場ではありません。緊急時の避難や緊急車両の進入などに備えるには、歩道と車道の分離が基本です。このため、新しい自転車置き場を整備しました。

（意見）

- ・ 安全点検の際、廊下に設置していた靴箱を研究室内に移動するよう指示されたが、研究室内に靴箱を設置する方がはるかに危険であると思う。（情DC2男）

【回答】

毎年、消防署の査察を受け、安全確保に努めています。消防法では避難通路が確保されていることが前提ですので、安全点検でも徹底しています。研究室内の整理整頓に努め、安全確保に協力願います。

（意見）

- ・ 靴を脱げる環境が欲しい。（情MC2男）

【回答】

新研究科棟はコンピュータ配線用のフリーアクセス方式を採用しましたので、多くの研究室では土足禁止としました。そのような環境でない場合は、スリッパを利用するなど、個人レベルでの創意工夫を試みてください。

（意見）

- ・ 冬場のヒーターが少し暑すぎるかもしれません。また除雪ももう少しやって欲しいです。（情MC1男）

【回答】

教員からも、冬場に講義をしていると汗だくになり室温設定が高すぎる、省エネの観点からも改善すべきとの意見がありました。ボイラー室の温度制御の最適化を関係部署にお願いしますが、室内側でもラジエータバルブをこまめに調節願います。除雪については、極力、通学・通勤時間に間に合うように行っていますので、ご理解とご協力をお願いします。

ます。

（意見）

- ・ すべてのパソコンを液晶にしてほしい。ブラウン管海外募金とか！（情 MC 2 男）

【回答】

ご指摘のパソコンは研究室で所有しているものですか？ 資産の有効活用のために、本体は更新してもディスプレイだけは継続使用しているのかもしれませんが。自ずと液晶のディスプレイに置き換わっていくのではないのでしょうか。ところで、「ブラウン管海外募金」とは何でしょうか？ 発展途上国に中古のディスプレイを回し、自分は新しいものを使いたいとのことでしたら、要望ではなく、単なる欲求のようにも思えます。

（意見）

- ・ 情報科学研究科の建物は換気が悪く、廊下に窓も少ないため、なんだかのびやかな気持ちになれないです。（情 MC 2 男）

【回答】

建物の面積は国の基準で定められており、その基準内で、いかに講義室、研究室、共通スペースを確保するかが設計の基本になります。廊下の採光は照明に頼り、どうしても優先順位が低くなるのでしょうね。節電目的で照明を暗くしているのも、「のびやかになれない」原因のひとつかもしれません。光熱費が全体予算に占める割合は膨大ですので、ご理解願います。研究室の皆さんで工夫をして、研究室の居住環境を改善するのも解決策のひとつです。換気設備は問題ないはずですが、換気の悪い研究室があれば教員に、講義室の場合は事務室に申し出てください。

（意見）

- ・ セキュリティの問題はあるとは思いますが、もっと内にも外にもやさしい開かれた設備をお願いします。（情 MC 2 男）

【回答】

誰でも自由にで入りし利用できる開放的な施設・空間にして欲しいとの趣旨でしょうか？ 閉鎖性を感じる部分を具体的に示してもらえれば、検討もできます。意見を述べるときは相手に意思を明確に伝えることが肝心です。夜間のセキュリティが絡むことでしたら、開放は無理で、施設を預かる大学の責務があります。

（意見）

- ・ 基本的には悪くはないが、ネットワークの不安定さや、設備をどう使えばいいかの手続きが不明確であることなどに不満がある。もっと、学生にどういう設備がどういう条件で使えるのかなどをアピールしたほうが、設備の有効活用につながると思う。（情 MC 1 男）

【回答】

情報基盤センターのサイトにアクセスすれば、設備、手続きを含め、詳細なネットワーク情報を入手できます。自ら情報を収集する努力をしましたか？ ネットワークの不安定性は、セキュリティの強化で少なくなったようですが、不審メールは開かない、スパイウェアに注意するなど、使用者側の責任によるところも多いのです。

（意見）

- ・ 古いのはともかく、情エレ棟裏のボイラー室の屋根が台風でふっとんだ際に、その大部分がアスベストだったというアナウンスが学生に一切無かった。それでいて片付ける作業をしていた人たちはやたら重装備だった。（情 MC 2 女）

【回答】

破損、倒木などの情報収集と緊急対応に追われ、皆さんのみならず教職員にも情報伝達が不足していました。今後は、このようなことがないよう改善を図っていきます。

（意見）

- ・ 学生食堂をより変化に富んだものにすべき。情報科学研究等の水道が異常に汚い。改善すべき。（情 MC 1 男）

【回答】

学生食堂については、生協に要望を出してみましょう。水道は、水質検査を行っており問題ありません。細かい気泡により白濁しているように見えることがありますが、異常と思われる場合は教員が事務室に連絡してください。

（意見）

- ・ 教員のみが使用できる施設を、学生にも開放して欲しい。（情 MC 1 男）

【回答】

本研究科には教員のみが使用できる施設はありません。何かの誤解のように思われ、意見を述べるときは相手に明確に伝えることが肝要です。

（意見）

- ・ 情報科学研究科に関しては、新しくきれいで充実していると思う。(情 MC 2 男)
- ・ とくになし。もちろんもっといい設備のほうがいいが。不満とを感じるわけではない。(情 MC 2 男)

【回答】

研究科として、今後も努力していきます。

3 経済問題（授業料、奨学金等）に関すること

（意見）

- ・ 経済援助 R A の制度はずっと続けてほしい。これは北大が他の大学に誇るべき良き制度だと思います。(情 DC 1 男)

【回答】

評価していただき感謝します。あなたのような意見に対峙し、恵まれた環境を利用して自分のために学位を取得するのだから、自己投資が当然との意見もあります。しかし、これからの時代は博士課程修了者の育成が極めて重要との観点から、研究科として支援制度の導入に踏み切りました。この制度は、研究科の予算で賄われており、R A 採用が可能な大型プロジェクト予算や、競争的外部資金の獲得による交付金の節減など、教職員の大変な苦労が背景にあることも理解しておいてください。継続できるかどうかは、このような財源確保にかかっています。

（意見）

- ・ 現在行われている博士課程の授業料免除期間の2年は短すぎる。一般に2年で卒業する人は全体の1%に満たないと思われるので、最低3年は欲しい。2年で卒業した人の話を聞いたことがない。(情 DC 2 男)

【回答】

まず、「授業料免除期間の2年」というのは間違いで（期間に制約はありません）、「経済支援」です。この経済支援は、授業料をほぼ賄えるだけの R A の職を提供するもので、ご要望に応じて18年度後期からは3年次にも拡大適用しております。この制度の背景は、前の回答を参照してください。

（意見）

- ・ 博士課程の人には自分で生活できるくらいの給料を支払って欲しい。(情 MC 1 男)

【回答】

確かに自活して行くのは大変ですね。本研究科では、博士後期課程の学生さんを R A として採用し経済支援する制度を導入しています。さらに、日本学術振興会の特別研究員に応募し採用されますと、自分で十分生活できる給料が支払われます。申請により研究費も獲得できます。このように博士後期課程の学生さんに対しては様々な支援制度が拡充されつつあります。

（意見）

- ・ TA だけで授業料、生活費をまかなえるとはとても思えない。奨学金は名前だけで、結局は奨学ローンでしかないのではないのか。研究室によって必要な金額に大きな差があるがこれは明確にするべきなのではないか。毎年授業料を少しずつ高くしていついっぺんかという意図で高くなっているのかが判らない。バイトばかりやって研究しなくなる人達に奨学金、TA の紹介はおかしくないのか。最終学年では講義を取らないのに授業料を払っていることを考えると授業料という名前は変更したほうが良いのではないのか。就職活動で東京へ行くことが多くなり金がかかって困ります。僻地は困る。研究しすぎて椎間板ヘルニアになって手術したが労災が適用されるわけでもなく金がかかって困りました。(情 MC 2 男)

【回答】

TA は教育補助業務を通して教育経験を積んでもらう制度で、実働の対価として謝金が支払われます。TA だけで、授業料、生活費をまかなうことは、前提にしていないはずですが。奨学金が実質奨学ローンというのは、その通りですが、日本全国の学生が同じ条件です。また、無利子貸与の枠も用意されています。次の要望に対する回答に詳しく述べますが、大学における教育研究活動を維持していくのには、授業料だけではとうてい賄えず、授業料の何倍もの税金が皆さんの教育のためにつぎ込まれています。授業だけではなく、皆さんが研究を行っていく設備等も然りです。最終学年の

「卒業研究」や大学院の研究は、これらの設備を使用して行われます。また、研究資金は主に競争的外部資金（教員が獲得）によって賄われております。研究室ごとに教育研究環境に差異が感じられることがあろうかと思いますが、大学の研究室とは、そのような厳しい競争環境の中にあることをご理解ください。毎年授業料が少しずつ高くなっているのも国立大すべて同じで、法人化後は大学独自に多少の裁量はあるものの、国の財政や私大との較差を考慮し、国の施策で基準額が定められています。

（意見）

- ・ 授業を受けていないのに授業料を取るの納得できない。せめて名目を変えて欲しい。（情 DC 2 男）

【回答】

授業料の一部は、当然のことながら、講義に係る経費として充当されますが、教育研究設備の整備、光熱費や営繕費など、さまざまな目的のためにも授業料の一部が使用されます（講義形態の授業の有無に関わらず）。特に、博士後期課程の場合は、博士論文作成のための諸経費としても授業料の一部が充当されます。しかし、大学における教育研究活動を維持していくのには、授業料だけではとうてい賄えず、国からの運営交付金（税金）や科学研究費補助金のような競争的外部資金（これも税金）等を含めて大学の経営が成り立っています。これらの総額は皆さんが納める授業料の約 7 倍です。皆さんの教育に、これだけの税金がつぎ込まれていることも十分理解してください。授業料は講義だけでなく、整備された教育研究環境下で皆さん個々が学修・研究活動を行っていくためにも活用されているのです。講義や研究を通して「業を授かる」ための自己投資なのです。

（意見）

- ・ 授業料は高い。けど、どうにか出来るのでどうでもよい問題であると思う。金額よりも、それに見合ったものを大学が提供しているかが問題ではないかと思う。それよりも、いろいろなお金の出どころが怪しすぎる。医学部の名義貸しなどがマスコミに取り上げられたが、他にもたくさんあるように思える。僕らが払った授業料を正しく使って欲しい。（情 MC 1 男）

【回答】

前の回答にも述べましたように、皆さんの学修・研究活動には多くの税金がつぎ込まれていることも十分理解してください。当然、納税者への説明責任があり、収支については本学のホームページの広報・公開ページで開示していますし、毎年、会計検査院（国のチェック専門機関）の厳正なチェックも受けています。怪しげなお金の出所や使途はなく、全て適切に使用されています。限られた資金の中で、できるだけ学生さんへ「見合ったものを提供」できるよう努力しているのです。貴君が指摘しているようなお金は大学のお金ではありません。物事を適正に見究める判断力を養ってください。

（意見）

- ・ 学会発表等の補助を充実してほしい。（情 DC 1 男）
- ・ 研究旅費に関する補助を充実させてほしい。（情 MC 1 男）

【回答】

研究室はほぼ独立採算の形になっているため一概にはいえないのですが、旅費や研究費など、研究室の裁量で決定できる範囲のものについては、指導教員がその責任を負って何らかの補助を行っている場合がほとんどだと思います。もし、不都合を感じられるのであれば、指導教員の先生にまず相談してください。その他、国際会議の出席旅費については、情報科学研究科と工学研究科の大学院生を対象とした CEED（工学系教育研究センター）の支援プログラムがありますし、博士課程の学生が応募できる外部資金の公募が多数ありますので、それらも積極的に活用してください。

5 教職員の対応（応対等）に関すること

（意見）

- ・ 情報科学研究科の事務は一人を除いて役に立たない。ある人に言われたとおりに書類を作成しても、別の人は受理してくれない。労働時間内でも昼ごはんを食べていたりする。（情 MC 1 男）
- ・ 情報科学研究科の事務の対応が極めて悪い。ガラス張りにしたのはいいが、部屋に入っても誰も顔を上げないので、空中に向かって用件を言うという状況が非常に不快である。「そんなことも知らないの？」というようなことを事務にいわれることがあるが、事務に関係するすべてのやり取りの流れが不明瞭なことにすべての問題の発端があると思う。威張りすぎ。職員の権利は重要ではあると思うが、学生の授業開始・終了のチャイムも鳴らしていないのに、授業中に職員が帰るためのチャイムを鳴らすのには疑問がある。（情 MC 1 男）
- ・ 事務の対応の仕方が気に入らない。改善の余地あり。（情 MC 1 男）

【回答】

窓口対応については、これまでも学生さんの視点に立って誠意ある対応を心がけておりますが、不愉快な思いをさせたことに対してはお詫びいたします。通常、労働時間内に昼食はとっておりません。(以下、教員側から補足)：事務の方々は少ない人員で膨大な業務をこなしています。学生さんから見えるのは教務に関する業務の、ほんの一部です。18年度からは研究科事務体制が強化されましたが、実はそれまで教務専任職員は1名だけで、会議等で不在のとき他の職員では十分対応できなかったのではないのでしょうか。業務多忙で時間内に昼食を取れず、時間外に取らざる得ない場合もあります。チャイム撤廃の件は、検討しましたが、現在のところ他部署と連動しているため部分停止ができません。予算が許せば、改善を検討します。

7 就職に関すること

(意見)

- やはり就職のことが気になります。特に博士課程の場合は深刻です。学振の応募において年齢制限があるのも納得いきません。会社から資金援助を受けている社会人は歓迎するけれど退路を断って大学へ入ってくる社会人は冷遇されているような。定年引上げやリストラにより終身雇用が崩れた現代においては社会人から大学院へ戻って勉強しなおし再び社会へ戻るといった構図になるのは必至だと思われます。日本の不況は「考えない人材」を輩出してきたことが大きな要因のように思います。大学院は自らを見つめなおし鍛えなおす場として重要な役割を持つようになると考えます。本来、研究教育機関は自由闊達な雰囲気であるべきで、その中で世の中の役に立つ人間を育てるというのが大きな目的だと思っています。社会人を受け入れるということは若年層にとっても社会へ出る前に社会の仕組みを教わることができる貴重な体験になり社会人にとっては若い人たちから柔軟な考え方やエネルギーをもらうチャンスになります。大学院がもっと自由に人間がで入りできるようになり、人材の交流を促す場になることを望みます。(長々すみません)(情DC1男)

【回答】

貴重なご意見、まことにありがとうございます。優れた人材を育て社会に輩出することは、大学に課せられた非常に重要な使命です。また、当然のことながら、学びたいと思う人々が年齢や職業の有無などで区別されることなく、教育を受けられる環境でなければなりません。大学や大学院がそうしたさまざまな人が集う場所であるように願い、またそうしたことを実現するための努力を続けていきたいと考えています。特に、ご指摘頂いたように、社会人経験のある学生さんは大学院にとって非常に貴重であり、その意欲・経験は他の学生のモチベーションを高めることにも大きく役立っています。他の学生さんへのアドバイスなど、引き続きご協力ください。ただし、要望にありましたように、研究費支援や奨学金、就職などにおいて、さまざまな形で障害があるのもまた事実です。退職して社会人特別選抜で入学され、学振申請の年齢制限が該当する社会人学生さんにも、本研究科の経済支援制度を適用していますので、活用願います。博士課程修了の学生の就職に関しては、情報科学研究科ではさまざまな企業から求人があり、活躍の場は民間企業にも大きく広がっていることをつけ加えておきます。

10 その他

(意見)

- こんな学生から不満をあつめても意見が反映されるわけでもなく、反映されるとしても卒業後なんてまったく意味のないことだ。こんなアンケート集めるよりも、学生と大学が話し合ったほうがよっぽど手取り早い。最近、まわりでうつの人が多くモチベーションの維持に苦労する。本当に学生相談室は機能しているのか。研究だけやっても駄目だ、友達いないだろ、後輩の面倒みないだろと就職面接で罵倒されるが、研究室では研究だけやればいいと罵倒される。うつの人が就職が決まる。うつの人が研究せずに卒業しようとしているのが腹立たしい。おなじ修士になると思うと自分が努力してきたものが無意味に感じられる。就職活動の推薦制度は廃止すべきだ。推薦があるために早く行動できなくなり、他の学校と比べると不利なのは明らかだ。しかも、推薦があるところは推薦でしか受けるなどといったことが、実際はそんなことをきかせず自由で内定をもらっている人がいる。規則をまもった人が不利益を被るのは納得いかない。証明書の発行の手続きが面倒。そして時間がかかりすぎ。事務はいったいどんな仕事をしているのかわからない。こちらにしてみれば死活問題なことを平気に土日は無理という。警備員がエレベータ乗りまくって電気代使いまくったせいで夜エレベータが1機しか使えなくなった。(情MC2男)

【回答】

まずは、意見を述べてくれたことに感謝します。この調査が貴君の卒業後にしか反映されないとしても、後輩たちには恩恵となることでしょう。さて、「うつの人」がどのような学生さんを指すのかはわかりませんが、修士の学位を取得することは、取得するに足る最低限の基準をクリアしたことを証明することに他なりません。したがって、達成度に

違いがあるのは当然です。同じ修士の学位を取得するにしても、より研究に打ち込んで高い研究成果をあげることができた君はそれを誇りに思うべきです。努力が無駄だったと思っているのであれば、それは明らかに間違いです。

就職活動については、主要大学が採用している学校推薦制度において不利な点は何か、また、学生全体のモラルの維持をどうするかなど、今後の参考にします。また、学校推薦と自由応募の併願については、就職の全体ガイダンスで説明しています。学校推薦に関する時期が4月1日以降というのは、就職に関する倫理協定で定められたことであり、多くの企業と大学がこれを遵守しています。「規則を守る人が不利益を被る」ことはあってはならないことで、そうした問題があれば対処していきます。なお、証明書の発行は、事前に余裕を持って取り組むことが可能ですし、突然の要求であれば土日に対応ができないことを理由に、企業に延長を申し出ることもできます。社会にでると、自分の思う通りに行かないことがもっと多くなるでしょう。就職活動は社会人への第一歩を歩き始めたと考えてください。

エレベータの件は、学生さんからの要望が多かったことから、フル稼働としました。ちなみに、夜間のエレベータ使用制限は、警備員の使用過多が原因ではありません。警備員の方は工学部と情報科学研究科を巡回し、一度に約2時間歩き続けるそうです。エレベータ使用は、一晩にせいぜい数回であるのに対し、研究科棟の学生・職員を合わせて数百人以上いる私たちが夜間に利用する回数とは比較になりません。物事を適切に判断する術を身につけてください。ヤケクソになり、「腹立たしい」、「使いまくったせいで」など感情を抑え切れない表現は、たとえ無記名のアンケートとはいえ、貴君の品格を損ないます。

【意見】

- ・ 独立法人化して、得をしているのは誰なのか・・・大多数の人間が良くないことばかりだと思う。独立法人化して良かったと思えるようにできればいいですね(情MC2男)

【回答】

独立法人化には施行前から賛否両論あり、必ずしもバラ色の世界に船出したわけではありません。ただ、代償として、我々は大学独自の裁量権を手に入れることができました。今後法人化して良かったと言えるように、我々自身が努力して行かなければならないと思っています。そのためにも、皆さんの立場で気がついた点を、このような場でお知らせください。

【意見】

- ・ エレベータの節電は重要かもしれないが、不便さの割に大して節電になっていないのではないかと思います。すべての研究室に帰宅時にPCの電源を切るように指導したほうが効果的なのでは？情報科学研究科のWebサイトが非常に見にくい。Flashを使っている上に、字が細かすぎる、字の表示も遅い。HTML版があるとはいえ、そのリンク先もわかりにくい。見た目や格好良さも重要だと思うが、「情報科学」研究科なのだから使いやすい情報の提示の仕方を心得てほしい。XHTML+CSSでアクセシビリティを図るのが最近の流れであるのに、まったく逆行している。また、外向きの情報のみで学生に役立つ情報が一切掲載されていないのも不満である。事務手続きに必要なフォーマットや、時間割、シラバス、各研究室のページへのリンクなどをわかりやすく入り組んでいない場所に掲示してほしい。(情MC1男)

【回答】

エレベータの節電効果はそれほどインパクトのあるものでないかもしれませんが、この不便さを体験することで、節電について考えるよい契機になったのではないのでしょうか。節電効果はありましたが、学生さんからの要望が多かったことから、12月からフル稼働としました。ご指摘のように、研究室のPCを切って帰ることは、簡単な上、非常に有効な手段です。我々も普段からそのような指導を行うよう注意していますが、もしされていない場合は、ぜひ、研究室のゼミのときにでも提案してください。Webサイトは、専任の管理者がいないため外注して立ち上げました。今回の貴重な意見は参考にいたします。情報科学研究科の名に恥じないようなサイトにして行けるよう、今後ご意見をお寄せください。

【意見】

- ・ キャンパスも広いし、精神的にもリラックスして研究に打ち込めるいい大学だと思います。(情MC1男)
- ・ 現状に満足している。(情MC2男)
- ・ より良い大学作りのため、がんばってください。在学中も卒業後も誇れるような大学にしてください。(情MC2男)

【回答】

これからも、よりよくなるよう努めていきます。

環 境 科 学 院

学生生活実態調査報告書に掲載された学生の北大に対する期待・要望に対し、本学院の教員は以下のように回答します。主張すべきことを主張できるのが、大学の基本であると考えますので、さらに意見があればお知らせください。

まず4年前に行われた前回の調査から、これまでの経緯をまとめます。要望にどう応えようとしたか、また応えたか、さらに要望の変化にも注目しなければならないからです。

1. 14年度調査の直後に以下の対応を提起しました。

- (1) 分野横断型授業を増やす。1年の前期、後期をふたつに分けるクォーター制を試行する。
- (2) 授業および研究指導の向上を図って、教員による授業参観や複数指導教員制を検討する。
- (3) 体系的な英語授業を実施する体制を作る。
- (4) 研究科としてのアンケートを実施する。
- (5) 留学生の意見を聞く。

2. 上記の提案に従って、分野横断型授業を増やし、集中講義やクォーター制を含む授業形態を開始しました。また16年度に地球環境科学研究科独自のアンケートを実施し、そこで新たに提起された問題に次の対応を提起しました。

- (1) セクシャル・ハラスメント防止のためのセミナーを開く。
- (2) 授業形態について、個別の授業で学生の希望を調査する。
- (3) 学生相談室の設置を考える。
- (4) 低温科学研究所など他部局から学務事務を依頼できるシステムを考案する。
- (5) 就職活動支援として、卒業生による講演を開くなど、情報伝達に努める。

3. これらの提案の実施状況は次のとおりです。

- ・ 1 (1), 2 (2): 多様な形態で授業を実施しており、多くの授業で学生の希望を調査したが、調査していない授業もある。
- ・ 1 (2): 複数教員による授業のあるものでは、まとめ役の教員が他の教員の授業時間に同席し、意見を述べている。環境起学専攻では複数指導教員制を試行している。
- ・ 1 (3): 英語による授業を数件行っている。
- ・ 1 (5): 留学生の意見を聞いているが、充分とはいえない。
- ・ 2 (1): セクシャルおよびアカデミックなどハラスメント防止のためのセミナーを開いた。
- ・ 2 (3): 学生相談は、学院長への訴えをよびかけるとともに、全学の相談室を訪問しやすいように情報発信した。
- ・ 2 (4): 電子メールによって学務事務の一部を行う体制をとった。学生への連絡を電子メールで行うこととした。
- ・ 2 (5): 国連職員経験者などによるセミナーを開催したが、充分とはいえない。

4. 今年度の調査において、新たに目立つ意見は次のとおりです。

- (1) とらなければならない授業が多すぎて研究に支障がある。授業内容が基礎的すぎる。
- (2) 研究室の広さに差が大きい。実験室を居室とせざるをえない。

これらをすべて考慮して、以下の提案を行います。

- (1) 地球環境科学研究科の独自アンケートでは、授業への満足度などに関し学生の意見分布をとることによって、不満足意見の割合を把握できた。不満が少数である場合、対応を誤りなく行うよう配慮した。また、17年度に新たな大学院である環境科学院を開設したことも考え、独自の学生アンケートを行う。
- (2) 環境科学院が主軸とする教育体系では、環境問題全体を俯瞰する授業によって広い視点を持てるようにしており、また、環境科学の基盤となる学問分野を学部で学んでいない学生のために、基礎的な授業も開講することに

している。その一方で、限られた時間で有効に研究したい学生の要望も理解している。環境科学院の制度が許容する範囲で、指導教員とよく相談し、最も効果的な指導計画を決めてほしい。授業形態（集中講義など）、授業時期（フィールド調査を避ける）などについて、学生の要望を調査する。

- (3) 2年前から施設をより有効に、かつできるだけ平等に使えるよう、学生数を勘案して使用面積を決めている。劣悪な環境を取り除く努力は惜しまないので、問題点を調査する。
- (4) 学生が悩んでいる問題には環境科学院内部で取り扱うべきものも多く、組織的に対応する方法を議論しつつある。環境科学院に学生相談室を設置するには、対応方法を学んだ相談員など、解決すべき問題もあるが、今年度中の設置に向けて準備する。
- (5) アカデミック・ハラスメントなど防止のため、教員研修セミナーを開く。
- (6) 学生が専門職経験者などのセミナーを開催するよう促し、支援を行う。

公 共 政 策 学 教 育 部

1 教育・授業に関すること

(意見)

- ・ キャップ制が存在するため、知的好奇心を満たすだけの学修を行うことができない。これを撤廃、あるいは規制緩和することを期待する。(公専1男)

[回答]

キャップ制については、予習・復習の時間をとり体系的な履修による充実した学習をしてもらう趣旨で大学設置基準において定められた制度であり、撤廃する考えはありません。しかし、緩和措置については、1年次の履修状況、成績、今後の学習計画等を考慮して平成18年度に実施したところです。

なお、キャップ制と実質的に密接な関係がある授業科目の学年配当については、各学年での学習のバランスを考慮して大学設置審の審議を経て決められており、公共政策大学院の場合、新設の2年間（平成17年度、18年度）は変更できませんが、平成19年度のカリキュラム見直しにおいては、前提等の科目以外の科目については、1年次・2年次ともに受講できるように改める方向で検討しています。

(意見)

- ・ 授業時間の設定の仕方です事例研究など受講したい科目が重複している。
- ・ 文科系の科目でも工学部の教室を割り当てていることの意味が理解できない。
- ・ 他大学院(学部・法科など)の授業と兼ねている場合の講義内容がシラバスと若干差があるように思われる。(公専1男)

[回答]

- ・ 事例研究の曜日を分散する等工夫していますが、研究活動、大学の組織的業務等の都合により完全に解消することができず、複数の事例研究が重なる場合が現実には生じています。今後とも調整に努めますが、皆さんも1・2年を通した計画的な受講をお願いします。
- ・ 文科系の教科は、基本的には文系講義棟に教室を割り当てる方針です。なお、プロジェクター等教室の設備の関係で限られた文科系教室の中では調整がつかない場合があります。以上の事情についてもご理解ください。
- ・ シラバスと授業内容の整合性は重要です。授業開始後の学生全体の理解度、授業で活用する事例の重要度の変化等でやむを得ずシラバスと一部異なる場合なども生じると考えられます。そうした場合には、最初の授業等で教員が十分説明すべきものと思われます。必要があれば、担当教員に申し出ることや、FD 中間評価アンケート、学生相談委員の教員や教務係に申し出てください。

(意見)

- ・ 学部ごとに教科が分かれてしまっているのは少しもったいない気がする。授業の体系の効率化をしていただきたい。(公専1男)

[回答]

公共政策大学院の文理融合の趣旨に則り、平成19年度以降のカリキュラムの見直しの中で一層の授業科目の体系化、効率化など工夫していきたいと思います。

(意見)

- ・ 社会人向けに土日や、夜間の授業も設けて欲しい。(公専1女)

[回答]

公共政策大学院は大学院設置基準第14条の特例に基づき一部授業科目について土曜日に開講していますが、土曜日、日曜日、夜間の開講科目の設定に今後とも努めて行きます。

(意見)

- ・ 専門職大学院生にとって自分の目標と大学の想定する目標について差異があるように感じる。本音と建て前といったところであらうか。(公専1男)

【回答】

公共政策大学院の目標は、文理融合、官民連携を柱に、国・地方の公務員としての公共政策の立案や、非営利団体・民間からの公共政策発信に役立つ多様な人材の育成という点にあります。このため、公務員の養成だけでなく、公共政策の研究課題を持っている人への対応、既に社会人である方々のキャリア・アップなど多様な目的へ対応したいと考えています。進路・目標に関する悩みや研究課題・学習の悩みがあれば、指導教員、就職指導担当教員、学生相談担当教員などに積極的に相談してください。

（意見）

- ・ 完全なゼミ形式だと、参加者の意識・関心・興味等の違い等々があり、参加者の意見・考えを聴いているだけで、あまり勉強になる点はないと感じており、先生による講義・説明を主に、それに付け足して意見交換する程度でよいと考える。先生が手抜きしているように思われる科目も一部あったと認識している。課題レポートの設定の仕方についても同様に意図不明の科目もあった。（公専1男）

【回答】

少人数・双方向の講義を目指していることや、複数の見解のある問題についての論証・プレゼンテーション能力の養成のため、ゼミ形式に近い講義もあると思われます。そのような趣旨から、授業についても一方的に聴くだけでなく、高い問題意識で積極的に発言・参加することや、教員に疑問点をぶつけることで得られるものも異なってくると考えられます。さらに、具体的な講義内容についての要望があれば、担当教員、FD 中間評価アンケート、学生相談委員の教員等に申し出てください。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

（意見）

- ・ 夜10時以降大学内に立ち入りが禁じられている現状が信じられない。（公専1男）

【回答】

現在、研究室の利用は24時間可能になっています。ただし、ご指摘のように夜10時以降は研究棟に外から入れなくなっていますが、これは建物の管理上の問題によるものです。また文系の場合、建物の構造上、一旦入るとどの学部にも行けることになるので、公共政策大学院単独で決定できる事項ではありません。さらにカードキー方式も考えられますが、これにも予算の裏づけが必要です。

（意見）

- ・ 自転車の駐輪場はどうにかならないか。（公専1男）

【回答】

具体的内容がわかりませんが、駐輪スペースの面からはほぼ確保されている状態ですが、その他お気づきの点があれば教員、事務に相談してください。なお、駐輪の際には指定駐輪場に駐輪していただくようご協力願います。

5 教職員の対応（応対等）に関すること

（意見）

- ・ 学生に対する事務の対応に不満を感じる人が多い。

【回答】

窓口対応で学生の皆さんに不愉快な思いをお掛けし、申し訳ありませんでした。窓口対応について、対応の姿勢を反省し、このようなことがないように一層の注意をします。今後は、窓口対応職員全員が言葉遣い並びに対応の態度を互いに注意し合い、学生の視点に立ったサービスが提供できるよう努力いたします。

北海道大学病院

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

10 その他

（意見）

- ・ 附属病院の利用に際し、何らアドバンテージがないのは疑問だ。（農MC2男）
- ・ 北大病院及び歯科診療センターの外来受付時間を大学関係者に限り延長した方がよい。大学関係者とは職員・教員・学生・関係者の家族である。北大は規模が大きいので、その経済的・学術的效果は無視できないものとなろう。医学教育の充実と大学の収入を増やすためにも非常に有意義であると確信する。是非、検討を願いたい。（歯5男）

【回答】

本学関係者に対する診療時間延長措置のご提案ですが、当該措置の実現にあたっては、当該措置によって見込まれる増収額をはるかに上回る費用が必要となりますので、本学関係者の得られるメリットを考慮いたしましても、実現は困難です。

その他のアドバンテージ設定のご提案につきましても、本院ではすべての患者さんに対して平等に対応させていただくことが全体的な患者満足度の向上に繋がると考えておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

言語文化部

1 教育・授業について

(意見)

- ・ インターネットを利用した遠隔授業を考慮してほしい。言語文化部の外国語特別講義を5限だけでなく、早い時間にも設定してほしい。

[回答]

外国語特別講義は5限以外にも開講しております。開講一覧でご確認ください。

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

(意見)

- ・ もっと言語センターや留学生センターなどの宣伝をやってほしい。情報がすくなくわからない。
- ・ CALL 教室は好きです。
- ・ 冷暖房はもっと臨機応変にしてほしい。CALL 教室を休日でも利用できるようにしてほしい。
- ・ 失礼ながら、CALL などに大金がかかっている割に活用されていない設備が多いように思われます。附属図書館にもっと予算を回して頂きたい。
- ・ CALL 教室を増やして欲しい。S 棟の暖房が暑すぎる。

[回答]

言語文化部で行っている各種活動については言語文化部 HP でお知らせしておりますが、今後より一層わかりやすい広報活動を進めていきます。

CALL 教室について賛否いろいろな意見が寄せられております。お寄せいただいた意見等を踏まえ、今後の CALL 教室のあり方について検討いたします。なお、CALL 教室は平成 18 年度より授業期間中は土日も開放しております。

触媒化学研究センター・創成科学共同研究機構

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

（意見）

- ・ ポストゲノム棟や創生にも食堂を作ってほしい。大変不便、研究時間の減少につながる。（理 MC 2 女）

【回答】

食堂の設置については、以前から創成科学研究棟施設建物委員会でも議論されているところです。これについては、設置場所や規模等についての問題もあり、まだ結論が出ていませんが、ポストゲノム研究棟や創成科学研究棟だけではなく、獣医学部や低温科学研究所を含めた、北キャンパス全体における問題として検討する必要がありますので、今後、創成科学研究棟施設建物委員会を中心に関係部局との調整・検討も重ね、大学当局とも相談して行きたいと考えています。

（意見）

- ・ 主に理学部 6 号館と創成科学研究棟しか知らないが、施設・設備は非常に整備されており、優れていると思う。また、景色等の環境面が素晴らしく、研究にも良い影響を与えられると思う。冬期の環境に関しても、同様である事を望む。（理 DC 2 男）

【回答】

創成科学研究棟周辺の冬期の除雪体制に関しては、他の部局と同様に周辺環境に応じた外部委託による除雪体制を取り、実施しているところです。また、創成科学研究棟の玄関近くはロードヒーティングになっていますが、状況により職員も除雪作業を行っています。特に問題個所がある場合は、北キャンパス合同事務部にお申し出ください。

（意見）

- ・ 創成科学研究棟近辺に食堂と広い生協を作ってください。人間が生活するのに困難な状況です。（工 DC 3 男）
- ・ 創成棟（研究室のある棟）と情報科学棟（授業のある建物）がとても遠く、不便なので、大学内を走るバスの時刻を 15 分間隔にしてほしい。また、7 時くらいまでバスを運行してほしい。創成棟内に食堂かカフェを作してほしい。（情 MC 1 女）

【回答】

食堂の問題については、前述のとおりです。また、生協については、ポストゲノム研究棟にある売店の営業時間帯が今年度に入り延長（時間 10:00～14:00 から 10:00～16:00 に変更）されました。また、広い生協の設置については、経営的な問題もあると思われますので、北キャンパスの今後の発展状況も視野に入れて検討していく必要があると考えます。

ス ラ ブ 研 究 セ ン タ ー

1 教育・授業に関すること

（意見）

・ スラブ研究センターは、研究機関というだけでなく教育機関でもあるはずなのに、一部の教授は自身の研究を最優先して大学院生の研究指導に熱心ではないと見受けられます。他のある大学院の教授が「指導教授というのは、院生が論文を書けるように指導するために働いている」と仰り、またある教授は「学生が論文を仕上げるまでは指導教授とのキャッチボールだ」と仰っていたことを思い出しますが、スラブ研究センターにおいてそのような先生は少数派だと思います。学生の進路希望に即して、研究職を目指す生徒にはそれなりの戦略的指導をお願いしたいと思います。（文DC1・）

【回答】

なるほど耳の痛い批判ですね。大学院としての歴史の浅いスラブ社会文化論講座（スラブ研究センターとは一応別組織なのですが、表裏一体であるとみなされています）の教員の場合、好むと好まざるにかかわらず大衆化してしまった修士課程と、研究者予備軍としての博士課程とをどう差別化するのか、うまい方策が具体的に心理的にも見出せていないのかもしれませんが。博士課程レベルでご指摘の「キャッチボール」を成立させるためには、草稿でもよいから書いたものを教員のところに持って行って批判を請うのが一番です。研究と教育の組み合わせは教員によって千差万別で、機関としての公式回答などありえないと思いますが、私個人は、修士論文も含めて自分が担当する院生の書いたものから学び引用することが多いですし、また、研究者として芳しくない方の指導を受けなければならない院生は不幸だと思います。（センター長）

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

（意見）

・ スラブ研究センターには国内外からの訪問者が多いにもかかわらず、トイレが暗く汚いことに違和感を覚えます。たとえセンター長室や会議室は立派でも、トイレが老朽化して貧相だと、外部の方は閉口なさいます。文化的水準はトイレを見れば十分わかると言われるほどなので、スラブ研究センターのトイレ改修についてご検討をお願いします。また大勢が使用する部屋（大会議室や院生研究室など）は、締め切った状態にあると空気が悪くなりやすいので、換気装置を設置していただきたいと思います。（文DC1・）

【回答】

スラブ研究センターの建物は建築後30年を経過しております。そのため、センター庁舎改修の要求を毎年行っていますが、認められておりません。今後、トイレの単独改修についても要望して行きたい。また、換気装置については、大会議室等設置済の部屋もあり、調査・検討したい。

10 その他

（意見）

・ スラブ研究センターには外国からの客員研究員などが多く、一見国際的ですが、彼ら彼女らの存在意義が大学院生には伝わってきません。客人招待に多額の支出をするならば、それなりに院生の研究に生かすなど普段から還元していただきたいと思います。TAに代わるRA業務についてですが、外国人留学生の日本語文を校正するなど仕事の範囲は狭いうえ、手伝った外国人から確認の署名を取らせるなど対人関係の感情問題にも微妙に繋がってしまうため、院生の間での評判がかなり良くありません。RAの作業内容をもっと充実させて院生を活用し、同時に院生のためにセンターの資金を有益に使っていただきたいとお願いたします。（文DC1・）

【回答】

スラブ研究センターの場合、外国からの招待教授は、講義などを行う義務を負ってはいません。しかし、一流の研究者なら誰も外国の若手を育成することに関心を持っているので、院生には、彼らが報告するセミナーなどに積極的に出て、また彼らのオフィスを気軽にノックして、質問してもらいたいと思います。スラブ研究センターの場合、外国人を講師としたセミナーの数が非常に多いにもかかわらず、院生の参加はあまり多くありません。好奇心こそが研究の原動力、自分の専門と違えばセミナーに出ないという姿勢は誤りです。知識には翼があるなどと言われますが、この鳥は手を伸ばさない人には絶対に捕まりません。

RAには、研究促進という側面と、（率直に言って）若手研究者の生活援助という面とがあります。理系と違って、文系の場合、両者が調和しないことが多く、事務的な手間もかかります。RAを今後も維持することとあわせて、院生の研究への資金援助・資源援助を増やすことで、研究のために生活費を削るようなことが起こらないようにすることを通じて、院生の生活を少しでも楽にする方向も追求したいと思います。（センター長）

情報基盤センター

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

（意見）

- ・ 休日にも、PCを自由に使えるようにしてほしい。（法1男）

【回答】

情報基盤センター、附属図書館では、土曜、日曜、祝日も利用できます。学部コンピュータ室については、学部が管理していますので、学部に相談してください。

（意見）

- ・ 予算の関係とかもあるのですが、11月からしか暖房がたかさないというのは、辛いです。情報教育センターのご厚意で医学部に端末を相当数置いていただいている上にこういう要望も厚かましいのかも知れませんが、変換辞書など、「医学部仕様」にして下さると学生の作業効率が上がるのかも知れないな、と思います。医学部に限ったことじゃないですが。（医5男）

【回答】

学部ごとに異なるソフトウェアのインストールは、学部の負担で可能です。学部に相談してください。

（意見）

- ・ 図書館の利用時刻が午後10時までなのはありがたいが、学内コンピュータの利用が午後9時までなのは不満。ともに午後10時まで利用させてほしい。（工1男）
- ・ 24時間パソコンを利用できる施設を作してほしい。（工1男）

【回答】

情報基盤センター内のコンピュータ室の利用時間は、利用状況等を鑑みて決めております。参考にいたします。各学部のコンピュータ室の利用時間は、各学部で決めておりますので、学部に相談してください。

（意見）

- ・ 学生ひとりひとりに、サーバーアカウントを割り当て（up-netに参加しないと使えない、なんて・・・理解できない）。ネットワーク素人軍団net-netファンの即時解散。プロのネットワーク管理者を雇用する。以上の条件を満たせない場合、入学案内にインターネットのIPは十分に用意できないと書いておくこと。（理DC3男）

【回答】

net-netは、理学院地球惑星科学専攻のネットワークです。そちらに相談してください。教育用システムELMSとは無関係です。

各研究室でのネットワーク利用をどうするかは、各研究室の教員の判断にゆだねられています。教員が申請すれば、大学院生が利用するパソコンのIPアドレスを取得し、利用することはできます。手続きなどは「HINES-WORLD 北海道大学情報ネットワーク利用案内 2006.4」に詳しくかかれていますので、そちらをご覧ください。また、IPアドレスについては十分に用意してあります。

（意見）

- ・ 法科大学院の教室が狭い。新しく建設した建物を法科大学院専用にするべきであった。あの建物は誰が利用しているのか。法廷セットを常設できる教室を確保すべきである。ログアウトする度に学内パソコンに保存したWORD書類や個人設定が消去されるのは不便。サーバーに各学生用のスペース（最低でも5MB程度）を設けて、そこに個人のファイル、データが保存されるようにしてほしい。他の国立大ではそのようにしているところもあり、簡単に実現できるはずである。冬期に運動できる施設がない。冬期でも、学生が安く利用できる温水プール等の施設がほしい。他の国立にはこのような施設もあると聞いている。パソコンの問題同様、実現可能はずである。学内に建設するのが無理であれば、学生が安く使える特別契約を外部のスポーツクラブと結んでほしい。教材センターの開室時間を早め、昼休みも開室し、閉室時間を遅くしてほしい。1限の始業時間より遅く開き、昼休みはしっかりと、5限の終了前に閉まるのでは授業にまじめに出席している法科大学院生にとって不便。なぜ学生よりも教材センターの事務員の方が、活動時間が短いのか理解に苦しむ。また、開室している時間なのに、教材センターにいるはずの事務員がいないことが多い。教材センターの外でなんの用事もなくふらふらしている事務員の彼を複数回目撃した。休み時間に教材

をとりいっても受け取れないこともあり、改善してほしい。マクドナルドのアルバイト店員の方が安い時給で、もっとまじめに、愛想よく働くはずである。教材センターの事務員は高校生のアルバイトでいいのではないか。教材センターで扱っている学生の個人情報、せいぜい授業の履修記録くらいなのであるから、情報流出などを過度に恐れる必要もなかろう。法学部の教務課は、なぜ職員一斉に昼休みをとる必要があるのか。交代で休みをとればいいではないか。少なくとも私立大学ではそうしている。北大でできない理由はない。いつまでも国立の「役所」気分では困る。サービスの悪い職員の待遇改善を訴えるポスターをいくらか貼っても、学生としては苦笑するだけである。大学が全体的に「役所仕事」になってしまっており、学生の利便性を考えて、施設・設備が設置・運営されていない。使えない施設・設備は新しくすべきだし、使えない職員は入れ替えるべきである。(法専2男)

【回答】

教育用システムE LMSと関係の無い各研究科が管理しているコンピュータについては、各研究科に相談してください。なお、情報基盤センターの教育用システムE LMSでは、サーバー上に最低でも30MB保存できます。

（意見）

- ・ 自習室を頂いているが、本棚が人数分ないので、欲しい。パソコンのネットワーク環境が悪い。ログイン名義で、本体に保存、各種設定できないのは、現在のネットワーク設備として悪いと思います。図書館の本の版が古い。書庫の利用時間を拡大してほしい。(法専2男)

【回答】

情報基盤センターとは無関係と思われます。各研究科あるいは附属図書館が管理しているコンピュータについては、各研究科あるいは附属図書館に相談してください。なお、情報基盤センターの教育用システムE LMSでは、サーバー上に最低でも30MB保存できます。

（意見）

- ・ 歳出優先順序の見直し（景観を優先しすぎ）。サーバーやネットワークの強化。車両と人の住み分け（例えば、メインストリートは循環バスのみ通行可、調査器具等の搬送用ゲートを複数設置して、学外から各学部へ直接アクセスできるようにする。）。生協が独占的すぎる（例えば、学内における販売や店舗設置に、生協以外の企業も含め入札制度を導入したらどうか?）。(農MC2男)

【回答】

サーバーやネットワークの強化については、具体的に記述してください。ネットワーク係としては、問題のあるところは毎年のように見直しをはかり、改善するように努力はしております。部局で管理するサーバーであれば、部局への要望となります。

（意見）

- ・ 基盤センターを院生でも自由に使えるようにして欲しい。年々少しずつ上がっていく授業料も払ってるわけだし、院生は研究室からいくら金を出せば使用を許可するという現在のやり方はきかない。そこでの印刷に金がかかるというのも困る。遊びに使う下らないものの印刷にはそれでいいのですが、せめて勉強で使うものは無料とはいいいませんが、いくらか安くして欲しい。(環境MC1男)

【回答】

学生の教育に必要な経費は国から交付されており、大学院生の教育・研究に必要な経費を大学全体で負担するか、必要とする研究科・研究室で負担するか、という負担の仕方の問題です。現在は、全学委員会で検討した結果、後者の方式になっています。印刷の経費も同様です。また、ご承知のように、教科書を各自で購入しているように、教育に必要な経費全てを国が負担することにはなっておりません。

（意見）

- ・ 函館キャンパスで、アスベストが使われているのではないかと不安です。一昨年あたりに管理研究棟を改装した際、粉塵が飛散するのを防止するためのビニールシートが外れている箇所が所々ありました。それから、HINESにもっとがんばってもらいたい。時々、インターネットが使えなくなるので、困っています。(環境DC2女)
- ・ 研究室のスチームが、老朽化のためか、自分たちでスイッチを入れたり切ったりできない状態になっています。このため、研究室では暖房が絶えず入りっ放しの状態になっており、暑くても、窓を開けたりして温度調節を行なっています。このようになっている設備を修理することに優先的に予算を使っていただくことができれば、省エネにもなって、経費削減にもつながると思

います。また、インターネットのつながらない時がしばしばありますが、それを改善していただけないでしょうか。(環境 MC 2 男)

【回答】

「時々」、「しばしば」がどの程度なのか不明ですが、繋がらないなどのトラブルに気がついたときはネットワーク係までご連絡をお願いします。ネットワーク係としてはできる限り速やかに解決したいと思っていますし、その努力もしてきています。ただ、夜間や休日は対応できない状況ですのでご理解をお願いします。

（意見）

- ・ 院生向けのイントラネットの充実をお願いします。学部生にはELMSなどの基盤ができていますが、院生向けにはほとんどなく、情報共有が万全ではありません。是非よろしく願いいたします。(国 DC 2 女)
- ・ 私の研究室では4年生と修士の学生は研究室で自分のパソコンをインターネットに繋ぐことができず(いまだきこんな研究室があるなんて思いもしませんでした)、2台のパソコンを10人以上で使用しています。学部生は情報センター(?)のIDを持っていて学部の分室など使えるようですが、院生は使えないと聞きました。こういう研究室もあることをご理解いただき、院生も使えるようにして欲しいです。(薬 MC 1 女)

【回答】

教育用システムELMSは、大学院生も利用できます。所属する研究科・学院に相談してください。各研究室でのネットワーク利用をどうするかは、各研究室の教員の判断にゆだねられています。教員が申請すれば、大学院生が利用するパソコンのIPアドレスを取得し、利用することはできます。手続きなどは「HINES-WORLD 北海道大学情報ネットワーク利用案内 2006.4」に詳しくかかれていますので、そちらをご覧ください。

（意見）

- ・ 北大のPCメールを他のパソコンから見られるようにして欲しい。(農 MC 1 男)

【回答】

教育用システムELMSのメールは、他のパソコンからも見られます。情報基盤センターが管理・運用しているメールであれば、どの端末からでも見ることは可能です。ただし、メールアドレスがagr.hokudai.ac.jpであれば、サーバーは農学部・農学院が独自に運用しているものですから、農学部・農学院への要望となります。

留 学 生 セ ン タ ー

10 その他

(意見)

- ・ もっと言語センターや留学生センターなどの宣伝をやってほしい。情報が少なくわからない。(法1男)

[回答]

留学生センターは、皆さんが普段勉強している高等教育機能開発総合センターとは、正反対の場所にあり、距離的にも遠く感じられることと思います。留学生センターは、普段は留学生が日本語を勉強している施設ですが、その他に「国際交流科目」という留学生と一緒に英語で学べる科目も提供しています。また、毎月（8月を除く）第3週の金曜日には、「インターナショナル・トーク」が開催され、様々な留学生の出身国の政治・経済・文化や習慣等についての話を聞くことができます。また、留学生センターは、留学を希望する学生の皆さんのために留学説明会を開催したり、センター1階の留学生交流室で留学相談を実施しています。さらに、センターのラウンジを利用して、様々な行事が行われたり（例：国際交流サークル“SACLA”による“International Lunch”，毎週金曜日の昼休みに実施）、個人的に留学生との交流の場として利用している人もいます。こういった留学生センターの活動が皆さんに知られていないとすれば、大変残念なことです。今後はセンターHPや掲示を通じて、より多くの皆さんに活動をお知らせできるよう努力したいと思います。なお、学生さんがどのように情報提供をすれば、より簡単に情報を得られるか教えていただければその方法についても検討していきたいと考えておりますので、Tel 011-706-2182 E-mail: ryugaku@academic.hokudai.ac.jp まで、ご連絡よろしくお願いします。

北方生物圏フィールド科学センター

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

（意見）

- ・ グランドなど、課外活動施設のより一層の充実と、農園を含めた、北大の自然環境を大切にすることを希望します。（法2男）

【回答】

本センターへの提言をいただきありがとうございます。

本センターは、生物圏地球生態系の悪化という今日的な重要な問題について、自然生態系と共生生態系の保全機構の解明と持続的生物生産を機軸としたフィールドでの大規模かつ継続的な調査研究と実験、幅広い人材養成の取り組み、そしてフィールドを基盤とした実験科学及び理論科学、すなわち総合的な「フィールド科学」の観点からの解決を模索するために設立された学内共同利用教育研究施設です。

環境汚染や地球温暖化が懸念される現在、自然と人間の生産活動の共生は非常に重要なテーマであると考えますので、今後も各地に点在する研究林、農場、植物園、牧場、臨海実験所、臨湖実験所、水産実験所、淡水実験所等の施設を活用して教育研究に貢献するとともに、愛されかつ護るべき存在となるよう、地域社会へ貢献・連携し、自然環境の保護と管理の重要性を訴えていきたいと思っております。

保 健 管 理 セ ン タ ー

2 施設・設備（図書館、課外活動施設を除く）に関すること

（１）保健管理センターの診療時間等に関すること

当センターの診療科目については、内科は平日の月～金曜日、精神衛生相談は月・水・金曜日、整形外科相談は月・金曜日及び歯科相談は水曜日であり、また、各々受付時間を午後１時から午後３時３０分までとして開設し、簡易な診療を行っております。

その他、応急措置として午前８時３０分から午後５時１５分まで対応しておりますので、病状等に応じ保健管理センター(内線３６２２)あてご連絡ください。

また、センターには、身長・体重計、視力計及び自動血圧計等健診機器を常備しておりますので、いつでも自由にご利用いただけます。

なお、センターにおいては、限られたスタッフで、診療以外に各種健康診断とその事後措置、学内教職員の健康に関わる様々な業務を行っており、現在以上の診療を行うことは困難な現状にあるため、センターで対応できない場合は最寄りの医療機関を紹介することがありますので、ご理解ください。

おって、センターの詳しい案内につきましては、保健管理センターホームページ(<http://www.hokudai.ac.jp/hokekan/HPokyyu.html>)を開設しておりますのでご覧ください。

（２）保健管理センターの位置に関すること

将来、センターの場所、建物等を検討する際には、利用される方の利便性、面積等を総合的に配慮したいと考えております。